

(238)

東屋嶽 大和國吉野郡ノ南方ニアリ、吉野村
大字吉野山ヨリ二十一里九町ニシテ其山頂ニ
達ス。

あづまやと申所にて時雨の後月を見て
神無月時雨晴るれば東屋の
峰にそ月はむれとすみける
四 行

笠捨山 大和國吉野郡ノ南方ニアリ、十津川
村大字上葛川ヨリ凡一里二十四町ニシテ其山
頂ニ達ス、標高四千六百二十尺、

〔茶名〕 仙ヶ嶽ノ南方ニアリ、
仙嶽 (別稱千種嶽笠捨山) 大和國吉野郡
ノ南方ニアリ、吉野村大字吉野山ヨリ二十一
里二十七町ニシテ其山頂ニ達ス、

分て行色のみならず枯さへ
千種峰のだけは心そかけり
四 行

玉置山 大和國吉野郡ノ南方ニアリ、十津川

村大字折立ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標
高三千六百六十尺、

國城山 紀伊國伊都郡ノ北東方ニアリ、學文
路村大字清水ヨリ凡十八町ニシテ其山頂ニ達
ス、

藤白嶺 (別稱藤代峰) 紀伊國伊都郡大和國
吉野郡ニ跨ル、伊都郡富貴村大字上筒香ヨリ
凡三十町ニシテ其山頂ニ達ス、

高野山 紀伊國伊都郡ノ南東方ニアリ、高野
村大字花坂ヨリ凡一里二十四町ニシテ其山頂
ニ達ス、標高二千八百五十八尺、

〔提要〕 高峰圍繞シテ數名アリ、山上曠野チナス、四面凡三
里餘、故ニ高野ト稱ス、〔名勝〕 學文路(紀和鐵道橋本停車場
ヨリ一里ニアリ)人力車ヲ通ジ得、より踏れる道の神谷より七
町許にして、四寸岩(止腰岩とも書す)とて一大岩右の路を登
ぎて幅四寸許の足跡に似たる一雙の凹處あるを履みて通ず、
親の足跡を履むと言ひ習はせり、こゝより四町許登りて不動

(239)



山野高

坂あり、峻岩峙臨たる峻坂にして、坂の盡くる所を萬丈稱し
と稱へ、俯して崖底を望むに、其の深さを知らず、古へ罪人
を籠巻にしてこの崖へ懸ばし墜としたる故、兩名つくと、此
道すべて棧橋を設て道を通ず、登り降ること五町許にして一
巨岩の路上に望むを岩不動と名づく、岩面に不動の種子あり
大師の爪痕と言ひ傳ふ、二町許行きて遙に瞰下せば、一條の
瀑布翠壁にかゝりて落つ、兒の瀧といふ、古へ兒の身を投げ
し所と言ふ、慈尊院より踏れる道の涙川の傍なる坂の右に押
揚石といふあり、磐石高く路に望みて、棠ほどの凹める痕あり
り、手もて押し上げたるに似たり、こゝより二十町許登りて
路の左に鏡石といふあり、石面平にして潤澤あり、塵に人影
を映す、瓊上に古木の櫻多し、七株の櫻、對面櫻、四行櫻等の
名あり、この山季候他に異なりて、仲冬の月より三月の頃ま
て積雪絶えず、故に春花は後れ彌生に至り梅はじめて開き、
尋いて桃・櫻一時に開く、谷上に辨天が嶽あり、登ること八
町許にして絶頂に辨天の祠を建つ、山内第一の高峰にして、
社前に天狗杉あり、老犬衆木に抽き出づ、此の峰に登れば山
内を一眸に收め、龍門・葛城等の高嶺を俯瞰し、遙に四海を
望めば、淡路島・阿波の山標跡の中に在り、こゝの山麓に滴
る泉を一の瀧と名づけ、衆溪を容れて山内を貫通し、一の橋
を過ぎて玉の川の末と合し、蜿蜒二里の間に四十八瀧をなし
て、熊野口なる小田原谷の榎輪峠より五十餘町にして宇大瀧

の山中に至り、高さ四丈八尺幅四間の一丈瀑布となりて墜つ、大師懸水の岩面に不動の像を刻み汚流を清む、世に水流し不動と稱す、在田郡に入り、在田川の水源たり、山内宿一瀑布あり、千手院谷にありて光の瀧と名づく、谷深くして至り見るべからず、遠く眺めば素練を懸けたらん如し、兒の流の水と合し、宋廻して九度山村に出て、紀の川に注ぐ、(陸日)高野口(紀和殿道停車場)より高野山の女人堂まで三里半の行程中停車場より紀ノ川の渡場まで、半里許は平坦にして人力車を通ずること易く、川を渡れば九度山にて、此所より尙ほ半里推出までは、強て車を通ずれば能はざるにあらず、九度山より推出川に沿ひ、一里許にて推出村に至れば、山路急に峻しく、また車を通ずべからず、更に坂路を攀ること一里にして神谷に達す、此所は橋本口及び高野口より登山する兩路の合する所、(紀名)登山七路。(七口ともに女人堂あり、堂より上には女人の入る事を禁ず)(今、然ラズ)大門口(又四口といひ、矢立口・麻生津口・若山口といふ、矢立より大門まで五十八町)此道當山四方の入口なり、慧尊院の廟を拜し、坤に向ひて攀躋る、これ悉も帝王の臨幸し給へる道にして、山路迂迴なれども峻ならず、文永年間町石、今猶依然として町毎に存す、故に町石道といふ、府下より登るものは、麻生津峠より志賀郷を経て、矢立にて此道に合し大門に入る、故に若山口の名もあり、不動坂口(又京口ともいふ、一心院谷

にあり、小田原谷にて大門口より入るものとあふ、神谷辻迄五十町)此道當山正北の入口にして、京・大坂より紀見伊峠を越て来るものと、大和路より待乳峠を越て来るものと、清水村二軒茶屋にて合ひ、學文路を経てこの道より登詣するもの十に八九なり、大瀧口(又熊野口といふ、小田原谷に通ず)此道當山東南の入口なり、熊野本宮に詣し、夫より經嶺の深山幽谷を経て、凡十五里にして高野に至る、龍神口(又湯川口といひ、保田口あるひは築瀧口ともいふ、大門の左に通ず、龍神より十三里餘)此道當山坤方の入口にして、日高郡龍神より來ると、有田郡山保田より來ると、新村にて合して大門に入る、大峰口(又東口といひ、野川口ともいふ、慧尊谷に通ず、大峰より凡十五里)此道當山東方の入口にして、大峰山上より泥川に下り、天の川を経て天狗木より入る、俗此道筋を七度半道といふ、一度此道より登詣すれば、其功徳七度半にあたとぞ、黒河口(或は大和口ともいふ、千手院谷にあり、女人堂より黒河村まで五十餘町、野平村まで百二十餘町橋本邊よりの近道なり)此道當山長方の入口にして、黒河村より來ると、野平村より來ると、粉糠峠にて二路合して千手院谷に入る、相浦口(南谷にあり、相浦村迄四十餘町)此道當山南方の入口にして、相浦郷より登詣す、(高野山金剛峰寺)當山は本國伊都郡の東南に峙ち、形勢として杉・槇八面を圍、半天別に一界をなし、天下雙無の名區にして、往昔開祖大師

靈境を覓めて周く天下を通り給ひ、この地にしく所なしとして、入唐歸朝の後、帝許を蒙り修禪入定の地となし給へる靈場なり、其高野山といふは、高山の頂上に平原曠野あるを以てなるべし、創開の時に當りて、二神の出現し、雙犬の引導し、飛站の松梢に掛り、寶劍の地上に降れる杯、皆大師行徳の至る處、凡俗の得て思儀すべきにあらず、其後世々の 聖帝攝録、進歩の勞を厭ひ給はず登嶺在し亦、故て記籍に顯然たり、今山上に在處の坊舎惣じて一千計にして、結構奇麗、音韻の及ぶ所にあらず、(參考書)紀伊國名所圖會三編卷四以下、高野のしかり、高野山參詣記、高野參詣記、高野山通念集、高野山獨案内、高野山名所圖會、高野山獨案内、名鑑集、高野日記、陰峰略記、陰山名鑑集、南山紀行、深山の花) 高野山浮世の夢もさめぬへし 元 可 乙島の知らぬ軒あり奥の院 巖 太 小六月高野の池やうす氷 岩 翁 嶋釣らぬ迄も浮世の遊れ哉 藍 吹 高野山 劉 石 舟 千村萬落五綱纏、高野山寄塵一州、誰料沙門衣鉢業、大封終古敵諸侯、

高野山夜起 廣瀬 旭 莊 無風杉檜忽成聲、知是空中天狗行、一萬僧徒齊入定、峰雲 瀾月夜三更、 鼎 金 城 秋日登高野山 若野層巒隔水明、雲烟出沒望奇哉、要君遊墨米家法、衝雨 遠探高野來、 不關宿雨步行艱、探盡奇峰紅樹間、接筆欲描君已矣、雲烟 吞吐幾青山、 麻生津嶺 (別稱大津峠)紀伊國那賀・伊都 ノ二郡ニ跨ル、那賀郡麻生津村大字赤沼田ヨ リ凡三十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百三十九尺、 龍門山(別稱勝神山、勝上山、紀州富士) 紀伊國那賀郡ノ中央ニアリ、龍門村大字勝神 ヨリ一里十三町(或云三十町)ニシテ其山頂ニ 達ス、標高二千四百九十五尺、 (名勝) 此山延文四年、南軍北軍と戦ひて、其の將鹽谷伊勢 守戦没し、南軍遂に敗れたる所にて、當時の戦状をつばらに

太平記に書せり、(紀名) 絶頂に無塵池あり、其傍に仙人の石榻といふものあり、郡中第一の峻嶺にして、上層落を峻し、下曠野を歴す、百峰其膝下に連りて、たとへば童子輩の丈人を掛するが如し、府下より之を望むに、其形恰當嶽に似たり、階閣より若山の姿に來泊するもの、必海上よりの標的にすとぞ、牛腹に勝上村あり、嶺に至りて四望すれば、無邊の山海障に入る、

龍門山

橋山 散人

紀水東頭八峯、關南爲許小芙蓉、雲暗四圍開凱面、露掛中天露宿容、仙標皆救經歲古、靈池劍氣射波雄、登臨除酒山家興、萬里風煙入竹窓、

龍門山遊覽

劉 維 翰

風輪狀丘巖、駭跡忘艱難、偶值養綸暇、頗覺曠覽寬、徐步縱幽躡、聊酬塵寰歡、食蔬尋林薄、流憩躡峰巒、嶺嶸疊春翠、煙霞當晨餐、淺瀨輕練曳、幽巖彩風寒、仰擬遠崖葛、俯插空谷關、探洞突樓息、植杖暫盤桓、密邇含霧動、樵花露未乾、踐苔降層閣、披瀝散漚濺、戲禽堪俯視、游魚可指看、永持深梁避、遂此龍門觀、願我拾神草、招徠駕風鸞、愉悅懸道侶、浩歌獨慨歎、稱生理所貴、滯慮用爲安、願得同優客、修眞鍊金丹、

生石峰 紀伊國有田・那賀ノ二郡ニ跨ル、有

田郡五西月村大字冬ヨリ凡二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千三十三尺、

〔地誌〕 頂上に磐石と稱する十二三間許の巨岩あり、(紀名) 府下より遙に見ゆる東南隅の高山にして、龍門山と雲霧の際に比肩す、龍門山は其形峻拔にして、龍の雲に躍る勢をそなへ、生石嶽は其形雄渾にして、虎の窟に踞るに似たり、群山景色を備す頃と雖ども、頂上に殘雪なほ斑々と見え、麓より嶺まで羊腸たる坂路を攀躡る、嶺上稍平夷にして大樹少し、四方を眺望するに、海士・名草・那賀・在田・日高の五郡の地、又高野山内縹緲として眼下に連り、和の葛城山・金剛山、河の生駒山、攝の兵庫・播磨河、四國路まで遙に見え、飄々として雲に駕し風に御する想あり、小祠は那賀郡に屬し、小堂は當郡に屬せり、常に風烈しきを以石を疊して風除とす、南面の山下冬村小原等の諸村散居す、牛腹に奇岩岷鬼たる處、雨後には山上より雨水滾り下り、二千丈の瀑布懸り、山泉爲に震動す、(此山金谷驛ノ北東二里ニアリ)

秀峯樓集

垣内 溪 琴

從石後岩久所聞、如今看怪出神斤、亭々雲起三千丈、牛是奇岩半是雲、

荒神山 大和國吉野郡ノ西方ニアリ、野迫川村大字池津川ヨリ凡二十八町ニシテ其山頂ニ

十六尺、

鹿脊嶺

菊地 元 智

山如鹿脊跨羊腸、石洞雲松韻俯仰、三十六盤攀盡時、始知身立千峰上、

殿原山 紀伊國日高郡ノ東方ニアリ、登路〔式按スルニ、上山路村大字東カ〕三三二十町、

鋒尖嶽 紀伊國日高郡大和國吉野郡ニ跨ル、日高郡龍神村大字小又川ヨリ凡二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

横尾山 大和國吉野郡ノ南方ニアリ、十津川村大字野尻ヨリ凡三十町ニシテ其山頂ニ達ス、

東峰 紀伊國日高郡ノ東方ニアリ、登路一里十四町、

和田峯 紀伊國日高・西牟婁ノ二郡大和國吉野郡ニ跨ル、日高郡上山路村大字丹生川ヨリ

達ス、標高三千九百三十尺、

護摩壇峰 紀伊國有田・日高ノ二郡ニ跨ル、有田郡龍神村大字龍神ヨリ凡四里六町ニシテ其山頂ニ達ス、

城森峰 紀伊國有田郡ノ南東方ニアリ、八幡村大字上湯川ヨリ凡一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千三百十三尺、

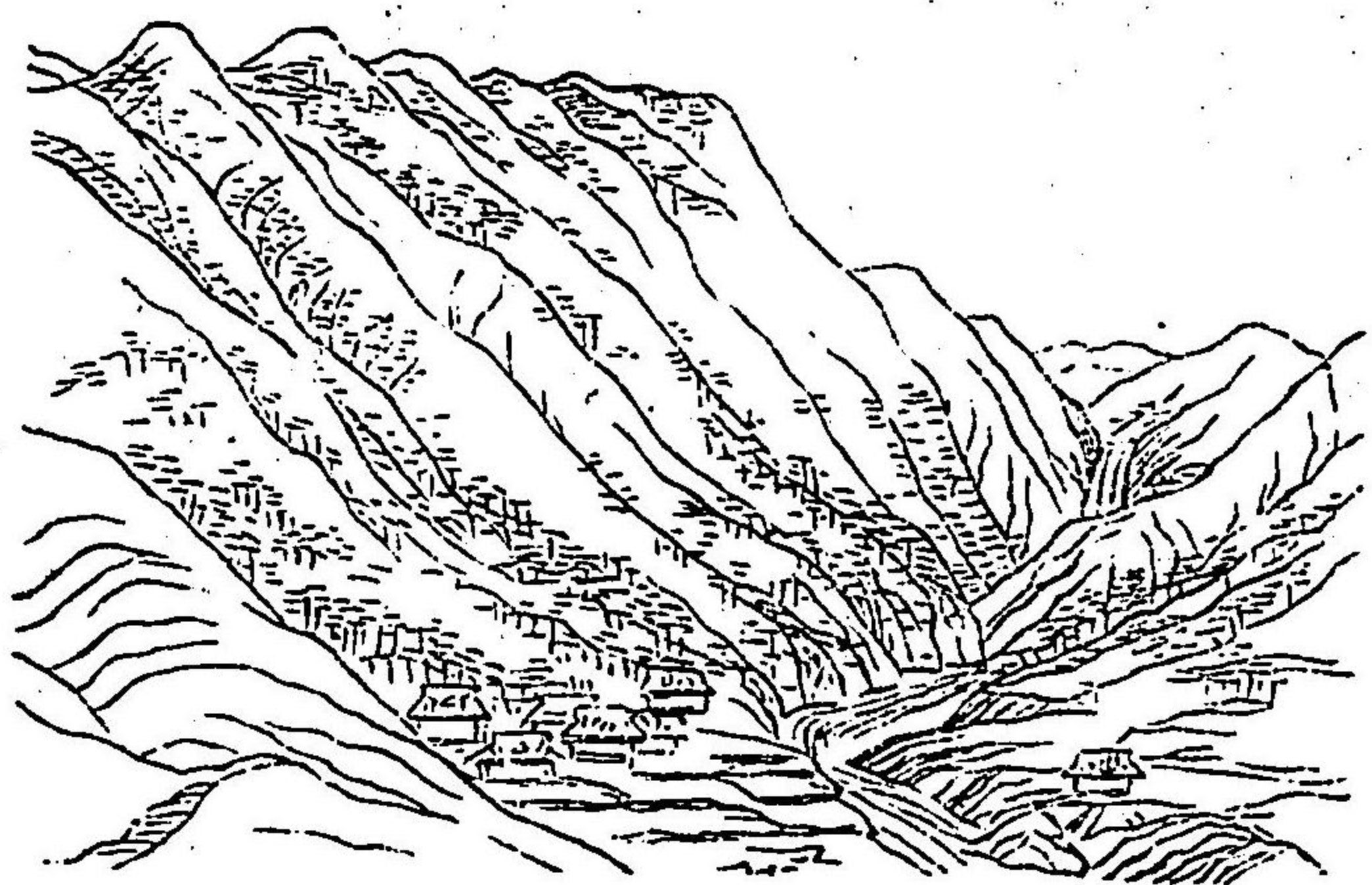
白馬嶽 紀伊國有田・日高ノ二郡ニ跨ル、有田郡五村大字川合ヨリ二里三町、(或云二里三十町) 石垣村大字字井背ヨリ凡十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千百十二尺、

〔紀名〕 修理川谷又は四村谷等より登る事五十町許、山上より日高の御坊邊、在田・宮崎の海邊皆眼下に見ゆ、

鹿瀨山 (別稱鹿背嶺、井關山) 紀伊國有田日高ノ二郡ニ跨ル、有田郡南廣村大字河瀨ヨリ凡二十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六

凡一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千三十三尺、
 (提要) 山下ヨリ二里三町、最高處ナ給歟ト云、牟婁郡踏山ヲ眺望スベシ、
安堵峰 紀伊國西牟婁・日高ノ二郡ニ跨ル、西牟婁郡二川村大字兵生ヨリ凡二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百五十五尺、
虎峰 紀伊國西牟婁・日高ノ二郡ニ跨ル、西牟婁郡栗栖川村大字小皆ヨリ凡一里六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百三十五尺、
槇山 紀伊國西牟婁郡ノ北西方ニアリ、栗栖川村大字西谷ヨリ凡三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百六十四尺、
清冷山 紀伊國日高郡ノ中央ニアリ、川上村大字瀧頭ヨリ凡一里四町ニシテ其山頂ニ達ス、

小清冷嶺 紀伊國日高郡ノ中央ニアリ、川上村大字瀧頭ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、
矢筈嶽 紀伊國日高郡ノ中央ニアリ、有田郡岩倉村大字粟生ヨリ凡一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、
十丈嶺 紀伊國西牟婁郡ノ北方ニアリ、富里村大字大内川ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七十二尺、
分龍山 (別稱**矢筈山**) 紀伊國西牟婁郡ノ中央ニアリ、鮎川村ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百六十六尺、
富田坂山 紀伊國西牟婁郡ノ南西方ニアリ、東富田村字高瀬ヨリ凡一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千二百十四尺、
果無山 (別稱**無終山**) 大和國吉野郡ノ南方ニアリ、十津川村大字桑畑ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百五十四尺、
 (和志) 西南谷幽嶺道、因日無終、
 つゝくりもはてなし坂や五月雨 去 來



果無山

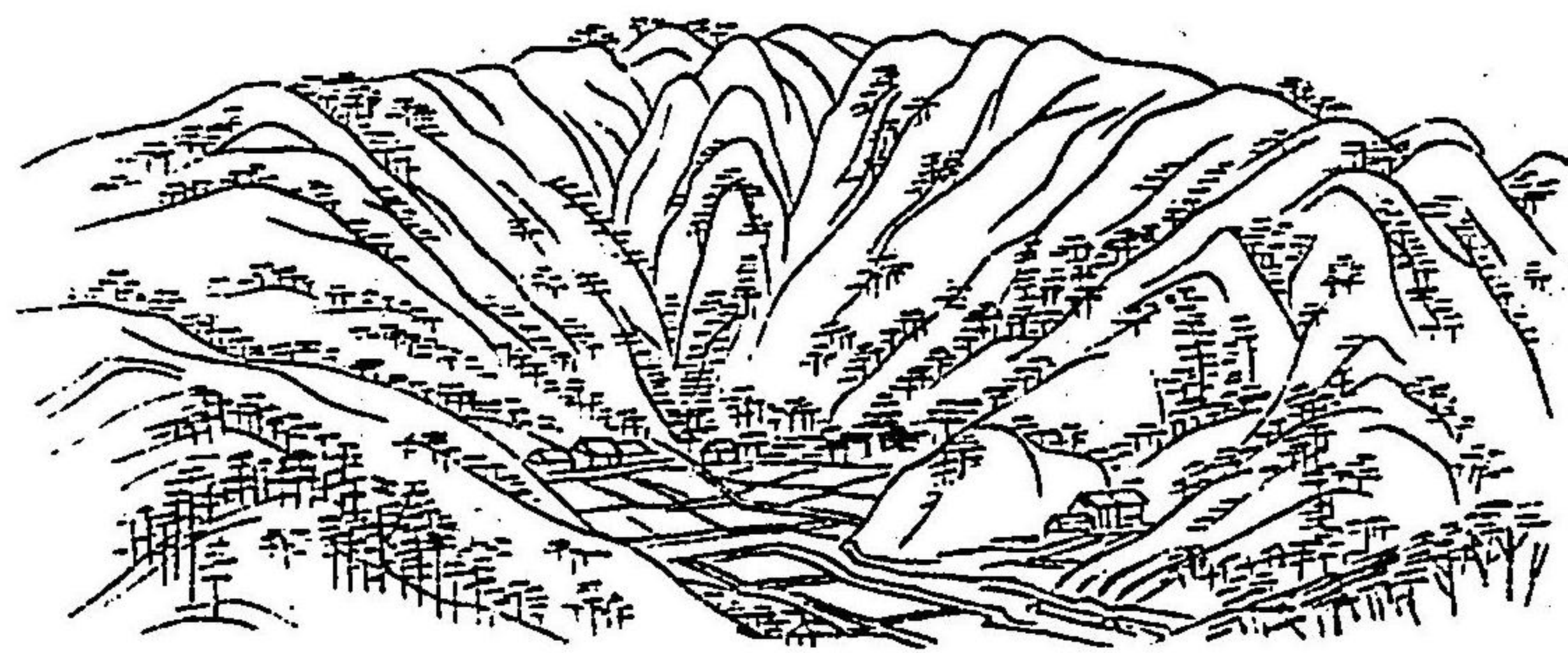
ニアリ、十津川村大字桑畑ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百五十四尺、
 (提要) 水守村ノ東ニアリ、溪行五六里ニシテ其麓ニ至ル、山頂ニ峰ニ分レ、北チ一ノ森ト云、南チ二ノ森ト云、州中第一ノ峻嶺ニシテ、其嶺チ窮ムル能ハス、山根蟠互、廢家殆十里ニ亘ル、其四脈、北ニ法師峰、南ニ入道峰アリ、皆山下ヨリ凡二里、又三日峰・獄峰アリ、
法師峰 紀伊國西牟婁郡ノ東方ニアリ、登路凡二里、
入道峰 紀伊國西牟婁郡ノ東方ニアリ、登路凡二里、
半作嶺 紀伊國西牟婁郡ノ東方ニアリ、富里

村大字下川下ヨリ凡二里(或云一里十八町)ニシテ其山頂ニ達ス、

三森 (別稱矢筈山) 紀伊國西牟婁郡ノ東方ニアリ、豊原村大字熊野ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、

大雲取山 (別稱大雲鳥山) 紀伊國東牟婁郡ノ東方ニアリ、色川村大字口色川ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百十四尺、

〔名勝〕 中邊寺の大雲取は、この岡第一の嶮嶺にして、積雪等の路多く、行客の太だ艱む所なり、小雲取は、爾ばかりに嶮悪ならず、濱の宮より本宮まで、十一里十二町ありて、此間すべて車を通ぜず、雲鳥志古の山路はさておきて小口が原の淋しからぬか〔西行〕古へは、雲取を雲鳥に作る、小口が原は小口川の河原をいへり、大雲取の北、小雲取の南にありて長さ二十一町ばかりなり、〔紀概〕口色川の東に登えて、南は妙法山より横き、那智の後を歴て、高峰屏風を列するが如く、北の方小口川郷に至る、又其高峰西の方に蔓延して、田垣内村の上に至りて、高峰絶ゆるが如く、夫より西牟婁常の



山 取 雲

小雲取山 (別稱志古山) 紀伊國東牟婁郡ノ

山峰となり、七川・賭川の間に涉りて、大塔峰の麓に續く、那智より本宮に至るには、此峰を踰ゆるを街道とす、大抵峰通りを行きて北大山村に至る、其登り降り凡三里餘、其峰の高きこと雲を捕るべき形なるを雲取の峰と稱するなり、峰通の内船見と稱する所あり、中邊地街道を來る者、此處に至りて始めて海を望むを以て、船見と稱するなり、此處最高くして、西の方に熊野の諸山を望むに、皆塔樓の如くなれども、波瀾の如きもの萬重にして眼を極めて限りなく、南は大津池浸として際涯なく、其近きは那智、大田の二莊眼底にありて、海濱灣曲、奇態異狀、畫圖の及はざる所にして、此所上は雲霧に接し、下無地に臨む、絶勝の地といふべし、此山を降りて小口川郷に至り、夫より賭川郷に至るに、又高峰あるを以て、是を小雲取峰と名づけ、大・小を以て是を分ちて、當莊にあるものを大雲取といふ、

雲取は笠に爪つく雲雀哉

三千風

踏雲取山

齋藤 拙堂

雲間縹緲上崔嵬、鳥道凌空入馬哀、誰識武侯雲鳥陣、峰巒化作此山來、

大雲取坂紀南第一嶮路也

新田 斷常

熊野南方第一關、大雲度嶮路難攀、峻岩傾下投深壑、荆棘鉤入轉步履

本州中部 紀伊山系

北方ニアリ、小口村大字上長井ヨリ二十一町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千三百八十九尺、

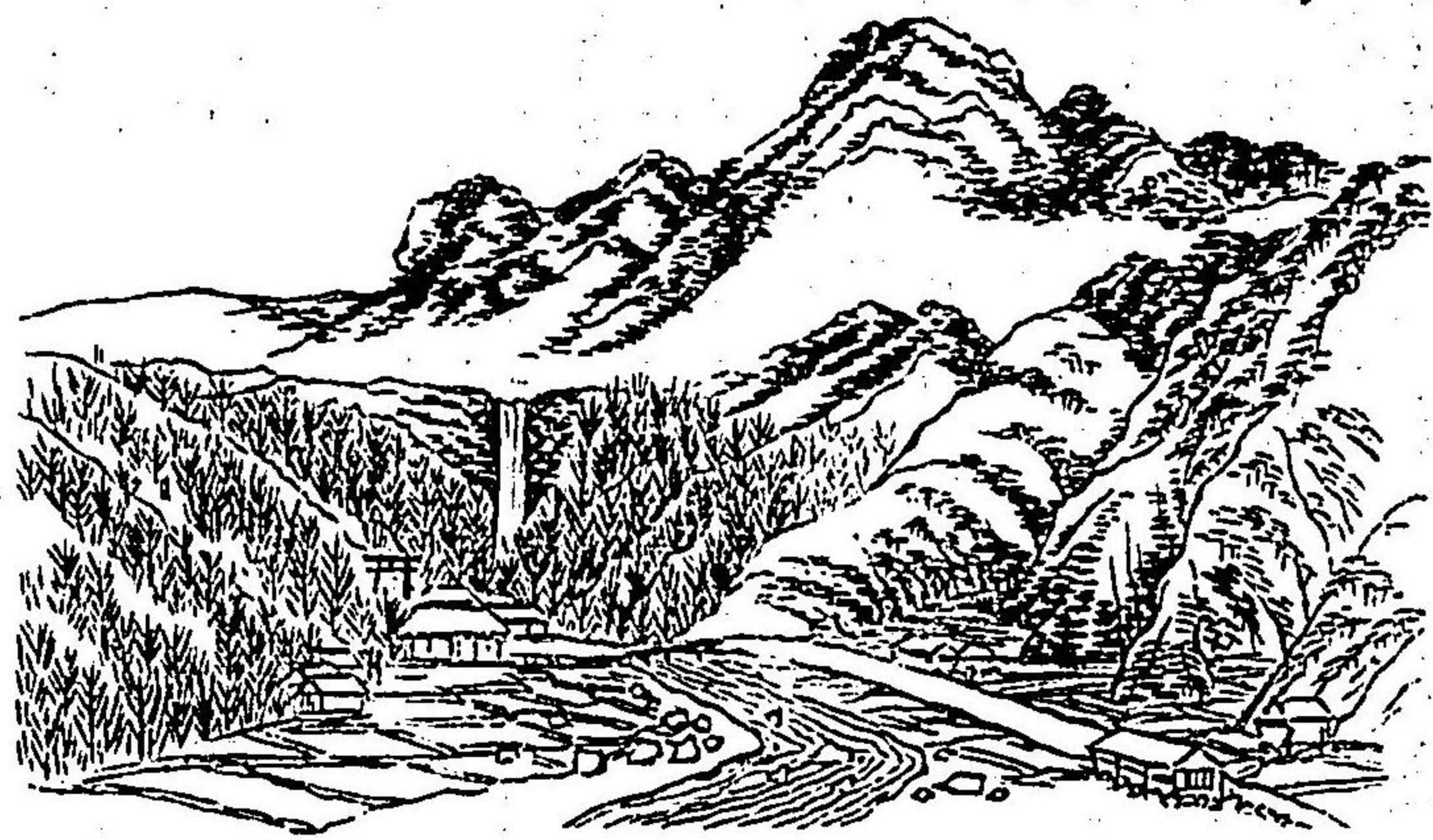
小雲取坂

新田 斷常

九四七曲陟羊腸、忽遇石車頓路傍、幸白山花開似錦、綠雲堆裏紫雲香(里俗喚作石做石車)

那智山 (別稱南山) 紀伊國東牟婁郡ノ東方ニアリ、那智村大字市野々ヨリ十八町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百二十尺、

〔名勝〕 那智山の四十八瀧と稱して、山中に大小四十八の瀑布あり、世に鳴りわたりたるは第一の瀧にして、次ぎは第二の瀧、次ぎは第三の瀧なり、第一の瀧は則ち飛瀧神社是れなり、濱の宮より入りて市野々に至れば、地やうやく高くして、おどろくこと遠雷のとき鳴音をきき、積翠の間途に細き帛を晒したらんこときものを認む、是れ第一の瀧なり、瀑布の下拜殿ありて、殿の西翠削立せるところ、瀑布は壁を裂きてたゞちに瀧き墜ちぬ、高さ八十四丈、幅十八間、或は風に漂ひて雪の如くに積ぶことあり、或は岩に碎けて玉の如くに散ることあり、雄壯奇麗、譬ふるに物なし、瀧下には瀧壑といふ程のものなく、岩石瀾落し、水苔の間を彼所此所と走り下たり、文登の瀧に落ちて、初めて平川となりぬ、左



那智山

右の略図線若を著け、老杉森々と立ちて日光を蔽ふ、眞に仙境の奥庭ともいふべし、第二の滝は、こゝより橋を四町ばかり登れば、溪流ありて劍か淵と名づく、即ち第一の滝となり、て麗くものにて、樹に倚り淵口より下駈すれば、脚をなすき眼くるめきて、注視すること能はず、こゝより海上を望めば、渺茫として穿まりなし、近くは瀆の宮、大成が島など歴々として見ゆ、溪流を流り亂石を踏みて、行くこと四町にして第二の滝に至る、高さ十丈八尺、幅三間、瀑上すこし傾むけるをもつて、如意輪の滝ともいふ、三面山にして山背線若を生じ、老樹森鬱して、水聲の外耳に接するものなし、一山を越えて五町餘り行きて第三の滝に至る、高さ七丈八尺、幅三間、山いよく深遠、水亦清冽にして、瀑布の状更に奇なり、三瀑布源を一所に發し、源々と流れ來たり、懸崖に遇ふごとに瀑布となり、瀉下せるなり、第三の滝決して小なるにあらざれど、第一第二の滝を觀來たりては、岩壁のたゞすまひきても見るに足らず、一嶺を躋れば地少し平なる所あり、華山法皇の三年胸接し給ひたる行宮の地にて、其が礎の跡あり、こゝに石櫃ありて、法皇の常に用ひ給ひし御器二個を蔵む、一は土器の御椀一は磁器なり、法皇櫻を植へ給ひて、木の下を棲家とすれば自ら花見る人になりぬべき哉と詠ませ給ひたる櫻は、既に枯れ朽ちて、後に植えたるものと

むかしを忍べとや榮ふ、(大府) 大塔山ノ東南ニ登ユ、高三千三十尺、南脉妙法山ニ聯リ、東北ハ大雪取ニ亘ル、山ノ東北懸泉アリ、那智湯ト稱ス、(摘譯) 日本一般ノ天下第一ト稱スル那智ノ瀑布ハ、其高サ未ダ一定セズ、英國海軍大佐ゼんとじゆん氏ハ二百七十五呎ナリトイヘリ、然レドモ地方人ハ八百四十尺ト誇稱セリ、

雲かゝる那智の山風いかならむ

定家

みぞれ烈しき永き夜のやみ

光明峰寺攝政

千尋にかゝる瀧の白糸

仁科白谷

遊那知山

仁科白谷

雲横洞口瀑泉濤、寒翠斜懸石上松、夜半空然溪鐘喚、月明七十二遊峰、

仁科白谷

老杉陰黒勢捲天、紫閣重々樹外懸、中峰瀑白梅花月、應有山僧猶未眠、

仁科白谷

妙法山 紀伊國東牟婁郡ノ東方ニアリ、色川村大字南平野ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千五百九十七尺、

〔山上に阿彌陀寺あり、眞言宗なり〕

妙法山

新田 斯常

那智山南秀一峰、七師先德舊留蹤、普觀寂靜洪鐘響、楹葉

榮枯古吉園、(聖宮折榭葉掃地上、下齋天、天則枯、壽則榮、又擔洪鐘觀無常、故云)

妙法山

菊地 元智

龍背安排古梵臺、南溪風色入眸開、霜邊雲捲層巒出、樹杪帆含過雨來、三島十洲遙指黑、芒鞋竹杖且徘徊、超然自有雲頭思、夕日諸天首展眉、

木曾山系

駒嶽 信濃國上伊那・西筑摩ノ二郡ニ跨ル、上伊那郡宮田村ヨリ四里十八町、西筑摩郡駒根村大字上松ヨリ四里八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高九千五百四尺、

〔風景〕 中仙道上松より四里八町、六時間にして絶頂に登り得、其間翠然たる偃松は雲の如き花崗岩の上に俯仰し、其葉霜も及ばず、頂に神社あり、此所より四望せんか、北に立山の連山、南に妙高山・月隱山・飯綱山・普光寺平・松本平を雙眸中に收め、北東に向へば千曲川の平原を隔て、白根山・淺間山・碓氷嶺・荒船山・信濃・上野・武蔵・甲斐境上の群嶺を認め、東に入ヶ嶽・甲斐の駒ヶ嶽・鳳凰山・白根山を看み、次て萬仞の芙蓉峰を仰ぎ、南は天龍の溪谷油壺の如く、遠江の秋葉山



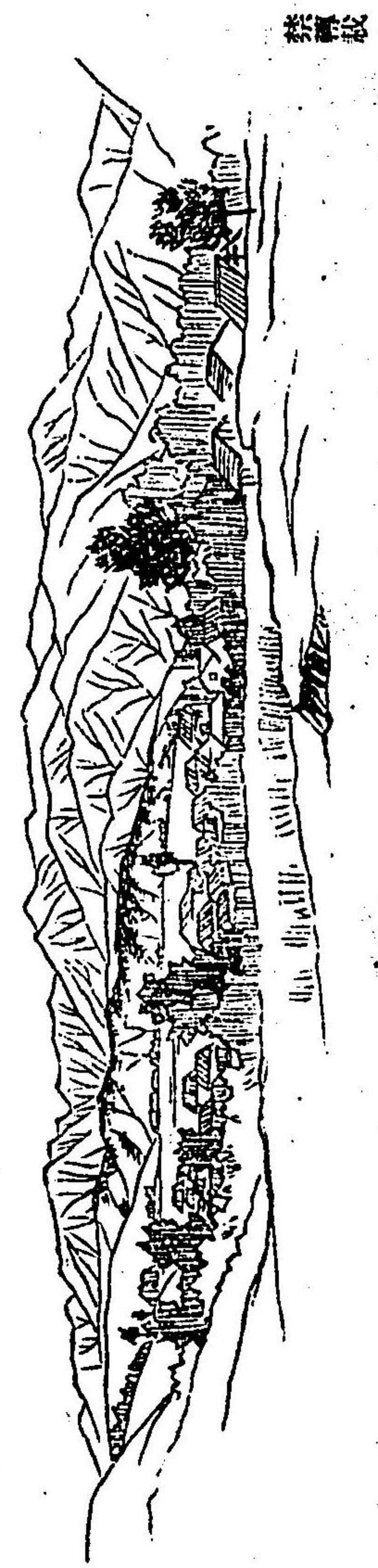
嶽 駒

豊河の風來寺山を看、漸く西より北せば美濃の惠那山・信濃の御嶽・加賀の白山長嶽し來る、眼界壯宏、雷師高士以て登臨するに足る、《拙譯》山中ニ獨り大樹頗多ク、毎年七月末ニ至レバ花ヲ開キ、景色爲メニ妖麗、《信奇》駒ヶ嶽は木曾と伊那の間に秀、十余里に連亘して、實に屏風を立たるが如し、俗に三十六峰・八千嶽と云、櫻日本記曰、天平十年八月、信濃國獻神馬、黒身白鬃尾云々、駒ヶ嶽の名此に出るか、宮所・小野牧みな其下に有、今村に龍岡山あり、宮所に龍が峙あり、皆是山脈因て龍を以て號するべし、《馬八尺以上曰龍》亦龍崎觀音及び羽廣の觀音、皆な馬の病を祈るに驗し有といへるも、駒ヶ嶽の觀に出るなり、三季物語に、天正十年、織田右丞相甲州を征伐して、軍をめぐらし諸將に向て吾れ開り駒ヶ嶽に四百年來に及ぶ神馬あり、明年諸州の軍卒を集てこれを狩得んと思ふ、むかしの右大將の富士の牧狩に傲ふべしと、豫め支度に及ぶ所、其年の六月、明智光秀が爲に弑せられて其事秘り、新著聞集に、寛文中、尾州の右司登山の時、大ひなる騾を見る、首の毛尾も地にたれ、引眼は日月のごとく、恐しき形なり、此馬人影を見て岩の中段まで靜に登りしが、俄に雲たちおほひて行方しらずと云々、又山東の方に馬の形したる大岩あるを以て號るといひ、又雲の消んとする時、駒の形一鉢全備して見ゆるを以て號るといへり、又此駒形の南の方に種蒔翁とて、四月の頃笠を被、柄杓を

持たる形、遠方より駒とひとしく見ゆる、此形現るを大豆の時の時節と云ならはせり、往古は登る事稀なり、近來は其邊の里俗なり、登山す、元文寶曆の一覽記あり、其大意山中廻り九里余、日數二日半にて歸る、宮田・小出より登る事二里程行て、權現釣根と云所より踏木野草しげりて道なし、大木の倒れたる上をまたがり下を俛て登る、まな板倉なといふ所峻嶺なり、延松芝の如くなる上を杖に取つき登る事數十町是よりは露氣なし、夜も物濕らず、此松の外には九輪草の如き草、又黒色の百合あり、常の百合よりは少し小なるばかりなり、紅白の五月繡繡花至て少し、右の草木植るといへとも、暑氣に至て保たずといへり、のうが池と云有り、都て山中に三所池あり、何れものうが池と云、此所の池、東は御所山、南は駒形ある山、西は嶽つゝき、北は大澤なり、其中に西より見おろす所、長百間幅六十間と云、水面背き事藍の如し、中に赤き筋あり、其形龍のごとく、南よりうねりて北の方細く少し西へひれりたり、此池より三町ばかり登りて木嶽は雲を帯て南に高く、峻嶺重り、谷々を見下せば數十丈、滿々たる海上をみるが如く、白雲雲霧たり、是より峰まで皆岩石を疊、嶮岨いふばかりなし、小松希に生て、岩間白沙ばかりなり、岩にすがり又は岩より岩へ飛び、からうじて登る事十町餘り、峰は鍋を伏たる如にして少し南へ長く平也、萱草に似て重れうすく、藁の紅葉したる如き草所々にあり、夏の頃

本州中部 木曾山系

花咲ぬるや、希に實の結びたるあり、頂上より見渡せば、南はうつき嶽の大山有て飯田の方は見え、西は尾州・伊勢浦、東北は富士・淺間遠山をはじめ近國の高山みな見ゆるといへども、村里は一面に平なるのみなり、木嶽より駒形にみゆる山は東北にて四町許あり、同じ並び二町許東に天狗岩といふあり、此石根より二十間四方とみえ、圓く中ふくらかにして末細く、中腹より上に東西へ横長なる穴みゆる、又鶴杖岩とて見所多き岩あり、又岩島と云あり、首長く雄子の雌に似て腹の下淡白く、足黄色に少し赤みありて指際まで毛生、少し平みありて眞鴨の容にも似たり、迫立ても舞ず、側へ寄れば岩をつたひて去る、皆な同じ鳥にて雌雄分らず、此山七月の頃雪消ぬ、されども谷々は其頃とても雪深し、《信奇》忍湖の碧水を西に望む、頂上より稍降れば老松懸々地上に蟠風する葦に農ケ池と稱するあり、盛夏三伏の交と雖も、堅氷溶解する事なし、猶嶽麓に不動の四十八滝あり、木村(宮田)は駒ヶ嶽への登山口なるを以て、夏時登山の人多し、亦一仙境なり、白雲をたてがみにして駒嶽 黒田 清綱
み空に高く峙てる見ゆ
名にしおはりのりても行む駒嶽 岩本 正謙
巴が手綱を我にかきなむ
尾も白し頭も白し駒がたけ 藤原 安元
かんのつよまに雲の早さよ



下伊那郡桑原嶺駒嶽西方望ム



木賊刈日和や露の駒か嶽
峰の露に露の汗を拭ひけり
連鏡やはらはふ夏駒か嶽

幽溪極跡絶、鷲鳥隔人飛、斷碣苔封字、古祠雲鎖扉、水趨
深原急、樹到半山稀、危立層岩上、天風拂我衣、
駒嶽、嶽之半腹有平處、號之調馬場、

風越山 (別稱權現山) 信濃國下伊那郡ノ北

西方ニアリ、上飯田村大字上飯田ヨリ一里二
十九町ニシテ其山頂ニ達ス、

帝降房星峻嶽東、化爲神馬躍長風、人間馳驟何爭步、天上
駒龍欲競雄、石瓦五千餘仞頂、雲紛七十二峰中、奔蹙懸有
山靈取、金勒時々響碧空、

本州中部 木曾山系

降露に風越嶽のあとたえて
越えそわづらふ木曾の旅人

惠那嶽 (別稱惠奈嶽、胞山、覆舟山、野
熊山) 美濃國那郡信濃國西筑摩・下伊那ノ二
郡ニ跨ル、惠那郡中津町大字中津川ヨリ四里
ニシテ其山頂ニ達ス、標高七千三百九十二尺、

《名勝》郡中第一の高山にして、郡名は此より起るとぞ、
信濃にては野熊山と稱せり、神代の時に、天照大神の御神胞を
此山に納めたるを以て此稱あり、故に伊勢大廟大庭の眞木及
び社材は、二十一年毎に此山中より伐出して伊勢に献ず、是
れ上古よりの遺風なりと云ふ、山中に惠那神社あり、式内郡
社にして、伊勢郡尊伊勢諸尊・天照皇大神・惠受大神・一言主
命・木花開耶姬命・速玉男命・天日一箇命・猿田彦命等を祭る、
創立の年月未だ詳かならず、毎年九月十二日を以て祭典を舉
ぐ、社境高峻の地に在るを以て、眺望甚だ佳なり、《新築》
山上に七社あり、惠那權現は九尺四面の社、其外は小祠なり、
毎歳九月九日に登山す、絶頂までは五里、篠竹生茂り、常は
道もなし、大勢踏わけて登り、前夜は川上に連夜、四十余度
水指離をして、雞鳴て山にのぼる、山上の木は風烈しき故庭
木の如く低し、四方を望むに、富士・淺間・白山・伊吹・近江の



惠 嶽

湖・伊勢の海一瞬に見渡す、其夜は山上に小屋をさし通夜し水垢離をして、翌日下山す、其外七日精進潔齋す、山上に池あり、此池の征を取來馬に飼へば祈禱になると云、遠國より見ゆ、其かたち舟をふせたるに似たれば、俗に覆舟山といふ、峰につもれる雪夏に至りても消さる事、御嶽・駒嶽などに同じ、(岐地) 縦・扇柏等ノ樹木繁茂シ、又篠チ生シ、里人探リテ籠・葛籠等ヲ作りテ他ニ鬻ク、伊吹山ト濃尾平原ヲ隔テ、東西ニ對峙ス、

前山 美濃國惠那郡ノ東方ニアリ、中津町

ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、

鞍掛山 (別稱鞍懸山) 三河國南設楽郡ノ北設

楽ノ二郡ニ跨ル、南設楽郡海老村字大代ヨリ

凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百十八尺、

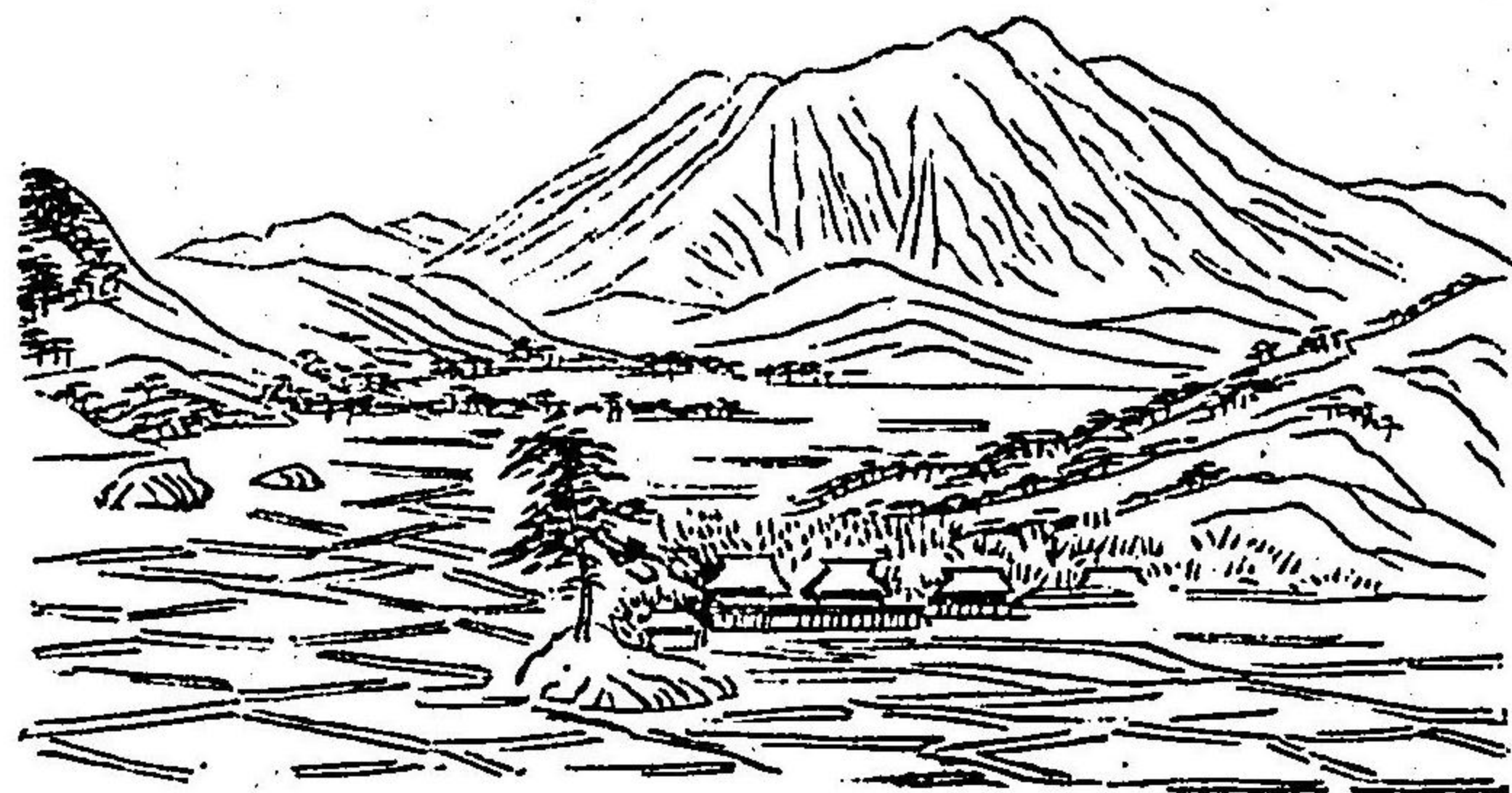
鳳來寺山 (別稱煙巖山 桐生山) 三河國南

設楽郡ノ北東方ニアリ、鳳來寺村大字門谷ヨリ

リ凡十九町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百五十八尺、

〔風景〕 東海道鐵道豐橋町停車場より登り得(里程凡九里)町より豊川に出て、東北行して新城町を經、八束磯より東折し瀧川を渡り、長篠古城跡に到り(豊川鐵道長篠停車場ヨリ鳳來寺薬師へハ太凡一里二十町)此所より北に山徑を登り、山麓なる門谷村に達し、橋を渡り鳳來寺の樓門に入り、石階を登る九町にして本堂に達す、階の兩側は老杉鬱蒼蒼天目を蔽ふ堂塔殿閣金碧壯麗を極めたりしも、近年火災に罹りて半ば烏有に歸せり、而かも當年結構の幾分は尙ほ遺存し、況んや隱シ水ニ高座石ニ巫女石ニ行者歸ニ猿橋ニ等の奇蹟あり、沿道の景物亦た豪蕩なるを以て登臨するに足る、本堂より奥院まで九町、(名勝) 鳳來寺。鳳來寺山の半腹に在り、瀧美郡豐橋町を距る凡そ九里餘、通常此寺に參拜するの順路、東京よりする者は、先づ遠州の秋葉神社に賽し、八里餘の山路を歴て此に至る、京都よりする者は、御油の驛端より路を左方に取り、姫街道を行くこと里許にして、又左方の里道に入り、大木の東北に於て飯田街道に出て、新城・長篠等を經て之に赴く、然れども若し途の最も平爽なるものを選ばんと欲せば、豐橋より飯田街道に據りて、長篠の對岸有海に至り、是れより瀧川を渡りて里道に入り、山麓の門谷村に達するを便とす、

最も以上の順路、其孰れを擇ぶも、皆門谷より登山する者にして、地に數戸の旅舎あり、暮ら餐客の宿泊に備ふ、門谷よりは橋を渡り樓門に入り、石階を攀ること幾べて九町許、一町毎に石標を建て、之を導き、左右に老杉の亭々空に聳ゆるあり、其間幾多の僧房婆娑として階の左右に連り、人をして先づ其壯麗に驚かしむ、抑々當寺は 推古天皇の勅願に依り僧利修の開創に係り、爾後 文徳天皇の御宇、大寶年間及び造立せしめ給ひたる所にして、天台・真言の二宗を兼修し、三河第一の靈場なり、奥の院は本堂を距る九町許の山上に在りて、白山権現及び不動尊を安す、六木杉は奥の院に至る路傍に在り、舊時七本ありしを、利修其一本を伐りて佛像を刻みたりと稱ふ、隱し水は四方の谷間に在り、傳へて利修の加持水なりと云ふ、高座石・巫女石は共に本堂の西北に在り、古へ利修岩上に坐して法華・華嚴の法意を説きし時、八人の巫女天より降り之を聽聞す、時に利修の坐したる石を高座石と稱へ、巫女の坐したるを巫女石と稱へしと、尼行道は四谷に在り、昔淨行尼なる者利修を訪ふて此に到る、利修其女人なるを厭ひ隱匿して會せず、尼怪みて岩頭に立ち遠見すること七日、而して遂に利修を見ず、因て大に怒り岩を砕いて谷間に投ず、即ち其谷を尼谷と云ひ、岩を砕きたる處を尼行道と云ふと、行者歸りは當山より東方大野に至る運路の名なり、俗に傳ふ役行者登山の時、此途より登らんとし能はず、乃



鳳來寺山

ち歸りて木道よりせりと、猿橋は當山の南にあり、文武天皇の御宇、勅使草鹿公直・利修を禁闕に召きんとし此山に登りし時、溪流激湍して前岸に到るを得ず、時に數百の群猿忽然として現はれ、互に手足を接合して橋となし、勅使を渡らしめたるが故に其名ありと云へり、妙法龍。鳳來寺の塔頭松高院の下方に在り、高さ五丈有餘、幅凡そ五尺許、兩崖露巖、天工の妙を盡し、飛瀧其間に懸りて、殊に點綴の宜しきを得、若し假りに其奇觀を名狀せば、天寒からずて飛聲大空に漲り、雨至らずして白虹蒼虛に懸るが如く、雄絶にして又快絶、蓋し鳳來寺山中の一絶勝と爲す可し、(尾三) 岩石果峭、屏ノ如ク、崖ノ如ク、怪奇萬狀、一目戰慄セシム、夜若ひとつ祈り出したる旅殿哉、芭 蕉 霧はれて六木杉に旭かな 乙 由 蕪

彩雲深鎖鳳來嶺、扶杖登臨石徑邊、百丈仙岩靈液滴、三層雁塔法燈懸、梧桐葉落布金色、藥樹花滿含紫烟、鐘聲隨風通下界、瑠璃樓閣發秋天、

永田知章

段戸山 (別稱宮路山) 三河國寶飯郡ノ西方ニアリ、登路未詳、標高三千三百七十七尺、

〔名勝〕 段嶺村大字田峰の北方にあり、國內北部の高峰にして、山勢雄拔、支脈崎嶇として四方に綿亘し、東に趨く者は

御殿・鞍掛・神田・明神等の諸山に聯接し、西に聳る者は東加茂郡の金藏連山・スヶ嶽等に連結し、餘勢尚ほ南北に綿亘せり、地質概ね壤土にして松・樺・梅・栎・檜・栗等の其材を産し、運搬の便亦乏しとなさず、即ち林下より澗川の上流に至る、凡そ二十町許、是れより編んで筏とし水路を下れば、十六里許にして寶飯郡の前芝港に達するを得、此山又溪谷の間に牧場あり、多く其馬を産すと云ふ、若翠蟠屈して南北四里東西二里餘に亘り、海を抽くと云ふ、山容圓渾寛泰にして、宛然君子の風あり、以て國內諸嶽の統領とす、

本宮山 (別稱本茂山) 三河國寶飯郡・額田・南設樂ノ三郡ニ跨ル、寶飯郡本茂村大字上長山ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千五百九十四尺、

〔名勝〕 嶽々として郡の東北隅に聳え雜樹森然たる者を、本宮山と爲す、(豊橋の北四里) 蓋し南設樂富村大字一ノ宮に在る砥鹿神社の本宮此に鎮するを以て其名あり、凡そ此山北設樂郡の段戸山と南北相對峙して、國內東南部の高山に屬し、海面を抽くこと實に二千五百十一尺、山勢高く、近傍諸山の上に出し、觀望頗る壯偉、支峰東西に亘りて峰巒環繞し盤根廣く、額田・南設樂兩郡に蟠る、山中に砥鹿神社の本宮を鎮

本州中部 木曾山系

宮地山 (別稱宮路山) 三河國寶飯郡ノ西方ニアリ、赤坂町ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百九十六尺、

〔名勝〕 大寶二年十月、持統天皇當國に巡幸の時、此山を頓宮に充られたるを以て其名あり、今山頂に二ノ丸と稱する平地ある者、即ち其遺蹟なりと云ふ、又山中の一峰に嶽ヶ城と名くるあり、往昔草壁皇子の本村を鎮するに當り、宮居たりし所なりと云へり、山上松・柏繁茂し、且つドクタン其他の灌木多し、古へより紅葉の勝地を以て著はれ、保元の頃、藤原師長の當山に紅葉を賞し、又平宗盛の之に登りしこと、源平盛衰記等の諸書に見え、今も晩秋の頃、遊人の登臨して幽景を愛賞する者群を成す、山間又奇蹟に富む、天神社・御輿休石・烏帽子岩・車引・水汲堂等即ち是れにして、藤ヶ棚(藤花上方に向つて開く)三足龜(持統天皇行幸の時、一足は車輪に挽かれて切斷せられたりと)、片葉石宮三葉楓等、亦皆此山の特産として聞ゆる者なり、

増 基
阿 佛

名高き藤の咲けるなりけり
まらけりな昔も越し宮路山
おなじ時雨のめぐりあふ世を

東路の奥はけふこそ宮地山

長明

曇りなはてを雨はふるとも

猿投山 (別稱鷲取山) 三河國西加茂郡尾張

國東春日井郡ニ跨ル、西加茂郡廣澤村大字猿投ヨリ凡一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七十六尺、

〔名勝〕 蒼蔚たる深翠樹すべし、山上に神祠あり、麓に大社あり、之を本社と云ふ、共に猿投神社と稱す、祭神大雄尊の暮は山中に在り、尊東征の途次、此地に來り曉すと云ふ、老槍、古杉森然として陰をなし、秩多く樛めり、登臨の道二條あり、一を男坂と云ひ、一を女坂と云ふ、男坂は路頗る峻峻にして、女坂稍や平夷なるを以て、人多く女坂を攀つ、(尾三)骨略魁偉嶺巒疊拔シテ、翠色隱々雲表ニ翠嶺シ、且頂麓ニ神祠アリテ、其名近國ニ著ハル、

猿投山(一號白鳳寺)

永田知章

九折八盤携竹筍、登攀只與牧人逢、山雲埋沒杉松槍、澗水分流三尾浪、巖路通春草野、獨猴聲答暮天鐘、一從白鳳飛來後、廟殿巖然萬仞峰、

二宮山 (別稱大富士、眞靈山、本宮山) 尾

張國丹羽那ノ東方ニアリ、樂田村字二宮ヨリ十八町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高九百六十六尺、

〔張府〕 奇麗崛起、蓋本州之高峯也、遼望之若芙蓉、俗以此峰爲大富士、西南一峰曰大風嶺、絕壁如屏風、其中峰有風宮兩宮等數祠、見祠廟下東南山腹曰鷲洞、巨石有一穴、甚深不知底、但口狹不容人、西北山下有一潭、曰鏡潭、今水涸矣、里老相傳曰、昔日有福宮新藏者、於二宮山中斬蟒、及射山姑其事怪誕不足信、然近邑家々藏其骨、可供神官小祝、故或其略、曰文明年中、丹羽郡羽黑村鳴海高橋里、有福宮新藏者、剛勇之士也、常好漁獵涉山川、飼犬愛鷹、且聞入鹿村落有驚好啼、即欲捕之、使僕持藤鞭、至入鹿山中、其地曰鏡子口、下臨深潭、新藏心悸、踏過潭邊、不見僕、但留草履、沙上有跡、若曳米囊、頓怪之、顧潭上有古松、大蛇蟠結、新藏以爲我僕爲蛇見吞、乃抽金僕姑、射洞其頭、大蛇立斃、雷電震冥新藏不敢懼、拔佩刀屠蛇、曳出其屍、氣息惺然、乃負之抵入鹿里、借籃輿載屍歸羽黑、途中僕死、因埋其骸、名其地曰瘦衣木、里人喧傳以新藏爲神、後年八月中旬、乘月率犬、登本宮山獵獸、將抵絕頂、不見一鹿、忽獵犬嘶耳蹄尾不肯進、新藏以爲有靈、猶行到洞邊、遙見燈光、怪而視之、祠殿有方燈、高丈許、其側有一女梳髮、其長可一丈、大男子者皮袴坐而見

(俗説に淡海の土を駿河にはこびて一夜に富士山を作り給ひし衆神、こゝに一簣をこぼし給ひしが此山なりといひ傳へ、或は此山より東の方に富士山を見るゆゑに名づけたりとといへり、峰に富士権現の社あり、)

飛驒高原

黒姫山 (別稱古志峰) 越後國西頸城郡ノ西方ニアリ、登路(式按スルニ、青海村大字橋立カ)一里六町、標高三千六百十七尺、

〔地誌〕 形状秀後にして、土俗の説きて沼川姫の栖みたまへる靈峰と云ふもの此也、

袴腰嶽 (別稱裏蓮華、蓮華山ノ一峰) 越後

國西頸城郡ノ南西方ニアリ、青海村大字橋立ヨリ五里ニシテ其山頂ニ達ス、

雪倉嶽 (蓮華山ノ一峰) 越後國西頸城郡越中國下新川郡ニ跨ル、西頸城郡小瀧村大字大所ヨリ凡九里ニシテ其山頂ニ達ス、標高八千二

之、新藏以爲是山姑、乃彎弓射之、矢洞其胸、殺滅山雲、新藏依大樹待天明、向曙即至祠殿、有黑血流地、至鞍源斷岸、新藏歸家排朋友、認其血、下崖越澗、出村里、其血淋漓、過安樂寺村中及羽黑邑、漸度大道、過小口村、其血痕稍小、到余野里、其里有小池與八郎者、其宅門邊有鼠穴、其血痕引入此宅、衆大怪之、新藏乘輿與八郎相識、叩之、與八郎延家勸酒、新藏將歸、招與八郎出門、指示其血、小池亦怪之入室、其妻前夜稱疾、至今不起、小池直入其房、血滿衣衾、不見其妻、屏障題二首和歌、乃知其妻是山姑所化也、其妻生一子、小池鞠育之、衆知其山姑子、而其子不知、後年聞而悲之、不棋哀甚、建一寺、(德林寺トイフ)

小富士山 (別稱尾張富士) 尾張國丹生郡ノ

東方ニアリ、池野村字富士ヨリ凡十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高九百十三尺、

〔名勝〕 蒼々天に聳え、形容宛として富士に類するが故に其名あり、頂上四邊を望めば、尾三浪、遠信、飛の踏山、線亂起伏して晴裏に捲り、駿河の富嶽亦倒巒を天際に懸く、而して又東方を俯瞰すれば、入鹿池(周囲凡三里四町餘)其麓に横はり、一縷碧を凝らして、觀望甚だ奇、是を以て毎年夏季の如きは、行厨等を排へて登臨する者頗る多しとぞ、(尾志) 獨立して高く、二宮を大富士といひ、これか小富士といふ、

蓮華山 (別稱朝日嶽、大蓮華山) 越後國

西頸城郡信濃國北安曇郡越中國下新川郡ニ跨ル、西頸城郡小瀧村大字大所ヨリ凡十三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高一萬三十五尺、

〔提要〕 鐘嶽。朝日嶽ノ南ニシテ其別峰ナリ、雪倉嶽。鐘嶽ノ北ニ位ス、以上蓮華三峰ト云、務腰嶽。七谷狸蓮華ト稱ス、其他柴崎嶽アリ、噴火山ナリ、黒倉山。源森山等諸山、概シテ之ヲ蓮華山ト稱ス、(風景) 大蓮華山頂の下に二湖あり、舊火口トテ、山の北麓に蓮華温泉あり、(海拔一五六六米突) 浴屋一あるのみ、(名勝) 其南に鐘ヶ嶽北に雪倉山あり、三峰並び時ち、遠望苑も一大架架を見るが如し、(摘譯) 形ヲ蓮華ニ似タルヲ以テ其名アリ、殿格ニ首ヘハ一山ニ非ズシテ峰頂ノ群立セル者ナリ、飛騨山脈ノ最北ニ位ス、登路困難ナラズ、先ヅ信濃大町驛ヨリ十四里ナル越後山ノ坊村ニ至リ村長ノ家ニ宿ス、夫レヨリ頂上迄おほほど、きしノ二村ニ休憩スル時間ヲ加ヘ七時間ヲ要ス、尤モ山頂ニ近キ一里半ノ所ニテ、八町坂山ニ登ラザル可カラズ、此近傍ニ板立ノ嶺山アリ、蓮華温泉場ハ衣食元ヨリ不充分ナレドモ、硫氣噴孔及ヒ湖水ハ一奇觀ナリ、温泉處ニ湧出シ、其温度ハ華氏ノ九十五度乃

至百十八度ナリ、温泉場ニ一宿シ、天明出發シ、森間ヲ衝キ露山ヲ登リ、三時間ニシテ舊時代ノ嶺山趾ニ至ル、磐谷ノ對岸ニハ磐倉嶽ノ遺體々タル峰頂ヲ望ミ、甚ク壯觀ナリ、嶺山趾ヨリ登路ハ多ク磐ヲ踏ミ、磊落ナル火山岩ノ堆積セル山頂ニ達ス、二時間半ヲ要ス、眺望ハ驚ク可キ廣大ニシテ、富山灣、北四ニ能登半島、東南ニ富士山等、實ニ中部日本ヲ横斷セル景色ヲ看ル、又皎々タル積雪ニ覆ハレタル山足ヲ下瞰ス、温泉ニ下ル三時間半ナリ、

白馬嶽 (蓮華山ノ一峰) 信濃國北安曇郡越後

國西頸城郡越中國下新川郡ニ跨ル、登路北安曇郡北城村字四ツ谷、西頸城郡小瀧村大字大所ヨリス、(富山圖幅ニ據レバ、下新川郡山崎村大字山崎ナル小川温泉ヨリ横山嶺・楊俣・清水畝ヲ經テ、此山ニ登リ得可キニ似タリ) 標高九千六百八十二尺、

〔小島氏増補〕 白馬嶽ニ登ルニ二道アリ、長野ヨリスルモノハ、月隈ノ山流經花川ノ溪淵ニ沿ヒ、崖腹ヲ截リテ拓キタル、沿河ノ狹隘道ヲ行ク、山流風曲幾十折ナルヲ知ラズ、頗ル耶馬溪ニ似タリ、茂寄小鍋・楊俣ノ小村落ヲ瞥見シ、長野

乘鞍嶽 (蓮華山ノ一峰) 信濃國北安曇郡越中

國下新川郡ニ跨ル、登路未詳、

鐘嶽 (別稱鎗嶽蓮華山ノ一峰) 越中國下新

川郡信濃國北安曇郡ニ跨ル、越後國西頸城郡小瀧村大字大所ヨリ凡十一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高九千四百九十七尺、

〔信實〕 樹木蒼鬱、登路定まらず、

籠嶽 信濃國北安曇郡越後國西頸城郡ニ跨

ル、北安曇郡北小谷村字來馬ヨリ凡六里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千九百四十尺、

鉢嶽 (此山所在不詳、式按スルニ、或ハ越中

國下新川郡信濃國北安曇郡ニ跨ルカ) 越中國下新川郡白萩村大字千石ヨリ四里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

天狗嶽 信濃國北安曇郡ノ中央ニアリ、登路

ヨリ六里ニシテ 鬼無里(キナサ)ニ達シ、四里ニシテ柳澤峠ヲ越セルヲ、姫川ヲ隔テ、飛騨山脈ヲ望ム、宏壯無比、竟ニ白馬嶽ノ麓四ツ谷ニ到ル。松本ヨリスレバ、明科驛ニテ汽車ヲ下リ、六里ニシテ大町ニ達シ、又六里ニシテ四ツ谷ニ達ス、松本ヨリコ、マテ馬車ヲ通ズ。四ツ谷ハ、北安曇郡北城村ニアル一寒色ナレドモ、松本ヨリ越後絲魚川(イト井カヤ)ニ通スル一等道路、之ヲ貫クヲ以テ、道路廣潤ナリ、コ、ニテ導者ヲ貸シ、(或ハ細野マテ到リテ備フモ可) 明朝ヲ以テ登山スベシ。早期、四ツ谷或ハ細野ヲ出發スレバ、午後四時頃、容易ニ絶頂ニ達スルヲ得、四ツ谷ヨリ白馬尻マテ三里許、白馬尻ヨリ落葉樹間ヲ脱シ、磐谷ノ磐ヲ踏ミテ登ル、是ヨリ急勾配トナル、即チ白馬尻ノ大川渡シニシテ、二十丁餘、高山植物漸ク多シ。磐谷ヲ離レテ、花頭中ニ入ルヤ、即チ葱平(チアカダヒラ)ニシテ、頂上マテ一里半餘、頂上ノ石小屋ハ、宿泊用ニ便利ナリ、正午頂上ヲ出立スルトスルモ、七時頃ニハ四ツ谷ニ下ルヲ得、コノ山ヨリ峰傳ヒニ、南方鐘ヶ嶽ニ到ルベク、北方大蓮華山ノ、蓮華温泉ニ入ルヲ得、頂上ノ石小屋ヨリ十分間ホド、信濃方面ニ下リタルトコロ、兩崖ニ大磐田アリ、コノ邊ノ岩石ニ氷河漂流ノ痕跡ヲ發見セラレテヨリ白馬嶽ノ名大ニ世ニ噪ク、高山植物採集地トシテモ、亦日本有數ノ絶好地ナリ。〔参考書〕 地質學雜誌百十號「氷河果シテ本邦ニ存在セザリシカ」

神城村字飯田ヨリス、里數未詳、標高六千七百十九尺、

〔信實〕 岩石多くして樹木生ぜず、登路一條字飯田、大川に添ふて上る、大川は流末姫川に入る、

東鐘鈞山 越中國下新川郡ノ南方ニアリ、上新川郡大山村大字有峰ヨリ三里二十町ニシテ其山頂ニ達ス、

後立山 越中國下新川・上新川ノ二郡信濃國北安曇郡ニ跨ル、登路未詳、

針木嶺 越中國中新川郡信濃國北安曇郡ニ跨ル、越中國上新川郡大山村大字有峰ヨリ二里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高八千二百二十七尺、

〔小島氏増補〕 信州大町ヨリ、越中山立山越山越エノ間道ニシテ大町ヨリ四方野口村ニ至リ、落葉松林ヲ過キテ、高瀬川左岸ノ荒塚村、大出(ナ、テ)ニ達ス、(野口或ハ大出ニテ、導者ヲ貸スベシ)コレヨリ加賀川ノ上流ニ溯ル、溪澗、針木峠ノ

北ニ列ナレル祖父ヶ嶽、鏡ヶ嶽等ヲ仰ケ、天體夾立、河床ヨリ高サ三千尺ニ達ス、針葉樹・頑石・露田等ノ間ヲ縫ヒ、七至百方ニシテ、針木峠ノ絶頂ニ達ス、岩壁屏風ノ如ク、頭ヲ壓シテ四周ニ仄立スルヲ以テ、遠望ヲ難マ、ニスル能ハズト雖モ、館ヶ嶽、駒ヶ嶽(甲斐)八ヶ嶽、富士等ヲ視ル、信・越ノ境界ヲ記セル小木標、岩ノ割レ目ニ立テリ。峠ヲ南下シテ、針木川ノ峽谷ニ入り、更ニ黒部川ノ高瀬ニ沿ヒテ立山ニ上ルマデ、峻絶、本州中殆ント無比、大町ヨリ針木峠ニ至リテ立山ニ登ルマデ、妙クトモ露臥ニ夜ヲ覺悟ナカル可ラズ、但シ黒部川ノ向岸ニ、一廢屋アリ、無人ト雖モ、宿泊ニ可ナリ、絶エテ路ヲシキ路ナク、偶々是アリトモ、年々崩壊、甚ニヘリ、流域ノ急變等ニテ、變化スルヲ以テ、導者ナクンバ登山到底不可能トリ、

黒嶽 越中國中新川郡信濃國北安曇郡ニ跨ル、登路越中國上新川郡大山村大字有峯ヨリス、里數未詳、標高九千五百三十尺、

鷲羽嶽 越中國中新川郡信濃國北安曇郡ニ跨ル、中新川郡立山村大字橋津ヨリ九里、越中國新川郡大山村大字有峰ヨリ二里ニシテ其山

頂ニ達ス、標高九千五百五十七尺、

薬師嶽 越中國中新川郡ノ南方ニアリ、白萩村大字伊折ヨリ九里十町、上新川郡大山村大字有峰ヨリ凡四里ニシテ其山頂ニ達ス、標高九千八百七十四尺、

〔風景〕 立山火山帯の南々西走する最南端に在り、甚だ整齊せる苗火口あり、

立山 越中國中新川郡ノ南方ニアリ、立山村大字蘆峯寺ヨリ凡十里ニシテ其山頂ニ達ス、標高九千六百八十九尺、

別山 (立山ノ一峰)越中國中新川郡ノ南東方ニアリ、立山村大字岩峯寺ヨリ九里十八町、大字蘆峯寺入會寒山ヨリ九里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高八千五百三十七尺、

〔風景〕 山に苗火口ニあり、共に鉄損す、頂に大山神社の祠あり、世に大を脱く者多し、然れども眞成なる自然の大は、實に立山絶頂より四望する所あり、立山の絶頂に登らんと

せば二徑あり、(一)信州口(二)越中口是なり、(一)信州口、信濃大町より野口村に到り、此所にて案内者ヲ備ヒ、且つ各種の準備をなし、針木嶽(海拔二五九三米突)を越スニ股・黒部を經、ザラ越(海拔二五九八米突)を過ぎ立山温泉(海拔一四〇二米突、安政五年二月、大爆裂の際、化成せし摺鉢形なる凹所の内にあり、所在に硫氣噴孔あり、硫黃の熱湯の沸騰せるあり、熔岩果々、灰砂堆積す)に下り、夫より直ちに北折し道分に出て、此所にて越中口よりの登り路と合し、東折して漸く山頂に達す、(道分より山頂に到る間の諸事は越中口の部に記す)(二)越中口、富山市より人力車にて蘆峯寺(海拔三七五米突、山の西麓立山神社在在す)に到り、此所より登り初め、道分を蘆峯寺より八里にして室堂に達す、例年七月二十日より九月十日に到る間、參詣者の宿泊用に供す、堂より左方六町(大地獄)の大硫氣噴孔數箇あり、其の所在に「血ノ池」あり、其他小池五箇あり、壯觀無比、堂より更に登る一里、隆反と雖も行々積雪を踏み絶頂に達す、立山本社あり、社前より四望せんか、東には越後の妙高・妙義・米山・下野の日光山帯、信濃の戸隠・飯綱・黒姫・淺間を看、南には八ヶ嶽・立科・御嶽・富士山其背に高聳し、甲斐の白根・駒ヶ嶽、信濃の駒ヶ嶽・御嶽・館ヶ嶽・乗鞍・笠ヶ嶽、飛騨の薬師嶽を觀、南西には加賀の白山を眺め、西には加賀、越中の全平原を下瞰し、神通・常願寺の二川汪々として其間に屈折し、北には日本海の浩渺をも



山立

山立イ 山別ロ 山立イ 山立イ

認む、其の眺望や富士山頂に亞ぐと雖も、山嶽を一時に夥多
 眺望する所は實に之れに過ぐ、自然の大を頓悟せんと欲せば
 此山に登臨すべし、(名勝) 國中第一の高山にして、富山市
 の東南直徑十餘里布倉村に在り、廣袤數里の間に亘り、其最
 も高き峰を雄山と云ひ、其他淨土山、別山、御嶽等數十の支
 峰ありて、俗に七十二峰とす、又雄山の嶺には縣社雄山神
 社ありて、夏日參詣する者頗る多し、今ま富山よりの順路を
 記せば、同市より東南五里許り常願寺川の東岸に岩崎寺村あ
 り、立山の登り口にして、地に古への僧舎二十餘坊ありて、今
 は皆旅店を業とす、又此處に一の華表ありて雄山神社の扁額
 を掲ぐ、岩崎寺より常願寺川の上流に沿ひ大字横江、血懸諸
 村を過ぎ、凡そ三里にして廣崎寺に至る、此所に古廟あり、
 俗に龍ノ宮と稱し伊弉諾尊を祀る、又別宮あり、屬神手力雄
 命を祭れり、此地も古へは僧坊二十四坊ありし處なりしと云
 ふ、雄山神社の縁起なりと云ふを聞くに、昔し文武天皇大
 寶元年二月某夜の夢に、彌陀如來枕頭に立ち、今より佐伯有
 若を越の國に遣さば、國家益々安穩ならんとの靈告あり、
 天皇醒めて後ち大に佛徳に感じ給ひ、直ちに有若を越中の國
 司に任ず、其子有賴同國保伏山に住し、一日立山に遊獵す、
 時に一頭の熊あり忽然として樹陰より出づ、有賴射て之を走
 らせ、尙ほ追蹙して山深く分け入るに、一岩窟に至りて三尊の
 彌陀胸に矢を負ふて立たせ給ふを見る、是に於てか護の熊は

彌陀の化身なりしを悟り、隨喜滿仰の餘り、直ちに説法ヶ原
 五智寺の熱和尙に謁して戒を受け、自ら慈興と號して、本
 社を草創す云々、是れ神佛混淆の時に作れる略縁起なり、然
 れども事妄誕にして信すべからず、且つ雄山神社の名は早く
 より舊史にも見えれば、其の創建は尙ほ數十年の以前に在
 りて、有賴は大寶年間之を再興せしものなるべし、廣崎寺
 より一橋を渡れば姥堂あり、又稱名川あり、即ち稱名瀧の下
 流にして、常願寺川源流の一なり、流れに釣橋を懸く、橋は
 藤枝を以て編み其兩端を左右の巨石に縛して人を渡す、藤を
 編むこと疎にして、脚下數丈の河底に水の湍激たるを下瞰し
 且橋は一步毎に飄搖し、足慄きて進み易からず、又湯川あり、
 東藥師嶽より發し、西北流常願寺川に會す、夫より更に常願
 寺川の本流を渡れば金坂に至る、是れ立山の登り口なり、金
 坂を踰ゆれば道稍や平爽にして、此處を千手ヶ原と云ふ、行
 くこと數町にして危嶺あり、材木坂と云ふ、礎は奇石重疊し、
 宛も椶櫚を積重ねたるが如し、其の左右奇木鬱然として生じ、
 皆數百年のものなり、一古祠の傍らを通ぎ、更に進むこと十
 歩許にして岩洞あり、鷲窟といふ、洞中濶くして數十人を容
 るべし、美女杉は今既に枯死し、唯だ枯幹の一部を存す、尙
 ほ進めば路傍に一穴あり、深さ測るべからず、椶平を経て伏
 拜に至れば、密林初めて開け、谷を隔て、稱名瀧を望む、瀧
 は直下百餘丈、三層となりて蒼崖の間に懸る、亦一奇觀なり、

茲より道少しく下り、一里餘にして桑谷に抵る、此地は廣崎
 寺より室堂までの中途に位し、旅舎數戸あり、更に登れば高
 原あり、彌陀ヶ原又中津原といふ、廣さ方一里許りにして、
 其間一の草木を見ず、左には銀ヶ峰の巖表に變ゆるを仰ぎ、
 右には藥師嶽の峻嶺を望むべし、市ヶ谷より溪澗に沿ひて登
 れば、左右奇岩巖々として聳え、溪水潺湲として漲り、幽邃
 極まりなし、少しく進めば巨岩の途上に横ばりてゆくてを遮
 るあり、之に鐵鎖を附し、人は其鎖に取付き匍匐して之を登
 る、一步一喘、足戰ひて進み易からず、實に山中第一の難處
 とす、此の如き峻坂を踰ゆること二ヶ所にして、少しく平坦
 なる處に出づ、忽ちにして巨石の斜めに路傍より斗出するを
 見る、之を獅子ヶ鼻と云ふ、又弘法大使護摩壇の舊趾、愛染
 明王の岩屋あり、夫よりなだらかなる小松原を過ぎ、瓜先上
 りの道を上れば室堂に達す、廣崎寺より此處まで凡そ九里、
 室堂は砂石礫の地に於て、一の草木を見ず、登山者は總て
 此地に投宿するを常とし、旅舎數戸あり、雄山は室堂の正東
 に當り、登路五十八町、山は皆岩石より成り、坂路崎嶇とし
 て、宛も空中に梯を立てたるが如く、殊に險しき處五ヶ所あ
 りて、一ヶ所毎に石浮屠を置く、之を五越と稱せり、健脚に誇
 る人と雖も、此峰に登る時は行路の難を脱かざるは無く、僅
 かに前後相扶持して攀登すと云ふ、其險想ふべきなり、山嶺
 に小洞あり、岩石の罅洞たる間に蘆花、傍らに紅白の旗幟風

の爲めに翻へるを見るべし、是れ即ち雄山神社奥ノ宮にして祭神は伊弉諾尊なり、室堂より道を東南に取れば、淨土山に登るを得べし、拂曉霧に至れば、濃霧中に五色の虹の如きものを顯す、之を彌陀三尊の奉迎なりと崇信する者多し、(車輪ノ如ク、圓徑八尺許、輪邊五色ノ虹ノ如シ、中ニ物アリ勢

立山雄山神社



歸タリ)又東北に跨れば別山に至る、其途中大走、小走の危峻ありて、山頂には帝釋天を安す、其他山中に八大地獄、賽ノ河原及び奇岩怪石の名あるもの頗る多くして、枚舉に遑あらず、就中地獄谷の如きは、硫烟常に噴騰して、山中の一奇觀と爲す、(越中)頂上曇晴常に繁く、一度晴れば日の極むる處幾百里なるを知らず、而して富嶽、白山、御嶽等際々として指點すべく、眞に天下の壯觀なり、少しく下りて峠横き北

行すれば、大汝に至る佛堂あり、觀音を安す、更に危嶺數町を攀ぢ、富士の折立を経て別山に登れば、帝釋天の佛堂あり、其前に觀水と稱す一壺池あり、此北に當り姿態萬狀巉然たる者は劍峰なり、別山を下る危嶺を大走、小走と稱す、室堂の正北火高山に美久里池あり、奇異を傳ふ、又數十歩を隔て、血の池あり、其他谷中に窟穴夥しく、大小百を以て數ふ、就中水ある者は熱湯湧くが如く、或は躍上する者あり、或は沸騰する者あり、或は玉を飛すが如き物あり、水無き物は實中鳴動燗煙直ちに天を射、或は銃を發するが如き響を生ずる者、或は鐵の如き者、一々牧學に違あらず、其猛烈の勢に駭快せざるものなし、是即ち俗にいふ八大地獄也、(參考書)地學雜誌第十五卷「立山雄嶽の記事」三ツの山巡」

立山賦

大伴家持

あまざかるひなになかすこしのなかくぬちこととやまはしもしにあれどもかはしもしはによけどもすめがみのうしはきいますにひかはのそのたちやまにとこなつにえきふりしきてなばせるかたかひがはのきよきせにあまよひことになつきのをもひすきめやありがよひいとしのはによそのみもふりさけみつゝよろづよのかたちひぐさといまだみぬひともつけむむとのみもなのみもきてもしふるかれ

たちやまにふりなけるよきをとなつにみれどもあかずかむなからし
かたかひのかはのせきよくくみづのたよることなくありがよひみむ

秋のきる衣や寒き雲のぬき

幾 悪

雲の立山やまかせぞ吹く

雲霧もありてなれば神代より

突 冲

ひとり立山友もとめけり

越中立山

高橋白山

脚前七十二峰巒、雙手扶雲摩太清、照響定然響漢上、人間定靈步履聲、

立嶽

毛利牛山

手捫鐵索踏虚空、攀到層霄最上峰、下瞰群山總俯伏、比肩只此玉芙蓉、

登立嶽

片口江東

一嶽峻蒼漢、千巖裂翠坤、雲流幽巖口、龍盤古松根、大海

蓋中涵、群山林底奔、乘風凌絕頂、夜半見明暎、

源 士 業

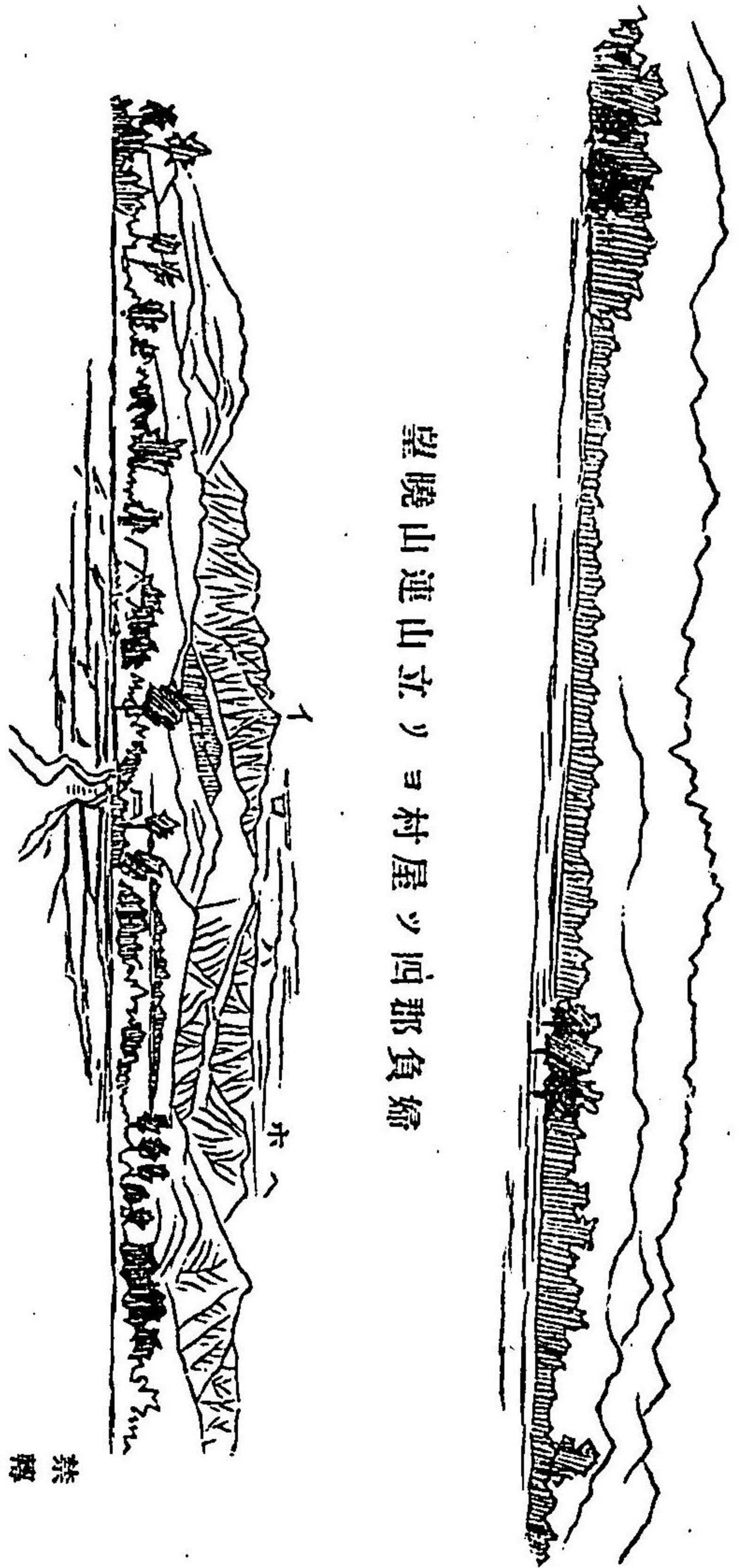
登立山記

天下之高山、指不暇屈、而獨峻之富士與吾之立山、則稱爲絶類離群矣、余東游之次、嘗登富士而眺望焉、衆山之累累者、如兒孫之繞膝也、獨立山在數百里之外、而突起乎雲表、與之相揖遜、互爲賓主、則其高可知也、今茲歸自東遊、乃結伴一遊、以夏季念八日起程、登高山者、概以六七月爲期云、立山距富山府、十有八里而近、世府南行僅三里、已爲山麓、道右有水、爲常願寺河、水分爲兩派、各有渡、至岩倉村、有寺十餘、各以年次主山祠、有數祠、皆懸標茅屋、叢林鬱葱、行三里許、爲岩倉村、有浮屠家、有巫家、其所職亦如岩倉云、有佐伯有賴墓、俗傳有賴當、文武天皇時、爲越中守、始闢此山、故祀之云、過二王門、有橋長十數步、廣三步、其製不用柱、自橋至水、凡八九丈、東岸有一小瀑、四面多大杉樹、深翠染衣、又有一祠、相傳祀有賴之乳母者、宿巫人佐伯某家、巫家稱佐伯氏者五家、蓋或有賴之裔、念九早發、過乳母洞可一里、石徑礚々、水聲如雷、盤迂而下者數回、至稱名河、水與湯河合、下流即前常願寺河、過所謂藤橋、其制糾藤蔓爲網、連延於兩岸、其目六七寸、若足之處則稍密、長二十步許、廣三尺強、傍如欄檻、又結藤

爲之、行旅以手挽之、僣僣而過、水流湍駛、激盪岩石、心悸目眩、佇立竄然、從此至桑谷三里間無水、乃以植菴之以備渴、過柵欄坂、而有石皆如柱、而縱橫積累者數十步、名曰材木坂、過部奈坂、道左或臨深谷、荆棘滿目、遠聞水流、蓋稱名河上也、相隔一里許、蒼巖絕壁、如雷屏然、中見一條大瀑布、直下千餘丈、所謂稱名瀑也、中間有一曲、其白波飛動之狀、徒想像之耳、不知其下如何、爲可恨焉、至桑谷半併、行一里而至彌陀原、平原數里、最可遠望、凡吾越山川其勝、一目瞭然矣、行可半里、途岐爲兩、右夷左峻、乃左折而行、有名鏡石者、大一丈許、圓形如鏡、抵二谷、甚峻、有洞流清冷徹骨、鑿鏡鑿而陟、凡二丈許又降、是爲一谷、鐵鍊十丈許、回顧氣阻、有一岩石、臨深谷而突出、曰獅子鼻、人或俯仰踐之、君子則避之、又陟五六丈許、從此坦途矣、行一里、而遠有凝雪、此間四望豁然、左右有數峰、至室堂而宿焉、堂有兩屋、各可容三十席、上置佛龕、有僧殿之、設地爐及釜、尊者相類炊餅、人無士民之別、宿者填滿、各不容安眠、夜寒殊甚、戶外爲圓、便溺滿地、臭氣可惡、衆人雜踏、疲倦而睡、晦日、曉起四望、烟霧濛々、風過忽散、各著綿袍而登、頂直頭上、凝碧荒涼、清爽沁骨、分爲三峰、中即木洞、右曰淨土山、左曰別山、此爲立山三山云、山僧每余輩先登淨土、或魚貫焉、或猿懸焉、凡一里許、至絕頂、有小洞、各一拜、踞而憩焉、眺望四方、其近

而崇者、爲蟻蜂爲龍嶽、巖四二里許、有池曰狩籠、尊者云、其大一里、其在西南巖々感白者、加之白山也、東則峻峰峻絕、淨々噴烟者、信之淺間也、南則碧白相間、而突兀競秀者、飛之乘鞍、信之銷嶽巖嶺山也、最遠而玲瓏秀徹、標池乎南海之表者、即富嶽也、其餘武之三峰、甲之身延等、不暇枚舉、而天下之壯觀極矣、北向而降、有鳥島形雄文、清音低飛、性能貫寒、曰爲鳥、見相述文集、又栗山室文有曾鳥、雷鳴音同、蓋同物矣、而皆云、惟居加之白山與越之立山耳、蓋三山不生一草木、非鳥獸所宜棲止、而獨有此鳥、則亦一奇事也、從此至木洞、一里許、愈峻峻、而至一越、過二三越、至五越、其間相距數百步、既而越頂矣、頂方三丈許、四方如削、其所望比淨土更雄嶽、本洞二丈許、柱皆突岩植之、藏古器劍鏃錢銀等物、劍鏃蓋有賴時物云、錢多晉唐物、錢背有貞觀二十年銘、制遺奇古、背端刻富山岡宜休納之之七字、又有馬角蛇跡等物、乃向北降、砂礫器々、行凡半里、至大難路、有圓王廟、北臨數千丈無底之谷、忽所謂劍峰、森然矗立、宛如白刃相磨、其巖巖嶽嶽、時東南風來、峰巒爲之欲動、乃赴別山、促途而行、其峻不減二峰、俄而雲霧四馳、驟雨冥濛、不辨咫尺、滿身濕漉、一里許即別山、有積雪園可二里、四通淺水、所謂觀水池也、其水清冷、不啻水雪、各和熱麥粉以食之、精神爲發、有一小洞、入而憩焉、頂與烟霧散散、劍峰猶未露全身、以爲遺憾

望曉山連山立リヨ村屋ツ四那負嶽



望ヲ攀連山立リヨ村保久大郡負嶽

大ノ、マノト小、* 原野、= 山立、ハ 谷地、ロ 山、ナ

崇嶽

乃取前路而還、數百步有一臺、擬雲埋之、踏而馳降、名曰大走、時雷雨又起、到底不測、或屈身倚杖、或以雙仰臥、跌宕直下、不容一瞬、又降數百步、如前而稍緩、是爲小走、石徑嶮々者、俗呼曰賽磧、又數百步、有岩窟名玉殿、側有小瀑、二百步還室室、憩息少時、路更向北、有兩池、水中亦有凝露、半里抵一大谷、炎風來衝、處々熱湯湧出、鐵勢飛上、或二三丈、或五六丈、其色或黝或碧、如流水者、如奔泉者、又有響如雷而吐黃烟者、形狀稱々、皆硫黃之氣上蒸使然也、臭氣微胸、各掩鼻而過、所謂地獄是也、日暮歸室室、七月朔、早發、半里許有兩岐、右則來路、乃左折一里許、有谷地勢凹低、左右如岸、名曰乳母懷、又半里彌陀原也、唯時到岩倉村、止宿某寺、初二、午時歸家、時天保十一年庚子七月、同行佐伯櫻谷渡邊子成神村子行野瀬某福田某三村某、併余爲七人、

劍嶽 越中國中新川、下新川ノ二郡ニ跨ル、中新川郡白萩村大字伊折ヨリ凡五里ニシテ其山頂ニ達ス、

西鐘釣山 越中國下新川郡ノ南方ニアリ、上新川郡大山村大字有峯ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス、

ニ達ス、

フナクラケ嶽 (式案スルニ布倉嶽ト同山ニアラザルカ) 越中國中新川郡ノ中央ニアリ、白萩村大字伊折ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス、

布倉嶽 (別稱**樺津山**) 越中國中新川郡ノ西方ニアリ、立山村大字樺津ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百六十四尺、

横嶽 飛驒國吉城郡越中國中新川、上新川ノ二郡ニ跨ル、吉城郡船津町大字大多和ヨリ九里ニシテ其山頂ニ達ス、

三又嶽 越中國上新川郡ノ南西方ニアリ、大山村大字有峰ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

眞砂嶽 越中國上新川郡ノ南西方ニアリ、大山村大字有峯ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

池山 飛驒國吉城郡ノ中央ニアリ、阿曾布村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

中俣嶽 飛驒國吉城郡信濃國北安曇郡ニ跨ル、吉城郡上資村大字金木戸ヨリ凡九里ニシテ其山頂ニ達ス、

北俣嶽 飛驒國吉城郡信濃國北安曇郡ニ跨ル、吉城郡坂下村大字打保ヨリ凡九里ニシテ其山頂ニ達ス、

烏帽子嶽 信濃國北安曇郡飛驒國吉城郡ニ跨ル、信濃國南安曇郡東穂高村ヨリ七里餘ニシテ其山頂ニ達ス、

飛驒郡行 小室 風山
蕭々匹馬上崔嵬、山鳥喚啼雲始開、更望前程高萬丈、帽峰笠嶽壓頭來、

拔戸嶽 飛驒國吉城郡信濃國北安曇郡ニ跨ル、吉城郡上資村大字金木戸ヨリ凡十二里ニシテ其山頂ニ達ス、

笠嶽 飛驒國吉城郡ノ東方ニアリ、上資村大字田頭家ヨリ凡四里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

シテ其山頂ニ達ス

笠嶽 飛驒國吉城郡ノ東方ニアリ、上資村大字田頭家ヨリ凡四里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

(摘録) 露色ノ岩礁ト笠々タル殘露トチ有スル山側ハ、平湯ノ北西面ナル狹谷ヨリ瞻望スル者チシテ其最モ顯著ナルコトヲ感セシム、即チ笠嶽ナリ、中尾ヨリ登ルチ可トス、中尾ハ獵夫樵夫チ以テ成レル一小村ナリ、又蒲田ヨリモ登リ得、(征島ヨリモ登リ得) 蒲田ハ雷ノ如キ好風景ノ間ニアリテ、硫黃温泉アリ、此地方ノ住民ハ饜信深クシテ登山者ノ援助ニ應ゼズ、徑路頗ル困難ニシテ、上リ八時乃至九時間、下リ七時乃至八時間ヲ要ス、長老ウケルテ、ラエテと曰ク、天明出發シ右俣ニ下リ、岩石多ク且ツ激流アル溪谷チ登リ深林ニ入ル、深林ノ下草ハ足チラスチ以テ注意セザル可カラズ、深林チ出ダレバ左俣ノ溪流ナリ、乃チ或ル方便チ以テ涉リ、拔凡五千尺ノあなげの谷と稱スル狹谷ニ至レバ露晞々、左俣ニ掛ル美シキ瀑布ハ其積雪中ニ消失セリ、登路困難ナ極メ、巨岩益々險益々大、而シテ益々滑、故ニ此ノ如キ山嶽ニ攀躑スル者ハ、ヨク滑處ニ耐ユル草鞋ヲ用意セザル可カラズ、夫レヨリ險惡ナル草生チ過ク、前路ニ比シテ稍々易ナリ、更ニ安山岩ノ堆積シテ極妙ノ休憩所ヲ作セル所ニ至レバ、岩陰ニある

よす系ノ草花咲乱レテ目ヲ悦バシム、又富士山及ビ中部日本ノ總テノ著名ナル峰頂ヲ眺望ス、此所ヨリ右折留留シテ登ルコト凡半時間程ニシテ頂上ノ石家ニ達ス、

鎗嶽 飛騨國吉城郡信濃國南安曇郡ニ跨ル、吉城郡上寶村大字神坂ヨリ五里、(或云凡六里十八町)南安曇郡安曇村字宮川ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス、標高一萬二百四尺、

〔摘譯〕松本町ヨリ島々村ニ出テ、村ニテ案内者ヲ雇ヒ、愛ス可キ好風景ノ溪谷ニ沿ヒ、島々ヨリ四哩ナル風呂平ノ磯泉浴場ニ至リ、北ニ鑄冠山南ニ鐵嶽ノ間ナル徳合峠(海拔七一〇〇尺)ノ峻坂ヲ横キリテ登行スルナリ、峠ノ徑路ヨリ懸隔セル梓川ノ岸邊ナル深林中(海拔四九五〇尺)ニ宿用ノ小屋アリ、島々村ヨリ七時間ノ行程トス、梓川ニハ可ナリ大ナル鱒魚多ク、釣リテ喰フヲ得、對岸ニハ穂高山ノ壯麗ナル花園岩ノ峰頂崎立シ、其位地其形、あるふすしやむうにニ近キといひよ、どるヲ仰望スルニ酷似ス、小屋ヨリ頂上迄登行九時乃至十時間ヲ要ス、距離ハ八里乃至九里ト稱スレドモ、峻岩多キ山徑ヲ辿ルニ里數ヲ以テ量ルカ如キハ無用ニ屬ス、小屋ヲ出テ赤坂ノ岩小屋ト稱スル獵夫ノ宿用ノ小屋ニ下ル、健脚者ト雖ドモ二時間半ヲ要ス、此小屋ハ將ニ墜落セントス

ルガ如ク、重疊シタル岩陰ニアリテ、清水及ビ澗水多ク宿所ニ妙ナリ、(徳合ノ小屋ヨリ別路アリ、即チ小屋ヨリ登ル五哩ニシテ、前路ニ分レ横尾谷ヲ經ルモノトス、谷ヲ登ルコト半哩程ニシテ天然ノ洞窟アリ、宿スルヲ得、夫レヨリ一峰ノ峻岩ヨリ突出セル山嘴ニ至リ前路ニ合ス、此路ハ前路ヨリ近クレドモ困難ナリ、然レドモ其風光ハ原人時代ノ景色ニシテ壯大無比、且ツ激流ヲ徒渉スルコト多カラズ)赤坂ノ岩小屋ヨリ激流ニ沿ヒ屢々徒渉シ三時間程ニシテ、左ニ轉テタル花園岩壁上ニ殘雪ノ斑々セルヲ見ル、即チ海拔一萬尺ノ穂高山ナリ、右ニ稍々溫和ニシテ樹木繁茂スル連山アリ、此近傍ノ諸高峰ハ皆花園岩塊ニシテ、其荒怪ノ狀、奇巒ナル山水唐雷ニ似タリ、而シテ日本全國中大和ノ一部ヲ除キテハ、何處ニテモ此ノ如キ景象ヲ見ル能ハズ、此ノ信・飛山脈ノ中心ニ於ケル溪畔ノ如キ、原人時代ノ景象ヲ開眼スル處トテハ、實ニ他ニ見ザルモノトス、此邊ニ來ル者ハ熊又ハ羊ノ容顏ヲナセル羚羊ヲ獲ント欲スル獵夫ノミ、前陣赤坂ノ岩小屋ノ海拔六千四百尺ニアリ、夫レヨリ以上ハ深林絶エ登田現ハレ、登路員露ヲ踏ム、頂上ニ近クバ赤裸々タル岩塊磊落、名狀ス可カラザル程奇怪ニシテ、或ハ堆積シ、或ハ將ニ墜下セントシ、洞窟隨テ多ク、熊ヲ獵フ獵夫ノ宿所トナル、雷鳥處々ニ棲息ス、巨岩積疊ナ越エ登攀絶難、留留頂上ニ達ス、塊岩重疊、所謂鎗光ノ如ク、四圍兀立、垂直線狀ヲナシ、東南ノ一

方纒カニ傾斜スルノミ、長老ウをるたーラネすと曰ク、山頂ヨリ山足ニ廣カリタル荒怪ニシテ寂寥ナル溪谷ヲ下瞰スル時ハ、一種官ヲ可カラザル感ニ摠タル、北ニ信濃、越中ノ無數無名山嶽排列起伏シテ遠シ日本海ニ達シ、西ニ笠嶽ノ巔嶽タル峰頂崎立シ、此嶽ノ溪谷ヨリ直チニ登リ得ベキニ似タリ、南ニ近クハ穂高山ト乘鞍嶽ノ地狀ヲ爲セル雙峰トナシ、此等ノ群山ヲ越エテ御嶽、其東側ニ信州駒嶽アリ、南東ニハ遙ニ信濃・甲斐境上ノ連峰屹立シ、其巔者ナル者ヲ白峰山・赤石山・甲州駒嶽トス、而シテ群峰中最モ壯麗ニ傑出セルモノハ、八十五哩ノ距離アル富士山是ナリ、實ニ此山頂ヨリ眺望スル山嶽ヲ指點セバ、日本國中ノ最廣最大最多ノ山嶽表ヲ製作スルニ異ナラズ、獨リ北西ノ一方ハ雲霧ノ覆フ所トナリ、富山灣ヨリ日本海ヲ望見スル能ハザルヲ遺憾トス、然レドモ猶ホ中部日本ノ殆ンド全峰ノ壯觀ヲ極メタリ、下路健脚者ハ二時間半ニシテ赤坂ノ岩小屋ニ至リ、夫レヨリ十二時間半ニシテ島々村ニ着ス、(小島氏増補)鎗嶽ニ登ルニハ、普通島々村ヨリスルコト前文ノ如シ、他ニ一大嶮道アリ、即チ白骨温泉ヨリスルモノニシテ、余(島水)ハ此路ヲキリテ取リ、至ツテ趣味ヲ感シタルヲ以テ、左ニ附記ス。白骨温泉ヨリ木立撥開セル間ヲ沿リ、路ヲ北ニ取リテ燒嶽ノ突元セルヲ望ミ、地獄谷(小ニシテ百ニ足ラズ)ヲ眼下ニ瞰、湯川ニ沿ヒ、又梓川ノ深谷ニ沿フヤ、人口僅ニ二ナ認ム、是ヨリ鎗嶽ノ頂マテ、人

家絶無ナルヲ以テ、コ、ニ一休スルヲ可トス、梓川邊ニ出ゾルヤ、北麓澤ニシテ、急湍ノ如ク、大石峙立、翠巖綠木倒懸シ、殊ニ峭嶽聳立、水聲四山ニ反響シテ、深山ノ光景ニ入ル、或ハ河原ニ下リ、或ハ崖ヲ攀テ、急流ヲ徒渉スルコト十面、甚テシキハ懸瀑ヲ横絶スルコトアリ、ソノ間、岩魚釣ノ處ヲ結ンテ、溪洞ニ宿セルアリ、殆ンド原人的、水漸ク盡キテ石壁トナリ、伏流ヲ踏ミ、獨活木、人ヨリ高キ間ヲ沿リテ、霞澤山ノ頂上ニ至ル、穂高山及ビ鎗嶽、高聳テテ嶺キ、上河内(ガミウチ)ハ、梓川ヲ挾ンテ花園ノ白礫露ノ如ク、數里ノ間ニ布クヲ見ル、是ヨリ上河内ニ向ヒテ、山ヲ下ル、樅・樺ノ密林ヲ貫キ、花園ノ大石ヲ渡リ、崖ヲ下リ、急湍ヲ涉リ、其困難名狀ス可ラズ、竟ニ上河内ニ下リ、岩魚釣リノ宿セル小舎ニ一宿ス、島々方面ヨリ登山スル人モ、徳合峠ヲ越エテ、コノ小舎ニ宿シ、翌朝ヲ以テ登山スルナリ、上河内ハ横一里、縦七里半ニ及ベル山間ノ窪地ニシテ、梓川ハ花園ノ白砂ヲ分解スルヲ以テ、土俗「白澤」ト呼ブ。小舎ヲ發スルヤ、梓川ノ急湍ヲ徒渉シ、河畔ノ森林草野ヲ亂リ、又急湍ニ入り、或ハ熊徑、人ヨリ高キ間ヲ沿リ、一ノ俣ニ一俣ノ援調ト合スルトコロチ、右往左往シテ、又峻坂トナリ、赤岩ノ小舎ニ達ス、自然ノ軟岩ノ下ニ、小舎ヲ結ベルナリ、溪洞ヨリコノ小舎マテ二時間ヲ要シ、小舎ヨリ絶頂マテ三時間ヲ要ス、小舎ヲ出ゾレバ右ニ大峻峰アリ、左ニヤ、小サキ尖峰アリテ、山

腹ヲ縦射セル大急流ニ臨ム、溪二分ス、其右ニ墮テ、又石ヲ傳ヒテ急流ヲ渉ル、樹木ハ一小舎ノ附近ニ盡キ、植物甚ダ稀ニ、七合目附近トナルヤ、北西ニ穂高山嶺ヲ攀テ望ム、溪水盡キ、盛夏雲田長サ十町ニ渡リテ急斜セルモノ、處々ニ屯シ、其下ニ雲洞ヲナス、假松狼藉、危岩ソノ間ニ突兀シ、絶頂嶺ヲ攀テ所謂「ヤリ」、尖懸シテ日光ニ映シ、閃々虚空ヲ刺スモノ數格アリ、ソノ最高チ劍ヶ峰ト呼ビ、三角測量標ヲ立ツ、漸ク絶頂ニ至レバ、右ニ野口谷、銀蛇ヲ蟠ホラシ、左ニ蒲田(ガマダ)深谷ヲ下瞰ス、野口谷ニ沿リテ、信州ニ下ルニハ二日ヲ溪間ニ費ヤスベク、蒲田溪ヲ沿リテ、飛騨蒲田温泉ニ出ツルニハ、全一日ヲ要ス、絶頂ノ「ヤリ」ハ功岩ヨリ成リ、尖削シテ孤級半天ニ亘ルコト、野中ノ一本杉ノ如ク、日本山嶽中、コノ奇峭ヲ他ニ見ズ、山頂ヨリハ立山・白山・乘鞍嶽・木曾御嶽、及ビ赤石山系中ノ傑物ヲ悉ク見ルヲ得。[歸路飛騨ニ出ツルニハ、一旦上河内ノ小舎ニ下リ、硫氣孔アル燒山ノ嶺ヲ越エテ、中房蒲田ニ下ルモ宜ク前記ノ如ク頂上ヨリ遊落シニ、蒲田溪谷ヲ亂リ、蒲田ニ出ツルモ亦可ナリ、余(鳥水)ハ此道ヲ取レリ、(勿論路アルニアラズ)ソノ懸絶絶絶、奔瀾大森林、熊笹、斷崖、飛瀑等ト闊(ル)苦難ニ至リテハ、上河内ノ登路ノ、比較的容易ナルト、同日ノ険ニアラズ、日本全國中、甲斐ノ白峰山登リテ除イテ、之ニ比スベキ危險、斷シテアルコトナシ。]導者ハ信州方面ヨリスルトキハ、島々村ニ

テ備フベク、同國白骨温泉ヨリナラバ、温泉宿ニ周旋ヲ托ス可シ、蒲田谷谷ヨリ上ルコトハ、試ミザルヲ可トス、要スルニ鎗ヶ嶽ハ、飛騨方面ヨリハ殆ンド登ル可ラズ。〔岐地〕高サ一萬一千六百五十尺、石英斑岩ノ群嶺交々天ヲ衝イテ起リ、險峻ニシテ高ク空中ニ壁立スルノ狀、恰モ鎗ヶ嶽ニ似タルヲ以テ其名ヲ得シト云フ、其南ニ穂高山アリ、高サ一萬一千二百五十尺アリ、此等山嶽ノ附近ハ殊ニ深山ニシテ猪、熊多ク、松島、鈴羊ヲ見ル、頂ニ假松アリ、頗ル歩行ニ難ム、吉城郡ノ東北長サ二十里幅十里ノ間ハ人家更ニ無シト云フ、實ニ人寰ニ非スノ野、此地區ヲ代表スベシ。]

槍嶽

小室 風山

絶頂石喚奇哉、雲野奇山面々開、最是槍峰推不得、尖頭直貫碧天來。

大天井山 信濃國南安曇郡ノ北西方ニアリ、

登路未詳、標高一萬五百一十一尺、

屏風嶽 信濃國北安曇・南安曇ノ二郡ニ跨ル、

登路未詳、

〔信實〕 樹木少く、半腹以上は突兀嶮峻にして登路定らず、山中には熊猪猴兎多しといふ、

雨吹山 信濃國北安曇郡ノ南方ニアリ、登路

松川村字青崎、字西原ヨリス、里數未詳、

〔信實〕 高凡そ二百丈、周圍二里、樹木蒼蒼、登路二條、一は字青崎を経て上り、一は字西原を経て上る、路共に峻なり、

馬羅尾山 信濃國北安曇郡ノ南方ニアリ、登路

路松川村字大足原ヨリス、里數未詳、

〔信實〕 高凡そ四百丈、周圍三里、松柏檜杉限なく繁茂す、登路一條あり、字大足原を経て上る、稍や峻なり、溪水四條、共に下流茅間川に入る、

五六嶽 信濃國北安曇郡ノ南方ニアリ、登路

未詳、

〔摘譯〕 海拔九一〇〇尺、圓形ニシテ赤隈々々、此山ハ繁茂セル道松ヲ踏ミテ登ル、山中宿用ノ小屋ナシ、頂上ハ花園岩上ニ堆積セル粗面斑岩ヨリ成ル、〔信實〕 常盤村にあり、高凡そ千二百丈、樹疎にして岩石多く且つ峻なり、登路一定せず、

有明山 (別稱有曙山、戶放嶽、信濃富士)

本州中部 飛騨高原

信濃國南安曇・北安曇ノ二郡ニ跨ル、南安曇郡有明村ヨリ五里ニシテ其山頂ニ達ス、標高八千七十五尺

〔名勝〕 山頂に小祠ありて有明神社といふ、祭る所未だ詳かならず、(大己貴神・天手力雄神・八意思兼神ノ三柱ヲ合祀スト云) 夏季に至れば遠近の士女參拜するもの多し、(中央線四條停車場ヨリ四里ニシテ達シ得) 南麓に中房川あり、霖雨ある毎に河水汎溢、上流より巨石を押し流し來りて、雨後は必ず沿岸の景色を一變す、字宮城の明玉院より一町許り北の方に岩窟あり、幅二間奥行三間許り、窟上は一面の平石を以て覆ひ、其上に觀音堂を安置す、里人傳へて賊魂魏石鬼の棲みし處とす、(小島氏増補) 南安曇郡、有明村中房温泉ヨリ登ル、五六町ニシテ溪流ヲ渉ル、全山ヲ九合ニ分ツ、一合ノ間凡八九町、皆木標ヲ立ツ、花園ノ斷崖、白瀑ヲ懸ケ、笹原滿山、巖々危峻ヲ渡ル、六合目ニシテ蝶ヶ嶽・雨師ノ連山起伏シ、南スルモノハ霞澤山トナリ、北スルモノハ有明ノ山ト通ズ、五葉松漸ク多シ、七合目トナリテ、愈々峻峻、一方ハ缺ケ、一方ハ巨岩頭上ヲ壓シ、常ニ大霧ヲ起ス、名ケテ地獄谷トイフ八合目ニ至ルヤ、霧々トシテ拳石路ニ充ツ、大町ノ市街ヨリ水崎・中綱ノ兩湖、明鏡ヲ磨キ、飛騨山脈突兀天ニ參スルヲ仰ク、路ヲ南方ニ取リ、山頂ニ達スルヤ、華表アリ、奥ノ小祠



望ヲ山明有リヨ瀬リ渡ノ川瀬高郡曇安南

嶽風屏ハ 嶽六五口 山明有イ

ナ有明神社トナス、松本市ノ粉壁、梓川・奈良井川ノ銀蛇、歴
落眼ニ入り、天風懸々、鷹翼ヲ絶ス。《舊名》屏風嶽五六嶽
の間に見ゆ、信濃富士と稱す、雖、雷鳥・熊・クワシ、等多しと
いふ、此あたりを有明の里といふも、此山の邊故とかや、淺
間山に劣らぬ高嶽にて、常に霧深く立ちこめて、山の姿もあら
はならず、

かたしきの衣手寒くしくれつゝ、 後鳥羽院

有明山にかゝる白雲

四行

信濃なる有明山を西に見て

景樹

心ほその、道を行くめり

淺井列

久方の天の岩戸のあけしより

岩本尙賢

山高みおりの雲をあとに見て

名におふ山の峰の紅葉

有明の月も色をや染ぬらむ

村田香谷

名におふ山の峰の紅葉

又見芙蓉登信州、白雲猶有掛峰頭、沈吟激詠立橋上、嶽色

江聲使客愁

有明山

有明山

高橋白山

有明高秀白雲端、宿霧晴來立馬看、十里清沙擁山麓、瑠璃

盃覆水晶盤、

盃覆水晶盤、

東天井山 信濃國南安曇郡ノ北西方ニアリ、
登路未詳、

常念嶽 信濃國南安曇郡ノ北方ニアリ、登路
鳥川村ヨリス、里數未詳、標高一萬二百九尺、

〔摘譯〕 大町字豊科ヨリ西方ニ右折スルコトニ墾ナル鳥川村
字いわはちヨリ登ルチ可トス、此山ハ鎗嶽ノ正東ニ聳エ、美
麗ナルびらみつと形ヲナセリ、上リ十二時間、下リ休憩時ヲ
加ヘテ八時間ナリ、故ニ兩日ヲ要ス、第一日ハ北ノ山足ナル
野谷所ニ一夜ヲ明シ、第二日早朝山頂ニ達シ、其眺ヲ極メ、
薄暮いわはちニ歸ルチ得、先ツ村長ニ依頼シテ案内者ヲ雇ヒ、
鳥川ノ激流ヲ徒渉シ、西ニ折レ草生ノ原野ヲ過ケ、此所ニ柴
ニ似タル草間ニ楛榎・百合等花ヲ開キ眼ヲ樂シマシム、夫レヨ
リ數哩ハ數個ノ山丘ヲ迂回シ、いわはちヨリ五時間ニシテ鳥
川ノ麓怪ナル巖多キ溪谷ニ至ル、此ヨリ五時間ハ非常ニ困
難ナル行路ナリ、遂ニ溪流ニ別レ、左ニ峭然タル山足、右ニ
深森アル狭谷ヲ登リ、松林中ニ宿ス、其風光極メテ壯麗、登
路ノ勞苦ヲ償フテ餘リアリ、當面ハ鎗嶽・種高山ノ間ナル總
テノ廣大ナル斷崖絶壁ヲ望ミ、山ハ皆雪ヲ以テ斑點セラル、
絶頂ニ達スレバ一大パノラマ開展シ、飛驒・信濃ノ群嶽甲斐
ノ連山・信州駒嶽・淺間山ヲ越エテ富士山ヲ石ル、歸路いわは

本州中部 飛驒高原

蝶嶽 信濃國南安曇郡ノ北西方ニアリ、登路
未詳、標高九千七百九十一尺、

〔信實〕 鳥川村を距る西の方大凡七里の處にあり、立夏の候
雪始て消し胡蝶の形を現す、故に此名あり、二條の溪流あり、
一ハ常念澤と云ひ、一ハ蝶ヶ澤と云ふ、注いで鳥川に合す、
ニシテ其山頂ニ達ス、

鍋冠山 信濃國南安曇郡ノ中央ニアリ、登路
未詳、標高八千五百二十尺、

〔別稱明神嶽〕信濃國南安曇郡飛驒
國吉城郡ニ跨ル、南安曇郡東穂高村ヨリ七里
八町、吉城郡上資村大字神坂ヨリ四里十八町
ニシテ其山頂ニ達ス、

〔名勝〕 蝶嶽雲を凌ぎて屹立すること白帯の如く、群山其麗
に絶頂す、山中に三小湖あり、上池・中池・下池と云ふ、奇岩

岸を繞りて自然の林泉を爲し、湖中多く鯉を養ふ、東北の高原を神河内と云ひ、柳樹林を爲し、翠色滴るが如し、湖畔に穂高神社の宮あり、又穂高字田代といふ處に三十塚なるものあり、穂高見命の後安曇連累世の墓地なりとぞ、(摘譯) 嶽下同シク徳合ノ小屋ヨリ登ルヲ可トス、長老ウをたラヌすと曰ク、此山ハ地方ニテ明神嶽ト呼ベリ、日本ノ顯著ナル山嶽ノ一ニシテ、其雪ヲ以テ斑點セラレタル花崗岩ノ嶽岩ハ、梓川ノ狭谷ヨリ直立シテ五千尺ノ高所ニアリ、元來登路ナシト雖下モ、先テ嶽ノ方向ナトリ正左ニ折レ、山足ノ深林ヲ衝キ熊笹茂リタル下草ノ間ヲ過ギ、困難ヲ極メ低キ瀧水ノ處々チ散ヒテ動搖スル岩石ヲ登リ、數個ノ銳峻ナル山嘴ヲ陟涉シ、或ハ瀧水ニ頼リ、或ハ葦草ニ纏リ、殆ンド垂直線狀ナル嶽岩ヲ踏ミ荒怪ナル狹路ニ入り、海拔八千五百尺ニシテ四十度ノ角ヲナセル所ニ至リ雪田ヲ見ル、夫レヨリ登路益々峻惡、滑ナル岩上チ俯仰シ、極メテ堅緻細粒ナル花崗岩ヨリ成レル最高點ニ達ス、眺望嶽下同シ、徳合ノ小屋ヨリ山頂ニ至ル六時間ヲ要シ、下路ハ休憩時ヲ除キテ五時間ヲ要ス、(譯名) 上池、中池俱に大さ凡徑百四五十間、横二百間ホド、魚多くあり、いわなといふ、常に筏を浮めて仙人等これを通る、大なるものは一尺四寸斗、下池は大さ上池の半といふ、石南花池の周に繁茂して、花の色殊に麗しといふ、

わたつみの神のみすゑのあと問は、河内直武穂高かたけにありとこたへん

高島章貞

文政丁丑之夏、詣於穂高嶽、尋穂高社之遺跡、夫穂高嶽者、我信中當正西而極深遠接境于飛、蓋上古神祇之子穂高見命雄據之地也、其神孫數世、至今存于此焉、嶽麓有稱三十塚者、誠田代穂高見命之後、阿曇連累世墳墓之地也、嶽之四北自嶽麓、嶽之正南至穂高嶽、其間六七十里、嶽之正東諸嶽之間夾梓川、而地方七八里、若十二三里許、平坦莫高低、惟昔生民居於此而爲稻積云、此嶽乎誠々然秀天外、雖盛夏積雪不消、白雲漠々、常不見巔、青天朗日、偶然峻峰現、極目望之、危削峙立似白幣、巖々神跡可仰哉、嶽之足有三靈湖、大小不等、上者湖面清冷、水底砂石可數、中者奇石怪岩、如鳥獸、如果卵、如塔壁、如屏嶺、石楠花遍其岸、下者湖邊樹木陰森、雖白日深々乎、乘桴遊觀湖中、噴山水之佳境、慨然發聲、賞揚不止、懷古之際、卒然轉觸雲起、湖面霧迷、微雨打面、昏黑不辨前後、惘然收聲息、踣匍于岸上、少時而雲散霞散雨亦晴、深山之跡相、從來雖若斯乎、更又如神靈、嗚呼、我穂高神嶽、乾坤之精氣、其鎮於此乎、不然嶽典湖、何若斯神靈邪、何若斯絕景邪、其神靈敬可遠、絕景清可近者、此神嶽也、吁靈景景哉、斯述所親、用以例記云、

燒嶽 飛騨國吉城郡信濃國南安曇郡ニ跨ル、吉城郡上寶村大字中尾ヨリ凡一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

《風景》 燒嶽、笠嶽、硫黃嶽。三嶽相連嶽して一大山塊をなすも、燒嶽を以て主幹とす、立山火山脈の南々走して信濃、飛騨の境界を限る所に嶽々聳立す、三嶽皆な安山岩より組成す共に圓錐體にして各々舊火山口を存す、燒嶽の山頂傍近に硫氣噴孔一あり、其形甚だ齊整す、熔岩は認めず、山頂より四望せば、北に立山の連山奔馬の如く來り、東に信濃の諸嶽を看、南に乘鞍嶽を仰ぎ、西に高原川の溪谷(飛騨東半)を下瞰す、《譯名》 常に所々に畑立て、寒天にも雲を不置、麓に温泉湧出す、熱湯にして或は征の業に米を包み暫く差置ば飯と成るなり、近來山開けてより、温泉屋、旅館屋など出來て、飛騨道の憩場となれり、

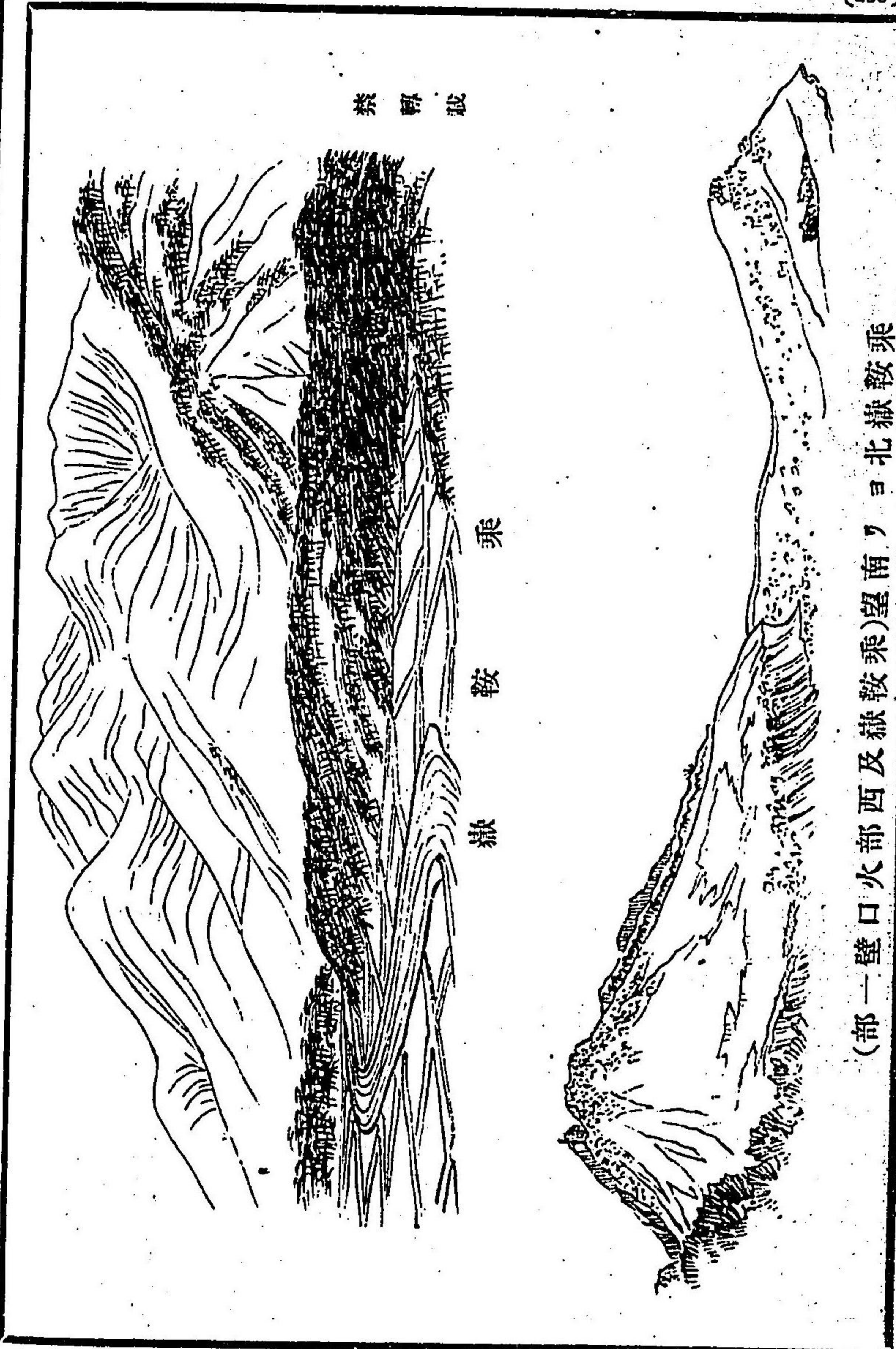
硫黃嶽 飛騨國吉城郡信濃國南安曇郡ニ跨ル、吉城郡上寶村大字中尾ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千七百七十五尺、

本州中部 飛騨高原

野ノ三郡信濃國南安曇郡ニ跨ル、益田郡高根村大字野麥ヨリ三里、朝日村大字青屋ヨリ九里餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高一萬四百四十八尺、

《風景》 信濃南安曇郡大野川村より登り得、一日間に上下せんとするは困難なるを以て、村より登ること一里半、廢坑せる銀山側の小屋に一宿し、翌日絶頂に登るを要す、小屋より以上道途なく、僅に一機路あるのみ、漸く登るや、隆更と雖も積雪を踏む、熔岩火山岩亦累々、行歩稍々難、絶頂に舊火山口あり、朝日権現あり、頂下に一湖あり、(摘譯) 此山ニ登ル三徑アリ、(一)大野川村ヨリ一日ニシテ上下スルハ疲勞スルヲ以テ、村ヨリ登ル一里半ナル小屋(海拔四八〇〇尺)カ、若シクハ頂上ニ近キ室堂ニ宿スルヲ可トス、大野川ヨリ登ルヤ、をび銀山舊時ノ廣大ナル鑛治場ノ遺跡ヲ見ル、宿用ノ小屋ハ好美ナル鱒魚ニ富ミタル小流ニ近キ處ニアリ、此小屋ヨリ以上ハ徑路ナシ、只人跡ナラント想像セラル、所チ辿リ、大樹長草竹ノ間ヲ過ギ小激流ニ出ヅ、硫黃温泉噴出セリ、夫レヨリ急峻ナル雪田熔岩石ヲ踏ミ、極北即チ最高點ニ達ス、朝日権現ヲ祭レル小祠アリ、此嶽ハ舊火山ニシテ、其頂上ハ絶テ廣大ナル熔岩流ヲ噴出セル火山口ノ側面ナリ、眺望ハ日本あるはず悉皆の故山頂ヲ望ミ得、然レドモ不幸ニシテ雨

乘鞍嶽 (別稱騎鞍嶽) 飛騨國益田・吉城・大



乘鞍鞍馬

乘鞍鞍馬

又ハ雲之ヲ覆フコト多シ、踏路大野川ニ下ラズシテ白骨温泉場ニ下ルチ可トス、徑路困難ナラズ、白骨ハ衣食稍可、温泉場ヨリ二里半ニシテ平湯ニ至ル、(一)平湯ヨリ登ルヤ、(俗稱夷道)高原川ノ水源ニ近キ處ニ、二百餘尺ノ壯麗ナル瀑布ヲ見ル、平湯ヨリ二時間程ハ數多ノ嶺山ヲ過ケ、此嶺山ハ海拔七千尺ニアリト雖ドモ、年々銅十五萬斤銀二千五百斤ヲ產出スト云フ、夫レヨリ路ハ絶壁數百仞ノ下急流ノ激奔スル處ニ出テ、更ニ深林ニ入り、登行困難ヲ極ム、深林ヲ出レバ岩石ノ間殘雪ヲ踏ミ、漸ク山頂ニ達ス、磊落タル巨岩ニ圍繞セラレ、且ツ雪色美ナル頂上及ビ洞窟ハ、行路中ノ好奇觀ナリ嶺山ヨリ室堂ニ至ル五時間ヲ要ス、故ニ室堂ニ宿スルチ欲セザレバ、早天ニ平湯ヲ出發セザル可カラズ、(二)旗鉢ヨリ頂上迄里人七里ト稱ス、登路ハ旗鉢ヨリ二十三町ナル池ノ俣ヲ經、又一里半ニシテ平ガ根銀山ヲ過ギ、夫レヨリ容易ニ山頂ニ達シ得、(小島氏増補)飛騨山嶽中絶大ノ山ニシテ、登路極メテ多シ、(一)信濃國南安曇郡、大野川村ヨリ(二)同國同郡、白骨温泉ヨリ(三)飛騨國益田郡、高根村野麥ヨリ、飛騨第二ノ大瀑布ナル、嶽谷瀧ヲ一見シ、山腹ノ火口湖、大池ニ沿ヒテ(四)同國同郡、朝日村青屋ヨリ(五)同國大野郡丹生川村旗鉢(ハタホコ)ト久手(クテ)ノ間ナル、岩井谷ヨリ、池ノ俣ニ至リ大丹生(チ、ニフ)池ニ沿ヒテ、不動岩ヨリ絶頂ニ上ル(六)同國吉城郡、上寶村平湯温泉ヨリ登ル等ニシテ、右ノ

内。白骨温泉ヨリ約二里ニシテ、大野川上ノ耕作場ニ若ス、(此間高サ殆ド六千六百尺ニ達スル峰アリ、上下共ニ峻嶮ナリ)耕作場ヨリ二十町許ニシテ、金山平(カナヤマダヒラ)ト稱スルトコロアリ、武田信玄時代ニハ、盛ニ銀銅ヲ採掘シタリトイフ、現今モ治鑛場アリ、是ヨリ高サ凡ソ八千五百尺ノ處ニ至レバ、一溪流アリ、硫化水素ノ氣臭ヲ撲ツ、土人之ヲ冷湯ト呼ブ、此溪流ノ上部ニハ、硫氣孔アリ、既ニシテ低松帶ニ入り、礫石楠花ノ綴咲スルトコロヲ過ギテ、一萬尺ノ高處ニ到レバ、淡紫色ノ熔岩塊、磊々路ニ横ハリ、種々色相ヲ呈セル岩澤、ソノ上ヲ被覆シ、行歩頗ル憚ム、頂上ニハ徑三百米突ノ舊噴火口アリ、東邊ニ最モ高ク(三角標及ビ朝日權現ヲ祀レル一小木祠アリ)四々北邊ニ、最モ低ク陥落ス、ソノ他、嶺四十七個ノ小池アリ、水ハ大抵潤ル、耕作場ヨリ頂上マテ、三里餘ナリ。平湯温泉ヨリ登ルニハ、八町許ニシテ治鑛場ニ至リ、乘鞍嶽ノ北麓浴場(アミヤ)山ヨリ發スル六十丈ノ大瀑(チ、タキ)ヲ斷崖奔勢噴立スルトコロニ仰ギ、屈折リト俗稱スル、風折多キ峻阪ヲ上リテ、錫杖ヶ嶽、笠ヶ嶽等ノ眼前ニ噴立スルチ望ミ、嶺山事務所ヲ經、翠林中ヲ滑リテ、石踏水ナキトコロヲ登ルコト一時間、登リ盡クシテ、假松帶ニ入ルヤ、常ニ大霧ヲ起シテ、風物豪壯恐壯、乘鞍ノ前山四ツク嶽ヲ越ユ、右ニ經子嶽盤ユ、假登レバ經子嶽ヲ脚下一踏マヘ、大丹生池ヲ瞰ル、楮壁三方ニ噴立シ、水黃濁シテ悽愴ノ

氣、四山ヲ單ム、假松ノ間、殆ド路ナキトコロヲ拔足躰歩シ、馬背ノ如キ尖削ノ隘路ヲ過ケレバ、假松帯モ稀疎トナリテ、高山植物亂咲シ、仙姫ノ舞フガ如シ、鳩ヶ池ヲ經、又鷺ヶ池ヲ望ム、コノ邊既ニ一萬尺以上ニシテ、實ニ燒石礮河凹凸スル難道トナリ、足指急ニ仰ギ、五ノ池ヲ左ニ視ル(或ハ五大龍トモ稱ス)石劍空ニ撥スル山ト山ノ間ノ窪地ナレバ、水加ハレバ五ノ池ハ、オソクテ合シテ、一大湖トナルベシ、燒石ツキテ、又大石塊累々タル大丘ヲ起ス、オモフニ噴孔ナル五ノ池ヨリ、吹颯セラレタルモノナラム、已ニシテ大丘ノ最高頂ニ達ス、即チ乘鞍嶽ノ最高點ニシテ、最近ノ測量ニヨレバ、三千二百二十米即チ一萬六百三十尺許ニ達セリ、蟬味権現ヶ池(山頂湖中ノ最大ナルモノニシテ直徑一千尺)ヲ夾ミテ、兩耳ノ如ク峭立シ、右ニ朝日社ヲ祀リ、左ニ御嶽神ヲ祀ル、最高點ハ、即チコ、ナリ、四周ノ山嶽ヲ縱觀スルニ、壯麗宏大、實ニ木曾御嶽ニ遜ラズ。(岐地) 其邊狀稍御嶽ニ似タリ、頂上ニ直徑一千尺ノ水池アリ、四圍數個ノ圓錐ノ高峰ヲ以テ圍ミ、其狀恰モ馬鞍ニ似タリ、コレ其名ヲ得タル所以ナリ、尙四十七個ノ池アリトイフ、蓋シ舊火口ニ屬ス、大池・大丹生池・小丹生池等ハ其重ナルモノナリ、

白雨やまた地道に歩行雲の脚

乘鞍嶽 小室 風山 不角
乘鞍嶽 秀高高原、馬首朝東勢欲奔、何術遊之時願阿、揚鞭



野麥村乘鞍嶽登山路合目ヨリ北望

一躍至天開、
乘鞍嶽 高橋 確壽
乘輿欲啟天帝門、登々觸石動靈根、何年噴出九千尺、絕頂猶存礮火痕、

鳥居嶺 (別稱鳥井嶺) 信濃國西筑摩郡ノ北方ニアリ、猶川村大字奈良井ヨリ二十町、木祖村大字藪原ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百五十四尺、

《名勝》 峻嶺なり、古へは岐嶽の御坂と稱し、後ち御嶽神社の華表を其頂きに建て、遙拜所とす、故に此名あり、山體には名物お六餅を擧げる商店多く、漸く坂路を登れば、右に經ヶ嶽左に八森山を望む、

雲雀より上にやすらふ峠哉
踏鳥井嶺 山田 翠雨
脚下生雲雨倒來、千辛杖杖上崔嵬、四月蘇山春始好、桃花未脫李花開、

鳥居嶽、天正中、武田勝頼遣兵伐木曾、源義政使逆戰于此、峽兵敗歿、先鋒某等戰死、邊 禮 伯 高
信中天嶽瀧山川、四斷孤高鳥道懸、梟將雖然勦邊略、虎賁臨此轉邊延、楓林葉碎朱輪沒、岩泉苔封碧血鮮、戰後星霜

三百歲、以降無復舉孤煙、
雷雨踏鳥居嶽 服部 南 郭
鳥居山畔漢雲前、怒馬酸毛行疎然、雷雨劈岩迷大麓、烈風飛木捲高嶺、好應驅鬼令開路、假是騎龍欲上天、爭飛因思聚鼓地、雄心撫劍願當年、

長峯嶺 (別稱永峰嶺) 信濃國西筑摩郡飛騨國益田郡ニ跨ル、登路西筑摩郡開田村大字西野、益田郡高根村大字小日和田ヨリス、里數未詳、

《信實》 高凡そ四百丈、周回凡そ二里、山勢高峻、登路一條あり、即ち飛騨往來なり、

繼子嶽 (別稱繼母嶽 御嶽ノ一峰) 信濃國西筑摩郡飛騨國益田郡ニ跨ル、登路未詳、

《信實》 御嶽山の北部にあり、高凡そ六百三十五丈、南は三嶽村に屬し、(三嶽村にては繼子ヶ嶽と云ふ)東は開田村に屬す、此より御嶽山への登路一條あり、甚だ峻なれども近しと云ふ、

御嶽 信濃國西筑摩郡飛騨國益田郡ニ跨ル、

西筑摩郡三嶽村字黒澤ヨリ六里八町、王瀧村ヨリ五里八町、益田郡高根村大字日和田ヨリ三里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高一萬五千一百一十尺、

〔風景〕 中仙道福島若くは上松ヨリ登るを最も利便トシ、福島ヨリ登れば一日間にして上下し得、上松ヨリ登れば一日間にては困難なるを以て、山中「タノ洞」の小屋に「宿し、翌旦絶頂に登るを可トす、頂邊に火口五個あり、火口は大概破壊鉄損ナシ、然れども其中「三ノ池」と稱するは、最も完全に鉢形をなし、周囲一里に及ぶ、飛驒に向へる一部は懸崖にして、其の半腹より蒸氣と硫氣とを噴出ス、頂には四時鐘あり、小祠を鎮し、御嶽神社奥院(大己貴命を祀る、里宮は御嶽字黒澤)あり、縣社ナリ、舊曆六月二十三日を大祭日トす)頂より四望せば、北西に加賀の白山(能登半島を認め、北に立山の連山、鐘ヶ嶽、乗鞍嶽を看る、皆な白雪皚々として山頂を被ふ、北東に淺間山の噴煙、上野の諸嶺を眺め、南東に八ヶ嶽、富士駒ヶ嶽(信濃)を觀る、(名勝)此地(福島驛)より御嶽山に登る岐路あり、左折して木曾川を涉り、九里十餘町にして山頂に達ス、(摘譯) 獨園ら「ん博士曰ク、御嶽ハ山勢南北ニ奔リ、山頂ニハ八個ノ大火孔ト數個ノ小火孔ヲ存ス、大火孔ノ六個ハ山勢ニ沿フテ十五乃至二十米突ノ高サヲ隔テ、併

列シ、二個ハ飛驒ニ向ヘル北西側ニ位ス、大底圓形ニシテ周圍三百乃至千米突アリ、其一個ヲ除キテハ甚ダ深カラズ、而シテ火孔壁ノ處々崩壞セルヲ以テ孔内ニ下ルニ困難ナラズ、火孔ノ年齡ハ熔岩及ビ孔内ニ生育セル植物ニヨリテ容易ニ知ルヲ得、即チ最北ノ火孔今水ヲ湛エテ池トナルモノ、是レ最古ノモノニシテ植物家ノ採取ス可キ奇品ニ富ム、夫レヨリ南向漸次ニ新期トナリ、第四火孔ニ至リ高峻ヲ極メ、其南側ヨリ眺望最モ佳ナリ、第六火孔ハ全ク第五火孔壁ニ圍繞セラレ峻峻ニシテ裂痕アル壁側ト植物ノ生育セザルヲ見レバ、最新期ノモノタルヲ疑ハズ、泉水ノ湧出セル所ヨリ下ル多時ニシテ溪流アリ、其傍ニ硫氣ノ噴出スルヲ見ル、然レドモ有史時代ニ於ケル此嶽ノ爆裂ヲ聞カズ、實ニ此嶽ハ高山植物ノ種類ニ富ミタル所ナリ、(小島氏増補) 御嶽ハ信濃ヨリ登ル主道ニアリ、(一)ヲ王瀧口トイヒ、福島驛ヨリ木曾街道ト分レ、木曾川溪流ニ沿ヒテ行クヤ、道二分ス、右折スレバ黒澤口ニ至ル(次ニ精シ)左ヲ取リテ川合峠ヲ越エ、常盤橋ヲ渡ル、福島ヨリコ、マデニ里、已ニシテ澤戸峠ニ至リ、御嶽麓天濱ニ入ルチ正面ニ仰視ス、壯嚴巖ヲ正サシム、崩越ヨリ路二分ス、左ハ本道右ハ支道ナレトモ、支道ニハ著名ナル鞍馬(アンバ)橋(世ニ誤リテ鞍馬ト書ス、非ナリ)奇峭ナル崖ニ跨リテ、奔水渡險藍色ヲ瀾ケルヲ見、木曾山中第一ノ奇橋ナルヲ以テ、支道ヲ取ルヲ可トス、王瀧村ニ至レバ、本支兩道ヲ



御嶽

本州中部 飛驒高原

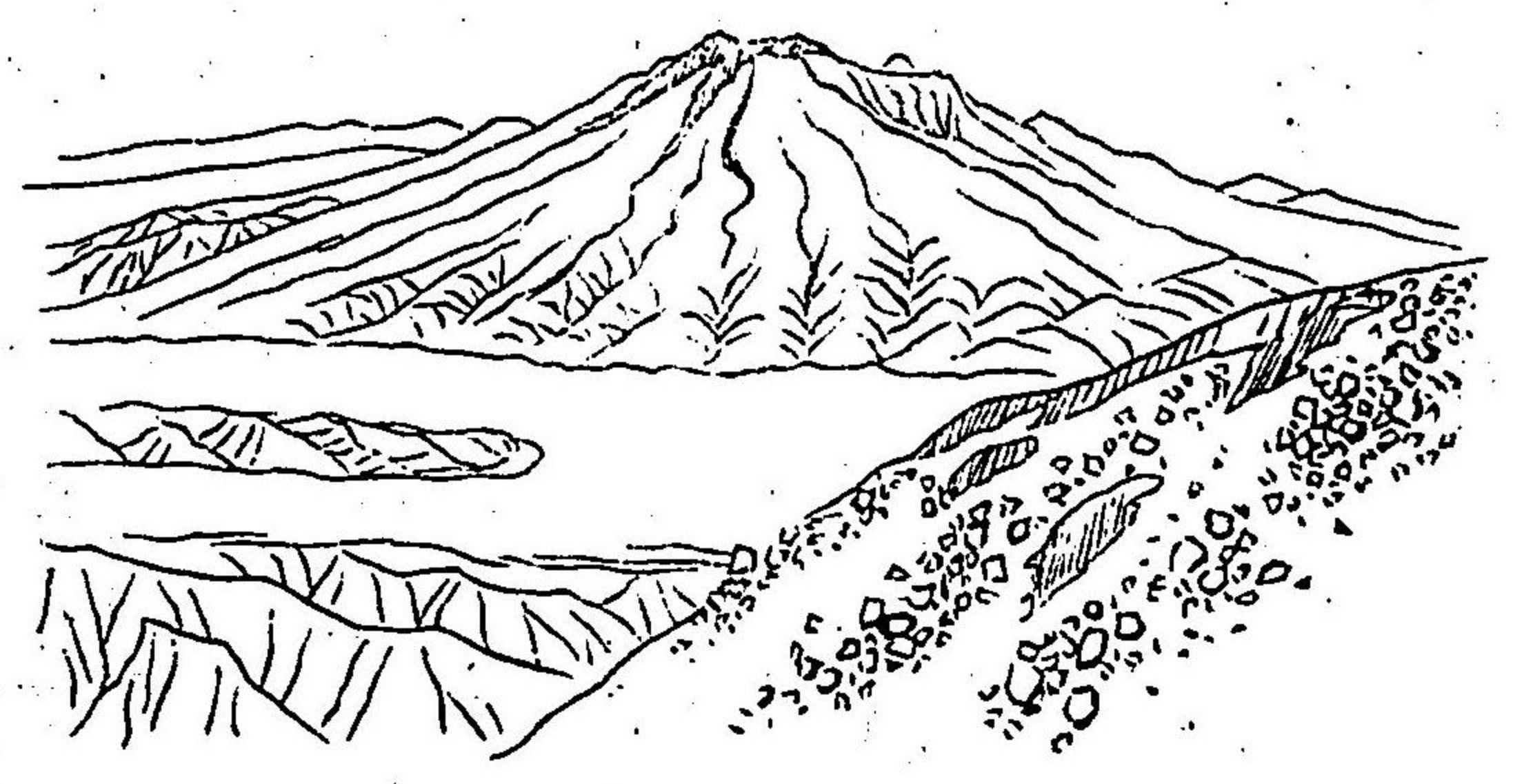
合一ス(福島ヨリ五里)王瀧ハ人口約三十、谷ニ時チテ軒ヲ列チ、登山者ノタメニ宿泊業ヲ營ム、普賢堂(コノ路ヲ拓ケル開祖ヲ祀ル)附近ヨリ、一合目トナリ、二合目ニシテ清瀧ヲ忽ミ、三合目ニシテ十二社権現トナル、途上醴酒、雜菜、或ハ山頂ノ靈草ヲ乾シ、百草煉藥ト稱シテ醫ク、番野ハ初メ雜木、次テ草原、勾配次第ニ急ニシテ、山ハ摺鉢ヲ伏セタル如ク、不二式ニ變ユ、四合目ニ近クシテ、八海山ノ小丘ヲ右ニス、草山ナリ、是ヨリ漸ク水ニ乏シ、次イテ五合目ヨリ笠笠山ヲ見ル、樅、梅等ノ針葉樹、鬱蒼瀟瀟トシ、熊笹狼藉ス、三笠山ノ海拔ハ七千三百尺ニ達ス、已ニシテ「田ノ原」ト稱スル窪地ニ降ル、王瀧村ヨリコ、マデ三里ナリ、「田ノ原」ハ濕地ニシテ短黒木ナク點綴シ、一望荒蕪、漸ク高山ニ入レル想ヒアリ「田ノ原」ヨリ山勢頓ニ急峻、樅、黒檜、白檜等勁風ニ卷曲ス、七八合ヲ經ルヤ、五葉松横倒ス、竟ニ九合目ニ達スルヤ、低松綠氈ヲ布キ、十合目ノ小屋ニテ、黒澤口ノ登山道ト合ス、頂上ハ少シク低ク下リ、頓ニ又峻拔シテ、最高點劍ヶ峰ニ上ル、所謂奥ノ院ニシテ、十合目ヨリ十八丁。〔遊ニ一萬尺ヲ越ユルヲ以テ、天風常ニ怒吼シ、空氣ノ氣壓低力、盛夏綿衣ヲ重テテ、猶覺慄ス、甲斐・駿河・美濃・飛驒・信濃ノ大嶽高嶽ヲ覽降ニ入ル、不二ハ南東、加賀白山ハ西、乘鞍嶽、槍ヶ嶽立山ハ北ニ、美濃惠那山ハ西南ニ、信ノ駒ヶ嶽ハ東ニ、淺間山ハ北東ニ、イツレモ長掛ス。〕朝々暮々、氣象萬千、我チシテ

飯殿一切人天ノ王ヲラシム、十合目ノ小屋ヨリ、左ニ月ノ門、日ノ門トイフ燧石ノ門登(アーム)アリ、ソノ前ノ深谷ヨリ硫烟ヲ感ケテ、四周ノ土ヲ結スルヲ、地獄谷ト稱ス。劍ヶ峯ヨリ下レバ、一ノ池ニノ池、三ノ池、四ノ池、五ノ池等ヲ見ル、皆富士山噴火口ニ、天水ヲ瀦蓄セルモノ、一ノ池最大、周圍三十町ナレトモ水ナシ、二ノ池ヤ、低クシテ、水充ツ、三ノ池ハ北ニ下リ、四ノ池ハ水洞レテ照百合以下ノ名草ヲ生ズ、五ノ池ハ絶小窪フニ足ラズ、コノ附近、高天原、賽ノ河原、摩利支天峰等、皆在リ。(一)ハ即チ照澤口ニシテ、福島ヨリ黒澤村本社マテ三里、ソノ間合戸峠ヲ越エテ、御嶽サ正面ニ仰ク、本社前ヨリ右折シテ、三合目ニ含滿瀧、四合目附近三日ノ出瀧、松尾瀧ヲ見ル(本社ヨリ一里半)更ニ二里ニシテ六合目ノ中小屋(ナカコヤ)ニ達ス、實ニ山ノ中腹ニ當ル、五合目ヨリコ、ニ至ルマデ、翁樹長幹、森々天ニ參スレトモ、八合目ニ至レバ、層岩磊々、楮兀シ、山勢幾直行歩最モ憚ム、九合目ニシテ登明社アリ、(コノ道ノ開拓行者、登明ヲ祀ル)二絶頂ニ達シ、王瀧口ト合ス、(絶頂ノ記事ハ王瀧口參照)中小屋ヨリ絶頂マテ三里。信州ヨリハ、此他四野、及ヒ瀧戸原ヨリスルニ道アレドモ、偏僻ニシテ不便ナレバ、記テ省ク。飛騨ヨリ登ル路ニ、岐阜街道ニ當レル飛騨益田郡、小阪村小阪ヨリ、同村落合ニ至リ、瀧河温泉(俗稱瀧ノ湯)ヲ經テ、上リ、他ハ飛騨高山ヲ距ル、南方五里ナル益田郡朝日村胡桃島

ノ栗村ヨリ上リテ、同シク瀧河温泉ニ出ツルモノ。(一)東南溪ニ沿ヒ、俗ニ暗八町ト稱スル巨樹榎木ノ間チ上リ、牛ヶ鼻洞ノ大洞窟ヲ見ル、深サ十五間、燭ヲ乘ラズンバ入ル可カラズ、已ニシテ又深淵ニ出テ、玄武岩ノ一大野開、層六方柱ノ層々果々相重リ、高サ七八丈、巾十丈ニ餘レルヲ見ル、溪ヲ涉リテ「原八町」ヲ越ユ、稍ヤ平坦ナルヲ以テ、名ケドモ、實ハ半里餘アリ、已ニシテ山路急峻、巨樹老杉鬱翠、ソレヨリ角助原兵衛谷ヲ跋渉シ、瀧河温泉ニ到ル、温泉ハ三ヶ所ヨリ湧出ス、(上流炭酸泉、中流鐵泉、下流硫黃泉)此地海拔六千尺以上、是ヨリ山路急峻、里許ニシテ奇木ヲ絶チ、低松帯ニ入ルコ、ヲ過レバ一木モナクシテ、只蘚苔地衣ノ岩石ニ被衣スルヲ見ル、嶮道數町ニシテ、削崖崖塊タル嶽上ノ背梁骨ニ立ツ、眼下ハ即チ地獄谷、是ヨリ荒涼ノ平原、賽ノ河原ニ下ル、對面ニ二個ノ岩壁アリ、東チ阿留摩耶山トシ、西チ摩利支天山トス、ソノ中央ニ屹立スルハ、巖子嶽ニシテ、背後ニ在ルチ巖母嶽トイフ、信・飛兩州ノ山境ナリ、瀧河温泉ヨリ頂上マテ三里。下敷スレバ、氷雪累々タル三ノ池アリ、以上絶頂ノ記事ハ、王瀧口ヲ參照スベシ)要スルニ信州道ニ比スレバ、急峻彼ニ倍シ、道程ハ彼ニ半ス、趣味多キハ彼ニ過レリ。(二)乘鞍嶽、野麥ヨリ高根嶽山ニ至リ、五十三峠(海拔五千尺)ヲ超ヘテ、胡桃島村ヲ經、(或ハ高山町ヨリ胡桃島ニ至リ)瀧河温泉場ニ達シテ、コ、ヨリ登ル。(以下前項參照(信奇))

信濃一州ノ大山ナリ、嶽ノ形大抵連間に類して、清高これに過ク、毎年六月、諸人潔齋して登る、福島より十里、全く富士山に登るが如し、黒澤より四里にして堂あり、夜中炬を照して峰に至る、洞あり金剛童子といふ、こゝに憩ひて明るを待、此邊五粒松多し、名づけて御松といふ、盛夏といへども山間に積雪有り、草木生せず、又三里登れば絶頂に至る、二洞あり、一を五の權現といひ、一を日の權現といふ、其西北峰に三洞あり、一を俱利伽羅といひ、一を八王子といひ、一を土祖權現といふ、其東の峰に三池あり、一つの池は水濁てなし一つの池は水少し、一つの池は水陥ちて四野に流る、其北を地獄谷といふ、山上に鳥あり、形鳥の如し、毛色雌雄のことし、人を見ても驚かず、又山上に一草を生ず、葉胡蘿蔔に似たり、小花咲て葉の如し、色紅紫なり、名づけて駒草といふ、又一草あり、莖に似て大なり、軟にして里人採て喰ふ、これを御鹽といふ。

科野にはむら山あれとかしこきは 矢島 嶽
 神のみたけの山にありけり
 信濃路やむかはぬ富士の面影も 時 般
 こゝに御嶽の雪の夕はへ
 御嶽 多田北 漢
 岩崎立登雲表、怪見夏時雪皎々、一舉登攀氣蕭然、知他千原高山小、



乘鞍嶽三角點ヨリ御嶽ヲ望ム

禁轉載

登御嶽記

甲戌歲、余從渡邊杉浦二氏巡視學校、入木曾溪、過黑澤大瀧諸村、欲登御嶽、而不果、其後友人遊者、盛稱嶽之奇峭、特絕不已、余竊憾焉、辛巳夏、內藤子公高田子政山下某亦將登嶽、促余遊、余適病不得從、益以爲憾、及晴子政配原之、景勝宛然、使人有登眺之思、今茲壬午、松澤子淳佐藤信剛又促登嶽、余即欣然結束而行、七月二十九日、早發、涉天龍河、溯溪攀嶽、嶺頂爲伊奈筑摩郡界、下嶺里許、有荳平關趾、過十町餘、始望嶽於西天、沿木曾川西岸、晚投宮越驛、三十日、晨起、過福島驛、右折岐爲二路、北爲黑澤、南爲大瀧、取路黑澤而進、草樹茂密、彌道邇邇、溪流曲々、隨山勢而轉、抵白川瀑布、峻坂如削、坂頭觀嶽、相距咫尺、一眺可至、坂底即黑澤村、惣田中某家、主人進齋、風味殊絕、午膳遂嶽、行程凡二十里、有嶽神社、小瀧清淺、游魚成隊、登山者至松尾瀑布浴身、自瀑布以上、石碑銅像列路兩側、蓋祭先達也、先達曰、開山路者其數甚多、初能記之、愈上愈多、竟不可記、上八九町、喬松拱立、名曰千木松、路愈峻不得進、人皆援援而上、前者後者頂踵相接、樹皆蜿蜒伏地、漸矮漸稀、嗚呼投八合室、擁爐而眠、三十一日、味爽、出室、東太陽赤、日將出海、層雲覆嶽之中、光輝倒射、噴車如飛、雲霧觀也、池凡五、三之池最大、二之池西南、水聲成堆、流漸盈注、樹之湧甚、迂回出一之

高橋白山

池東北、池中無水、或傳怪古噴火處、池西奇石人立、稱三十六童子、嶽頂建禰宗國常立尊少彥名尊大己貴尊三神、正四五町、有地獄谷、俯視不見其底、硫氣噴騰、使人噴嚏、東北一町、有白河磨房、磨始登嶽者也、五町有覺明行者祠、覺明繼磨開黑澤山路、其後有覺寬道士者、開大瀧山路云、東北二峰、曰母嶽子嶽、正四一峰稱奧院、雲態變幻、如鏡、巖呈勝者、乾坤一色、如雲如烟、其間白光閃々、眼爲之眩、蓋海水與硫氣相映也、架橋遠觀諸州名嶽、認爲金峰爲妙、義爲大日白山立山妙光、縹緲之間、淡碧點綴、如有如無、忽隱忽見、不可得而詳、獨宿嶽三峰峻嶺、常在吾目睫、午牌將下山、驟取路大瀧、下數百步、有室就慰、自室以下嶽甚、下如轉沙石皆走、過大江社至田原、地稍平衍、南十町有丘、曰三笠山、祀豐稔尊、右折三町、飛流懸石巖、名清瀧、南路浴身處、又下五六町、有白河祠、擣造美醜、稱御里宮、列二十二社、銅像金燈以百數、俗呼曰一目千兩、余不甚貧、以其觀雖偉非天工也、經大瀧村、航御嶽川、薄暮投福島驛、八月一日、驟食而發、此遊欲往途途遠焚蕪泉子津足痛行步頗艱、即就前路、余始讀子政記、竊以爲子政常思才多、不能無誇耀過實之病、乃親經其地、乃知於實景者意境懸絕也、因寫子政記、併錄余所作、以示渡邊杉浦二氏云、

三笠山 信濃國西筑摩郡ノ西方ニアリ、登路

未詳、標高七千五百八十尺、

〔信實〕 高凡四百六十丈、周圍凡五里餘、王瀧村の北に孤立して樹木疎なり、登路一條あり、御嶽山に至るの捷路なり、嶽とも其だ嶽なりと云ふ、

八海山

信濃國西筑摩郡ノ西方ニアリ、登路未詳、〔式按スルニ〕王瀧村ヨリ此山ヲ經テ三笠山ニ至ルヲ得可キカ、標高五千四百六十二尺、

繼母嶽

飛驒國益田郡信濃國西筑摩郡ニ跨ル、登路益田郡小坂村大字落合ヨリス、里數未詳、

榎谷山

飛驒國益田郡ノ東方ニアリ、登路小坂村大字落合ヨリス、里數未詳、

若橋山

飛驒國益田郡ノ東方ニアリ、小坂村大字大洞ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

井手小路山

美濃國惠那郡信濃國西筑摩郡ニ跨ル、惠那郡加子母村ヨリ三里十八町ニシ

本州中部 飛驒高原

テ其山頂ニ達ス、

高峰山

美濃國惠那郡ノ東方ニアリ、苗木町大字苗木ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

二森山

美濃國惠那郡加茂ノ二郡ニ跨ル、惠那郡福岡村大字高山ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、

笠置山

〔別稱笠木山〕美濃國惠那郡加茂ノ二郡ニ跨ル、惠那郡中野方村ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千八百十五尺、

〔收案〕

笠置神社。笠置山の頂上に在り、傳へいふ 花山院佛道に歸依し給ひ、晴國御巡遊の折、此に玉杖を休め給ふに、其南方に方り高嶽の巖然として雲表に架ゆるもの、宛然都の笠置山に髣髴たりとて、山の名を笠置と賜ひ、其頂に一社を設け給ふ、是今の細社笠置神社是なりと、御詠に、眺めつゝ笠置の山と名づけしは、これも笠置くしるしなりけり

鉢臥山

越中國東礪波郡ノ北東方ニアリ、榎

祭神は惠那神社と同じく、伊邪那岐、伊邪那美の兩柱なり、

檀山村大字五谷ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、

牛嶽 越中國婦負・東礪波ノ二郡ニ跨ル、婦負郡山田村大字鍋谷ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千三百九十六尺、

金剛堂山 越中國婦負・東礪波ノ二郡飛驒國吉城郡ニ跨ル、婦負郡大長谷村大字庵谷ヨリ凡三里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

祖父山 越中國婦負郡ノ南方ニアリ、野積村大字赤石ヨリ凡二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

婦夫山 越中國婦負郡ノ南方ニアリ、卯花村大字小井波ヨリ凡五里(或云十町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三十九尺、

人形山 (別稱土偶山)越中國東礪波郡飛驒國大野郡ニ跨ル、東礪波郡平村大字田向ヨリ凡一里(或云二里十九町)ニシテ其山頂ニ達ス、

川上嶽 (別稱鬼馬場)飛驒國益田・大野ノ二郡ニ跨ル、益田郡馬瀬村字川上ヨリ四里餘ニシテ其山頂ニ達ス、

位山 (別稱舊名愛寶山)飛驒國大野郡ノ中央ニアリ、宮村ヨリ二里餘、山之口村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、

〔破案〕山嶺高峻ならずと雖ども、古來其材を産するを以て其名風に著し、而して其山緒たる未だ確たる詳説を認めずと雖ども、舊記に傳ふる所に依れば、人皇三十八代 天智天皇の御宇に、近江の國大津の宮を遷て給ふとき、宮木を此山より出し、宮木の名所なればとて、官位を下し給ひ位山と號すとあり、又此山より生ずる一位の木の來由として、住吉ノ傳へいふ所に依れば、仁徳天皇の御世に、此樹の枝を折て笏に作り給ひ、爾來此の木を笏の料に定められ、此木に正一位を授けられたるに依りて、一位木と云ふと云へり、此の

船伏山 美濃國稻葉郡ノ北東方ニアリ、日野村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、

權現山 美濃國稻葉郡ノ東方ニアリ、那加村大字西市坊ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス、

稻葉山 (別稱因幡山)金華山、破鏡山、岐阜山、一石山)美濃國稻葉郡ノ中央ニアリ、岐阜市大字富茂登ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千百十六尺、

〔新美〕山の峰別なる故、南の方權現のましますいなば山といひ、北の方古城跡なるを金華山と喚べるはわるし、幾峰ありてもみないなば山、一名金花山也、北の方の丸山にもといなば山の木所なるよしを知るべし、〔破案〕市の東北に方り巖然として高く雲表に盤ゆるものは金華山なり、山縁樹叢豊として翠色滴らんとし、山骨は青苔蒼苔に包まる、其山頂は即ち城跡の存する所にして、古皇殘礎今尙在り、城は岐阜城と稱し、一に稻葉城、又井ノ口城と稱す、建仁中、二階堂行政之を築き、後ち應永の頃、齋藤利永修築して之に居る、

舟山 飛驒國大野郡ノ南方ニアリ、久々野村大字無數河ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

七宗山 美濃國武儀郡ノ東方ニアリ、神淵村ヨリ二里八町ニシテ其山頂ニ達ス、

〔小島氏増補〕石英巖岩ノ地盤ヲ作り、罔線岩ノノ山骨ヲ作ル、長幹松木翠綠蒼翠最モ良材ニ富ミテ其名武儀郡ニ冠タリ、

既の信處は今詳かならずと雖も、位山の木を以て笏の料に用ひられたる事は、舊記に存して疑を容れず、

行きの道もおほえぬ五月間 信 實

位山の山に身はまじひつゝ 識人 不知

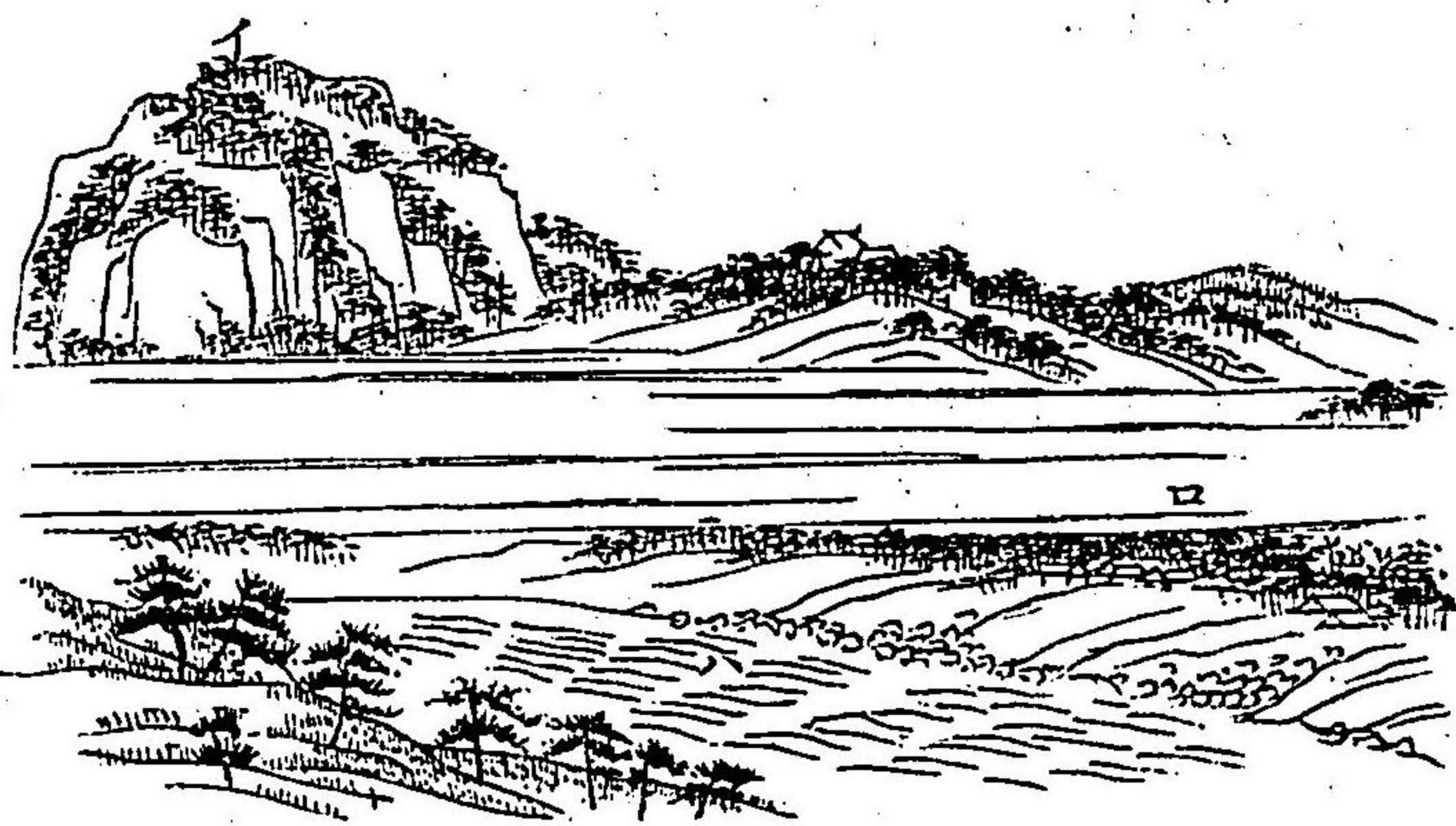
いま一坂のいかで登らん 立 圓

遠目には水高し雪の位山 昌 程

夕風や雪をのぞみし位山 道 充

位山暮雪 依 菴

位山自古多題詠、何況漫天暮雪奇、遺愛千年人不見、屢願依菴北風吹、



稲葉山 齋藤城 岐阜 長良川

弘治七年八月十五日、齋藤龍興・織田信長の爲めに滅され、同九年、信長清洲より茲に移り、井ノ口城を改めて岐阜城と稱す、慶長五年、關ヶ原の役、織田秀信西軍に與みし、同八月二十三日、關東の軍兵に攻め落され、同七年七月、當城を壞ちて加納に移さる、山へ登るの道に二途あり、一は加納屋町通よりするものにして、之を木道とし七曲口と稱す、一は益屋町通よりするものにして、之を間道とし百曲口と稱す、又た別に丸山より登るものあり、最も捷徑とす、山頂道は木道よりして里程十六町といへり、其山頂に登りて眼を放たんか、尾三・勢の平野は脚下に拜し、伊吹・養老・池田の諸山は逶迤として西に望へ、遠く白山・御嶽(信州駒ヶ原モ望み得)の峻嶽を北に望み、惠那山を東に見る、大山の城・名古屋の金城近く日隄の間に在りて、木曾川は一帯の布帛を晒したるが如し、加ふるに長良川の清流、洋々其腰を繞り、岐阜の市街は懸々として數ふことを得べし、其風光の絶佳なる、眞に名狀すべからざるものあり、

龍よりつゞく田づらの稲葉山 尊 任
 みどり涼しき峰の松風 衆 長
 嶺に生る松とほしるや稲葉山 不 角
 黄金はなまなく御世のさかえな
 松風かあくひの末や杜宇
 金華山歌(山在岐阜一名一石、石或作夕、相傳昔有異人、

取奥之金華山上二石置此地、一夕而山成、故有此名

東奥靈山帝所竊、不知何代名金華、浮氣瀟瀟背空際、經頂天風捲石雲縹緲、一竿拾得僧人袖、蒼質玲瓏衣裡透、此州風土美而濃、試掃靈根一夕秀、秀靈之氣露然鍾、非積匪々一誓功、翠巖天風生絕頂、形模類類與之東、呼傲金華亦宜也、瑞龍祥鳳繞其下、當時僧人知爲誰、定是夜半有力者、聚巖舟政負山、太行王屋宛在眉睫間、織公英略木無比、坐瞻中原歸虎視、風雲忽變風塵荒、一代霸圖今已矣、中原略地當遙緒地費長房、縮地更遙牧羊仙子其姓黃、嗚乎飄起白自我無術、焉得遊帝之龍叱作千頭羊、

石動山 (別稱二宮山)能登國鹿島郡越中國

氷見郡ニ跨ル、鹿島郡越路村大字二宮ヨリ一里二十七町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千五百五十八尺、

〔名勝〕 弘元中、中院定清と尊門利清と千戈を交へたる古戰場とす、其西に縣道あり、七尾より越中氷見への通路にして、嶺を荒山越と云ふ、〔加能〕 是山は巨利天平寺の在しを以て、古より著名なり、〔天正十年、前田利家佐久間盛政ノ爵徒殿若院快存等ヲ破リタル所ナリ〕

石動山に參詣して法樂し奉る 准后道興

動なき世には變りて石動の

山とは神や名づけそめけん

登山動山

合 離

高林曳筥進、吊古切登攀、海表天平寺、雲根石動山、百年兵燹後、十里戰墟間、欲就僧房語、安居白日閑、

寶達山 能登國羽咋郡ノ南方ニアリ、北莊村

大字寶達ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百六十四尺、

〔加能〕 此山は金・銀・藥草の産に富めるを以て、寶達の名ありと、天正年間、始めて大列四千枚程の金銀を採掘したるが、寛永五年、鑛穴崩れて工夫の是に曉れしもの多し、後回復を計りしかども其功を見ず、今は石炭石・螢石・磁石及び黃蓮車前草若葉・萎活等の藥草を産す、又山の東方に當り樽見瀧と稱する瀑布あり、二條に流下し、一を雄瀧と稱へ、月の上半は必ず銚子口より落ち、越中久米川の水源となり、一を雌瀧と稱し、月の下半必ず洞口より落ち、子浦川の源となる、奇絶妙絶、又一壯觀と云ふべし、

二上山 (別稱蓋上山)越中國射水郡ノ北西方ニアリ、登路(式按スルニ、二上村大字二上

カ)凡十六町、標高八百六十八尺、

〔加能〕古の守山是なり、此山は本郡の中央に發峙し、東の... 尾邊として海に入る、此山峻秀ならず、高峻かに三十六丈に過ぎずと雖も、渾然一體として景趣甚だ佳、古來有名の勝地にして、山頂に登れば眼界寥廓、遠くは佐波を雲霧縹緲の間に望み、近くは伏木、新湊等の人家を長行曲曲の邊に瞻て、眺臨飽くこと知らず、殊に輪城を觀杜鵑を聽くには最も妙なり、〔昔〕山上三國齋寺アリ、今猶亦開山清泉ノ遺蹟アリ、君が代は二上山の峰に生ふる 讀人不知

緑の松のむかへるまで

玉匣二上山に鳴く鳥の

聲のこひしき時は來にけり

妹が手にならす匣の二上に

月かくろひてよはふけぬらし

三國嶺 能登國羽咋郡越中國西瀨波郡加賀國

河北郡ニ跨ル、羽咋郡河合谷村大字下河合ヨ

リ二里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

遊三國嶺記

表河北而號形勝者二矣、疏黃山秀於東隈、三國嶺峙於北隅、

津田 風 柳

家 持 宜 長

湖海相映咫尺百里者、無若三國嶺、青春之朝、千巖分星、作一郡之勝區、玄冬之夕、削玉磨瑣、標三國之分界、然而其名不甚顯矣、騷客亦罕到也、以其倚寶遼而不獨立也、風潮風志切探奇、素願銳撰記、故手不捨輿圖、足不厭重繭、跋涉山河、宵言煙霞、每游河北、賦吟此山煙沈、越以季秋之吉、乙夜辭家、出大樋郊口在古郡家、歷柳橋藤下坊、比及今町、北斗閣干、天將黎明、至津幡驛、有岐路、右轉爲俱利伽羅路、左折取能登官道、歷庄村、問父老以古賦、便云、此左右多古蹟、命舉其名、則皆余曾遊之地、又曰、去此半里、有小落僅二三戶、曰平谷、有懸首松、是壽永之後、平知敬墳、可疑、恐被前程、不敢過、歷舟橋能勢、右山左湖、翠巒白沙相照映、風光大殊前路、歷觀道右諸巒、高不過數十仞、察其形勢、可以爲保障、渡水龍領家茶店、足利氏中葉、富樫泰高爲領家地頭職居此、店左田畔補藏間有松樹、曰龍燈松、其前五步外有白田、細之多樓古物、蓋中古邸居柳比之地、東北山際一落、爲御門村、寶永地誌、相傳村中有鳥居址、不言何帝行宮、三州奇蹟云、順德帝播遷佐波、歲餘還幸於此、領家村爲應從公廟采邑、故名、又云、帝建賀茂神祠于橫山古驛側、以舒基京之容思、皆附會妄說也、風潮按、承久以後至元弘十一朝、陪臣北條氏擅執國命、王畿舉措、不能下手、何況北陸乎、寶永乙酉、去今僅百有餘年、而無及、順德帝事、御門村廣勝寺貞享二年

部、亦不暇、順德天皇降臨、然寶曆以後、夢水附會、建曆帝事、富田景周三州志、亦疑其謬、皆不知時勢云爾、加賀郡賀茂神社、載在延喜記典、按舊蹟、金津庄自古爲山城賀茂神主田、至寬正二年尙然、西照寺古記云、加賀郡賀茂祠、大同二年新建、以是推之、建祠先、順德帝播遷、蓋四百十五年、順德帝以承久三年七月、播遷于佐波、蒙塵海島、凡二十二年、至仁治三年、崩于佐波、無還幸事、御集日禁腋集、無一首和歌及加賀地者、但詠小獵山、此山城地、與漢擅草所載藤原光隆詠賀小獵而不同也、西北行數百步、過指江、其左小湖則大野湖、方言謂湖邊水草漚漚曰不湖、漢擅草所詠狩地池、豈謂此歟、過狩鹿野村、八雲御抄狩路小野爲加賀名勝、是蓋國郡狩獵之地、總字野氣村、沿能勢川一帶地、合二十町、天曆以還至今爲英太郡、和名類聚抄謂阿加太、國語謂縣曰阿加太、上古謂郡爲縣、賀茂縣對馬上縣下縣類是、以是推之、弘仁建國以前、加賀縣治所在、後世因稱縣、河內國河內郡英多郡、伊勢國鈴鹿郡英多郡、飯高郡英太郡、和名抄並謂阿加太、遠江國濱名郡英多郡、皆古郡治所在也、又應永七年、細川滿元文書、稱英田保內氣屋村、問農夫以前路、照之郡國以質質境、指點多時、走從土履標道、至乃負裝徑鉢鉢伏鉢鉢、蓋香亭、遠勢森然、故名、辨上置里社、寶永地誌云、村上右衛門居鉢鉢、頂圓齋頭、如安盛胃、皆田中嶺山也、土人云、亦古壘、時檢旭

高昇、標消山址、氣期奇香、珠露未散、山川草木、如經新沐、四野青黃、綺彩萬狀、千峰之風翠、來撲人眉睫、河北諸山脈、岡分尾岐、斗入稻田中、如松根露立砂堆、如九河滯流、纏道十步九顧、指點旁村、津々不已、以無怪奇、不敢抽筆、里餘陟大坂、眺望漸遠、小島無數、緩々近人、稍非近山趣、細徑山東、如經洞門、又涉谷間重阻、似步牛背、徑旁險巖、徑丈餘長數十步、深可五倍其徑、纏道云、土性脆硬不粘、每秋潦凍雨、水走徑中、土流砂走、日以陵夷、無幾成險、坂勢峻急、亦可想也、就似末盛城北門徑行數百武、有巨石立左谷口、余排履直下、荆叢新經樞斬、磨牙刺足、疑步而後可進、從臣皆越產、性強健步、嚮導擔夫皆土人、詣運手攀足排、不須土受趾而滾、宛似飲潤之彌、至巨石下、高可二丈三尺、張手圍之、凡十三、上可坐十餘人、山側多石、數百步至大家、氣清景明、夥可遠矚、四面而眺、風帆如響、煙樹如黛、近之煙波流艇、蕪村鱗戶、逐一可指、徑右菩提寺廢址、曰堂屋敷、其旁曰佛坂、石塔三基古墳三塚尙存、其北爲堂山、下曰古堂、又其下曰宮谷、其四日地藏堂、其東曰宮山、蓋菩提寺界內也、予則不遠巡過、龍宮廡塔、鞠爲茂草、荒煙滿目、愴惋久之、抑在鎌倉氏之世、爲布金之地、及足利之時已廢、編覽高僧傳伽藍記諸書、本州名號無菩提寺、右行得村、寺廢已久、村冒其名、飯齋更家焉、抽腰問扇湖景、已八寸餘、又下坂半里餘、至與津

村、召父老前、曰此去十四五町、可至三國嶺、三里至寶達、乃晉轡道、升千百餘武、徑稍坦、曰城戶峰、是爲河北羽咋分界、蓋足利氏世、設割標兩國分界、當今三州全入藩圖、無俟寸表、何況關限乎、又行數百步、左顧有小峯、障寶達之南、曰瓜生山、其秀、皆短削無林、河口大田諸落見其下、又上千餘步、至三國嶺頂、有一松可三四拱、高二丈許、其下誅草入席、可踞而眺、坐定排諸勝、恐欲山靈忽、北面而立、寶達之山、巖然表能登之海、少低透迤、南上東嶺、皆彌波之山、宮島盤谷連嶺、如塔南走、其東映爲曠野、親部川流焉、在天曆中、既稱川上鄉、其旁山田太美井口山與庄下若林諸庄、葦布風散、其可指點、城端井波其丘虎踞、重門粉壁、隱映蒼翠之間、庄河出峽、蛻臥於井波之北、如白虹、如組練、東繞北蟠、與雄神合流、至射水互理湊入海、其間沃野十里、里落千點、稱彌波二十四萬石、射水十六萬石之沃壤、其東刀利五個諸山、包絡其外、不能臨新川嶺頂二郡、又東北望連山頂外、雄峯削壁、鐵色萬仞、圍出天半、忽乎沒紫翠之中、是爲立山、營然一瞬、未究大觀、斯游第一遺憾也、願身右旋、平臨西南、遠之吉崎以北、白山以西、江淨能美、綠海山市、如隔琉璃鏡、翠巖疊々、五彩未明、其西南輝煌如黛、斗入海中、爲敦賀之山、石川稍近、郡邑星布、屏麻龍走、山城粉黛、隱映紫翠、加山越嶺、龍蟠虎踞、周衛雄都、宛如紫微垣帝坐、百二形勢、

不啻秦關、吳起所謂名山大寨是歟、河北全郡、悉在目下、谷壁川分、險易兼顧、三里湖而、匯如池沼、浴日迎風、如浴銀、如漾壁、流村向背、綠陰釣艇、浮沈碧波、掩映如畫、一帶砂洲、梁倒湖西、如雲漢成章、自天野而透高松、大海縱其外、幅六郡西北、輕巖徐至、煙濤疊浪、浩々無垠、遼海北顧、凝背凝黛、眇如卷石、安似伏盤、隱然淡煙之外、曰宮木大福寺山、其尾蜿々乎細而長、不沈煙浪者、是爲走珠洲之道、珠洲昔人充之蓬萊十洲之一、唯覺天風萬里、冷々入袖、引羽切角、餘響四應、胸襟浩然、涼乎難留、乃振回策於雲阿、食頃至與津、左轉泓流、取路種村、亂石穰々似戶室、南湖北行可過矢田村有溫泉在水田中、冷而不溫、里人煎之治疥癬有效、今秋有年、十郡皆穰、獨笠野英太二鄉、粟稻獲色黑、比之湖上沃田、一目之間、遙隔天壤、又聞能登往々損礙、天花尙不均、况人事乎、四踰氣屋嶺、歷鉢伏、至內日角村、乃買舟泛湖、右則背崎室尾、沙明海碧、潑聲洗耳、左則井家五個、晚山紫翠、冷々滴響、遙顧秋濱白生、日在陸離、夕陽輪菌、彩翠五色、少選十里暖色、四野沒煙、蘆花之外、希聞棹聲、杖鞋之地、已爲夢境、舟過宮坂、有玄雲橫亘海上、知將大雨、令舟人泅泅行舟、舟子不可、執掛絕湖心、予枕舟舷、冥想鏡境、恍如隔一世、諒永勝敗之地、應安勤王之舉、承久板蕩之故、天正紛爭之衝、昔讀青史、今觀其地、一悲一慨、如對歷其事、英雄心事、

俱利伽羅嶺 (別稱栗柯嶺 栗殼嶽 彌波山)

古嶽今也、意者山不甚高、水不甚峻、使余神間氣舒、有山塵想、氣清景明、是獲天時也、望遠觀瀾、是獲地利也、僕從買勇、得人和也、若失三者、則假有小天下之思、不能極八郡之勝也、文衡山有詩云、清時自得閑官味、晴日難能樂事伴、余今日備伴之、可謂天授矣、舟人呼曰、洲崎將近、客將眠乎、何言之希、有低思狀、余笑乃命從士解行裝以俟、少選入入口、舍舟而陸、吟行二里、入金澤云、

頂ニ達ス、標高八百七十八尺、
 (名勝) 昔し越の大徳泰澄禪師此山に止まりて俱利伽羅明王を念せしより今の名に改む、(壽永二年、木曾源仲平維盛此山ニ對陣ス、夜添仲平五百頭ノ角ニ各々松明ヲ結ヒ念ニ平軍ヲ襲フ、平軍狼狽爲ス所ヲ知ラス、深谷ニ陥リ死スルモノ其數ヲ知ラス)

彌波山飛び、えてなく時鳥
 都にたれかき、なやむらむ
 明にけりほのめく天の彌波山
 わかる、雲や秋のはつかぜ

過俱利伽羅嶺

下輿徐步陟峻嶺、顧望幾回留少間、從此耶原平似掌、更無高處見家山、 林 孫 坡

醫王山 加賀國河北郡越中國西彌波郡ニ跨ル、河北郡醫王山村大字ニ俣ヨリ二里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四十六尺、

袴腰山 越中國東彌波・西彌波ノ二郡ニ跨ル、東彌波郡上平村大字小瀬ヨリ凡二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百三十七尺、

八乙女山 越中國東彌波郡ノ中央ニアリ、南山見村大字清玄寺ヨリ二十二町ニシテ其山頂ニ達ス、

三方嶽 (別稱池三峰) 加賀國石川郡ノ南方ニアリ、河内村大字板尾ヨリ二里、大字奥池ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千五百九十九尺、

(208)

笈嶽

(別稱笈摺嶽)加賀國石川郡越中國東
礪波郡飛騨國大野郡ニ跨ル、登路未詳、標高
四千三百七十六尺、

(提要) 山路峻峻、攀躋ニ難ク、里程未詳、

妙法山

加賀國石川郡飛騨國大野郡ニ跨ル、
加賀國能美郡尾口村大字尾添ヨリ十里ニシテ
其山頂ニ達ス、標高六千五百一尺、

三方崩嶽

飛騨國大野郡ノ西方ニアリ、登路
未詳、(式按スルニ、白川村大字平瀬ヨリカ)
標高五千五百十四尺、

白山

(別稱越白嶺、芙蓉峰、天山、長白
山)加賀國能美・石川ノ二郡越前國大野郡飛
騨國大野郡ニ跨ル、能美郡尾口村大字尾添ヨ
リ九里、白峰村字市瀬ヨリ四里十八町(金澤
市ヨリ二十里三十三町、越前國大野郡勝山町



白山

ヨリ十五里八町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高八
千八百六十七尺、

別山

(別稱四海波嶽、白山ノ一峯)加賀國
能美郡飛騨國大野郡ニ跨ル、登路能美郡白峰
村字市瀬、大野郡莊川村大字尾上郷ヨリス、
里數未詳、標高七千八百四十一尺、

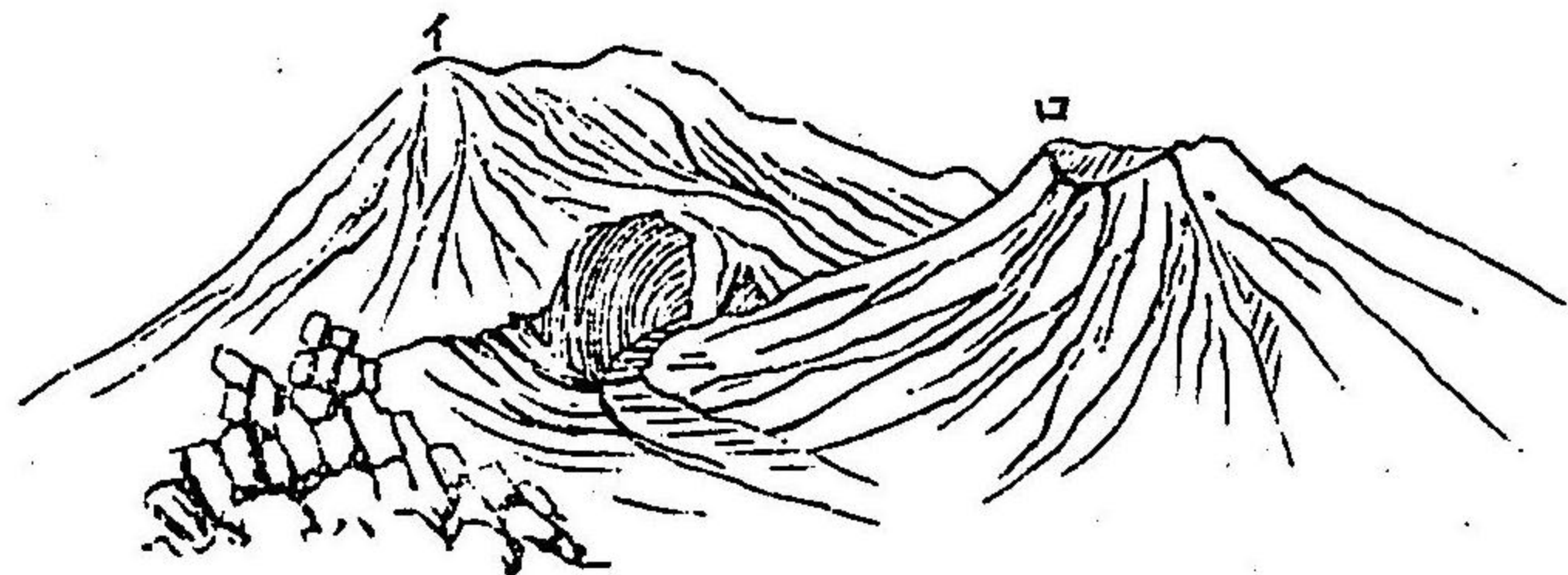
(提要) 北陸第一ノ高山ニシテ、皇國三山ノ一ト云、越前美
濃・飛騨ニ跨カル、三峰アリ、南チ別山、北チ大汝、中央チ御
前ト稱ス、御前最峻ク、絶頂ヨリ六州ヲ瞰臨スベシ、直立凡
八千四百尺、御前峰後又劍峰アリ、其狀五劍ヲ植ルカ如ク、
積雪四時盡キス、故ニ總テ白山ト稱ス、(風登) 八合目以上
(即チ彌陀ヶ原以上)ハ火山岩ニ係ルモ以下ハ中世紀層ナリ、
齊整ナル圓錐峰ヲなます、白山ニ登ルニ二途あり、(一)ハ越
前福井市ヨリ勝山町を經、谷峠を超えて達スルもの、(行程十
七里二十町)(二)ハ加賀金澤市ヨリ到ルもの、金澤市ヨリ到
ルの途最も利便ナルを以テ、之れを取ル可也、即チ金澤ヨ
リ四里鶴來に到るまで人力車を購リ、鶴來ヨリ女原を經十里
牛首(今白峰トイフ、此地四百九十三米突)に到ル、深山間の
峡谷に在りテ、日本國中有數ナル深雪の地トす、牛首ヨリ登
る四里市ノ湖村に至ル、村ヨリ八町にして白山温泉(海抜凡

八百十四米突、湯元と稱す、炭酸泉ナリ)に達す、風物愈々
佳絶、徑の斜面益々急劇、三十度以上に及ぶ所あり、滿降山
毛標、扇柏、羅漢柏鬱鬱す、右に柳谷川左に湯谷川の深凹溪あ
り、徑側剃刀窟、仙人窟等の怪巖に逢ふ、彌陀ヶ原(海抜凡二
千三百八十二米突)を過ぐ、黒百合・野風仙花等一々名を知ら
ざるの野花亂開し燭錦を敷くに似、此所ヨリ地質頓に激變し
火山岩となる、五葉坂を過ぐ、滿降岩な假松、ライ鳥其間に
翔翔し、泉泉自から人間の物にあらず、室堂(海抜凡二千四百
五十七米突、堂ヨリ左折せば別山に到る徑路あり、別山は海
抜二、三七八米突、白山の西南に連リ、亦た炮火山トす)に
到る、堂側火山岩磊落、殘雪狼藉、遂に御前嶽(海抜二、六八
七米突、白山山麓の最高點)に達す、嶽下に火口湖三あり、湖
を距て、劍ノ山兀立す、劍刃を羅列するが如く、一看毛髮爲
めに悚然、山下に圓形なる一大火口湖あり、翠池と稱す、御
前嶽の正北十町に奥ノ院あり、途上千歳池を看る、亦た圓形
なる一大火口湖とす、奥ノ院の北に手洗鉢あり、是れ亦た圓
形なる大火口、奥の院所在ヨリ四望せんか、東北に立山、東
北東に鐘ヶ嶽、東南に乗鞍嶽、東南東に八ヶ嶽・御嶽・信濃甲
斐の二駒ヶ嶽を看、近南に別山巖嶽として峭立し、正北に釋
迦ヶ嶽來る、眼界眞に壯宏、(名勝) 山中著るしきもの五峰
あり、北の三峰を大御前・大汝・紐ヶ峰と稱し、南の二峰を別
山・三ノ峰といふ、大御前の絶頂には白山嶺山神社(石川郡河

(209)

内村白山比咩神社の奥宮。大汝孫には大巳貴命、別山には大山祇命を祭る、白山は其總稱にして、大御前・大汝・劍ヶ峰の三峰は皆な火山岩より成り、上層に砂礫を敷き、一の草木を生ぜず、就中劍ヶ峰は最も崖を極め、山容五剣を束ね立るが如く、望むべくして攀つ可からず、別山は大御前の南直徑四十八町餘に峙つ、岩山にして上層に土を帯び、五葉の稚松叢生するを見る、三ノ峰は別山の南に隣り、東南は越前・飛騨に跨る、山骨は岩石なれども、外面土を帯び、松及び雑樹を生ず、又登路五條あり、北方尾口村大字尾添よりするもの北路と云ひ、四方白峰村より抵るものを南路と云ひ、其他同村市瀬より分れて別山に登るもの、飛騨の平瀬より攀づるもの、越前の石徹白より抵るものあれども、茲には南路の案内のみを掲ぐべし、先づ金澤市より鶴來町吉野町〔吉野十景ナルモノアリ〕を徑、徑路十三里三十一町にして白峰村に抵る、宇市瀬の温泉場より登ること十町許りにして椋城あり、又木呂坂・坂木坂あり、椋城は頗る峻しく、半里許りにして椋ヶ宿の社あり、更に登ること八町にして鐵床岩あり、又進めば一峻嶺を迎ふ、之を指峰と云ふ、是より少しく坂を下り、更に隣れば岩石磊砢として路傍に連り、茶釜湯・雞冠石等最も名あり、岩窟あり、剃刀の窟といふ、又峻坂あり、五輪坂と云ひ、左指と云ふ、(市瀬より此處まで二里)一方は數仞の深谷にして、一方は山麓屏風を建てたるが如く、薪を積ふて登る者左

足を先きにして横行し、辛うじて此嶮所を過ぐと云ふ、半里にして休憩所あり、慶松室と云ふ、昔し慶松と呼べる者登拜者の爲めに設くる所なり、此間平地にして雜草多く、又諸處に清泉あり、是より笹原の間を過ぐれば、急峻なる坂路あり別當坂と云ふ、更に進めば仙人窟と稱する岩窟あり、此邊より山路は歩一步峻峻の度を加へ來り、途中銀鬼ヶ喉・七坂御殿等の難所あり、御苗代・音生谷・殿ヶ池等の傍らを通ぎ少しく高坦なる處に出れば、砂礫の露路あり、眞砂坂と稱す、道凸形にして馬背を行くが如き處を馬背と云ふ、又黒岩崩潰を過ぎ去れば、方十町許りの平地あり、彌陀ヶ原と云ひ、其の一端を五色ヶ嶺と呼ぶ、是より登れば諸處に五葉松叢生し、他の樹木を見ず、所謂白山の道松是れなり、五葉坂を登り盡せば、方三四町の平地あり、室ノ平といひ、休治所を室堂と稱す、是より更に道松の間を過ぐれば、松の盡る處より道は破碎せる焦石を以て敷はれ、亦一の草木を見ず、更に登れば高天原の嶺あり、又岩窟あり、センチヤウチフクの窟と呼ぶ室堂より登ること八町にして大御前の絶頂に達す、社殿の後る小高き處に測量標あり、明治十五年、内務省地理局の建る所なり、大御前の頂より降り道に就けば、坂の上端を奥宮指峯と云ふ、路傍に市兵衛塚あり、少しく下れば十萬金剛童子及び五萬八千堂の趾あり、漸く下れば一水池の上に秋雲の霞々として堆かきものあり、炎曇の候と雖も消し盡ることな



上頂ノ山白

池ヶ屋紺ニ 嶽前御ハ 嶽ヶ劍口 院ノ奥イ

く之を千歳谷といふ、今訛りて千蛇ヶ池と呼ぶ、是より六道地蔵堂の傍らを経て室堂に歸る、別山への道路は、室堂より道を東北に取り一溪谷に下る、是を萬歳谷と云ふ、東に養の河原あり、谷盡きて更に坂路に就く、是を御前坂と云ふ、又小流あり、龍川と名く、平地を過ぐれば右に馬頭觀音の趾あり、其左を山姥谷と云ひ、油坂を踰ゆれば六兵衛室に到る、昔し六兵衛といふ者此處に休治所を設く、故に是名あり、更に進めば一坦地に出て、傍らに十女墳あり、再び峻坂を攀づれば、途中大屏風・小屏風等の難處あり、御舍利山を徑て高嶺に達す、即ち別山の頂きにして、室堂よりの距離三里とす、別山より市瀬温泉に降る道は、嶺きより少しく下れば大平壁と云ふ處あり、十町許りにして平地あり、室ノ平といふ、即ち別山室堂なり、(茲より左に向へば越前の石徹白村に出づ)其峻路を右に取り三ノ峰を左に望みて、下ること數町にして芭蕉ノ葉と稱する地に出づ、近傍に水芭蕉多し、更に下れば別山の御花岳あり、殺倉坂を過ぎ溪流の上に出るを川見坂と云ひ、別山谷と湯ノ谷の落合ふ處を岩山谷と云ふ、左の溪流に三岩あり、茲を過ぐれば柳谷に出て、尾太郎河原を御柳谷川の一橋を度れば、數町にして市瀬に達す、其の里程は二里十町なり、山中瀑布多し、(摘譯) 湯本ヨリ一日ニシテ容易ニ上下シ得、健脚者は室堂迄三時間ヲ要シ、夫レヨリ絶頂御本社ニ至ル、攀踏極メテ困難、二十五分間ヲ要ス、(越嶺)

白山別山より石徹白へ下る遊筋。別山社より別山室へ八町、石徹白の者登りて居る。此室より船の室まで三里、此間一の峰、二の峰、三の峰を登り下る。三の峰に水飲王子あり、是も山上の六所の王子のひとつなり。上感に不動を安置す、此室長龍寺の行人山伏庵る。此上に泰澄の母堂の廣石とてあり、大師の母白山に登らんと、爰迄登り至り得ず、卒去の所なりと云傳ふる。上感より今冷泉(イマシミツ)へ一里半夜山を下る。此間にたけの岩屋とてあり、大師の母險難を登り橋みて此岩屋にて駕籠り玉ふ所と云、今冷泉の室長龍寺の僧一人籠る。この所に名木の杉あり、凡そ十人して圍むに殆どまわり、こゝに白山を勤請したる社有り、本地地蔵を安置す。泰澄の弟子藏藤庵を白山の麓箭筈に結て、常に地蔵の號を唱へて別業なく、他方に移らす。其形極めて短少にしてみにくし、八十有餘にして面色は四十の如し。臨終にも高く地蔵の號を唱へて合掌して遷化す。と元享釋書にかげり、思ふに此所なるべし。箭筈と云所尋れともしれず、今冷水のほとりに川ありくまは、川と云、往古は熊真水(クマシミツ)といへりしを、今は今冷水といへり、室の近邊に清き泉あり、又大師の筆のよしにて中品上生といふ古き額あり、おろして裏の方を洗ひ見れば、建長五年癸丑十月十三日、沙彌寂庵と有り、大師の筆といふに誤れり、是より石徹白へ一里半、川を渡り山を越て至る。此間に美女とて社あり、三圍ばかりの大杉あり、

これは泰澄の母登山の時、供ひたる女これより上へ登り得ずして死たる所といへり、(岐地)別山へ御前嶽ノ西南ニアリ、高サ七千八百五十尺、飛驒ニテハ四海波瀾ト稱ス、白水ノ瀑ハ御前及劍ノ溪間ニ懸レリ、直下二千尺、其水流レテ大白川ノ源ヲナセリ、川ノ兩岸ハ峻嶮ニシテ、容易ニ瀑下ニ至リ難シ、只山側ノ峻道ヲ攀テ半腹ニ至リテ之ニ面スルヲ得ルノミ、落口甚高ク、潭底亦洞ルヘカラス、響々々耳ヲ穿ク、實ニ仰テ大川ノ天上ヨリ落ツルヲ看、俯シテ奔雷ヲ地下ニ聞クノ思アリ、壯觀遠ク紀伊那智瀑ノ右ニ出ヅ、只地僻ナルヲ以テ、世人之ヲ知ルモノ少シ、瀑上ニ白水ノ温泉アリ、硫黄ニ富ム、流レテ瀑水ト混シ白濁ヲ帶ブ、瀑巖洞底爲メニ白シ、コレ瀑ノ名ヲ得ル所以ナリ、湯ノ小屋・地獄谷ハ瀑ヲ距ル遠カラズ、浴者稀ニ至ル、溪間ハ虎杖・蓬等ノ植物能ク繁茂セリ、(參考書)地學雜誌第十二卷、白山之記、白山遊記、白山之記、三ツの山遊記

白山に雪ふりぬれば跡たえて (後撰集)
 今は越路へ人もかよはず
 白山の峰なればこそ白雪の
 かのこまだらに降りて見ゆらぬ
 白山の松の木陰にかくろへて 後鳥羽院
 やすらにすめる雷の鳥かな
 白山にあへば光もてりそひぬ 長流

こしのみ空の冬の夜の月
 み越路はむら山あれど名におへる 磯 足
 雪の白山いぢしろくみゆ
 白山の神の本地や雪佛 宗 鑑
 白山や黒きは一羽時鳥 支 考
 雪見えて森宿凄し閑古鳥 涼 袋
 ○ 逸 名

越山遙雜夏雲横、中有孤峰挿大清、烟銀珠玉四時雪、不用逢人煩問名、
 白山雪笠 時山春庵
 青嶺幾重疊眼前、寒門高出碧雲邊、嵯峨望目異朝暮、雲白孤峰六月天、
 白山 雨森之質
 越國白山氣象雄、長端懸日接蒼穹、水池光散千年雪、草木香飄萬古風、五葉松間靈鳥舞、三頭神處羽仙通、最高頂上回頭立、無限乾坤活玉中、

釋迦嶽 加賀國能美郡ノ南方ニアリ、白峰村
 大字白峰ヨリ七里ニシテ其山頂ニ達ス、標高
 七千四百十五尺、
 經嶽 (別稱釋氏嶽) 越前國大野郡ノ北方ニ

アリ、平泉寺村大字平泉寺ヨリ四里、坂谷村
 大字南六呂師ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、
 標高五千五百四十一尺、

〔提要〕 平泉寺村ヨリ麓ニ至ルニ里、此ヨリ嶽ニ至ルニ里、
 〔地辭〕 經嶽の四一里相并びて法恩寺山あり、
 經嶽春曉 源 直 方
 南對風山(荒島)北白山、孤峰中立雲斑々、春光恰似美人笑、
 嶺上翠烟梳曉髮、

登經嶽(經嶽距大野三十里許、在坂谷北上、其西麓屬平泉寺、天正中、朝倉景鏡奔入平泉寺而保焉、七山家之徒攻平泉寺焚諸坊、三千僧房殲於此時、衆徒或擁古經走上嶽、嶽上有一井、藏佛經于其中、填井而火之、今唯古杉木盤根焦殘、經嶽之名、蓋本于此云、又傳昔越前黃門獲于經嶽、懸鐘於諸峰高處以爲號報、其前峰曰駒嶽、岩巒崔嵬、鷲鷲巢之、其東峰曰騰蛇峰、予以安永五年八月十五日登遊焉、懷古作此詩) 村松 夏 猷

源山無雪賦、削成何世年、三峰排碧落、千壑入黃泉、鳥道飛梯外、仙蹤絕壁邊、雲生白鶴集、松老翠虬眠、瀑水雷聲响、岩風霹靂扇、巢由焉向助、猿狖幾群緣、石壁多奇窟、幽間忽有洞、藏經餘燼燼、鷲武住靈鷲、昔日懸鐘處、今人荷鋤傳、光陰宛如駒、在汲固堪憐、坂靈霞標路、回看眼際

天、道遠遊未就、孤思座凄然、
法恩寺山 越前國大野郡ノ北方ニアリ、平泉寺村大字平泉寺ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千七百七十五尺、

兜山 (別稱大日嶽) 越前國大野郡加賀國江沼・能美ノ二郡ニ跨ル、大野郡野向村大字横倉ヨリ一里十四町、江沼郡西谷村大字眞砂ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千七十九尺、

鷲嶽 (別稱伊地知山、伊知地山) 越前國大野郡ノ北方ニアリ、北郷村大字伊知地ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百七十尺、

(名勝) 坂井郡の丈鏡山と南北相對峙して峻を競ふものゝ如し、麓より頂上に至る二十町餘にして、九頭龍川其南麓を貫流す、(越勝) 勝山より二里許西にあり、如時能か節りたる山麓ヶ嶽と云て、伊知地村より西ノ方にあり、(越霞) 經頂

まで村より六十町ばかり、上は百餘間許、四方の平地にて、北のかたに幅十間ばかり、長さ三四十間許の窪みあり、堀の如し、山の八分より上蘚草のみにて樹木なし、

丈鏡山 越前國坂井郡ノ南東方ニアリ、竹田村大字山竹田ヨリ凡三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百二十四尺、

(提要) 南麓嶽ニ連り、雙峰競ヒ立ッ、
富士寫嶽 (別稱小富士) 加賀國江沼郡ノ南方ニアリ、西谷村大字我谷ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千八百八十八尺、

(山温) 歴然温帯にして群翠擁すべく、晩春猶雪を感くの状態は、恰も蓮霧を倒に懸くるが如し、
富士の根に似たるを見れば越路の、三浦・千春常なる雪もめつらしきかな
湯の上にあるや四月の雪解山
小富士 柳 嶺
東海富士山、何年來此邦、八雲儼如削、獨立摩蒼碧、曾聞西湖上、亦此飛來味、
大 蓮 詩 佛

鞍掛山 加賀國江沼郡ノ中央ニアリ、登路ニ

里
高砂嶽 飛驒國大野郡越前國大野郡ニ跨ル、飛驒國大野郡莊川村大字尾上郷ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、

大日嶽 越前國大野郡美濃國郡上郡飛驒國大野郡ニ跨ル、越前國大野郡石徹白村ヨリ一里十二町、郡上郡高鷲村大字西洞ヨリ二里十八町、北濃村大字前谷ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千九百七十尺、

毘沙門嶽 美濃國郡上郡越前國大野郡ニ跨ル、郡上郡北濃村大字歩岐島ヨリ一里三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千六百四尺、

高賀山 美濃國武儀・郡上ノ二郡ニ跨ル、武儀郡洞戸村大字奥洞戸ヨリ二里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百九十二尺、

本州中部 飛驒 高 原

瓢嶽 (別稱福部嶽) 美濃國武儀・郡上ノ二郡ニ跨ル、武儀郡下牧村大字片知ヨリ二里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千三百三十尺、

(新築) 高く峻嶺にして南北へ長く、高賀嶽につらなり、人跡通路なししかたし、里民此山に雨を祈りてしるしあり、
明神山 美濃國本巢・武儀ノ二郡ニ跨ル、本巢郡東根尾村大字下大須ヨリ二里(上大須ヨリ四里)ニシテ其山頂ニ達ス、

中越山 美濃國本巢・武儀・山縣ノ三郡ニ跨ル、本巢郡東根尾村大字上大須ヨリ一里餘ニシテ其山頂ニ達ス、

屏風山 美濃國本巢郡越前國大野郡ニ跨ル、本巢郡中根尾村大字越波ヨリ三里(或云三十町)ニシテ其山頂ニ達ス、

荒島嶽 越前國大野郡ノ中央ニアリ、上庄

村大字佐開ヨリ凡二里ニシテ其山頂ニ達ス、
標高四千七百三十六尺、

〔越前〕半腹より上に白山三社を祭る、それより上は草木繁茂して登るへからずと、近來探勝の爲に登る人あり、其人のいへるは、社と稱すべきものもなく、至て小石禿祠あれども、半は埋れて安置の像もまたかならず、夫より上に小竹のみ生茂りたるを踏分て登るに、絶頂にいたるまで尺寸の閑地なし、

岩嶽

美濃國本巢郡ノ北方ニアリ、東根尾村大字板屋ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

能郷山

〔別稱〕白山、權現山、美濃國揖斐郡越前國今立・大野ノ二郡ニ跨ル、美濃國本巢郡西根尾村大字能郷ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千九百七十六尺、

〔地誌〕上に白山権現を祭る、

部子山

〔別稱〕宜南峰、銀碗峰、銀南峰、

銀鞍峰、目子嶽、越前國今立・大野ノ二郡ニ跨ル、今立郡上池田村大字水海ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、

〔若越〕山頂には四時遠古の聲を絶ひせぬが故に、大野郡にありては、此の山の北面を銀南峰と指稱するとぞ、〔足羽〕目子嶽、今云部子嶽訛耳、祭目子姫山也、當足羽東南之大山也、絶頂有池、水際廣平、小石甚置、五色相映、無一點埃、又有縱可三百六十步横可十五步之平地、此謂龍島原也、

飯降嶽

〔別稱〕伊振嶽、御嶽、越前國大野郡ノ北西方ニアリ、乾側村字丁ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

〔深山〕この山あらしまの山めこの山さかせのたけなとおきて、また並ふへき山もなくいとたかし、此山にのほりたりて國見をすれば、このあがたはいふもさならなり、あまたの嶺を見こして、一乘の城の跡より三國のみなとのわたりまでもなかつたし、いとおもしろき所なり、

登伊振山

宇野 希純

山高與天平、板河出浮雲、峻岩何輝耀、山上無喬木、俯見衆鳥翔、涼颺拂烟嵐、遙河織且長、城郭渺如塊、方知小魯

情、南望輝岫山、四顧三州曠、帝力何有我、中原寄斯生、
便息一瓢飲、滌百謝浮名、

日野山

〔別稱〕小健山、小嶽、日永嶽、雛嶽、越前國南條・今立ノ二郡ニ跨ル、南條郡王子保村大字中平吹ヨリ一里十四町、今立郡味真野村大字萱谷ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百七尺、

〔歸雁〕山の頂に三社権現を崇ひ奉る、或人申侍りし、軻遇突智神にて坐すとかや、又 繼體の御子 安閑・宣化の二の帝を祭り奉る山なりと、〔越前〕國語萬葉記は、三才關合の披著なれば、同じく伊弉諾の説を載たれ共、本據なき説なり、又土人の中に多田諸仲を祭る山稱する者あり、是又誤なり、共に信ず可からず、山の高さ五十町、半腹迄を松葉權現といふ、松林也、八分の上を比丘尼尊といふ、甚峻嶺なり、〔鯖江〕鯖江眺望、難嶽爲最、當鯖江東南、相距三里而近、其間雖有山、其猶兒孫乎、嶺上有山神祠、稱日野山權現土人每歲以七月二十三日夜而登之、觀日出云、秀麗奇偉、神仙所窟宅也、可謂越前小芙蓉矣、鯖江一奇觀也、

白雲の帯をするなる雛の嶽

讀人 不知

本州中部 飛騨高原

白椿山

〔別稱〕白雲山、越前國足羽・今立ノ二郡ニ跨ル、足羽郡上宇坂村大字藏作ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百九十五尺、

文珠山

〔別稱〕角原富士、越前國足羽・今立ノ二郡ニ跨ル、足羽郡麻生津村大字角原ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高七百十尺、

〔地誌〕福井市街の正南二里半、吉江驛の東一里半、此山にも白山権現を祭り、泰澄大徳の開きたる五山の一とす、近時まて上坊寶珠院、下坊成就院の二供僧ありしが今廢す、〔越前〕雪中角原より見るときは不二山に似たり、

越に來て富士とやいはむ角原の

四 行

夜叉壁山

美濃國揖斐郡越前國南條郡ニ跨ル、揖斐郡坂内村大字川上ヨリ五里ニシテ其山頂ニ達ス、

ワントムツ山

美濃國揖斐郡ノ北西方ニア

リ登路坂内村大字川上ヨリス、里數未詳、
木茅嶺 (別稱木埋嶺、木目嶺、鉢伏嶺、

越中山) 越前國敦賀・南條ノ二郡ニ跨ル、敦
賀郡東浦村大字阿曾浦ヨリ一里十四町ニシテ
其山頂ニ達ス、標高千九百十四尺、

〔若越〕ニツ屋宿より坂路三十一町許にして、南條・敦賀の郡
境なり、往昔は交通の煩繁に伴ふて茶屋數軒ありて、前川彦
助と云ふ者の宅には、太閤より賜はりたる釜あり、松平秀康
入國以來、茶屋番として膝を給はりし者も居住せしが、今は
悉く退轉せり、亦此山中に城址あり、信長・朝倉を亡ぼしたる
後、即ち天正二年六月、江州の阿閉淡路守を城守として置し
が、一揆の攻むる所となりて、淡路守は支ふる能はず、和を
請ふて江州へ御けり、其後和田木覺寺、石田西光等三千餘
騎を率ゐて此城に籠りしとぞ、〔遊記〕 越中山ハ木目峠ナリ、
矢田野ヲ過テ安ニカ、ル、暴雨驟降、其旁トフヘキヤウナ
シ、況ヤ雪中ノ行イカンソヤ、

雁金はかへる道にやまどふらむ
こしの中山かすみへたて、
雪ふれば越の中山あとなえて
梢は路の下にさえつゝ、

西 行
爲 家

輪木茅嶺

今枝 夢梅

新林隆處密雲霄、一路輕風百草馨、摘取藥苗名僅記、升麻
萎蕤或南星、

鬼嶽 (別稱丹生嶽) 越前國丹生郡ノ南方ニ
アリ、登路十八町、標高千六百八十尺、

ひとりのみ開けばさぶしも登公鳥
丹生の山邊にいゆき鳴けやも

厨城山 越前國丹生郡ノ西方ニアリ、登路一
里餘、

越智山 (別稱越知山) 越前國丹生郡ノ西方
ニアリ、糸生村大字小川ヨリ一里十四町餘ニ
シテ其山頂ニ達ス、

〔若越〕 湖山崎杉叢茂して、風氣人を襲ひ、樹間遙かに高低
參差たる遠嶽近嶽を望み瞻るなど、風景も亦佳し、山上に越
智神社等あり、

外山には柴の下葉も散果て、
をちの高根に雪降りけり
雨はるゝ越智の高根の雲間より
月にさきたつ時鳥哉

願 綱
實 夏

緑青嶽 越前國丹生郡ノ西方ニアリ、萩野村
大字茗荷ヨリ十五町餘ニシテ其山頂ニ達ス、

國見嶽 越前國坂井・丹生ノ二郡ニ跨ル、坂井
郡鷹巣村大字高須ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ
達ス、標高二千五百尺、

〔若越〕 海面に望むを以て航海者の目標となる、山中大塚と
稱する土臺あり、高さ一丈五尺餘、石を以て築く、上に數十
圓の椽の水あり、是れ古への烽火臺なりと云ふ、

高須山 (別稱鷹巣山) 越前國坂井郡ノ南西
方ニアリ、鷹巣村大字高須ヨリ二十町ニシテ
其山頂ニ達ス、標高千五百二十五尺、

〔遊記〕 上ニ表木アリ、高五尺餘リ、見當臺ト稱ス、四望ノ
指所チ配ス、往昔畑氏ノ據ル所ナリ、

上鷹巣山 橋本 周 保
越路蛭蛇勢通、直攀藤葛翠無窮、溷沙捲起千波浪、滄海
翻來萬里風、曬網牽連青嶽外、掛帆船隱白雲中、登臨欲盡
壯觀意、猶曳紫筇四復東、

横山 近江國伊香郡ノ東方ニアリ、杉野村大

本州中部 飛騨 高原

字杉野ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、
大タル火山 美濃國揖斐郡近江國伊香郡ニ
跨ル、登路揖斐郡坂内村大字川上ヨリス、里
數未詳、

巳高山 (別稱巳高山、己高山、己高
見山) 近江國伊香・東淺井ノ二郡ニ跨ル、伊
香郡高時村大字古橋ヨリ一里十四町ニシテ其
山頂ニ達ス、標高三千四百六尺、

〔遊記〕 其麓鏡岩(大岩石)ヨリ十八町與ナル觀音堂ノ側ニ難
足寺トテ小院アリ、昔ノ大伽藍ノ跡ナリトソ、
衣手に余苔の浦風さえくゝて
巳高見山に雪ふりにけり
巳高見の山の風を道手にて
しかの港へいつるふな人

爲 綱
爲 尹

小谷山 近江國東淺井郡ノ中央ニアリ、小谷
村大字伊部ヨリ十九町餘ニシテ其山頂ニ達
ス、標高千六百三十四尺、

〔名勝〕小谷山城跡。淺井下野守久政の築く所に係る、(久政ノ孫長政・細田信長ノ攻ムル所トナリ、力竭キ自盡ス)當時は城郭宏壯を極めし、今は廢墟となりて草木繁生し、秋雨霽々の夕、時に燐火の出没するあるのみ。

大貝山 美濃國揖斐郡近江國淺井郡ニ跨ル、揖斐郡坂内村大字廣瀬ヨリ三里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

飯盛山 美濃國揖斐郡ノ西方ニアリ、久瀬村大字西津汲ヨリ一里三町ニシテ其山頂ニ達ス、

小島十九石山 美濃國揖斐郡ノ南西方ニアリ、小島村大字上野ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

伊吹山 (別稱膽吹山) 異吹山、伊福山、伊富貴山) 近江國坂田郡美濃國揖斐郡ニ跨ル、坂田郡伊吹村大字上野ヨリ凡三十町、(或

云凡三里) 揖斐郡春日村大字川合ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千五百四十五尺、(近名) 日本七高山ノ一ナリ、山上ヨリ晴日ニハ駿河ノ富士山、越前ノ駒嶽ヲ遠望スヘシ、上古日本武尊東夷ヲ征伐セラレ、歸路伊吹山ニ妖神アリト聞キ給ヒ、山ニ登テ之ヲ征伐シ給フ、神巨蛇ト爲リ路ニ横フ、尊一跳シテ之ヲ過ギ毒ニ感セラレ、山下ニテ醒井ノ水ヲ呑ミ其毒ハ醒メタレトモ、遂ニ伊勢ニ從セラル、是ヲ伊吹山ノ國史ニ著スル、始トス、此山高大ニシテ江・濃二國ノ間ニ盤亘シ、冬春ハ積雪峰ニ滿テテ霞々タリ、伊吹山ノ南方チ寺ヶ嶽ト云フ、登路二十町餘アリ、土人云フ、彼小角ノ僧行基ノ登山シテ修行スル地ナリト、是ヨリ東南ニ向ヒ行ケハ左ニ岡アリ、古ハ峰ノ藥師堂アリ、今ハ石佛ノミナ存ス、是ヨリ六町餘ニシテ上野ト云地アリ、民家アリテ女一椽現ノ祠アリ、其北ニ彌勒堂ノ址チ存ス、此地ニテ先導者チ備ヒ登山スルナリ、此ノ山下四五町ハ松ノ柏茂生ス、又和漢ノ藥草多シ、土人ノ採リ他ニ販賣ス、上野ヨリ十町チ上レハ小高野ト云フ所ニテ、三所權現社アリ、又十町チ上レハ彌勒堂アリ、彌三郎ト云フ者彌チ觀ル地ナリ、是ヨリ數峰チ越ヘ大平ト云所アリ、上野ノ土人地チ勤キ桑・大根・蕪チ種ユ、地肥沃ナレハ自然ニ繁生ス、此地チ山ノ六分トス、是ヨリ上ハ古來婦女ノ上ルチ許サス、昔一人ノ尼登山シテ山ノ七分ニ登ルトキ、雷電震動シテ死ス、其苦惱ノ時ニ、傍ノ一岩



伊吹山

ニ手チ掛ケ五指ノ痕石ニ印ス、手掛岩ト云フ、猶存セリ、夫ヨリ上レハ左ニ二十丈ノ石窟アリ、往古三朱沙門ノ行道者ト云フ、是ヨリ上ハ山益峻ニシテ、登攀スレハ面チ撲ツカ如シ、山ノ九分ニ霧ノ曲ト云フ奇形ノ岩石累々タリ、此ノ峻難チ越ユレハ絶頂ニテ、彌勒堂ノ所在ニ至ル、方四町ハ平坦ノ地ナリ、常ニ疾風アリテ樹木ハ疎々タリ、中央ニ石垣アリ、彌勒ノ石像チ安置ス、階前ニ寶塔・經塚アリ、此ニテ登山ノ人旭日ノ海面ニ出ルチ視ル、東ニ下レハ七高山ノ形チ爲ス岩アリ、奇觀チ可ラス、之チ泉山所ト云フ、夫ヨリ阿彌陀峰ニ掛ル岩窟ノ中ニ三尊石佛アリ、羊腸ノ坂チ踰ヘ上彌高ノ舊址ニ出ツ、往古ハ七堂伽藍ノ靈場ナリ、永正・元龜ノ頃、兵火ニ罹リ、今ハ其跡ノミナ存ス、其四ニ野頭川ト云谷川アリ、四岸チ彌高寺トス、川ノ東ニ楓林アリ、彌高ノ觀音堂及ヒ鎮守ノ小祠アリ、此地ハ楓ト「コキノコ」ト云フ樹ト兎兒倉(ヤブレカサ)ト云フ草ノミナ生ス、秋霜ノ候ハ錦紅繡ルカ如シ、彌高堂ヨリ斜ニ西ニ町餘チ行ケハ松尾寺ノ前ニ出ツ、是レ伊吹南面ノ半腹ナリ、遊覽殊ニ宜シ、此ヨリ水船平野チ過キテ東南坡口村ニ出ツ、南ニ出レハ北國街道ナリ、是ノ東ニ河戸谷アリ、溪間ニ「アマゴ」ト云フ魚アリ、夫ヨリ上平寺ニ至レハ、西北ノ山尾ニ京極氏ノ城跡アリ、又伊吹山ノ西方ニ九折七曲ノ坂アリ、太平寺ニ上ル太平寺村ハ山如クミ、山ノ半腹ニアリ、多ク蕪麥チ作ル、之チ湖上ヨリ望メハ、屏風ニ色紙チ貼スル

カ如ク、淡濃相分ル、寺ノ南蔵ノ中谷アリ、神蔵場ノ西北ニ當ル、萬仞ノ懸崖ナリ、瀧水アリ、山嶽ニシテ嶺々可カラス、此地ニ羚羊多シ、角ヲ唯石ニ掛ケテ棲ム、寺中ノ中坊客殿ヨリ西望スレハ、湖水眼下ニ見ヘ、頗ル奇觀ナリ、又北ニ行クハ長尾寺ニ至ル、此所ニ伊吹ト土尾山ノ峽アリ、其兩峰ハ山加ナリ、峰アリ、東ハ伊吹ノ白砂利ト云フ、削ルカ如キ峻阻ナリ、牧草草ヲ山上ニ刈リ東テ之ヲ投スレハ、一瞬ノ間ニ姉川ノ岸ニ落ツ、又此地白石ヲ燒テ石灰ヲ製スルコトアリ、小泉大久保ヲ經テ長尾寺ノ門前ニ出ツ、東六七町ニ奥院アリ、是邊ハ伊部村ノ西北ニ當ル、民家ハ冬春ニハ深雪軒ヲ埋ミ、堅氷川ヲ塞キ、他ニ出ルコト能ハス、毎年清明ノ節後、露解ケルトキハ梅・櫻・桃ノ花一時ニ開ク、此ヨリ南ニ出ル路アリ、嶽ニシテ唯ニ沿フ、土人鐵ヲ以テ足踏ヲ作ル、峠四ニ蟠合ト云フ所アリ、四ハ七尾山ニテ翠壁屹立ス、東ハ白砂利ノ末ナリ、深谷ニ姉川アリ、此ヨリ四五町ノ所ヲ白泡ト云フ、溪水奔激シテ白沫ヲ飛ス、霧ノ亂ル、如ク、米ヲ搗クニ似タリ、夫ヨリ推輓ニ傍テ大宮ノ森太平寺ノ下ニ出ツ、

冬深く野はなりにけり近江なる
いふきの外山露ふりぬらし
秋風の伊吹の外山雲つきて
月にくたくる夜のさいなみ
雲にのみかくれ見えし伊吹は

好 忠
實 隆
木下 幸文

此頃露にあらはれにけり
折くは伊吹を見てや冬籠
きさらぎの二日も寒し伊吹山
三里すへて茂り眺み伊吹山
伊吹早登
九月北湖寒、朔風動日夕、曉看伊吹峰、一點雲端白、
瞻吹山 高井 對 雲
依々山色拍天高、隔斷江濃如怒濤、妖氣銷沈年已久、追憶
日本武尊業、

池田山 美濃國揖斐郡ノ南方ニアリ、宮地村
大字宮地ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高
三千五十一尺、

養老山塊
美濃中山 美濃國不破・養老ノ二郡ニ跨ル、
不破郡宮代村ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達
ス、標高千八百六十一尺、
都をばそなたと斗願みて
關越へ来るみの、中山
識人不知

年經たる松の木蔭に駒とめて
夕立過る不破の中山 中務卿親王

笙嶽 (別稱將我嶽、聖嶽、嘯嶽) 美濃國養

老郡ノ中央ニアリ、牧田村大字牧田ヨリ一里

ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百二十二尺、

〔地名〕 此山頂の眺臨甚佳にして、西は近江湖山の景、東

は尾張・伊勢海を望むべし、

養老山 (別稱田跡山、多度山) 美濃國養老

郡ノ中央ニアリ、養老村大字白石ヨリ一里或

云二里)ニシテ其山頂ニ達ス、

〔地名〕 山中に養老源あるを以て其名高し、

養老峰 頼 支 峠

先妣亡時吾在東 終天遺恨淚沾眉、秋風今日澗州路、槐見

雲端養老峰、

大垣途上望養老山 森 川 竹 蹊

老山太古碧、歷々十二峰、暮雨飛欲到、峰頭白雲封、白雲

如招手、神女何處逢、

登養老山 伊 藤 冠 峰

丹崖翠壁望龍魂、養老之山仙氣開、寺古松風傳梵唄、天寒

瀑水動奔雷、千秋露冷黃花酒、一片烟浮碧嶺蒼、詔問靈蹤
思往昔、樵夫仔細說由來、

多藝山 美濃國養老郡ノ南方ニアリ、上多度

村大字小倉ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標

高二千九百一十一尺、

多度山 (別稱箕山) 伊勢國桑名郡美濃國海

津郡ニ跨ル、桑名郡多度村大字多度ヨリ一里

三十二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千三百二

十尺、

〔名勝〕 山上三十六峰に分る、老松・桂・杉・若松として半空に

繁え、境最も幽古なり、遙に内海を望み、尾濃諸山の深翠、

點々たる白帆、皆一時の間に在り、又宇八靈谷に瀑布あり、

撥峰相疊り幽谷を圍む、一條の溪流にして屈廻して八處の淵

をなし、其狀恰も蓮の如し、故に名づく、危岩削絶、飛泉之

に懸り、松・楓と相掩映す、詩人梁川星巖等々來り遊び詩あり、

曰く、自從排家向三郡、只願疎第住八靈、晴見石飛泉立處、

天然一幅大痴圖、其他に冠峰黃葉、一竿紫藤、愛宕晚鐘、朝

拜秋月、野々宮梅花、清水落雁、三杉暮雪を併稱して八勝と

す、山麓に多度神社あり、天津彦根命を祭り、面足命・惶根命



山 度 多

を合祀す、雄略天皇の時の創建に係る、元龜中、織田氏の兵襲にかゝり、社殿神寶悉く焼失せしが、其後木多忠勝の桑名に治せし時、之を造營すと云ふ、此近傍に落葉川と云ふ清流あり、碑を建て松尾桃背の「宮人よ我名を知らせ落葉川」といへる句を刻す、(美明) 古老傳ニ云、養老山ヨリ南多磨郡石津山ナ、古代ハ都ヲ多度山ト云リ、今ハ北伊勢ノ山斗ナ云、

多度山のこのまに残る白母を

和 民

彦根の神の幣かとそ見る

多度山看梅

渡邊橋堂

疎影横斜淺水涯、暗香浮動月升時、黃昏立盡溪橋上、眼見孤山處士家、

戸倉竹園

登多度山、有芭蕉翁碑

陳 雨 農

多度山頭古廟前、荒苔漠々雨如烟、是翁萬世留名在、斷碣秋寒落葉川、

登多度山歌

言登多度山、亂石何叢々、圓爲鼓陽鼓、凸作豐山鐘、或時如黑虎、或躍爲青龍、爲凡爲案爲古鼎、爲覆大釜爲磨盤、飛泉百尺區寒碧、乃與石勢相攪攪、水聲愈喧石轉靜、有似廣樂壘壘、我抱七絃絳綺琴、來訪海外子期生、岩頭兀若積鐵重、石氣上欲摩天青、六月寒風繞纒指、我琴彈之如瀟水、水聲激々琴冷々、洗盡紅塵爭笛耳、山靈忽起前致詞、

空山翠嶺世不知、公何人、斯來應之水聲瀟、不休我琴一再鼓、山中盡日無人來、滿地松花落如雨、

鈴鹿山塊

靈仙山 (別稱靈山) 近江國犬上・坂田ノ二郡

美濃國不破・養老ノ二郡ニ跨ル、犬上郡芹谷

村大字靈仙字落合ヨリ一里四町ニシテ其山頂

〔中靈山〕ニ達ス、標高三千五百七十七尺、

〔提要〕 中靈山、本靈山、北靈山ト共ニ三國嶽ノ北東ニアリ、

〔地辭〕 彦根の東四里、即磨針嶺の上方なり、昔伊吹大明神

と當山權現と山の高下を争ひ、空に橋を渡し見玉ふに、兩方

牛角なりければ、當山權現根の下にかひ物をかひ給ひて、當

山の勝になりたりと、世俗に云習はず、當山權現の由来知れ

ず、〔地名〕 此山。中靈山、南靈山、北靈山の三峰に分れ、

北靈山は阪田郡柏原村の東南に峙ち、岐阜縣不破郡に跨る、

直立三千百八十尺、中靈山は美濃の國境不破・養老の二郡に

亘り、南靈山は中靈山の西にありて、相互ひに峰嶺を争へり

三國嶽

伊勢國員辨郡美濃國養老郡近江國犬

上郡ニ跨ル、員辨郡立田村大字篠立ヨリ一里

二十町、養老郡時村大字時山ヨリ一里、犬上郡大瀨村大字大君畑ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百九十尺、

芳井弘道

たちまちに四方のめわたしきくらし

三國がたけに雲のなひける

鳥帽子嶽

(別稱熊坂嶺) 美濃國養老郡伊勢

國員辨郡ニ跨ル、養老郡時村大字細野ヨリ一

里(或云二里)ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千、

八百五十五尺、

〔提要〕 伊勢ニテハ熊坂嶺ト稱ス、

御池嶽

近江國愛知郡伊勢國員辨郡ニ跨ル、

愛知郡東小椋村大字茨川ヨリ一里二十四町ニ

シテ其山頂ニ達ス、標高四千九百九十尺、

〔提要〕 山上平坦ニシテ三十餘池アリ、

藤原嶽

伊勢國員辨郡近江國愛知郡ニ跨ル、

員辨郡西藤原村大字坂本ヨリ一里ニシテ其山

頂ニ達ス、標高四千九百九十尺、

頂ニ達ス、標高三千六百八十九尺、
福王山 (別稱福山) 伊勢國三重・員辨ノ二

郡ニ跨ル、登路(式按スルニ、三重郡朝上村大字田口カ)十八町、標高千九百五十尺、

(五鈴) 樹木森鬱トシテ秀タル四山ナリ、方俗福ノ山ト云、桑名領主ノ用材ヲ殖ラシムル處ナリ、昔昔國誌風土記所載ノ玉手森トス、未詳、山上ニ九尺四方許葺井ノ堂アリ、長三尺許毘沙門天安置ス、(傳教大師作ト云) 桑名侯領内願檢ノトキ休戀ノ茶屋ト云、小室坂ノ中途ニアリ、中ニ葺井小祠アリ、聲明宮ト額ヲ掲ク、其故ヲ知ラス、山頂ニ築テ東海及ヒ郡中ヲ瞬ス、絶景ナリ、南ノ麓ニ四行上人庵室ノ舊趾懸掛石ト云モノ今ニ存セリ、山家集詞書、伊勢の西ふく山と申所に侍りけるに、庵の梅かうはしくほひけるを
柴の庵に夜々梅の匂きて

床しき方もある住居哉

伊勢名所拾遺和歌集ニモ載タリ、按ニ、此地ニ四行法師ノ遺址アルト云ニ據リ、山家集ノ歌ニ相比シテ樓居スル處ト憶ヘリ、

釋迦嶽

近江國神崎郡伊勢國三重郡ニ跨ル、

神崎郡山上村大字杜葉尾ヨリ一里二十二町餘

ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百四尺、

水晶嶽 (別稱玉緒山) 近江國蒲生郡伊勢國

三重郡ニ跨ル、千種越路(近江・伊勢國境)ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百八十八尺、

(近名) 高山ナリ、往古ハ此山ヨリ水晶ヲ出スコトアリ、故ニ名ク、古歌ニ蒲生郡ノ玉ノ緒山ト詠マ、

青柳の糸にかゝれる白露の

行 家

玉のを山にはる雨そふる

讀 人 不 知

蒲生野の玉のを山にすむ鶴の

宇 野 元 章

千とせば君か御世のかすなり
水晶山賦賦一絶
嶺如丹雘色何鮮、岡客踏踏產玉田、縱得五雙雁伯費、白頭可得勝嬋娟、

御在所嶽

伊勢國三重郡近江國蒲生・甲賀ノ

二郡ニ跨ル、三重郡菰野村字西菰野ヨリ二里十八町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千九百

九十尺、

上御産所嶽

伊 藤 冠 峰

御産所之嶽、上有降臨臺、天孫昔所産、萬古靈氣堆、金枝玉葉曜、珍木奇花開、天孫今何在、駕龍去不問、我今上此頂、向天問是非、感得字宙理、欲解心中疑、鴛鴦胡黑白、日月胡盈虧、生胡然如至、死胡然如遠、風胡然而笑、水胡然而悲、雲胡然而舞、老與同執肥、盜陌何因惡、伯夷何因飢、不計虛而往、有形實而歸、死生亦大矣、天之命無私、爲腹不爲目、去彼又取茲、顯晦有定分、乾坤不可欺、貪夫爲利縛、烈士爲名疲、適分防風骨、嘆哉余且龜、去者不可贖、來者不可知、迂儒徒拳局、窮理竟何爲、撼々秋葉落、藥々春花飛、谷神問白答、嘯音響白奇、山鬼鑿巖出、跪拜聞余辭、余亦低首唾、霜露濕我衣、四顧無人影、寂々對落暉、

綿向山

(別稱綿面山) 近江國蒲生・甲賀ノ

二郡ニ跨ル、蒲生郡西大路村大字北畑ヨリ凡三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百六十三尺、

(地誌) 江州四高山(伊吹山・鸛山・比良山)の隨一にして、南郡の鎮となす、日野町の東二里にして麓に遊し、更に登るこ

本州中部 飛騨高塚

鎌嶽

(別稱釜嶽、冠峰、湯山) 伊勢國三重

郡近江國甲賀郡ニ跨ル、三重郡菰野村字西菰野ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千八百十八尺、

冠山おろす風を身にしめて

佐々木光子

衣うつなり神社の里

から衣ひもゆふ風のさゆる哉

傳 文

山の名の冠ばかり見ゆる哉

土 方 典 文

ふもとさながら雲のかゝりて

冠峰歌

伊 藤 冠 峰

跡彼冠峰、翠邊羊腸、沓籠流玉、花柳吐芳、吾州之山悉奇觀、一峰斜盤如危冠、繞巖彩雲常幾々、唯覺金銀靈氣寒、山腰跳珠溫泉沸、坤區火脉醜神丹、烟霞泉石元自富、吾言

曾テ開ニ隨ヒ余カ遠祖ナルナ哀慕シテ、嶮難千辛萬苦ヲ凌テ此ニ到ルニ及ヘリ、山中異草藥品ヲ生ス、眞寶蘆陽起石等ヲ探ルトイヘトモ、鑿跡スルニ便ナラス、悉ク排ルニ難シ惜ヘシ、

はるくと原尾の村の里人は 井上 政久

野登山に駭折るなり

鈴鹿山 (別稱高畑山、高旗山、舊名片山)

三箇山、多津加美坂、加屋坂、三神山

伊勢國鈴鹿郡近江國甲賀郡ニ跨ル、鈴鹿郡坂

下村大字坂下ヨリ十九町ニシテ其山頂ニ達

ス、標高千二百四十六尺、

〔名勝〕山頂に鈴鹿神社あり、天照大神を祭る、又字下石倉に岩窟あり、中に觀音を安テ、〔五鈴〕東街官道ヲ挟ミテ三峰崔嵬、深谷幽溪、嶮岨ニシテ南北ニ聳タリ、土俗八百八谷アリト云、官道ノ坂路二十六町、路嶮ニシテ樹木陰鬱トシテ風山スルト羊腸ニ似タリ、且ハ嶮ナル處八町許、二十七曲アリ、街道第二ノ嶮難ノ處ナリ、相模ノ宮根山ニ伯仲スヘシ、三箇山ノ名ハ、今三峰並ヒ哨テ空ヲ凌ケリ、故ニ美都吳山ト名ツク、或ハ片山神社三神鎮座ノ地ナル故ニ三神山トモ云、〔近江ニテハ高畑山ト云〕東洋海ヲ運漕スル船人ハ、此峰ノ雲

ノタ、スマモヒヲ觀察シテ天時晴晦ヲ占フト云ヘリ、古昔ヨリ鬼魅綠林ノ妄談アリ、往々ニシテ喧シ、皆無稽ノ言ニシテ信シ難シ、〔參考書〕勢陽五鈴遺響鈴鹿郡ノ部、

鈴鹿山浮世をよそに振すて、

いかになり行我身なるらん

うき身哉ふりぬる上に宿ふりぬ

鈴鹿の山の鈴鹿の聲

行春や櫻も開き鈴鹿山

今日幾日登る鈴鹿の花の雲

稻妻や鐵火を降す鈴鹿山

鈴鹿山

鈴鹿峰頭日已傾、田村廟上怪禽鳴、炬光數點明如畫、九折

羊腸叱駭行、

過鈴鹿嶺

羊腸知幾折、古木鎖崔嵬、谷暗塵風起、山鳴驟雨來、心道

雲脚疾、手拍石屑廻、嶺上投孤店、先呼酒一杯、

鷲峰山塊

衣織山 (別稱觀音寺山) 近江國蒲生郡

ノ二郡ニ跨ル、蒲生郡老蘇村大字石寺ヨリ十

四町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百二十

九尺、

〔名勝〕此山の嶺を駒眼、或は十方嶺、三國嶺と云ふ、此處に佐々木氏の城址あり、永祿十一年九月、織田氏の爲め陥いられ、遂に廢墟となる、今も猶ほ石壁を存セリ、

將登鷲山昂佐々木氏墟、遇雨不果、

宇野元章

荒墟惟梵宇、爭戰已千秋、應是英雄恨、風吹山雨愁、

三上山 (別稱三神山、産神山、蜈蚣山、

蜈蚣山、鹽尻山、杉山、近江富士、近江國

野州郡ノ南方ニアリ、三上山大字三上ヨリ十

八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百一十一尺、

〔名勝〕山上〔野州停車場ヨリ二十五町ニアリ〕四顧洞達にし

て、遙に四明・比良・勝吹の諸峰に對し、琵琶湖を下瞰し、眺

賜最も佳なり、〔近名〕周圍一里十一町五十間、山峰二分シ、

北ヲ雄山ト曰ヒ、南ヲ雌山ト曰フ、山腹ニ妙見堂アリ、

雲はる、三上の山の秋風に

遠く出る月影

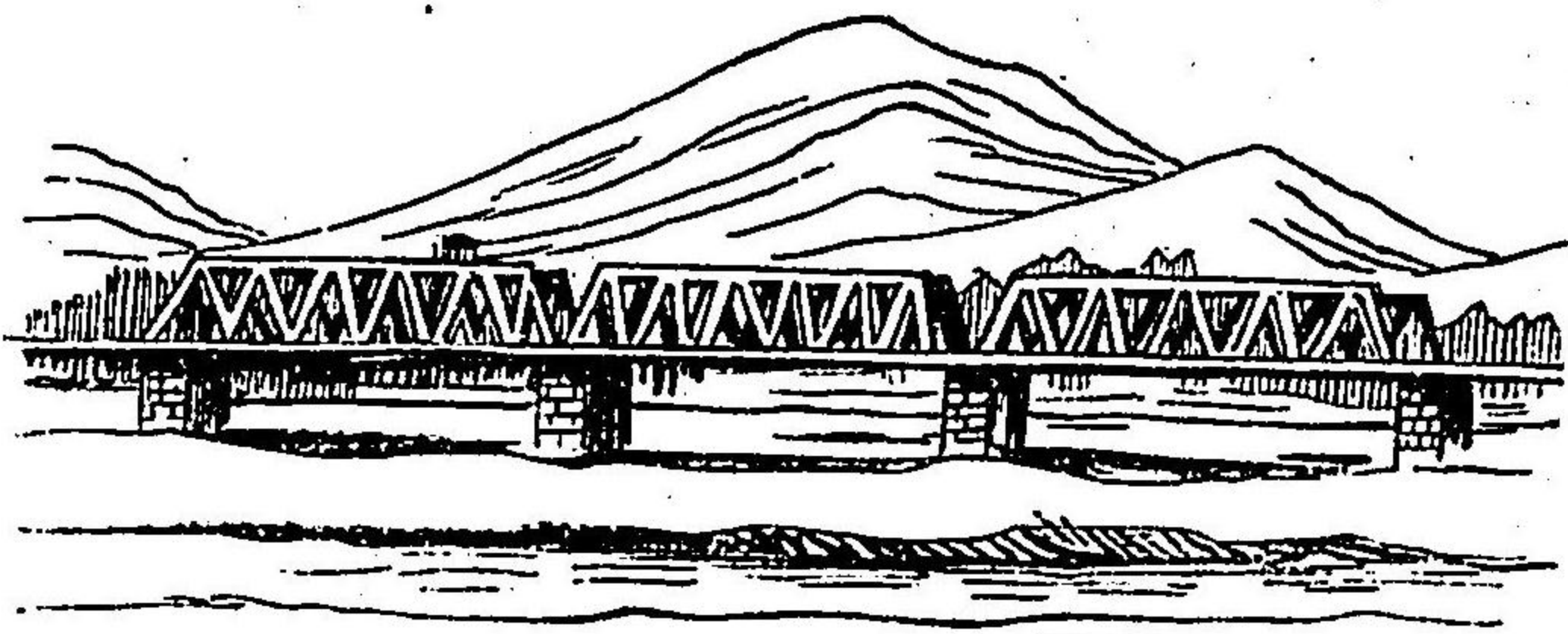
浄助 親王

おもし立富士の根遠き峰を

近く三上の山のはの雲

鏡

孝



野洲川鐵橋ヨリ山上ヲ望ム

瀧疾頓平安、湯谷別開一世界、層樓委蛇列雲端、神女時爲雲雨態、朝々暮々倚玉欄、熊掌羊乳餘夕餐、紫鱗鮓絲供晨饗、浴後清涼無塵境、竊疑飛步生羽翰、萬籟紛發雲霞曲、更爲隴山別宮看、山腹別有三嶽寺、牛關路隔布金地、琉璃佛光玉蓮中、天樹透香繞空翠、斷碑苔厚露不晞、古殿雲蒸龍空睡、折屐舉目鳥路長、珍神奇花送異香、遠望白虹倒絕壁、近見瀑布帳秋陽、風松四面濤搖動、雷霆百里雨蒼茫、巖谷澗溪數萬丈、巖窟洞窟寫魚貫上、中峰突兀陰又晴、轉添脚力氣雄壯、天梯石棧節岩々、雲中彷彿雞犬響、絕頂一覽忽消魂、疑駕青鸞入天門、水晶金梁俯可摘、神芝靈草拾可餐、誠海聖湖如池沼、衆山至此似兒孫、奇哉冠峰客盡游、勝具恐逐少壯秋、秋去春來人代謝、美哉冠峰長悠々、于嗟千春萬冬、我其忘兮此峰、

雞足山 (別稱野登山) 伊勢國鈴鹿郡ノ北方

ニアリ、野登村字坂本ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百十尺、

(五鈴) 雞足山野登寺。龜山府城ヨリ乾位三里半ニアリ、野ノホリ山ト稱ス、南口ハ坂本ヨリ登山ス、本通ナリ、麓ヨリ本堂觀音堂ニ至ル一里十町、又東口上野ヨリ登山坂路五十町池田村ヨリ登山同シ、又北口小伎須村石神社ノ奥ヨリ登山一里、各嶺嶺ナリ、坂本町ヨリ二十五町御枝川ノ水源ヲ渉リ、

十八町坂路ヲ登ル、悉ク白砂ナリ、又七八町許至リ林中ヲ隱テ坂路ヲ登リ盡ス處、天照大神植玉ヘルト云俗傳ノ老杉樹ニ株アリ、圍六丈五尺、高十丈許、道路ノ傍ニアリ、千枝杉ト稱ス、又一株圍五丈七尺、高相同シ、石塔ノ傍ニアリ、天正兵燹ニ燒亡シテ枝葉枯槁ストイヘトモ、今ハ繁茂セリ、本堂ノ東四五町ニ池沼アリ、長二十間許、魚鱸住メリ、鏡ノ池ト名ク、或辨天池ト稱ス、辨財天ヲ祀ル、本堂ニ登ル路側右ニ石階三十間許、是ヨリ石階六十二級ヲ登リ右傍ニ鐘樓アリ左側ニ客殿四間、長九間許、此處ヨリ石階三十三級ヲ登リ、五間四面本堂南面ニアリ、雞足山ノ號ハ竺土ノ雞足山ニ比シ、曠野ヲ行盡シテ山上ニ登ル、故ニ野登寺ト名ヅクト云、寺傳云、人皇六十代、醍醐天皇御宇延長中、帝夢想ニ感シ住僧仙朝上人ニ勅シテ、延喜七年ヨリ同十年庚午四月七日ニ到テ造營開堂供養アリ、故ニ今四月七日詣人群集ス、一山ノ眺望ハ他ニ異ニシテ政テ高嶽ニ非ズトイヘトモ、一眸ノ間ニ數十里ヲ究ムヘシ、眼下ニ龜山城ヲ望ム、東南ニ若海港砂トシテ、尾張・三河ヨリ東海洋中ニ至リ、天期ニ晴明ナルトキハ富士嶺ヲ望ヘシ、西ハ萬嶽列リ鈴鹿山近江國及伊賀ニ至リ、北ハ三重郡嶽ヶ嶽國見嶽ヨリ近江ノ鴨吹山員辨郡諸山桑名郡多度山ヨリ東北信濃駒ヶ嶽・美濃國ノ高嶽各一瞬シテ望ムヘシ、當山七八分ヨリ麓ハ萬嶽靈應トシテ松・柏老テ枝ヲ交、一郡ノ村邑田畠河渠脚下一石ニ堪タリ、本堂ノ左頗ニ

兩壺ト名ク清泉アリ、早麓ノ時勢ヲ祈ル、又用水ヲ汲ム清泉寬アリ、客殿ニ通シテ朝暮ノ拂ス處ナリ、是ヨリ一里半山中ニ仙ヶ嶽ト云アリ、仙朝上人入定石、高三尺餘面七尺餘ノ磐石ナリ、此嶽下ニ入定シテ寂スト云、前條ニ云、北坂口上ミ野村ヨリ登山ニ、鳩ヶ峰ヲ越テ一坂ト云處ニ姥カ石巨壺アリ、又チウヒ石是モ相同シ、其次ニ不動坂アリ、嶮難ナリ、次ニ國見カ嶽、此處ヨリ本州一國望ヘシ、大杉谷御池山、又此山脈ニ綴キテ御所カ嶽ト云所アリ、多氣國司信意經廻ノ地ニシテ、山溪ノ間覽ク幽棲ス、木造殿ト稱シ、故ニ御所嶽ト云、機夫ノ傳ナリ、此處ニ至ルハ池田村ヨリ山徑アリ、字四矢原ヲ經テ五丁許、三箇處ニ深谷ノ淵アリ、是四丁登テ長者岩ト云巨壺アリ、其大壺ノ中ニ井泉存ス、其中ニ鳥籠岩形彷彿タリ、次ニ八丈淵ト云飛泉アリ、高五六丈許、傍ニ雲霞掛岩・長持石各大岩ナリ、スベリ石小屋揚小佛ト名ク山坂ナリ、此處稍ク平坦ニシテ、七ツ釜炭燒場ト云テ經テ、此處ヨリ至テ嶮難、五六丁許ヲ經テ山嶺ヲ攀下ル、瀬戸兀ト云處甚危路ナリ、白瀧アリ、又五六丁許ヲ登テ舞床ト云アリ、又五六丁ヲ經テ菅原ノ平地ノ地ナリ、是ヨリ仙ヶ嶽ハ北ニ望メリ、針盤ヲ試ルニ坪位ニ到レリ、仙ヶ嶽ハ西ニアリ、此處ヨリ正西位ニ折テ山嶺ノ難處ヲ下リ、其處ニ御所淵ト云アリ、高五丈許、左傍ニ瀧ノ舊昔ノ水道ト云アリ、此處ヨリ直ニ登山、砂石足ニ隨テ轉落シ、路崎ニシテ左右ニ巨岩掩ヘリ、是御所ヶ谷ノ

喉口ナリ、一ノ谷ト名ク、老樹鬱茂シテ甚多シ、樵夫云、信憑ノ殖ナル所ナリト傳ヘリ、此處ヨリ二三谷ト云テ經テ維樹慈靈タリ、稍ク攀登リテ家老カ嶽小姓カ嶽ト云地アリ、巖位ニ熊尾山嶽タリ、北ハ此處ニ至リテ小伎須山ノ界ナリ、是ヨリ直ニ登リテ御所ノ舊墟封塵ノ威儀ヲ現ニ存セリ、石壁散在シ時沙アリ、菅原平地ノ地ニシテ北ニ望テ平ナリ、此地東ハ山溪相疊ナリ、南ハ平ニシテ闊タリ、其次ニ深間二條ヲ涉リテ、十二三町許ヲ經テ、四ノ山嶺ヲ攀登レハ仙ヶ嶽ナリ、小社村ノ山界ニ當レリ、此洞ヲ御所ノ砂流シ谷ト名ク、是ヨリ峰ニ登リ盡セハ、近江國犬上郡多賀ハ乾位ニ望ム、此頂ニ菅原アリ、東ハ本州西ハ江州、兩國ノ界ナリ、湖水・比叡山・三上山四ニ望メリ、又菅原二十四丁許經テ谷アリ、又五六丁攀登リテ絶頂ナリ、舟嶺ト云大谷アリ、此處ニシテ近江一國過半一望ノ中ニアリ、稍ク平地ニシテ畑切アリ、是又近江伊勢ノ界ナリ、是ヨリ南ハ悉ク本州ノ有ナリ、北ハ小伎須山ノ麓ニ鳩ヶ峰向ヒ、山ヨリ石神社ノ奥山ニ連綿セリ、此地ヨリ絶境相疊テ歸途ニ趣ク、山淵幽僻ヲ經テ小伎須村ニ至レリ、愚按ニ、北岳信憑此地ニ經歴シテ隱棲、人煙絶タル處ニ何ノ據アリシ、其本據ヲ詳ニセス、天正四年、滅亡ノ後、織田信雄其家系ヲ繼ク、養父タルニ據テ、家臣瀧川一益ニ命シテ飯高郡大河内ニ遷シ、後ニ京都ニ歸住シテ、北岳信憑ト改名シテ逝去ス、凡テ棲居ノ地此處ニアルコトヲ知ラズトイヘドモ、

谷ノ間ニ隨ヒ余カ遠祖ナルナ長生シテ、嶮難千辛萬苦ヲ凌テ此ニ到ルニ及ヘリ、山中異草藥品ヲ生ス、眞聖靈陽起石等ヲ探ルトイヘトモ、攀躋スルニ便ナラス、悉ク挑ルニ難シ惜ヘシ、

はるくと原尾の村の里人は 野登山に駭折るなり 井上政久

鈴鹿山 (別稱高畑山、高旗山、舊名片山) 三箇山、多津加美坂、加屋坂、三神山 伊勢國鈴鹿郡近江國甲賀郡ニ跨ル、鈴鹿郡坂下村大字坂下ヨリ十九町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千二百四十六尺、

〔名勝〕 山頂に鈴鹿神社あり、天照大神を祭る、又字下石倉に岩窟あり、中に觀音を安テ、〔五鈴〕 東街官道ヲ挟ミテ三峰嶺鬼、深谷幽溪、嶮岨ニシテ南北ニ聳タリ、土俗八百八谷アリト云、官道ノ坂路二十六町、路嶮ニシテ樹木陰鬱トシテ風曲スルコト羊腸ニ似タリ、且ハ嶮ナル處八町許、二十七曲アリ、街道第二ノ嶮難ノ處ナリ、相模ノ宮根山ニ伯仲スヘシ、三箇山ノ名ハ、今三峰並ヒ哨テ空ヲ凌ケリ、故ニ美都吳山ト名ツク、或ハ片山神社三神鎮座ノ地ナル故ニ三神山トモ云、〔近江ニテハ高畑山ト云〕 東洋海ヲ運漕スル船入ハ、此峰ノ雲

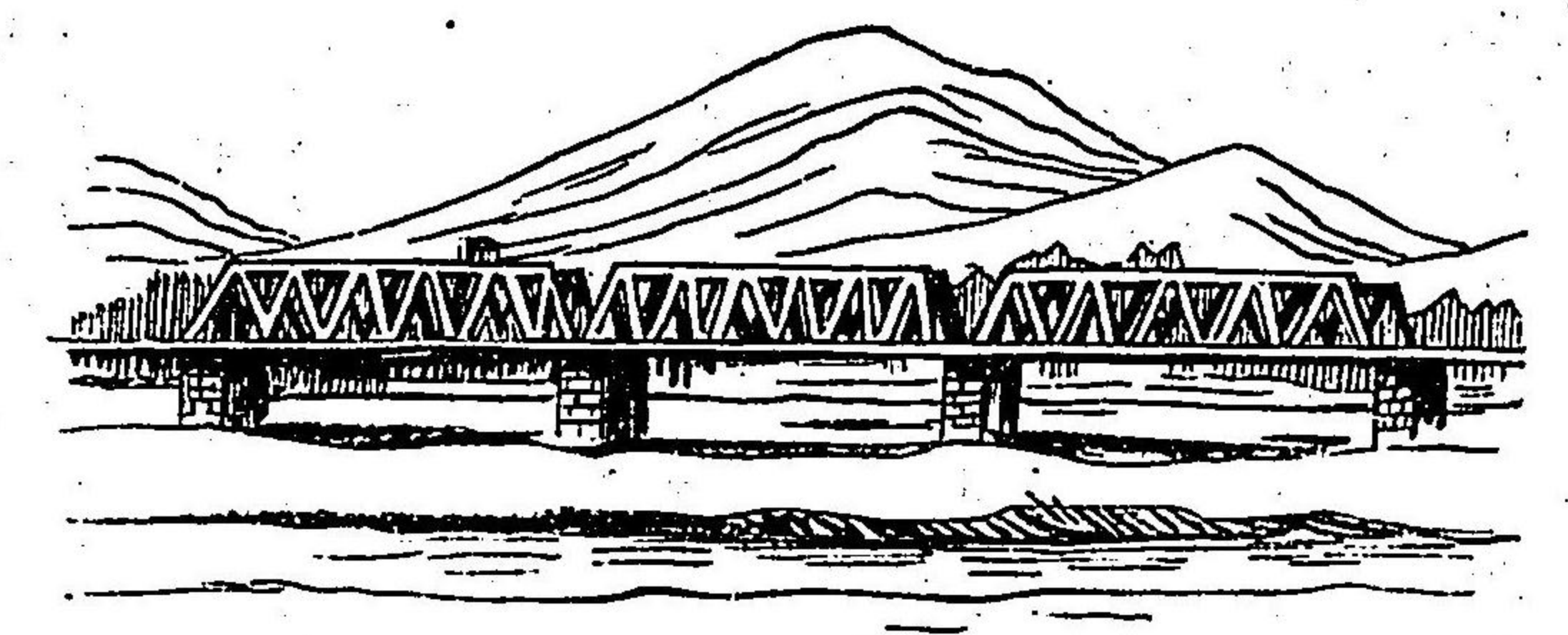
ノタ、スマヒナ觀察シテ天時晴晦ヲ占フト云ヘリ、〔古昔ヨリ鬼懸森林ノ玄談アリ、往々ニシテ喧シ、皆無稽ノ言ニシテ信シ難シ、〔養老帝ノ時陽五鈴遺響鈴鹿郡ノ部〕 鈴鹿山浮世をよそに振すて、

いかになり行我身なるらん うき身哉ふりぬる上に猶ふりぬ 鈴鹿の山の鈴蟲の聲 行春や櫻も開き鈴鹿山 今日幾日曇る鈴鹿の花の雲 稻妻や霞火を降す鈴鹿山 鈴鹿山 松平定通

鈴鹿峰頭日已傾、田村廟上怪禽鳴、炬光數點明如畫、九折羊腸叱駭行、 過鈴鹿嶺 無學 羊腸知幾折、古木鎖崔嵬、谷暗塵風起、山鳴驟雨來、心迫雲脚疾、手拍石眉廻、嶺上投孤店、先呼酒一杯、

鷲峰山塊

衣織山 (別稱觀音寺山) 近江國蒲生ノ二郡ニ跨ル、蒲生郡老蘇村大字石寺ヨリ十四町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百二十



野洲川鐵橋ヨリ三上山ヲ望ム

九尺、

〔名勝〕 此山の嶺を駒眼、或は十方嶺、三國嶺と云ふ、此處に佐々木氏の城址あり、永祿十一年九月、織田氏の爲め陥いられ、遂に廢墟となる、今も猶ほ石礎を存せり、 將登嶺山昂佐々木氏墟、過雨不果、 宇野元章

荒城惟梵宇、爭戰已千秋、應是英雄恨、風吹山雨愁、 三上山 (別稱三神山、産神山、蜈蚣山、蜈蚣山、鹽尻山、杉山、近江富士) 近江國野州郡ノ南方ニアリ、三上村大字三上ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百一十一尺、

〔名勝〕 山上〔野州停車場ヨリ二十五町ニアリ〕四顧洞達にして、遂に四明・比良・勝吹の諸峰に對し、琵琶湖を下瞰し、眺臨最も佳なり、〔近名〕 周廻一里十一町五十間、山峰二分シ、北ヲ雄山ト曰ヒ、南ヲ雌山ト曰フ、山腹ニ妙見堂アリ、 雲はる、三上の山の秋風に 淨助親王 漣遠く出る月影 翁 幸 おもひ立富士の根遠き嶺を 近く三上の山のはの雲

三上から遊びに出るや時雨雲
日枝は花菱に近江の不二無し

阿星山 (別稱**金勝山**、**金青山**) 近江國栗太

甲賀ノ二郡ニ跨ル、栗太郡石部村大字石部ヨ
リ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千
二百八十七尺、

〔地辭〕 礦物寶石類の産あり、土人呼ひてコンセとも、コン
シヤウとも曰ふ、僧伽辨の一名、金熱又金窟又金勝と云ふ、
此山寺を開きし英傑なれば也、金勝寺。金勝山の頂に在り、
觀音寺とも云ふ、草津の東三里、

飯道寺山 (別稱**飯道山**、古名**餉山**、**金寄**

山) 近江國甲賀郡ノ西方ニアリ、北杣村大字
三大寺ヨリ一里十四町(式接スルニ、雲井村大
字宮町ヨリ十八町カ)ニシテ其山頂ニ達ス、標
高二千九百九十二尺、

〔風景〕 老杉鬱蒼す、(名勝) 山上に飯道神社あり、伊弉非
尊・速玉男命・事解男命を祭る、又飯道寺あり、和銅年間創立

礎に係り、役ノ小角の開基にして、法相宗の寺院なり、

人々契沖か六十になれるをいふわさせられけるに、あ
る入ひらてに寒水石とかいふ白きいほのやうなる真砂
しきて、いはほの上に松竹なとしておくりけるによめる、
白砂子かはいひ山の岩がれに

太神山 (別稱**田上山**、**太田山**、**不動山**)

近江國栗太郡ノ南方ニアリ、下田上村大字森
ヨリ一里十八町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高
千九百七十九尺、

〔名勝〕 此山西は矢筈ヶ嶽に對し、群峰相擁し、北は湖を望
み、眺望頗る佳なり、(參考書。地學雜誌第八十五卷)
夕ざれば川風さえて衣手の

田上山にしぐれふるなり
田上の山の木の葉にしぐれして
勢多のわたりに秋風ぞふく
秋風や田上山のくぼみより

鷲峰山 山城國相樂・綴喜ノ二郡ニ跨ル、相樂
郡東和束村大字原山ヨリ二十七町ニシテ其山

頂ニ達ス、標高二千二百六十一尺、

〔名勝〕 鷲峰山金胎寺。元來當寺は天竺の靈鷲山に模し經營
せし所にして、幾多の堂宇を奇峰の間に架設し、池多輪・放樂
嶽・阿彌嶽・不空嶽・彌迦嶽・虚空嶽・仙居・頭光池・兜率池・仙
藥水・寶生嶽・心經岩・阿彌陀嶽等の名蹟あり、別に空鉢峰は本
堂の上方に在りて、峭拔秀異、其頂上より近江の琵琶湖を望
む可く、清絶最も愛するに堪へたり、(山名) 天竺靈鷲山ニ
類シテ嶺頭立テ如蓮華ナルノ謂也、(雅州) 其山砂石多、而
尖歩則不覺下、攀躋半里許、而登絕頂、古木森蔚、所謂鷲峰
山寺在其間、凡田原郷、比他所則地形至高、此山又傑出其地、
其高不可與他山比、和州紀州之間、在一望之中、(山志) 上
有八峰、峭拔秀異、甲於二郡、

高旗山 伊賀國阿山郡近江國甲賀郡ニ跨ル、

阿山郡新居村大字西ヨリ一里十八町ニシテ其
山頂ニ達ス、標高二千八百八十四尺、

篠嶽 (別稱**三郷山**) 伊賀國阿山郡近江國甲

賀郡ニ跨ル、阿山郡九柱村大字比曾河内ヨリ
一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百三十
八尺、

伊賀山塊

靈山寺山 伊賀國阿山郡伊勢國鈴鹿郡ニ跨
ル、阿山郡東柘植村大字上ヨリ一里ニシテ其
山頂ニ達ス、標高二千五百二十七尺、

〔三國〕 按、山頂ニ古昔靈山寺廢址アリ、一ノ坂國見大川口
寺家地等ノ地名アリ、今存スルモノハ石階五十級、岩窟ノ内
ノ佛像ノミ、今ノ堂舎ハ十八町餘ニアリ

錫杖嶽 (別稱**雀頭山**) 伊勢國安濃・鈴鹿ノ
二郡ニ跨ル、安濃郡河内村字下垣内ヨリ二十
五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百三十
五尺、

經峰 伊勢國安濃郡ノ中央ニアリ、草生村大
字草生ナル淨明寺ノ垣内ヨリ三十五町ニシテ
其山頂ニ達ス、標高二千七百六尺、

〔伊勢〕 世義寺三寶院兩院の如法經を此所に納む、故に名付



錫杖嶽

路、極日茫然向孰處、

遊經嶺記 齋藤拙堂

る也、松樹一株あり、南尾に曼陀羅石あり、梵字多く鐫り、其傍小石に至るまで皆しかり、皆むして辨難し、近世の物とは見えず、《五鈴》絶嶺ニ大般若經塚アリ、古城址アリ、其所居ノ人未詳、長野草生ノ藪ナルベシ、

登經峰

僧 明 了

石段芳林鍾秀靈、登臨絶頂入無形、荒城空見炎雄氣、古塚長藏般若經、雲隔靈霞幽谷白、烟吞宮殿曠原青、躊躇日晚迷樵

至常明寺而村盡、入道傍民家問途、一盤欣接、爲指示之、蓋從阿部保山麓、地形漸高、至此十餘町、殆得山十分之二、高興長谷山齊、從此至絶頂、又五十町云、吹煙久之、寄行厨於嶺、皆空身而行、山漸險、左右臨深谷、如行馬背上、踰峰數四、又過一峰頗高、衆已疲倦、意以爲絶頂、屢勉而上、既達、見一大峰更立其上、高數十百丈、衆心大駭、適風大起、殆吹倒人、或退縮欲罷還、余新激之俱前、無復徑

隨、俯留捫草而上、遂得達上頂、南瞰大洋、浩渺無際、北望遠嶺、青々至濃信之間、東則參尾之州、海色浮山、其間有物如盤氣、依約現於雲表、蓋尾府天主樓云、西望伊賀大和、群山峻險如波濤、其北則伊吹山、晴雪分明、琵琶湖水微茫若煙霧、可謂壯觀矣、既降至常明寺、温煮茶以待、懇如家人、衆喜其教村、爲一酌、默然忘羣衆之勞、飯已辭去、取道於來路之北、出岡南村、經合根清水數村、由三本松而還、至家將初更、

布引山

伊勢國一志郡伊賀國阿山名賀ノ二郡ニ跨ル、一志郡桐原村大字谷杣ヨリ一里十五町、阿山郡布引村大字坂下ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百九尺、

《五鈴》一志郡桐原山界ヨリ小俣郷ノ西ニ長ク偃リタルカ如シ、故ニ名ク、此嶺ヲ越テ伊賀州ニ至ル、或ハ波多横山ハ此ナリト云ハ非ナリ、一度合郡ニ見浦及朝熊嶽ヨリ四位ニ當リテ鈴鹿山・經ヶ峰等ノ南ニ連リテ、眺望スルニ降種ニ龍蛇ノ假カコトシ、《伊參》水口の出口ヨリ左手に見ゆる山、三里が間峯に高低なく、誠に布を曳たることし、《伊名》山勢綿亘、恰も布練を引くが如し、尤も眺望に富む、

二兄の音なし山に登て、海山を遙に見けるに、布引山を

見てよめる 風吹く雲のはたてのぬきをうすみ

鴨 長 明

元取嶽

《別稱髻嶽》

伊勢國一志郡伊賀國名賀郡ニ跨ル、一志郡境村大字福田山ヨリ二里

ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百四十六尺、

大山嶽

《別稱首嶽》

伊賀國名賀郡伊勢國一志郡ニ跨ル、名賀郡種生村大字高尾ヨリ一里

十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千五百六十八尺、

《三國》多出松杉、亦出茯苓葛根、民用多、而土地肥蔭、異歐吳禽等未爲田家害、按、本國一ノ名嶽ナリ、因テ名ク、頂ニ至ルコト五十町、東・南・西ノ三方ハ伊勢ニ跨ル、山陰鳥帽子岩・一二三ノ段・徒廣・明星廣ノ名アリ、此ニ血櫻ト云嶽アリ、其四ニシゲミアリ、其下ニ桔木川ト云溪アリ、其下ニ勢州八知村ヘノ間道アリ、

尼嶽

《別稱天嶽》

伊勢國一志郡伊賀國名賀郡ニ跨ル、一志郡太郎生村ヨリ一里ニシテ其



嶽 尼

山頂ニ達ス、標高三千六百六十尺、

大洞山 伊勢國一志郡ノ西方ニアリ、太郎生

村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百五十一尺、

三畝山 二萬分一圖ニ峰山ニ作ル大和國

宇陀郡伊勢國一志・飯南ノ二郡ニ跨ル、宇陀郡

御杖村大字神木ヨリ凡二里十八町ニシテ其山

頂ニ達ス、標高四千七十七尺、

局嶽 伊勢國飯南・多氣ノ二郡ニ跨ル、飯南郡

川俣村字木地小屋ヨリ一里五町ニシテ其山頂

ニ達ス、標高三千三百九十五尺、

春さむみ霞の衣ぬぎて、

霧をよそほふ周山かな

四方山は雪消になれど白妙の

さながら富士の高根とやみん

局嶽はじめや功しき雪女

局嶽霞雲

三千風

四村和廉

矢頭山

伊勢國一志郡ノ中央ニアリ、波瀬村

大字波瀬ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達

ス、標高二千三百八十九尺、

〔五鈴〕 山上半腹ニ矢頭権現ノ祠アリ、

磯原も古田の嶺もおぼろにて 大森 鈴子

矢頭山高く月にかすめる

白猪山 伊勢國飯南郡ノ中央ニアリ、登路〔式

按スルニ、大石村大字大石カニ二十町餘、標高

二千七百五尺、

〔五鈴〕 近郡ノ高嶽ナリ、所謂本郡堀坂嶽同局嶽及白猪嶽ノ三

嶽ヲ海東ヲ渉ル運船ノ的トス、船人三ツト稱ス、各嶽比ノ大

嶽ナリ、其峰ニ石室ニ不動像ヲ安ス、毎年三月十五日修驗者

修法アリ、安永二癸巳年、霖霖洪水シテ、坂内河及松坂府城

北ノ民家ヲ損ス、

峰も尾もふりつむ雪の白猪山 堀内 千稻

ふしどもさぞな埋ればつらん

安永二年六月二十日、白猪山大崩數千箇處、大洪水漂木

石、平池水深五六尺也、流體鹿牛馬於街坊、村落得魚於牀

上、田宅破壊者、不可算數也、 僧 明 了

惟年六月終、霖霖白猪崩、山谷霧千里、風波天咫尺、街坊

怒水聲、村落懸魚宅、神馬盛稱功、空論疏鑿夜、

堀坂山 伊勢國一志・飯南ノ二郡ニ跨ル、飯南

郡伊勢寺村大字伊勢寺ヨリ一里六町餘ニシテ

其山頂ニ達ス、標高二千四百九十九尺、

〔地辭〕 山太た高きに非ず、眺望に佳なり、

堀坂の山に夕日を殘しおきて 堀内 千圓

ゆふたちわたる征川の里

見るがうちにくづれにけりな堀坂の 木村 宜光

峰にかゝれる夕立の雲

雌雄嶽 大和國宇陀郡ノ北東方ニアリ、曾爾

村大字葛ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高二千六百九十六尺、

〔地名〕 山嶽雌・雄二峰に分鑿す其雄峰を一名雌嶽と云ふ、

國見山 〔式按スルニ、三國山ト同山異名

ニアラザルカ〕 大和國宇陀郡伊勢國一志郡ニ

跨ル、宇陀郡曾爾村大字小長尾ヨリ一里十九町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百三十九尺、

〔提要〕 宇陀郡小長尾村ヨリ一里十九町、伊賀・伊勢ニ跨ル、(名勝) 曾爾村大字伊賀見村の上方に聳え、伊賀・伊勢二州に跨る、山勢最も高峻にして、麓より頂上に達する凡そ一里二十町、頂上は閉塞にして、比近の諸峰皆脚下に起伏し、眺望甚だ壯なり、(奇名) 登路極メテ峻嶮ナリト雖モ、山上ノ觀絶々佳ナリ、

三國山 大和國宇陀郡伊賀國名賀郡伊勢國一志郡ニ跨ル、宇陀郡御杖村大字神末ヨリ凡一里二十四町ニシテ其山頂ニ達ス、

〔提要〕 宇陀郡神末村ヨリ凡一里三十四町、伊賀・伊勢ニ跨ル、(地勝) 六個山郷(伊勢國一志郡大那生村大和國宇陀郡神末村伊賀國名賀郡津村比奈知村是ナリ、古ハ六個山郷ト稱ス)の四に峙ち、伊賀・伊勢・大和の交界點に當るを以て此名あり、高七千尺、伊賀第一の峻峰と云ふ、

中山 (別稱布生嶺) 伊賀國名賀郡大和國宇陀郡ニ跨ル、名賀郡國津村大字布生ヨリ一里

十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千五百五十二尺、

高見山 (別稱高倉山、高角山、去來見山) 大和國吉野郡伊勢國飯南郡ニ跨ル、大和

國宇陀郡御杖村大字桃股ヨリ一里十四町、吉野郡高見村字みつかのヨリ凡一里十四町、飯南郡波瀨村大字舟戸ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百二十二尺、

〔五鈴〕 本州中ノ高山ナリ、大和街道ニ屬ス、往昔南朝ノ帝都ヨリ神宮及ビ國司ニ勅使、軍使等ノ往還ハ此道ナリト云フ、山坂ノ中間ニ鳥居アリ、船戸ヨリ嶺ニ至リ二十三町、本州・和州二國ノ界ナリ、高見嶺越ト稱ス、松坂府城ヨリ國界畑切マテ十四里二十六町四十八間ナリ、又延喜式内高角神社山嶺ニ坐、今ノ高見明神是ナリ、故ニ高角山ト稱ス、俗説ニ蘇我入鹿臣ヲ祭ルト云ハ非ナリ、然ルニ高見ハ俗稱ニシテ、本州西南ノ高嶺ヨリ和州ヲ眺望スルノ謂ニシテ名ク處ナルヘシ、今ノ高見嶺ハ高角山ニシテ、去來見山ニハ非ス、(參考書) 勢陽五鈴遺響飯高郡ノ部、高見山谷より登る白雲の

宜 長

八重ふみわけてけふぞ越行
白雲に峰はかくれて高見山 全 人

見えぬ紅葉の色ぞ床かしき
きくがごとまこと高見の山ならば 全 人

我里みせよ雲井なりとも

度高見嶺、嶺在兩見嶺北、爲勢和之界、神武帝入和州、蓋由此嶺云、 齋藤 拙堂

天孫神且武、群雄從使令、西州已平定、東面討不庭、蓋爾長髓彦、抗天勢暴橫、濼據孔坂嶺、垂箭祖皇兄、天孫曰噫々、向日功難成、我賀日神裔、唯當背日征、繞轉轉向勢、神風送旆旌、高見與國見、兩山共降嶺、大石懸泉卵、何敵不能崩、鼻師皆授首、巨魁兼窟領、中土乃卜宅、鼻威震八紘、歷世已踰百、率土奉王正、我行經此嶺、俯仰感中情、杞人休憂慮、儼然在天靈、

屏風嶽 大和國宇陀郡ノ東方ニアリ、曾爾村

大字長野ヨリ凡二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百四十四尺、

〔奇名〕 山形横列屏ノ如シ、故ニ名ツク、實ニ縣下無比ノ奇山ナリ、(和志) 山形峭壁、林木蒼茂、宛如屏障、因名、

室生山 (別稱櫻生山、面一山) 大和國宇陀

郡ノ北方ニアリ、室生村大字室生ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百二十尺、

〔提要〕 山上ニ室生寺アリ、(和志) 有岩窟、一日仙人、一日嚴嶺、窟前井曰靈井、峰登谷深、青岩遮路、眞際外之境、(大名) 此山は松・杉峰を包みて青天に連り、岩石樹を漏れて黒雲かと疑はれ、麓に遶る川(室生川)波は、春の露の碎くるに異ならず、地に綴る、落葉は、秋の雨の降るかと思またれ、踏行けば、嵐山の寂きを想ひ、山路を攀ぢ登れば、鶴足の静けさも宛ながら斯くやと想ひやられる、

登室生山

僧 元 明

梵王高閣倚峻嶺、山遠鐘聲迎旅僧、險路崎嶇時登步、寂寥雲霧佛前燈、

伊那佐山 (別稱山路山) 大和國宇陀郡ノ南

西方ニアリ、伊那佐村大字山路字三藪ヨリ凡十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百三十二尺、

〔奇名〕 神武天皇紀ニ所謂伊那佐能登摩能トハ即此ナリ、山上ニ都賀那木神ヲ祭ル、

龍門嶽 大和國吉野・宇陀ノ二郡ニ跨ル、吉野

本州中部 飛騨高原

郡龍門村字別所谷ヨリ凡二十六町、字田尻谷ヨリ凡三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百七十一尺、

〔名勝〕 上市町の東北一里半許を隔て、龍門村大字山口村の上方に在り、遠望蔚然として奇く、登路四條あり、山上に城趾及び龍門寺の遺跡あり、寺門の故趾猶ほ下乘石を存せりと、又二條の瀑布あり、一は名けて龍門の瀧と云ひ、高さ三丈瀧三三尺、一は名けて白倉の瀧と云ふ、高瀧共に龍門の瀧に同じし。

遊龍門山

葛野 王

命駕遊山水、長志冠冕情、安得王翁道、控鶴入蓬瀛、

遊龍門山

太神 貞道

空山閑寂欲茫然、忽見洞門一徑懸、幽洞深廻千樹裏、奇峰湧出五雲邊、隨風瀑布搖青壁、映日飛珠生紫烟、問道尺魚化龍去、人間豈得不登仙、

多武峰 (別稱談山、田身嶺、大務、談峰)

多牟、淡武、五臺山、龍嶽 (大和國磯城郡ノ南方ニアリ、多武峰村大字北山ヨリ一里十三町、大字倉橋ヨリ一里十四町餘、櫻井町大

字下ヨリ凡一里十四町、高市郡高市村大字細川ヨリ一里一町ニシテ其山頂(談山神社)ニ達ス、標高千六百五十七尺、

〔名勝〕 社殿の宏壯、境域の幽遠、之を日本全國に求めば、蓋し日光に過ぐる者なし、然れども若し之を關以西に限らば、淡山神社竟に其魁たらざるを得ざる可し、社は別格官幣社にして、多武峰の半腹に在り、其祭神の如きは必ずしも言ふを待たず、世人皆贈太政大臣正一位藤原鎌足の靈なるを知る、多武峰一に談山と號す、傳へ云ふ、昔鎌足、入鹿父子を誅せんとする時、中大兄等と此山の藤花の下に謀議したるが故に名くと、或は云ふ、談の字音多武に通ずるより談山と號し、遂に訓讀したるなりと、扱て櫻井町(關西鐵道櫻井線)ニシテ停車場アリ、を東南に距ること凡そ二十町許にして鳥居跡に到る、是より路傍一町毎に町敷を誌したる石標を立つ、乃ち山間の崖岨に沿ひ漸く登れば、路甚峻峻ならず、凡そ五十町にして神廟の傍に達す、神廟は翠巒を貫ひ碧瀾を帯びて、高く幾多の石塔の上に建ち、境内一萬五千四百七十坪、湖山櫻、楓の二樹多く、春・秋の二季最も眺眼に富み、殊に櫻花の時節は、吉野に遊ぶ者大概此地及び初瀬に巡遊するを常とす、是れより吉野に至る最近の道路は、南方細嶺を越え瀧ノ畑・志賀等を經て上市に出づる者にして、其距離凡そ四里餘、山路險

鷹嶽山 (別稱高取山、竹取山) 大和國高市

本州中部 飛騨高原

惡にして、常人は豫め半日の行程を計せざる可らず、華嚴瀧多武峰の山中に在り、高さ三丈瀧一丈餘、飛瀧雪を蹴つて翠巒に懸り、四邊絶て閑寂、人をして俗塵を濯がしむるに足る、〔妄名〕 形テ龍ノ如シ、淡山神社アリ、本殿ノ北背テ淡山又ハ淡峰ト稱ス、〔和志〕 高峰盤秀、山木鬱蒼、幽邃之地、〔參考書〕 關四日光、多武山二十六勝志、

一醉をきかてぞ明ぬ時鳥

湧 連

淡山の名のみなりけり

宜 長

谷深く分いる多武の山櫻

貞 佐

かひある花の色を見る哉

鹽 元 邦

蚊柱に十三高し多武の峰

全 人

多武峰鶴大巖冠公洞

山深此境晚成香、百樹櫻花紅未歷、蕊忽想風吹捲地、一時

金碧照山耶、拳靴樹下真深意、驛易車中亦善謀、唯恨騎箕

十年早、終教管齋成周、

多武峰絶頂櫻花盛開

登多武峰

魚貫行人相共攀、松杉畫水潺湲、忽然脚下煙雲色、不辨

前程咫尺間、

鷹嶽山

植 木 復 軒

鷹嶽山 (別稱高取山、竹取山) 大和國高市

郡ノ南方ニアリ、高取町大字土佐ヨリ凡一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百十五尺、

〔名勝〕 高取城。高取山にあり、坂路羊腸、要害堅固の地なり、南北朝の時、南朝此に築いて北兵を禦けり、城樓・粉壁今尚ほ舊形を存して、依稀翠樹の間に隱見し、遠望甚だ佳なり、〔和志〕 山勢峭拔、爲郡主山、山中有巨岩、就造五百羅漢像、傍有石燈塔、勅曰、慶長十一年、木多俊政創立、其西曰盤坂山、

旅人はこぬありとも高うちの

相 摸

山のき、すばのとけからしな

音羽山

大和國磯城・宇陀ノ二郡ニ跨ル、磯城

郡多武峰村大字札場ヨリ凡三十二町、大字南

音羽ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三

千七十六尺、

〔名勝〕 山勢崇高、之を望めば翠蓋の如し、山中瀑布あり、音羽の瀧と云ふ、高さ三丈瀧五尺、觀望甚だ壯偉なり、又此山の麓大字北音羽に響石といへる奇石あり、之を擊ては鐘々の聲を發し、其中心空虚なるに似たり、又同所に音羽寺と

號する一古刹あり、一に善法寺と稱す、

男坂 大和國宇陀・磯城ノ二郡ニ跨ル、登路「式按スルニ、宇陀郡神戶村大字半坂カ」凡十八町、

嶽山 大和國宇陀郡ノ西方ニアリ、榛原町大字萩原字西峠ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、

金平山 大和國磯城・山邊・宇陀ノ三郡ニ跨ル、磯城郡上之郷村大字白木ヨリ一里四町、大字小夫字西畑ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百二尺、

貝平山 大和國宇陀・山邊ノ二郡ニ跨ル、宇陀郡榛原町大字赤瀬ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百二尺、

茶白山 伊賀國名賀郡ノ西方ニアリ、錦生村大字黒田ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百六十八尺、

鷹塚嶽 伊賀國名賀郡大和國山邊郡ニ跨ル、名賀郡薦原村大字葛尾ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百七尺、

三輪山 (別稱三諸山、神南山、神並山、雷岡) 大和國磯城郡ノ中央ニアリ、三輪町大字三輪ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百二十三尺、

央ニアリ、東市村大字鹿野園ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

三輪山や花より後の影もよし 讀人不知

しげきがもとに若葉さす頃

山雀の響りぬけたる三輪の山

むれる蚊の杉に燃るや三輪の山

ニアリ、經向村大字穴師ヨリ凡十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百九尺、

卷向山 (別稱經向山) 大和國磯城郡ノ東方

國見嶽 大和國添上・山邊ノ二郡ニ跨ル、添上郡田原村字狐窪ヨリ凡二十三町ニシテ其山頂ニ達ス、

一臺山 大和國添上郡ノ北東方ニアリ、大柳生村大字柳生字砂川ヨリ凡十六町ニシテ其山頂ニ達ス、

高圓山 (別稱白毫寺山) 大和國添上郡ノ中

央ニアリ、東市村大字鹿野園ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

春日山 大和國添上郡ノ中央ニアリ、奈良町字小九折ヨリ凡二十町餘、春日神社ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百四十六尺、

春日山 春日神社の上方に懸たる峰巒を云ふ、此山三峰あり、一を木宮(ホンクラカ)嶽と云ひ、又浮雲(ウキクモ)山の名あり、一を水屋(ミヅノ)峰と云ひ、又羽賀(ハガヒ)の山と稱す、一を高(タカ)峰と云ひ、又香山(カウセン)とも號せり三嶺層巒、松杉陰翳、青蒼翠翠、能く秋・冬に耐へて其色を變せず、常に奈良市街の一儼觀たり、



春日山

春日山いはれの松は君かため
千とせのみかは萬代そへむ
青海原波より出る影はあれと
春日の山の月そ戀しき
今幾日秋の夜詣を春日山
能 因 期 其 角

金剛山塊

荒坂嶺 河内國北河内郡山城國總喜郡ニ跨ル、北河内郡山田村大字田口ヨリ三十二町ニシテ其山頂ニ達ス、

高尾山 (別稱松尾山) 大和國生駒郡ノ南方ニアリ、片桐村大字小泉ヨリ凡十九町ニシテ其山頂ニ達ス、

生駒山 (別稱膽駒山、伊駒山) 大和國生駒郡河内國中河内郡ニ跨ル、生駒郡北生駒村

夕立やひかり頼うつ伊駒山 登伊駒山 津田 綜 多 宿霧蒼茫望杳然、危崖取路入遙嶺、柏楓半染新霜後、鳥雀漸飛殘月前、水確伊亞逐風響、樾歇斷續隔懸傳、暗曜寒日東升處、愛看山容次第妍、 僧 海 景 寶山遙響午時鐘、幽谷深林翠霧封、四海晴分千里水、五畿相接幾重峰、上方高掛安禪座、絕壁長存仙聖蹤、還恨勝緣猶未熟、無因衣鉢此從容、

大字茶畑ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千百十二尺、

《名勝》 東部に小峰あり、呼んで岩屋山といふ、一峰一岩、巖峯巖然、傳へて役優婆塞修道の遺跡なりと稱す、麓より躋る(生駒山ニ)と凡そ二十町許にして一寺あり、寶山寺と名く、山上最高の處には虚空藏を安して露上開と唱ふ、其他歡喜天祠、觀音堂、彌勒佛、辨財天祠、役行者堂、十三級石塔等本堂の邊及び山嶺に遶する岩石の間に立ち、崎嶇峻嶒、仰望するも猶ほ登陞の危きを想はしむ、《河名》 山麓南北長し、峰勢竄にして峻しからず、岩石大樹なし、只篠原にして常に風雨し、京師より南方に見ゆる峰の廣き山これなり、大坂よりは東にあたりて中に暗(クラカリ)峰あり、傳云、和銅四年正月、河内國高安の烽火を廢して始て高見の峰を置、と日本後紀に見へたり、高見は嵯村の北にあり、萬葉集に生駒山の飛火といふは此所なり、

和川のへや大江の岸にやどりして 震井に見ゆる生駒山かな 巽 沖 雌波瀉あしの若葉に鷹なきて 生駒の山の霞む横雲 宗 靜 生駒山を乗越て来るや今朝の春 暮らさゆる雲間や斑毛生駒山 善 貞

本州中部 飛騨高原

三間石山 (別稱河内越) 大和國生駒郡河内國中河内郡ニ跨ル、生駒郡平群村大字襟原字中筋ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、 信貴山 (別稱井上山) 大和國生駒郡河内國

《名勝》 山勢峭絶、滿山櫻樹多く、又到る處歐を生ず、春至れば大坂より遠く此地に來りて花の艶麗を賞する者絶えず、山嶺に鷺尾寺あり、阿彌陀を安す、

中河内郡ニ跨ル、生駒郡三郷村大字西勢野ヨリ凡三十町、中河内郡中高安村大字山畑ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百三尺、

〔風景〕大阪鐵道八尾停車場の東五十町、王子停車場の西北一里二十五町、中腹信貴畑に朝護國孫子寺あり、毘沙門天を祀る、山は聖德太子官軍を率ひて物部守屋を追討せし處、毘沙門天は楠公幼時の守本尊たり、絶頂よりは大和全圖を雙眸中に收め、齒も及ばず、〔名勝〕山嶽に到れば東に大和一國を望み、西は攝河、泉の三國雙眸の中に集まり、眺望絶佳、城趾。古へ當國(大和)の古吉川某の築く所たり、天正年間、松永久秀之に據り、織田信長の爲めに攻められて克たず、終に火を放ちて自殺せり、〔大名〕聖德太子官軍を引率して守屋大臣を攻玉ひしに、大臣の軍兵手痛して、官軍三度被れて信貴山に逃入けり、太子御誓願丹心に待りければ、山中に石櫃あらはれて多門天の銘明なり、深く信じ寶み玉ひて自膠木にて四天王の像を刻み御誓に收られ、更に進み玉ふ所に、生駒山の麓にて老武者二騎忽然と味方に仕れり、おそらくは修羅をも欺くべき猛將なり、遂に守屋を討ければ、大臣(老武者)雲に乗じて跡をかくす、探てかの多門天の石櫃の上に方一丈の殿舎を建給ひき、信貴山の毘沙門天是なり、其時皇太

子此山に向はせ給ひて信ずべし資むべしと、宜ひしより信貴山とはいひけるなり、〔和志〕峰巒潤深、蒼樹密茂、

信貴山

石 盤 來

重階抽樹杪、層閣掃雲間、飛鶴何處去、秋光添暮山、

信貴山(王駐蹕地、見太平記) 孔 文 雄

帝室豪雄大塔王、軍中親提練沈槍、當時十萬停兵處、但有巍然一道場、

望信貴山

中井 櫻洲

滿天炎熱入和州、往非回頭無限愁、信貴山頭雲噴勃、老好碎釜亦風流、

二上山 (別稱尼上嶽、大坂山、二子山)

大和國北葛城郡河内國南河内郡ニ跨ル、北葛城郡二上村大字穴虫ヨリ凡一里十四町、當麻村大字加守ヨリ凡十八町、南河内郡山田村大字山田ヨリ一里餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百九十八尺、

〔風景〕山は男嶽女嶽の二峰に分る、二峰の間に當麻街道を通ず、男嶽の中腹に城趾あり、麓に古松ノ堅岩あり、高サ九間幅三間なる片麻岩峭立し、上に古松一株孤尊す、頗る奇觀となす、〔硯岩〕抱岩〔岩窟〕あり、女嶽の麓に〔岩窟〕あり、



山上二

皆な片麻岩、〔名勝〕其高き峰嶽を男嶽(ナダケ)と稱へ、低き者を女嶽(メダケ)と云ふ、別に北方に小峰あるを銀(シロガネ)峰と云へり、山中城趾あり、昔山田氏の據る所なりと、又瀑布あり、高き凡そ丈餘、大和・河内等の土俗、此山を二子山と稱して其奇景を愛し、古歌に之を咏する者亦多し、〔四國〕山田村より當麻に至る岩屋越といへるは、此兩峰の間を隔り行なり、道峻険にして狭く、一圓脚を踏み違ふときは忽ち數十間をすべる、俗に是を石車といふ、河内より大和路に越る内にて第一の難所也、然れども當麻寺に至るには、此道ならては其便よからず、故に險路をしのぎて各々を行なり、〔河志〕淡中出金剛嶽、

時雨ふる二上山を見渡せば

柿もあけに染めてけるかな

玉篋二上山の高峰より

先見えそむる故郷の松

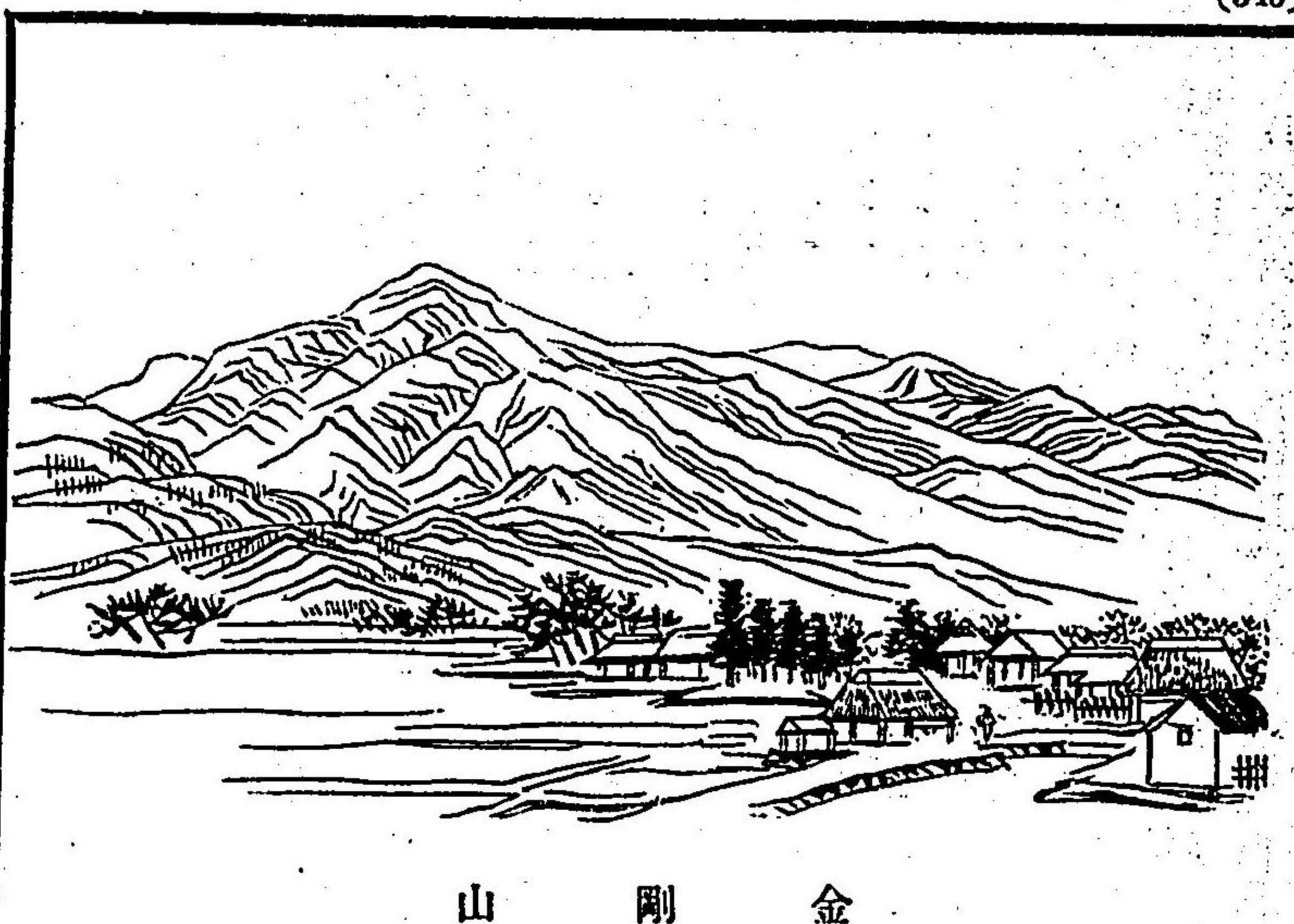
二上や橋からけし露の露

行 家 之 山 行 家 之 山 行 家 之 山

竹内嶺 河内國南河内郡大和國北葛城郡ニ跨

ル、南河内郡山田村大字山田ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高九百二十七尺、

葛城山 (別稱葛木山) 河内國南河内郡大和



金剛山

む、(名勝) 赤坂村森屋より登り四里(千早村大字千早より同く二十八町)にして山頂に到る、其途中に甲取坂・屏風坂等の険あり、山勢峭拔、頂に登れば四方眼界を遮るものなく、眺望百里の遠きに達す、亦一國中の絶景なり、山頂に行者堂あり、畿内最高の峰嶺に属し、眼を放てば五畿悉く眼界に落ち、紀伊・淡路・播磨等の諸山亦指點の中に在り、頂上より四に下ること二町許の地に寺院あり、名けて金剛山寺と云ひ、又轉法輪寺と云ふ、本堂・御影堂・大黒堂・開山堂・求聞持室其他数多の小堂・僧舎・文殊窟・石寶殿等、嶽上小峰の間に散點し、嵯峨たる險路迂回曲折して之を遶る、金剛山の北方水越嶺といへる地に、河内より大和へ通ずる山路あり、楠氏の吉野行宮に往還したるは、常に其路を取りたりとぞ、(河名) 頂嶺を大日嶽といふ、本堂の北の方なり、國見山は坊中の西なり、此所當山の勝地にして、邇に遠望すればおしてるや浪花の浦江、大阪の萬戸、分口の泊船、北の方に大物の城、西宮・兵庫・和田・一谷、はいわたる程といふ須磨・赤石、落かゝる淡路島山、阿波の海、紀の海、芽停の浦々まで見へ渡りて風色いちじろし、こゝも元弘の古城にして楠正季守り、東軍を直下に見おろし奇手を瀝の計をめぐらしけるとかや、峰は樹々深して三伏の炎夏を忘れ、漸櫻花は卯月の末に開て時鳥も啼とかや、實に仙境に至るの思ひあり、

白雲の八重立つ峰と見えつるは 匡 房

高天の花さかりかな
いく里をかけて啼らむ葛城や
東 麻 呂

後醍醐院の御時、金剛山にて戦ありけるに、人多く命落したるよし聞えける頃、
徒に名にかへてたに捨身を
法のためにはなをなむらむ
更に見る金剛山も秋の風
會 羅

登金剛山(有序、畧曰、唐譯華嚴經説、海中有處、名曰金剛山、現有菩薩、昔經成和尚登山感靈異云)
僧 道 費

昆盧現說此靈踪、萬古海東秀一峰、擬問法門何處起、雲生足下幾重々、
橋 本 桂 園

松下回繁路、枯筍踏石行、幽禽似呼客、奇草不知名、林盡天初昏、溪深水自鳴、梵宮知已近、雲外送鐘聲、
類 山 陽

南遊往反、數浮金剛山、想補河州公之事、慨然有作、
山勢自東來、如鳥開雙翼、遙來大江流、相望列黛色、南者金剛山、挿天最峻巖、拖尾抵海峽、蜿蜒隨兩城、隱與城郭似、擁護天王國、想見豫章公、孤處扞群賊、合圍百萬兵、障雲橫萬里、臣豈不自惜、受託由面勅、灑泣誓吾旅、爲君

本州中部 飛騨高原

塵鬼賊、果然七尺軀、自有回天力、宕數連武庫、隔江對正北、公死實在彼、在公盡臣職、所惜環長城、寧支大厦仄、吾行歷泉紀、往反緣大鏡、顧瞻山海間、慷慨三大息、丈夫有大節、天地賴扶植、悠悠六百載、靈雄迭起路、一時盡人眼、難洗史書盛、仰見山色蒼、萬古淨如拭、

遊金剛山記 土屋 鳳洲

翠黛橫天、群嶺擁之、巖然跨河和兩州者、金剛山也、歲之丙寅、吾始得登遊焉、山上有精舍、曰轉法輪寺、曰最上乘院、結搆雄偉、古實可觀、有天主祠、有大日堂、有清泉、冷冽甘美、有奇石、狀如世所謂大黑天、名福石、河和之際、以此爲界云、凡山中砂礫、盡作金色、時天將午、紅日下射、光彩燦爛、殆如身在黃金界者、寺北巖然高聳者、曰大日嶽、是爲絕巖、西下數町、有國見嶽、松林森鬱、眺望甚佳、北俯華城、四眺阿山、淡島之黛色、茅渚之波光、摩耶明石之風烟、歷々在膝下、傳元弘之初、楠公築壘於此、俯視敵陣、以爲攻守之計、又下數町爲千早城壘、屹立千仞、四山圍合、溪流繞其間、城凡三層、其第一、境尤狹、上有小祠、祭八幡神、壘以鎮護、城中云、有古松數株、磊砢蒼鬱、翠柏擁天、其第二第三地頗平曠、滿茅生之、無復他異、壘之東北、有左馬頭正儀墓、今存石塔一基、按天授六年正月七日、左馬頭卒於本城、蓋葬於此也、其傍有楠氏臣戰死塚、其東北有溫泉、名關關、飛流十餘丈、壘之南有號風鍾谷者、方百

呼浴室、爲風爐、留守城時、兵士所洗浴云、其旁五泉所在、
 亦高十餘丈、噴沫激迅、掩映樹間、幽邃可愛、其橋斷雲梯
 之處、欄楯維繫之址、亦隱々可觀、因藉草而坐、仰觀山嶽
 之秀異、俯臨溪流之清激、思古撫今沈吟數刻、不忍去、既
 而落日暉臨、凄風蕭颯、殺氣逼人、不可久留、乃慨然而
 降、此夜宿山下村家、主翁爲余語曰、山凡有三道、其一從
 森屋村登、百四十町、經于早村至嶺、其一從水村登、六
 十六町而其一關大和、水有二道、其一從水越嶺流、爲水
 川、其一從山上出、經于早東坂、爲于早川、二水至森屋村、
 合流入石川、又水分村、有楠公祠、又有其壘址、上二十餘
 町、有赤坂、小根田、若山、踏路山、踏城址、而赤坂尤顯、
 今猶存玉院、城門、合擊、馬場等之名、又森屋村東南、有
 下赤坂城址、其上有金胎寺遺蹟、其他有烏帽子形岩、龍泉寺
 城等之跡、凡此數者皆爲千鳥澤原、特角應援、以奉制賊軍、
 此其守禦施設之概也、余於是知建武之事、雖曰由公之精忠
 大義、與智謀神勇、而山川城壁之助亦居多也、既記所見、又
 并記所聞、以告後游者、時慶應二年夏四月十五日也、

和泉山塊

九重嶺 河内國南河内郡紀伊國伊都郡ニ跨

ル、南河内郡加賀田村大字加賀田ヨリ一里十

七町ニシテ其山頂ニ達ス、

藏王嶺 (別稱三國嶺) 河内國南河内郡紀伊

國伊都郡ニ跨ル、南河内郡高向村大字瀧畑ヨ

リ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百五尺、

七越嶺 (別稱横山、櫛形) 和泉國泉北郡河

内國南河内郡紀伊國伊都郡ニ跨ル、泉北郡南

横山村大字父鬼ヨリ一里十五町餘ニシテ其山

頂ニ達ス、標高三千二百三十一尺、

〔和名〕山頂に曲路七盤あり、父鬼納花を経て卷尾に至る、
 山徑險峻にして、これを檢原路といふ、

七越の上にたかきつ雲の時

七越や照日幾度幾時雨

榎尾山 (別稱卷尾山) 和泉國泉北郡河内國

南河内郡ニ跨ル、泉北郡西横山村大字坪井ヨ

リ一里十四町、南河内郡高向村大字瀧畑ヨ

リ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

〔名勝〕施福寺。榎尾山の嶺に在り、山は海面を抽く二千
 八百尺餘にして、西横山村大字坪井より登ること一里十四町
 之を表道と云ひ、河内國錦部郡瀬加より同く一里、之を裏道
 と稱す、施福寺は元と眞言宗、寛文年間以降天台宗となり、
 四國巡禮第四番の札所とす、今は寺城四千六百二十坪を有
 し、境内頗る深遠にして、眼目爽快、峰中の最も高きを兜卒
 ケ嶽と云ひ、卒都婆ヶ嶽、捨身ヶ嶽等之に次ぎ、其他清水の淵、
 隠れ水等、皆山中に在り、又賽路は榎尾川の右岸に沿ひて登
 り、路傍に杉の並木ありて數町の長きに亘り、且一町毎に石
 標を建て、何町目と刻せり、樞門を過ぎ給は行くこと數町に
 して磴下に達す、磴は殆ど八百級を有し、峻々として登り易
 からず、其裏道に至りては殊に峻険を極む、〔泉志〕四嶽八
 峰、層巒若翠、宛如蓮華、山中有四十八瀑三十六洞、

天野山 河内國南河内郡和泉國泉北郡ニ跨

ル、南河内郡天野村大字下里ヨリ凡二十三町

ニシテ其山頂ニ達ス、

〔河名〕翠巒高低同じからず、溪流の水音啼鳥に交ゆ、特に
 時鳥の名所にして聲も聞ゆる事多し、〔河志〕巖邊谷幽、清
 閑奇絶、

河内の國天野山にものして、正儀朝臣の物見松を見つゝ、
 懷舊禁へがたければ 小杉 楓村

今も猶ほ君が物見の松の色に

かへ操を仰ぎてぞ知る

葛城山 (別稱三國嶽) 和泉國泉南・泉北ノ

二郡紀伊國伊都郡那賀ノ二郡ニ跨ル、泉南郡東

葛城村大字塔原ヨリ凡一里八町ニシテ其山頂

ニ達ス、標高二千八百十七尺、

牛瀧山 和泉國泉北郡ノ南方ニアリ、山瀧村

大字大澤ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

〔名勝〕山中に牛瀧あり、三層となりて落下す、一の瀑高さ

二十五丈、二の瀑一丈二尺、三の瀑三丈六尺、幅各々八尺、

即ち牛瀧川の水源にして、此瀑布あるが爲めに直ちに取りに

名とす、山腹に大威徳寺あり、又瀧山楓樹多く、秋老い霜深

き頃に至れば、樹葉悉く紅を漲らせ、宛も蜀錦を織るに異な

らず、〔南海鐵道岸和田停車場ヨリ三里アリ、人力車ヲ通シ得

此景ヲ賞せん爲め、大阪・堺より驅・行府ヲ携へつゝ來り遊ぶ

者頗る多しと云ふ、〔泉志〕有瀑布三、直下數仞、潭心巨岩、
 形似臥牛、因名、山頂有洞、風數出、

行きて見て紅葉は分くる秋もあらば 實 陰

何牛瀧の山郭公 常

遊牛瀧山

四風蕭颯動香臺、碧樹紅楓滿徑開、兩岸青山千萬疊、溪流一道自天來、

牛瀧山

松尾香草

神房來投宿、岩洞到殘更、閉窓月未上、山深寒易生、醉臥不知濕翠響、夢裡猶爲風雨聲、

水飛石欲隨、寺危巖難攀、溪語客入語、一運霜風間、繞階一峰旭始上、眼前照出紅錦山、

風猛山

紀伊國那賀郡ノ北東方ニアリ、粉河

村大字粉河ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

ス、

花衣かざらぎ山にいろかへて

讀人不知

犬鳴山

(別稱燈明嶽)和泉國泉南郡紀伊國

那賀郡ニ跨ル、泉南郡大土村大字大木ヨリ凡二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百十八尺、

〔名勝〕山容峻拔、坂路崎嶇として登り易からず、山腹に七寶瀧寺あり、又山中に七瀧あり、第一兩界瀧は高さ三丈幅三尺、第二塔瀧は高一丈二尺幅三尺五寸、第三懸天瀧は高さ一丈八尺幅一丈、第四固津瀧瀧は高さ十二丈幅三尺、第五奥瀧は高さ七丈二尺幅四尺、第六千丈瀧は高さ四丈二尺幅四尺、第七布引瀧は高さ三十六丈幅三尺、皆大井關川の水源なり、昔一人の獵夫あり、一日此山に獵す、伴ふ所の獵犬頗りに吠えて其主に迫る、獵夫怒つて之を斬りしに、犬の頭飛んで溪間に至り忽ち毒蛇を嚙殺す、蓋し獵犬の腰々鳴きたるは、毒蛇が獵夫を呑まんとするの急を告げたるものなり、後獵夫は犬の死を悲しみ、雜髮して佛門に入れり、故に山を犬鳴と云ふとぞ、

遊犬鳴山

橋本桂園

南邊岸城蹊不平、青山疊々送還迎、秋風十里不知倦、品草野花到犬鳴

雲鎖柴門僧未歸、林間停杖立斜暉、翻空乾葉繁於雨、却訝風穿濕客衣、

漢狗墳(犬鳴山)

藤澤南嶽

犬鳴山深秋色老、落葉埋蹊濕不燥、左瞻時見漢狗墳、墳上荒草無人掃、聞昔獵夫夜入山、手牽此狗過溪澗、窺獵鹿鹿不可迹、意倦且踞冷石眠、飛瀑擊岩激如咽、缺月帶霜骨亦寒、巨蛇懸在老樹杪、獵人饑口口流涎、狗眼如炬早認之、四脚蹶地號吠酸、聲々悟主主不悟、愕視却訝狗即獵、刀光一閃斫狗首、首忽飛揚咩咩々、涎涎忽墜地上死、始知狗也救險艱、悔恨悲嗟拋世界、投身山寺了宿緣、死猶救主真英存す、

て、堂宇壯麗を極めしも、後世頹廢して、今は其礎石のみを存す、

丹波高原

榮螺嶽

(別稱西方嶽)越前國敦賀郡若狹國

三方郡ニ跨ル、敦賀郡松原村大字色濱ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百八十八尺、

〔名勝〕在丹生浦東南、高而形如榮螺、因名、

螺嶽夕照

僧 義 應

野坂嶽

越前國敦賀郡若狹國三方郡ニ跨ル、

敦賀郡粟野村大字野坂ヨリ凡一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千五百尺、

行市山

近江國伊香郡越前國敦賀郡ニ跨ル、

伊香郡片岡村大字池原ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百七十七尺、

烈、烏龍黃若何足說、獸也雖發事則偉、片石泥濘長不滅、近世邪說亂紛々、滲俗亡父又亡君、願驅海內數輪徒、盡入此山拜此境、

雲山峰

紀伊國海草郡ノ北東方ニアリ、直川

村ヨリ凡一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、

懺法嶽

紀伊國海草郡ノ北方ニアリ、登路〔式

按スルニ、直川村カ〕凡三十五町、

〔地辭〕大福山辨天窟より北に登る五十町、又修驗行所也、岩石巖峨たり、

大福山

紀伊國海草郡和泉國泉南郡ニ跨ル、

登路〔式按スルニ、海草郡直川村カ〕凡一里四

飯盛山

和泉國泉南郡ノ南西方ニアリ、深日

村ヨリ凡三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高

千二百七十四尺、

〔名勝〕山容飯を盛りたるが如しとて、何時となく斯くは呼び來りしとぞ、昔し山頂に飯盛寺あり、役ノ行者の開基にし

久須夜嶽

(別稱外面山)若狹國遠敷郡ノ北

方ニアリ、内外海村大字堅海ヨリ一里十町餘
ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四十三尺、

〔若越〕小瀧澤の前に登え、麓に内外海村あり、本國北方第一の峻嶺なり、嶺上本國一面を瞻るのみならず、越前の山河は隱々として雙眸の中に入り、遂に西北を望めば、水天駭駭青一髪の趣ありて、人をして氣宇自から雄大を覺しめぬ、又此山は海岸に面するを以て外面山といひ、亦俗に泊山と呼ぶ、暖春盛夏の交まで残人の聲を越くを常とす、〔若群〕在堅海浦、高山而春日尙有殘雪、民間誤稱泊嶽、然泊嶽翠峰、而在久須夜之西、

今日もまた雪やふりかむ風さえん 作 信 友

久須夜嶽に雲のかゝれる。

多太嶽

(別稱太田嶽、多田嶽)若狹國遠敷郡ノ中央ニアリ、今富村大字多田ヨリ一里

十町餘(或云一里十四町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百五十尺、

〔若國〕峰頭高聳、衆山無比並者、舟人遙望爲渡海標的、有谷、曰蛇谷、其上方有溪、曰布溪、流落十丈許、似掛白布、

故名、〔若群〕形如屋頭稜角、

多田か嶺は鹿の子斑に雪消えて

伴 信 友

八峰

(別稱蜂峰)丹波國船井・何鹿ノ二郡ニ

跨ル、船井郡上和知村大字佛主ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

和田山

(別稱安土山)若狹國大飯郡ノ北東

方ニアリ、本郷村大字犬見ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百三十尺、

春の夜の月弓張になる時は

讀人不知

安土の山には見ゆらん

青葉山

(別稱青羽山、彌山)若狹國大飯郡丹後國加佐郡ニ跨ル、大飯郡内浦村大字神野

ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百七十六尺、

〔風景〕日本海岸に聳立す、頂よりは神角海光の眺望闊大、〔若越〕高く峙つ故に國人之を須彌に比べて彌山とも呼ぶ、

知井山

(別稱中山)丹波國北桑田郡ノ東方

尺、

鬼城嶽

(別稱大江山)丹波國天田郡丹後國

加佐郡ニ跨ル、天田郡庵我村大字猪崎ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百九十六

彌仙山

丹波國何鹿郡丹後國加佐郡ニ跨ル、

何鹿郡東八田村大字於與岐ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

青葉の山といはいふなり

伴 信 友

二ならび神のうらはく春の嶺

知 家

青葉の山に風かほるなり

忠 房

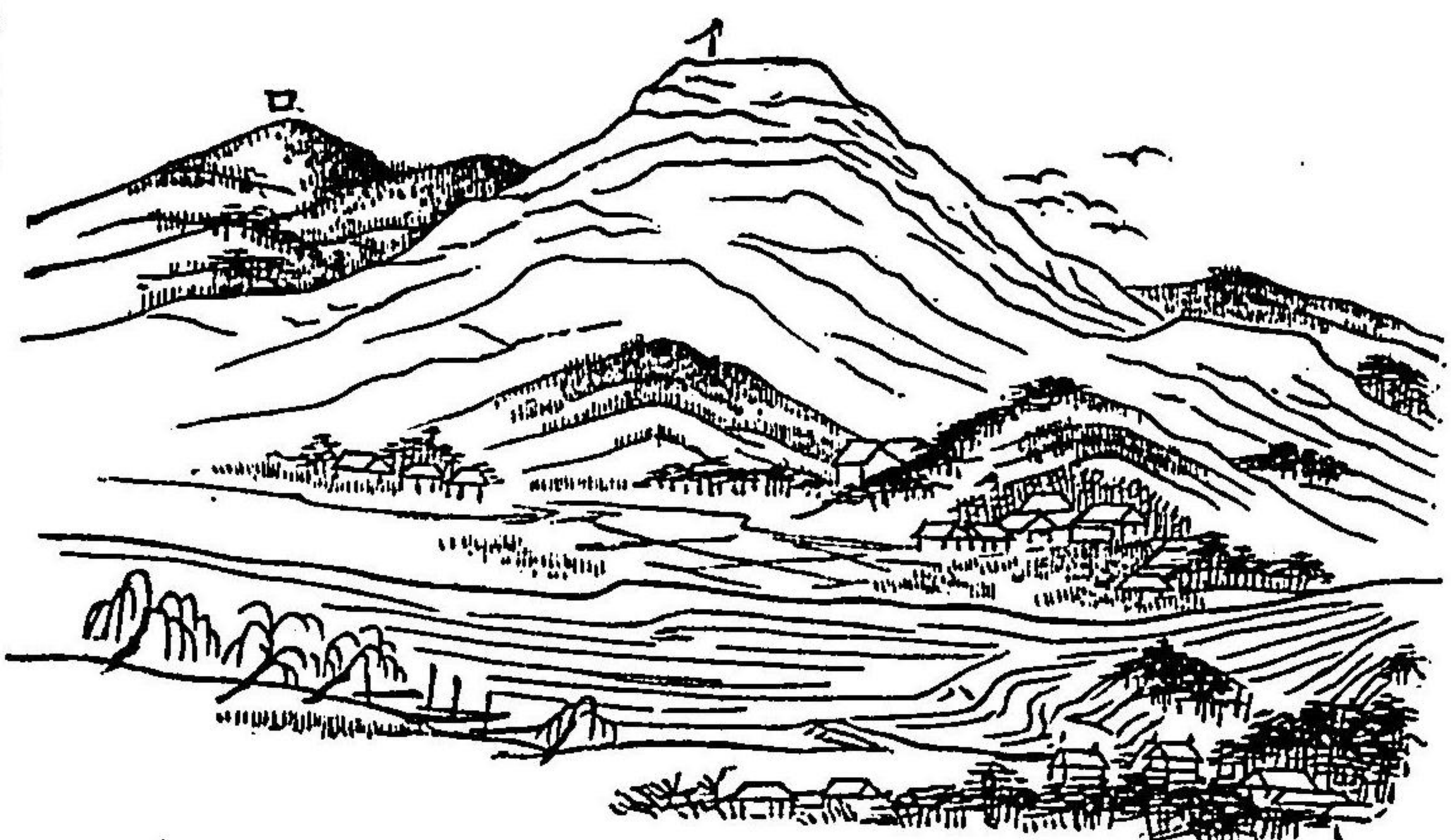
春はくれともなほさむきかな

秋やくる色はつれなき常磐木の

容圓くして突れるは、古より名蹟の一に數へられ、山の樹木生い茂れること鴨頭カモガしらの如しとて、青羽山とぞ名づけり

〔若國〕東西相對者二峰、各置神祠嶺頭、林木叢密、四處有堂、世所謂第二十九番松尾觀音即是、

露きえぬ青葉の山のおなつし



川無音ニ町山知福ハ(嶽丈千)山江大、嶽城鬼

ニアリ、〇〇村字餘戸〔此村當時何村ニ附屬スルヲ知ラズ、山足ナル知井、平屋、御岡ノ三村役場ニ照會セシモ、詳カナラズ〕ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

〔近江ニテ中山ト云〕

大悲山 (別稱北大峰、大布施山) 山城國

愛宕郡丹波國北桑田郡ニ跨ル、登路未詳、

〔名勝〕京都を距ること大略十里許、山深く谷幽にして、積陰寒涼、人跡の到る稀なり、山腹に一寺院を營む、大悲山峰定寺と號す、山下の權門より本堂に到るまで十餘町、石段崎嶇、松栢鬱茂して、攀躋し易からず、中間の路傍に俊寛僧都一族の塔あり、山中奇蹟多く、獅子岩と云ひ、靈鏡石と云ふ、共に山嶽に在り、其形の類似するが故に名く、又乳石は門前の南方十六七町を隔て幽谷の中に在り、石面平坦にして裏面に乳房の如き者十四箇を突起し、漸濛常に津液を滴らす、産婦の乳汁に乏しき者、一たび此津液を得て之を喫すれば、爾後又乏しきを患はずと云ふ、

比良山 (別稱比聯山、平山、小松山) 近江國

滋賀郡ノ北方ニアリ、木戸村大字八屋戸ヨリ一里十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千八百七十五尺、

〔風景〕大津町より絶頂まで六里二十餘町、頂よりは琵琶湖を下瞰して絶佳、〔名勝〕近江第一の高峯にして、雪を以て名高く、初冬より三月まで峰上常に白雪を戴き、京都より之を見るに尤も鮮なり、〔地辭〕土人は小松山とも曰ふ、〔近名〕又比良ノ高峯ト云フ、此山ノ總名ナリ、其山脈ハ高島郡樗ヶ嶽ニ連リ、四南ニ長直連延ス、周圍十五里二十九町アリ、山頂ハ寒冷ニシテ樹木ナク、茅葎叢生ス、冬ハ霜雪ニ埋モレ、銀光湖上ニ映ス、

都まで寒さぞ見ゆる峠越しの
比良のとは山登ふりにけり
近江路や北より冬はきにけらし
比良の大山まづしくれつゝ
風雲や時雨を溶る比良おもしろ
初雪や四五里隔て比良の嶽
比良峰
湖邊山嶽色、國統百千重、夏天猶掛雪、猶有比良峰、
比良餘雪
湖上有八景、比良甲北間、花柳春融日、餘雪白斑々、最是

本州中部 丹波高原



比良山

山人得意處、城中景即是故郷山、

標嶽 (別稱武奈嶽) 近江國滋賀・高島ノ二郡ニ跨ル、登路未詳、標高四千八尺、

〔近名〕絶頂ニ上レバ、若狹一國及ヒ江州北部ハ、眼下ニ見ルヘシ、

三尾山 (別稱水尾山) 近江國高島・滋賀ノ二郡ニ跨ル、高島郡高島村大字拜戸ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

みを出る朝日影
くもりなき世の春のみすらし
ふきおろす風の音も高島の
三尾の山嶽ふりにけり

比叡山 (別稱神叡山、日枝山、天臺山、臺嶺、長嶺、北嶺、大嶽、鷲峰、都富士、我立杣) 近江國滋賀郡山城國愛宕郡ニ跨ル、

滋賀郡坂本村大字坂本ヨリ一里一町餘、愛宕郡修覺院村大字一乗寺ヨリ一里十四町ニシテ

其山頂ニ達ス、標高二千七百九十九尺、

〔風景〕京都市より田中一乗寺を經、二里三十一町の間人力車を驅り山の四麓に達す、又大津町より正北一里二十町人力車を驅り、官幣大社日枝神社に臨る、社より登ること十町花摘社より延曆寺中堂まで二十町、中堂より八町絶頂に達す、頂は「四明峰」と稱す、京都の全市、加茂川の平原、琵琶湖の全林、「近江八景」悉く眉端に集り、宛然一大パノラマ、唯だ北方のみ比良嶽に遮断せらる、〔名勝〕山城より此山に攀づるに二路あり、一は修學院の東盤母坂よりし、一は八瀬よりし八瀬よりする者は先づ横川に入り、雲母坂よりする者は先づ無動寺に到り、次ぎに東塔に入るべし、凡そ叢山に三塔あり東塔と云ひ、横川と云ひ、別に無動寺は東塔の南谷を隔て、數町の外にあり、琵琶湖を隔て下望み、沿岸の好景悉く雙陸の間に集る、東塔は北觀院と號し、無動寺の北にあり、西塔は寶塔院と號し、東塔の北にあり、横川は又西塔の北に位し、東塔より之を望めば距離甚だ近きが如きも、山路迂回して殆んど一里半餘を隔てり、山中名勝古蹟多く、一々枚舉するに遑あらず、老杉・翁松峰を掩ひ谷を埋めて陰鬱、雲霧は暗き處あり、秀巒峻嶺空に沖し雲に峙り明塔、天亦近き邊あり、四明嶽は嶽中最も高峻なる嶽嶺にして、海面を抽出すること二千七百餘尺、天氣清明の日の如きは、遠く四圍の諸山を望むべしと云ふ、畢竟山氣の清冷なると眺望の佳絶なるとは、此



比叡山

山登陞者多からしむる所以にして、殊に都市の炎熱中にあるが如き日は、來つて暑を避る者多く、大阪・神戸等に居住する外國人等は、毎年天幕を山中の林間に張り、妻子を擧げて之に起居し、暑月を過す者少くなからずと、〔地誌〕四明峰、秋晴の日には富士山を見ると稱す、不審、〔近名〕上古ハ此山樹木繁茂シテ、日光樹枝ニ遮蔽セラル、故ニ日枝山下名ク、又比江山トモイフ、傳教大師延曆寺ヲ創立セシヨリ、歷世ノ 天皇宸信ノ厚キ山ナルヲ以テ比叡山ト改ム、大嶽ハ其最高ノ處ナリ、四明嶽トモ云フ、坂本村ヨリ東塔ニ上ル路アリ、峠上マテ五十町、又無動寺谷ニ上ル路ニ條アリ、横川ニ至ル路アリ、甚々峻嶺ナリ、又仰木村ヨリ横川ニ入ル路アリ、峠上ハ樹木少ク茅・篠叢生ス、是ヨリ西望スレハ京都市街ハ直下ニ在リ、數萬ノ人家風煙ノ中ニ隱見シ、遠クハ大和・河内・攝津ノ諸國一望ノ下ニ歸シ、又東ヲ望メハ琵琶湖ハ一葉帶水ノ如シ、往來ノ船舶ハ木葉ノ波ニ點スルカ如ク、近江全國ノ風景ヨリ、遠クハ伊勢・美濃ニ及ヒ、又北ヲ眺望スレハ若狹・越前ノ群山ヲ見ル、實ニ人ヲシテ羽化登仙ノ思アラシム、ひえの山、いづより風の冰りけむ 左大将 都は今朝そはつ雪の空 晴登るあさ日の雲のしたことに 覺 性 初雪ふ、く比叡の高山 季 暈 朝日さす愛宕の高根雪消て

かへりみすれば霞む大日枝 五月雨や二十日京見ぬ比叡の山 三千風 谷々の岩經寒し比叡の山 許 六 比叡落霞 皆川 淇園 白日峰頭隱、清風湖上微、時吹霞片落、暫嘆碧蓮飛、 比叡山 劉 君 風 閑坐觀峰雲霧間、清風六月拂仙裳、玉皇當日展前雪、一點 香爐是此山、 四明峰 藤 井 竹 外 脚底千峰撥刺天、今朝得踏四明嶽、吾家住在瀨江上、望盡 青嶽三十年、 上四明峰 齋 藤 拙 堂 衆上四明頂、壯觀勝昔聞、朝尖猶高島、鞋底起層雲、湖水 琉璃淨、京城金碧分、飄然小天下、欲共羽仙群、 比叡山 高 井 對 雲 天邊遠上最高峰、綠色湖光入眼濃、遙拜皇城金闕閃、近臨 僧刹翠巖重、東山壯闊長留影、伏水翻瀾方絕蹤、指顧四來 多得失、獨看蒼嶺舊觀容、 秋俗比叡山 僧 無 學 三峰秋突兀、數里路崔嵬、城闕九重近、江湖萬頃開、寶塔凌 雲出、花雨下空來、松杉圍僧舍、丹青照佛臺、飛泉鳴玉壘、 落葉布金堆、日汲溪禽噪、天寒野鹿哀、澄心山月靜、驚夢

曉鐘、夙讀祖師傳、愈知濟度才、似攀蓋掛頂、直問石橋

遊比叡山記

中村敬宇

京師師曰、勿告叡山路、天狗將攫人、蓋謂其道之錯午難辨也、予登叡山、時方初夏、藤花蘇々、猶懸於岩際、而時有老鷹之嘯、物々天趣、使人欣然、兩山夾帶間、行二里許、路漸高、四望舒豁、如行馬背上、俯視琵琶湖萬頃、玻璃倒涵雲天、而環湖諸峰、隱然如合、淡粧淡抹、遠近競呈、蓋絕景也、行林薄間、或低或高、時見層塔朱樓、與蒼崖翠壁相映、疑瓊宮瓊臺、有欲從末由之嘆、予始聞門生會游者說、云自四明峰東繞而下、觀唐崎松、順路也、偶見路傍一叟、稱新而坐、就商以是言、叟笑曰、若爾、則客所已經之路、與其言反、自此而四明在西、唐崎在東、鼠腹背之別也、余於是決意而四矣、四明峰高又幾層、移刻而至其上、四眺連峰疊嶂、圍繞最都、而獨缺其南、俯瞰山下滾々一氣、若有城郭人烟者、而鴨河一條、如白蛇蜿蜒于地而已、時日暹晚、梵唄遠響、俯仰間、百端交集、既歸宿舍、回想其所經之路、頭尾不相接、難容恍惚、如尋春夢、因謂門生曰、先其所游京師諸山、似唐宋人家之文、其蹊逕可得而窺、比叡則周秦以上之文也、如往而復、似斷而復連、來無知其所由、去無知其所在、苟不徒復百回、以尋其脈絡、而欲以一覽之間而盡之、其可得乎、或笑曰、子自迷道耳、叡山初不難知也、

長等山 (別稱滋賀山、志賀山) 近江國滋賀郡山城國愛宕・宇治ノ二郡ニ跨ル、登路(式按スルニ、滋賀郡大津町カ)十四町餘、

《近名》比叡山ノ南峰ヨリ山脈延々シテ三井寺山・相坂山ニ亘リ、又一方ハ如意嶽ニ及フ、高サ麓ヨリ八百七十尺アル所アリ、南遊賀村ノ四ニテ標嶺ト曰フ、錦織村ノ上ニテ宇佐山ト曰ヒ、神山村ノ邊ニテ相庭山・明神山・團子岩山等ノ名アリ、藤尾村ニテ道場坊山ト云所アリ、長等山ハ總名ニテ、一二志賀山トモ曰フ、

紅菜ちる長等の山に風吹けば 刑部卿範兼
にしきをたしむ志賀の浦なみ 輔 規
天地のとも久しき名によりて 契 沖
ながらの山の水御代かな
志賀の浦に打ち出れば春の日の
ながらのさくら山もかすみぬ

牛尾山 山城國宇治郡近江國滋賀郡ニ跨ル、登路宇治郡山科村大字山田ヨリス、里數未詳、

《名勝》牛尾山法嚴寺。山科村大字山田ヨリ凡そ二十餘町牛

尾山の牛腹に在リ(山ハ山科停車場ヨリ一里ニアリ)此山昔羽山の一峰にして、山形秀麗、老杉森々、又櫻、楓の二樹に富む山中法嚴寺に至る道路の右方に溪に臨みて岫々たる岩石の聲ゆるあり、名けて御經岩と稱し、弘法大師讀經の靈蹟なりと云ふ、又登ること須臾、右方に鏡子湖あり、左方に仙人洞あり、白糸流は一に布引流と云ひ、高さ凡そ三丈湖凡そ一丈五尺許、蛇ヶ淵は溪流の深潭をなす者にして、湖さ三坪に過ぎずと雖ども、水色藍の如く、其深さ幾尋なるを知るべからず、傳へ云ふ、古へ此湖に毒蛇の棲息するありて、常に毒脂人を噛ましたりしが、伊賀守景綱なる者射て之を倒したりと、而して堂後山嶺の舊地に登れば、琵琶湖を眼下に望み、眺眺頗る佳、又堂左の谷間に下たれば、所謂天狗杉なる者あり、幹太く梢高く、高所の巨枝其皮剝脱して削るに似たり、即ち天狗の時々來棲するが爲めなりと稱す、

《名勝》古へ惟喬親王此山上に高樓を築き、以て登臨の地に充てたりと傳へ、其名を有す、(嶺嶽突兀、翠巒重疊、晴天の日は絶頂より攝津・河内等の諸峰を望むべしと云ふ、絶頂に池あり、池畔古來種々の土器金具等を掘出することありと雖ども、之を收め歸る者必ず災害を蒙ると稱し、恐れて手をだに觸る者なし、又南方の山腹岩石の間より滴出する清泉あり、瀝の水と名く、亦親王の遺跡にして、嘗て田獵の時鷹に飲ひ給ひたる處なりと、

愛宕山 (別稱愛宕護山、阿當護山、愛太子山朝日峰、白雲山、嵯峨山) 山城國葛野郡ノ北方ニアリ、嵯峨村大字上嵯峨ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四十三尺、

《名勝》雄峻高聳、曲盤山嶺に到る、峰頭を白雲山と云ふ、東西二州を下瞰すれば、民居樹竹、歴々辨ず可し、山上に神社あり、又山中に土籠投の戲あり、土籠を執つて空中に抛てば、風に隨つて飄揚し、恰も飛鳥の如く、之を久うして始めて深谷に墮つ、其戲往々他處に在りと雖ども、到底此山に於てするの佳興に如かずと云ふ、(雍州)山上有五嶽、朝日峰大鷲峰高嶺山龍上山賀寬藏山、此山始號手白山、自移愛宕權現

《名勝》雄峻高聳、曲盤山嶺に到る、峰頭を白雲山と云ふ、東西二州を下瞰すれば、民居樹竹、歴々辨ず可し、山上に神社あり、又山中に土籠投の戲あり、土籠を執つて空中に抛てば、風に隨つて飄揚し、恰も飛鳥の如く、之を久うして始めて深谷に墮つ、其戲往々他處に在りと雖ども、到底此山に於てするの佳興に如かずと云ふ、(雍州)山上有五嶽、朝日峰大鷲峰高嶺山龍上山賀寬藏山、此山始號手白山、自移愛宕權現

《名勝》雄峻高聳、曲盤山嶺に到る、峰頭を白雲山と云ふ、東西二州を下瞰すれば、民居樹竹、歴々辨ず可し、山上に神社あり、又山中に土籠投の戲あり、土籠を執つて空中に抛てば、風に隨つて飄揚し、恰も飛鳥の如く、之を久うして始めて深谷に墮つ、其戲往々他處に在りと雖ども、到底此山に於てするの佳興に如かずと云ふ、(雍州)山上有五嶽、朝日峰大鷲峰高嶺山龍上山賀寬藏山、此山始號手白山、自移愛宕權現

《名勝》雄峻高聳、曲盤山嶺に到る、峰頭を白雲山と云ふ、東西二州を下瞰すれば、民居樹竹、歴々辨ず可し、山上に神社あり、又山中に土籠投の戲あり、土籠を執つて空中に抛てば、風に隨つて飄揚し、恰も飛鳥の如く、之を久うして始めて深谷に墮つ、其戲往々他處に在りと雖ども、到底此山に於てするの佳興に如かずと云ふ、(雍州)山上有五嶽、朝日峰大鷲峰高嶺山龍上山賀寬藏山、此山始號手白山、自移愛宕權現

《名勝》雄峻高聳、曲盤山嶺に到る、峰頭を白雲山と云ふ、東西二州を下瞰すれば、民居樹竹、歴々辨ず可し、山上に神社あり、又山中に土籠投の戲あり、土籠を執つて空中に抛てば、風に隨つて飄揚し、恰も飛鳥の如く、之を久うして始めて深谷に墮つ、其戲往々他處に在りと雖ども、到底此山に於てするの佳興に如かずと云ふ、(雍州)山上有五嶽、朝日峰大鷲峰高嶺山龍上山賀寬藏山、此山始號手白山、自移愛宕權現

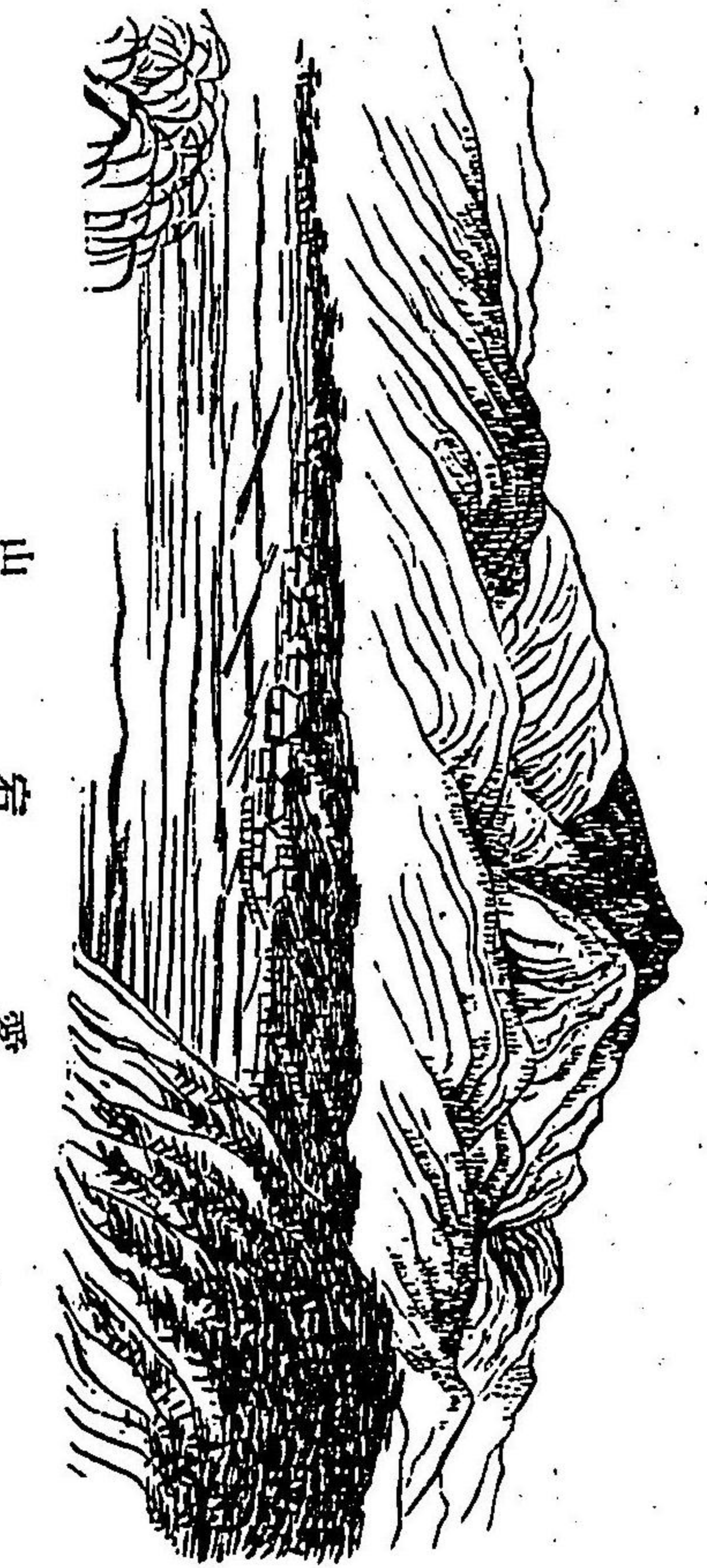
尾山の牛腹に在リ(山ハ山科停車場ヨリ一里ニアリ)此山昔羽山の一峰にして、山形秀麗、老杉森々、又櫻、楓の二樹に富む山中法嚴寺に至る道路の右方に溪に臨みて岫々たる岩石の聲ゆるあり、名けて御經岩と稱し、弘法大師讀經の靈蹟なりと云ふ、又登ること須臾、右方に鏡子湖あり、左方に仙人洞あり、白糸流は一に布引流と云ひ、高さ凡そ三丈湖凡そ一丈五尺許、蛇ヶ淵は溪流の深潭をなす者にして、湖さ三坪に過ぎずと雖ども、水色藍の如く、其深さ幾尋なるを知るべからず、傳へ云ふ、古へ此湖に毒蛇の棲息するありて、常に毒脂人を噛ましたりしが、伊賀守景綱なる者射て之を倒したりと、而して堂後山嶺の舊地に登れば、琵琶湖を眼下に望み、眺眺頗る佳、又堂左の谷間に下たれば、所謂天狗杉なる者あり、幹太く梢高く、高所の巨枝其皮剝脱して削るに似たり、即ち天狗の時々來棲するが爲めなりと稱す、

嵯峨牛の尾山に入る人は 顯 季
柴くるまにて下るなりけり

棧敷嶽 山城國葛野・愛宕ノ二郡丹波國北桑原郡ニ跨ル、葛野郡小野郷村宇東河内ヨリ二十二町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百五十七尺、

於斯山、改號愛宕山、(山志)東面坂路蟻峨、因又曰蟻峨山、
 我宿はそなたを見てそむる
 誰か愛宕の山といひけん
 生たりな丹波見おるす汗拭
 刺殘す山は愛宕よ冬の月
 止めは降る時雨の坂や五十町
 登愛宕山
 石路不辭峻、先登愛宕山、神祠依別界、靈地隔人寰、深淵
 泉聲遠、高株島語閑、丹波蹄下殿、隱見夕陽間、

登愛宕山
 們羅透上翠微幽、下有清流萬洞流、洞際舍烟通鳥道、杉松
 蔽日暗仙樓、群峰急雨牙龍過、半壁浮雲石馬愁、勝概還知
 天路近、羽人何處集丹丘、
 遊愛宕山記
 愛宕山在京師之西北、群嶽環拱、中仰一尊、與比叡東西對
 峙、勢不相下、盤爲帝城之鎮云、新夏雨霽、萬瓦煙浮、遊
 意躍然、出寓而四、已見愛宕標碧如微笑迎余者、覺不甚遠、
 田野林樾、更經透過、約行二里而縹緲之觀猶故也、豈余進



三 船 山

行一步、而山亦卻行一步、途間思詩、不覺又行里許、忽
 仰視則群山競秀、左右趨躡、而愛宕則誠不復見焉、蓋至高
 之山、遠地見之、而近或不見者、支輔之山礙之也、嘗行峽
 中、亂峰矗立刺刺天、而芙蓉山沒於其間、見亦不太高、或
 反低焉、及漸遠、則標之洞天者、如丘如壘、而倒帶之蓮、
 溜々出焉、今左階右趨者、毋乃支輔乎、則知主峰之不遠矣、
 既及山、逕路迂曲、忽而險峻、忽而險峻、時有石積、以便
 登陟、眺遠佳處、必置亭榭、時有紅裙宮殿、忽得一處、右
 則深林巖峯、左臨無底之谷、余憑床而望焉、東南軒敞、可
 俯視萬景、蟻指歸嚆々甚詳、不遠記之、總頂祠堂、因壯麗
 麗、鳥革瓊飛、有齊舍、尸視居焉、有廟宇、賽者宿焉、重
 甍連棟、左右整列、殊不類山中景象、蓋其始築穢之區、豺
 狼之宅耳、而變爲嚴々異々之觀、縹素香火、往來絡繹、神
 之威德、何其盛也、余厭厭、求別路而下、間知有時雨櫻之
 古蹟、遂即之、石路荆棘、鉤袖礙趾、有山石擊响行徑微之
 况、行里許、抵月輪寺、名甚雅、而寺甚荒敗、一櫻長條蔽
 垂、根幹鬼偉、恨不及花時見之耳、一僧出緣起、買之去、
 穿樹間路、廻曲而下、數百武、忽有泉流淙淙之聲、見水自
 罅屋縫間而奔出、巨石礧礧、撲挂洞口、水激石開、萬雷齊
 鳴、鹹壯觀也、自是而橋或向背、水或西東、大抵一水自爲
 曲折、而現爲萬狀也、愛宕之勝勝於是矣、于時山風俄起、
 黑雲下垂、雨來如注、岩樹限濛、壑響鳴動、若助之聲勢者、

而顯視峰巒咫尺、滅沒無復片影、余意頗憚焉、俄頃雨旋止
 若翠洗出、嬌容流々、窮態極妍、而更有夕陽之相發輝、其
 倏忽之變、渲染之妙、有不可得而名狀者、嗟乎觀將止而忽
 幻一境、曲向開而別翻一新、奇觀神也、使人罔測、

船山 「此山湯船山トモ云フカ」 丹波國何
 鹿・天田ノ二郡ニ跨ル、登路十六町、
 八尾山 (別稱峰尾山) 丹波國多紀郡ノ北方
 ニアリ、大芋村大字小原ヨリ二十町ニシテ其
 山頂ニ達ス、標高二千三百三十八尺、
 畑山 (別稱機山) 式按スルニ、此山ハ御嶽・
 金嶽・西嶽ノ三峰ノ總稱ナラン、中央最高ヲ御
 嶽別稱三嶽山・藍婆峰ト云ヒ、西方ヲ西嶽・東
 方ヲ金嶽別稱小金嶽ト云フ、丹波國多紀郡ノ
 北方ニアリ、畑村大字與畑ヨリ一里五町餘、
 大字火打岩ヨリ二十七町餘ニシテ其山頂ニ三
 嶽山ニ達ス、標高二千六百十八尺、
 (丹南) 三嶽山は火打岩の西北に在る郡中第一の高嶽にして

雲霧に觸起し、東は山城の愛宕山、南は攝津の六甲山、皆目
隄にあり、北方天田郡を俯瞰すべし、北面の溪谷石楠花の樹
多く、團々銀をなし、花時の風致最良なり、此山古へ藍染ヶ
峰と稱し、三嶽寺大伽藍の古址あり、小金ヶ嶽其東に岐立し、
西ヶ嶽其西に卓出し、三山相列びて遠く群峰に秀づ、此三山
は昔時修験者の経歴せし所なり、

金山 丹波國氷上・多紀ノ二郡ニ跨ル、氷上郡
柏原町大字上小倉ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ

達ス、標高千七百七十二尺、

半國山 丹波國船井郡ノ南方ニアリ、西本梅
村大字大河内ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ

達ス、標高二千五百五十五尺、

劍尾山 (別稱下樋山、月峰山) 攝津國豊
能郡ノ北方ニアリ、西郷村大字大里ヨリ凡二

里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百尺、

〔名勝〕 獨秀の孤峰、山嶺は古への月峰寺の舊墟に屬し、眺
望頗る快當、東北には山城の比叡・愛宕諸峰を雲際に見ゆ、南
には大坂橋を登降に收む、而して下の群山、或は伏し或は

起り、波濤の怒るが如く、龍蛙の連るが如く、顧盼悉く雄偉
壯觀窮りなし、

妙見山 攝津國豊能・川邊ノ二郡ニ跨ル、豊能
郡吉川村ヨリ二十五町餘、東郷村大字野間ヨ

リ十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百
十七尺、

〔名勝〕 翠峰巖然、山嶺に妙見堂あり、妙見菩薩を安置す、
登山見山

山林 紫軒

巖峰高拔峻峭、絶頂巖壁疊石盤、一物不遮心曠、百盤
穿去歩艱難、雙々飛鳥磨扇過、片々歸雲繞髮寒、尤是秋光堪
讚處、千林紅葉夕陽殘、

勝尾寺山 攝津國三島郡ノ西方ニアリ、豊川
村大字粟生ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標

高二千二百五十七尺、

箕面山 攝津國豊能郡ノ中央ニアリ、箕面村
大字平尾ヨリ一里二町餘ニシテ其山頂ニ達

ス、標高千六百五十三尺、

ニシテ其山頂ニ達ス、

小鹽山 山城國乙訓郡ノ西方ニアリ、大原野
村大字小鹽ヨリ十七町ニシテ其山頂ニ達ス、

春霞たちけらしなをしほ山 俊 成
小まつか原のうすみどりなる 猛 彦
小鹽山神代のことば白雲の ふりぬる松の花とこそ見れ

一本松山 攝津國川邊郡ノ北東方ニアリ、中
谷村大字北田原ヨリ十九町ニシテ其山頂ニ達

ス、

大船山 攝津國有馬郡ノ東方ニアリ、高平村
大字十倉字米山ヨリ凡二十町、大字片古字柏

山ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二
千七百十九尺、

〔名勝〕 三峰列峙巖立し、樹木陰翳して常に蒼然たり、古へ
山中に寺院あり、之を大舟寺と云、麓より十二町許の地に、
今十二基の古礎を留むるは、即ち昔時大舟寺の遺趾なりと、

神峰山 (別稱本山寺山) 攝津國三島郡ノ北
方ニアリ、清水村大字原字上原ヨリ凡三十町

〔名勝〕 山中(坂鶴鐵道池田停車場ヨリ二里ニシテ箕面公園ニ
至ル)の寺を瀧安寺と號す、寺の北凡そ十七八町を距り、所
謂箕面の瀑布あり、高さ十一丈一尺幅三間餘、飛瀾雪を蹴り、
噴沫珠を耀ばし、勝景紙に絶す、而して湖山の楓樹、新緑・
霜紅二季の如きは、點映最も宜しきを得佳趣を添ふる、昔に
一層のみならず、就中紅葉の名は瀑聲と共に四方に轟けり、
又湖上に白龍石・坐禪石・鶴杖石等あり、瀑に臨んで三針松あ
り、瀑を距る六町許の奥に奥の瀧あり、〔攝志〕 山勢如箕、
松梢疊翠、佳樹密茂、秋後青紅交色、似織錦綉、實美觀焉、
〔參考書〕 箕面山遊行の記

忘れては雨かと思ふ瀧の音に 國 助
みのおの山の名をやからまし 長 明
箕面山雲かけつくる峰の庵は 松のひきも手枕の下 廣瀬旭莊

群岩與飛瀑、到處爭奇狀、尤是一枝紅、倒懸飛瀑上、
陪旭莊先生遊箕面山和先生韻 鼎 金城
爲憐秋色好、不覺到泉源、踏石低雲動、展眸斜日溫、碧岩
懸瀑布、紅葉照山門、看取塵機遠、運符搗酒樽、

如意嶽 丹波國多紀郡攝津國有馬郡ニ跨ル、

登路二十町、

御嶽山 播磨國加東郡丹波國多紀郡ニ跨ル、

加東郡鴨川村大字平木ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

三草山 播磨國加東郡ノ中央ニアリ、上福田

村大字三草ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、

世の中まわがしく待りける頃、三草の山をとほりて、大

蔵谷といふ處にて、

摩 氏

今向ふかたは明石の浦ながら

また晴やらぬわが思ひかな

武庫山

(別稱六甲山、標葉嶽)攝津國武甲

有馬ノ二郡ニ跨ル、武庫郡甲東村大字上原新

田ヨリ五里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千五

十九尺、

〔風景〕 住吉停車場と西ノ宮停車場の中間より登る、山に白



武庫山

嵯峨甲嶽頂、臨眺出塵寰、地盤泉南海、雲環河内山、布帆

鴨島點、綠野榮花莊、平素無斯觀、眞堪感客顏、

摩耶山 攝津國武庫郡ノ中央ニアリ、都賀濱

村大字上野ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高二千二百九十尺、

〔風景〕 神戸市三ノ宮停車場の東北凡一里二十町、布引瀧

り山路十八町、石階數百級を登れば初利天上寺あり、麻耶夫

人を祀る、寺より更に登る百二十米突にして絶頂に達す、北

に丹波の連山、東に西ノ宮・尼崎の市街、南に大坂灣・和泉紀

伊の群嶺、南西に神戸の市街・和田岬・淡路島を望み、

眼界壯宏、〔名勝〕 六甲山脈中の一峻嶺にして、郡の北端に

聳え、老樹森々として山を蔽ひ、遠く大阪灣十餘里の海上より

指點し得べし、坂路頗る峻峻にして、松・杉道を挟む、攀ち

て境内に到れば、眼界豁然として開け、恰も雲に御するが如

き思ひあり、〔摘譯〕 神戸居留地ヨリ四哩半ニアリ、上リ二

時間下リ一時間半ヲ要ス、〔攝名〕 坂口に彌覽堂あり、これより

坂路十八町也、一町毎に標石あり、其道險峻として曲盤七

折あり、一徑豁然として漸半腹に登れば衆州を下瞰す、是當

州の一佳景也、坂路に三箇の憩所あり、山頂に至れば二王門

あり、内外の石階七段、都て百九十八階なり、

山神社あり、西ノ峰に石の小祠あり、土俗「石ノ寶殿」と稱す、

絶頂よりの眺望は麻耶山に優越す、此の山麓は大坂灣を障屏

し、海風の捲帯せる水蒸氣を凝結するを以て、武庫山に墜つ

き當る千鳥雲(團雲)の句、自から理學的なり、〔播名〕武庫の

嶺より有馬郡唐櫃村に至つて、皆武庫六甲の山内也、當山

は 仲夏天皇皇后大仲媛の皇子麻坂・忍熊王、天皇崩じ給ひ

て後、神功皇后を惡みて兵を發し、三韓歸朝を待、皇后之を

知り給ひて、武内の宿禰を使し、軍□を以て麻坂王及び五人

の賊臣を誅して山頂に埋む、其甲冑を埋むるを以六甲山とい

ふ、

あしの葉に夕霧立ぬ難波鴻

武庫の山べも色つきぬらむ

水の葉吹武庫の山風立ぬらし

あしやの沖にあまの釣舟

む、山や三國一とゆふ霞

武庫山 伊藤 東 涯

螺髻層々壓海涯、神蹤千歲閣烟霞、終年對此多詩思、接近

誰成小隱家、

武庫山 新井 白石

萬仞巖嵒岫、天兵一凱歌、玄雲熊耳甲、紫電虎皮戈、祖帝

沈魂冷、苔碑隨淚多、年々春草色、何處見銅駝、

同岸下氏登六甲山 井坂 松石



山 耶 摩

登摩耶山宿大乗院 正 壇 遺 所

晚宿摩耶第一峰、上方斜日沒殘紅、松杉欽處天初露、阿漢攝泉蒼露中、

摩耶山

附 東 景

摩耶山巔刺蒼天、一路蕭森絕俗緣、臥石殊形頗似佛、行盡纒足自疑仙、木魚曉響高僧起、林鳥午翔靈鷲傳、寄語人間名利客、不知此地去逃禪、

再度山 (別稱兩度山、摩尼山、多々部山) 攝津國武庫郡ノ南西方ニアリ、神戸市宇治野町ヨリ十八町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千五百三十五尺、

〔風景〕 神戸市の北々西、山に大龍寺、弘法祖、絲標瀧、赤松氏の城址あり、小徑を北に登り絶頂に達せば、神戸・兵庫の市街大阪灣を下瞰し、船舶の來往掌中に弄し得、〔名勝〕 神戸市再度筋の北二十町、諏訪山の背後に在り、山頂の古刹を大龍寺といふ、延暦年間、弘法大師入唐の時、初めて當山に登て求法を祈り、大同年間、願齋して歸朝の際、再び登山せしを以て、夫より後ち山を再度山と呼ぶに至れり、毎月二十一日には賽人集集す、〔摘譯〕 頂上ヨリノ眺望ハ壯密ニシテ、北ニハ砂利山即チ赤深々ニシテ風光ノ似タルヨリ、西洋人ノあ

一箇尾山 丹後國竹野郡ノ東方ニアリ、竹野村大字竹野ヨリ凡三十町ニシテ其山頂ニ達ス、

能野山 (別稱金剛山、櫻山) 丹後國竹野・與謝ノ二郡ニ跨ル、竹野郡溝谷村字外ヨリ二十町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百八十五尺、

〔富津〕 細川顯齋、大和ノ吉野ヨリ櫻ヲ求テ植シトナリ、俗ニさくら山ト云、今ニ櫻木少々殘リテ春ヲ忘レズ、

浦わ漕くよしの船つきめつらしく 詠人不知 かけて思はぬ月も日もなし

成相山 (別稱成相寺山、鼓嶽古名施谷山) 丹後國與謝郡ノ中央ニアリ、府中村大字江尻ヨリ一里二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百八十一尺、

〔提要〕 山嶽ヲ鼓嶽ト云、〔名勝〕 成相寺。成相山の中腹にあり、後に成相山を貢ひ、北方一面與謝の海を俯觀し、天ノ

丹後山塊

本州中部 丹波高原

てんト呼ブ丘陵ヲ望ム、頂上ニ近キ處ニ龜石アリ、形似ニヨリテ名ク、秋葉甚ダ美ナリ、

夜隔二度山

山田翠雨

孤行冒夜過窮谷、陰雲堆裏鳴怪龍、漫披翠華攀巖崖、血指流丹石嚼足、銀狼當道我何怖、卻遇一婦肌生粟、大門隱見雲嶺間、二王雙立似迎人、

神撫山 (別稱鷹取山) 攝津國武庫郡ノ西方ニアリ、須磨村大字板宿ヨリ三十町、大字西代ヨリ三十町、神戸市大字長田ナル長田神社境内ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百尺、

〔名勝〕 巔に登臨すれば、兵庫・神戸の全景、雙眸の中に集まり、秋は滿山の楓樹紅を染出して、遊人の筈を曳く者少からず、〔攝志〕 其峰特聳、天色晴朗、下瞰滄溟、景物太好、〔據陽〕 俗傳云、昔神功皇后三韓より歸朝し給て是に至り、石座有て岩の上を撫玉ふに忽高山と成り、因て以て神撫の名あり、又此山鷹の巢を以て、鷹を飼者設之、因て鷹取山と一名セリ、

橋立脚下に横はりて、風景真に奇く如し、人は云ふ、松島の景は富山に在り、橋立の景は成相山に在りと、而して橋立に遊びて成相に登らざるは、猶ほ天台に入て熟麻を餐せざるが如しと、其最も眺望に適するは、賽路の傍ら松の邊にして、長州直ちに眼下より起り、若翠水と連なりて、其景の佳絶なる、筆の能く盡す所にあらず、

なみの音松の響に成相の 讀人不知
風吹わたす天の橋立

登成相寺

緋園高橋北溪開、鑿壘羊腸數百回、絶頂立筋窮目處、天橋一帯掌中來、

木積山 丹後國中郡ノ東方ニアリ、河邊村ヨ

リ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

足占山 (別稱葦占山、磯砂山) 丹後國中郡ノ南西方ニアリ、常吉村大字上常吉ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百九十尺、

〔宮津〕 里民云、此山ハ古木生ヒ茂リテ容易ニハ至リ難シ、嶺近キ處ニ大池アリ、縁毛龜ノ年經タル住ム、土俗此池ノ主也ト云、又池ノ邊ニハ一二尺許ノ蝦蟇イクラモアリト、實

ニ人里遠キ深山幽僻ノ地ナレハ、カ、ル異類モアルヘキ事也、

行ゆかす聞かまほしきは何方と 讀人不知
ふみ定むらん足占の山

かならずの旅の行へばよしあしの 細川幽齋
同て踏みるあしうらの山

三嶽山 丹波國天田郡ノ北方ニアリ、三嶽村

大字喜多ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百五十一尺、

〔地誌〕 福地山の北三里餘、山容亦行人をして望視せしむ、山中に蔵王権現を祭る別當僧を金光寺と稱す、

千丈嶽 (別稱千疊峰、大山、大江山) 丹後國加佐・與謝ノ二郡丹波國天田郡ニ跨ル、加佐郡河守上村大字佛生寺ヨリ凡一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百八十尺、

〔名勝〕 山勢峻峭として、其脈左右に延き、嶺きに鬼窟なるものあり、〔宮津〕 府城ヨリ二里餘普甲嶽チスキテ二瀬川ト云處ヨリ、是チ鬼ヶ窟ト云傳フ、其嶺チ千丈ヶ嶽ト云フトカヤ、大江山イクトツ、ケタルハ、大枝ノ坂ノ事ニテ丹波ノ内

ナリ、今老ノ坂トイフ、又頼光ノ凶賊ヲ誅セシ大江山ハ、丹波ノ内ニテ福地山ノ領内也、宮津城ヨリハ二十餘里南ニ當ル、此處ノ窟ハ、土俗ノ説ニ、丹波大江山、酒吞童子カ出城ニテ、童子カ一族(茨木童子)居セシト云、此事前太平記、武家評林等ニモ、丹波ノ大江山チハ頼光ノ嫡子頼國征シ、當國千丈ヶ嶽ヘハ頼光潜行シテ酒吞童子ヲ誅滅スト、初メ童子丹波大江山ニ在ト雖、玉城ニ近キチハカカリテ、後當國千丈ヶ嶽ニ移ルト見エタリ、今國俗ニ丹波ニアラチ大江山鬼ヶ城ト云、此山チ千丈ヶ嶽鬼ヶ窟ト稱ス、往古ハ普甲ノ嶺道モナク、萬木生ヒ茂リテ山モ幽僻ナランカ、中古普甲ノ道モヒラケ、山モ淺マニナリ、又京極家領知ノ時ニ、千丈カ嶽ノ大木ヲ伐リヒラキ、麓ニ新田チヒラキシヨリ、山モ彌淺クナリ、彼岩窟モ今ノ地勢ニテ見レハ、人數ノ籠リシ様ニモミエス、〔宮津記〕曰宮津ヨリ京都ノ道ニ里餘行テ佛性寺村ト云所アリ、是ヨリ右ノ方ヘ山ケ一里登レハ大キナル岩窟アリ、内ヘ入テ見レハ九疊鋪ヘキウロナリ、其奥ニ亦四五尺ハカリノ口アリ、夫ヨリ先ハ殊ノ外窟ク見エルトモ、一向白雲ニテモ時時黒タリ、タマタマ見物ノタメ此所ヘ行者モ、松明ニテニツノ穴チ覗テ歸ルハカリナリ、岩間ヨリ露シタ、リ、蝙蝠集リ居ルナリ、其邊ニ千丈ヶ嶽アリ、此水ニテ瀬川ヘ落ルナリ、夫ヨリ半里許麓ニ千丈ヶ原トテ人家十二三軒アリ、山中ニ童子カ馬場、五入道カ池ナト云處アリ、三國ヶ嶽洞佛ヶ谷ナト云モ此邊ナルヨ

シ、山ノ後ヨリ下レハ石川温江加悦等へ出ルナリ、〔宮津米書〕接スルニ、丹後ニハ大江山ト云山ハナシ、サレトモ大山チ誤テ大江山ト云ナラン、今土人ノ云大江山ハ千丈ヶ嶽チ云也、眞ノ大江山ハ今鬼ヶ城ト云ル丹波ノ岡ノ山也、茨木童子住メリト云、與佐大山トテ普甲峠ノ事ナリ、千丈ヶ嶽モ皆此山ツギキ也、

治まれる君が御代には恐ろしき 遊行上人
鬼か窟も住すなりぬる

爰て千里照らせ大江の山の月

踏も見し鬼すむ路の栗の毬 素堂

精山鬼窟(大江山) 林梅洞

誰探鬼窟入幽處、無草無花峰自稱、若把精山併秋色、酒天童是大玄夫、

曉度大江山值雪 松崎觀海

夜發逢飛母、羊腸路難、迴岩遮導炬、亂竹撲征鞍、氷合千溪暗、風鳴萬巖寒、人家雞報曉、塵漸近長安、

普甲山 (別稱北向嶺、千歲嶺、大山、與

謝大山) 丹後國與謝・加佐ノ二郡ニ跨ル、與

謝郡上宮津村大字小田ヨリ二十九町餘ニシテ其山頂ニ達ス、

〔名勝〕古へ山頂に普甲寺と號する古刹ありしが、何時の頃にか廢絶して、其址をたも留めず、其南麓より登れば、途中二瀬川あり、左の方に千丈ヶ嶽を望み、景色殊に宜しとぞ、

春霞立ち渡るなり橋立や
松原こしの興佐の大山
待人は行とまりつゝあちきなく
年のみ越ゆる興佐の大山
和泉式部
光俊朝臣

由良嶽 (別稱丹後富士) 丹後國加佐郡ノ

北西方ニアリ、由良村大字由良ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百五十四尺、
〔名勝〕 滿山綠樹蒼鬱とし、其頂き稍や平坦なり、此處より望めば、東北一帯由良嶽を下瞰し、遙かに雄島沖島を望み、由良川は其麓を貫流して、白蛇の蜿蜒たるが如く、風景眞に畫圖の如し、

登由良嶽
新宮涼庭
附展助遊興、推鬼石、丹梯懸樹、翠霧度岩間、銀湧新晴海、藍流過雨山、冥懸雲沒路、天半駕虹還、

能登半島

山伏山 (別稱鈴嶽) 能登國珠洲郡ノ北東方

ニアリ、口置村大字狼煙ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高七百四十三尺、
〔名勝〕 北海を航する者常に目標とす、其餘脈北走して海に盡くる處を珠洲岬と云ひ、嵯剛崎に燈臺の設あり、
山伏の嶽吹嶺の夕暮に
讀人不知

寶立山 (別稱法立山、黑峰) 能登國鳳至・珠洲ノ二郡ニ跨ル、鳳至郡野村大字寺山ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百七十六尺、

高洲山 (別稱鶴巢山、輪島嶽) 能登國鳳至郡ノ北方ニアリ、鶴巢村大字大野ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百十五尺、

二子山 能登國鳳至郡ノ南方ニアリ、山田村大字武連ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

別所嶽 能登國鹿島・鳳至・羽咋ノ三郡ニ跨

禁傳載



高爪山

羽咋郡深谷大福寺間上ヨリ北東ノ圖

ル、鹿島郡西岸村大字別所ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、

高爪山 (別稱鷹爪山) 能登國羽咋・鳳至ノ二郡ニ跨ル、羽咋郡西増穂村大字大福寺ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百五十九尺、

〔風景〕 別所山は鷹爪山の東東南する間に登ゆ、共に山頂よりは東南に七尾湖・能登島を看、西及び北に日本海を望む、

四國及中國

四國山系

中津峰 阿波國勝浦・名東ノ二郡ニ跨ル、登路

〔式按スルニ、勝浦郡多家良河大字宮井カ〕三十町、標高二千八百七十一尺、

〔大府〕山中櫻樹多シ、

建治山 阿波國名西郡ノ北東方ニアリ、登路

〔式按スルニ、入田村大字入田カ〕十八町、標高千六百二十尺、

〔地辭〕即ち建治寺の舊址なり、上に石洞あり、瀑布あり、高き若干丈、〔高サ八丈幅四尺許〕左右皆削壁にして、草木叢生せり、上に坦なる者は摩羅殿と爲す、下に鬼谷・梁深等あり、並に頗る幽邃なり、

高根山 阿波國名西・勝浦ノ二郡ニ跨ル、登路
二十二町、

雲草山 阿波國那賀・名西・勝浦ノ三郡ニ跨ル、登路十八町、

燒山寺山 (別稱摩廬山) 阿波國名西・麻植ノ二郡ニ跨ル、名西郡下分上山村大字左右内ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

〔名勝〕山上に摩廬山燒山寺と號し、本郡〔名西〕にては名刹あり、弘法大師の作れる長四尺五寸の虚空藏菩薩を本尊とす、〔地辭〕此山古名燒山と云ふにや、阿波志云、燒山寺山甚だ高峻なり、其峰峭秀にして群山を俯臨す、上に茂木多し、池あり徑二十歩長き三十歩許、

篠保手山 阿波國麻植・名西ノ二郡ニ跨ル、登路〔式按スルニ、麻植郡中枝村大字別枝山カ〕一里五町、

本城丸山 阿波國麻植郡ノ北東方ニアリ、登路〔式按スルニ、中枝村大字別枝山カ〕二十町、

雁又山 阿波國麻植郡ノ北東方ニアリ、登路〔式按スルニ、中枝村大字別枝山カ〕二十町、

玉探山 阿波國麻植郡ノ北東方ニアリ、登路

〔式按スルニ、牛島村大字上浦カ〕十六町、

高越山 (別稱衣笠山) 摩尼珠山、阿波

富士 阿波國麻植・美馬ノ二郡ニ跨ル、麻植郡

川田村ヨリ一里二十二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百五尺、

〔大府〕山勢特立シ、近傍諸嶽、概ネ其下風ニ立ツ、〔名勝〕山上に伊弉諾の神社あり、麓ヨリ一里十四町、櫻樹道を夾み、其の發くときは、いよく上ほればいよく發くこと速し、山頂を距る二町許に寒風と喚ぶ平坦の地ありて、こゝには最も大樹の古樹ありて、枝幹四方に出て、花發くときは甚美觀なり、頂下は阿波美馬・三好の三郡にして、遂に環・蹊の連峰を望む、その麓の民家にて製する氷豆腐は當國の名産とす、寒氣早く至るゆゑ、戸々これを製す、

高越山記

遊名

珠嶺高越山呼阿波富士、在麻植郡川田村也、西從拜村陟、則崎嶇一里餘、少無盤曲、是以進歩尤難矣、山中處々亂石怪岩、使人怡目、少舒喘急聲、實州中之高山也、神祠宮垣莊嚴、各有光華、松檜際天、皆千年外之物也、四合隱然、

種徳山 阿波國麻植郡ノ北西方ニアリ、登路
〔式按スルニ、川田村カ〕十八町、

小剣山 阿波國麻植・那賀ノ二郡ニ跨ル、麻植

白日蕭條、不可仰望、而起驚悸之意、有所人情之難言、而一時以洩、塵紛如洗、塵閣却、認得煙霞隱隱清、獨不堪留杖、早就飯路、到於中合、得眺翠之快、西從池田、東究徳島、富饒邑里、華屋連雲、鸚鵡宏壯、驚人目也、余注視噴噴焉、偶獲天有藉草、若余曰、君只貧民居之盛、不知烟霞好在之勝乎、今所看岩津是也、深淵浮濤、浩氣秀激、其色如黛、深不讓四瀆、而奇岩怪石、就中最大呼京石、頂上坦平、四面且十畝、其形象向京洛、是以喚名焉、每歲仲秋之夜、佳士好客、游於岩上、備觀月之興、其傍詭石角列聳立、爲奇狀者、殆不可數矣、殊有跋山添勝狀、供饌入壺、屹然壯觀、推衡巫也、經耶馬岐蘇峽、而山陽拙堂類稱絕奇、播於世間、行文奪貧、知彼不知是之過也、且此吉川水涯、龍狀異態、絕口言也、君只忘目前之佳境有天然之樂如何、曰、汝耽山河之玩、不知世情之要、今民被文翁化對之澤、無疾苦之嘆、期願太平也、是以先視人民之盛衰也、彼無一言、唱慕門之詩而去、嗚呼、是延瀨薪人之類乎、余無蘇門之見、不叩其蘊、而不能得歌二章、憮然下坂、而就芳川買船飯吾家也、

郡本屋平村大字小屋平ヨリ凡三里ニシテ其山頂ニ達ス、

〔提要〕 大剣山ノ西北ニアリ、〔大府〕 山勢高峻幽深ニシテ雲日ヲ蔽遮ス、半腹洞窟アリ、相傳フ往昔寶院ナル者アリ、一劍ヲ得テ此ニ藏スト、

劍山 (別稱祖谷山) 阿波國麻殖・美馬・那賀

海部ノ四郡ニ跨ル、麻殖郡木屋平村大字木屋平字義荷ヨリ四里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高七千三百九十九尺、

〔提要〕 木屋平村義荷ヨリ坂離取川マテ一里十四町、夫ヨリ嶮路二十五町劍神社ニ至ル、又二里三町絶頂ニ達ス、〔大府〕 山中樹木深鬱、積雪堆チナシ、季春ニ至リ纒カニ消ス、半腹洞窟ノ窟又尤モ多ク、花時紅白隊チナシ、一奇觀ナリ、頂上開闢ニシテ、四方蔽遮ノ害ナク、昨下讃州志度浦及ヒ屋島ノ邊ヲ瞰スベシ、或ハ曰ク、崇水ノ際、安徳帝靈座ノ厄ニ罹ルヤ、遠臣寶劍ヲ携ヘ此山ニ匿ルアリ、事定ルノ後、小祠ヲ營シ以テ之ヲ安ス、劍神社乃チ是ナリ、後裔家蕃山下ニ住スト、事ノ信否知ルベカラスト雖モ、亦其説ナキニ非ズ、〔名勝〕 雲を抜き巍然として聳え起つ、一の峰・二の峰・三の峰を経て

絶頂に達す、季候も變りて冬より積雪一丈餘、季春に至りて纒に消ゆ、故に夏なちては登り難く、登る者星を戴きて出て、星を戴きて歸る、絶頂には草木を生ぜずして、岩石峭立す、一小社あり、劍の社と稱す、安徳天皇の御劍を祀れるといふ、一大巨石あり、寶藏亭と名づく、傑立五丈、四望すれば群峰とくく下に在りて培塿の如し、西南に二石あり、方正しく卓立す、太郎笈・次郎笈と名づく、其の形笈に似たるを以てなり、〔阿名〕 國內最高山也、其神有令徳、應救人之急難、其靈驗愈著矣、是以崇敬之信者、世多在焉、雖然自古有廣禁、平日不得登、只六月許數日之詣、人々守炯戒於其時、已到於取指川、入水潔其躬、改容易裝、危懼陟不動坂、嶮路一里餘、有古刹、曰龍光寺、從來是社之別當司祀典、於今不然、徒安置不動尊耳、從夫至祠頭、經路峭嶮少筍竹稠、有天馬降食之説、徵其葉形、人折來爲土産也、人得而以其葉和淨水服飲之、則諸疾忽得復常也、是以可推山靈之尊也、

鳥帽子山

阿波國美馬郡ノ中央ニアリ、東祖

谷山村字落合ヨリ凡二里二十町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千三百七十九尺、

〔大府〕 二峰東西ニ峙立シ、一チ大鳥帽子ト稱シ、一チ小鳥帽子ト稱ス、

中津山 阿波國三好・美馬ノ二郡ニ跨ル、三好

郡三繩村大字松尾ナル松尾川渡口ヨリ二里十八町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千八百五十二尺、

〔大府〕 登路二十五町、

國見山 阿波國三好・美馬ノ二郡ニ跨ル、三好

郡三繩村大字川崎ナル祖谷川渡口ヨリ二里十二町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千六百七十九尺、

〔大府〕 美馬郡四祖谷山村ニ在リ、中津山ノ西脈ナリ、登路二里二十三町、

五在所山 (別稱五三所山) 土佐國香美郡

ノ西方ニアリ、在所村大字永野ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百五十二尺、

〔大府〕 登路一里十町アリ、

國見山 土佐國長岡郡ノ中央ニアリ、瓶岩村

大字穴内ヨリ凡一里八町ニシテ其山頂ニ達ス、

〔名勝〕 東に明神嶽あり、二峰相並びて、遠く望めば駱駝の脊の如しと、〔地誌〕 中にも國見峰は雲半腹を廻りて、國中一瞬に見る高山なり、

手筈山 (別稱ゼンジカ森) 土佐國土佐・吾

川ノ二郡伊豫國上浮穴郡ニ跨ル、土佐郡本川村大字寺川ヨリ三里、大字越裏門ヨリ一里三十町、吾川郡富岡村大字安居ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千九百九十三尺、

〔提要〕 山勢峻拔、遙ニ伊豫石祖山ト對峙ス、

瓶森山 (別稱舊權現山、權現山) 伊豫國

新居郡土佐國土佐郡ニ跨ル、新居郡大保木村大字東野川山ヨリ一里十四町〔式按スルニ、土佐郡本川村大字寺川ヨリ一里三十二町カ〕ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千四百四十八尺、

〔提要〕石鎚山ノ東ニ對峙ス、石鎚神社ノ舊址ナルヲ以テ舊
權現山ト名ツク、〔摘譯〕西條町ヨリ登リ得、初メハ石鎚山
ニ登ルト同路ナリ、頂上ニ近クシテ一小銅山アリ、銅山ノ小
屋ニ宿スルヲ得、

篠峰 伊豫國新居郡土佐國土佐郡ニ跨ル、新
居郡加茂村大字藤野石山字吉居ヨリ凡二里ニ

十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千六尺、
食石山 土佐國長岡郡伊豫國宇摩郡ニ跨ル、

登路〔式按スルニ、長岡郡東本山村大字立川上
名カ〕一里十八町、標高四千八百三十一尺、
カ、マシ山 土佐國長岡郡ノ北西方ニアリ、

登路〔式按スルニ、東本山村大字立川上名カ〕
一里十七町、

白髮山 (別稱白髮森) 土佐國長岡郡ノ北西
方ニアリ、吉野村大字汗見ヨリ二里ニシテ其

山頂ニ達ス、標高四千八百五十一尺、
〔大府〕高九千尺、登路〔式按スルニ、吉野村大字七戸カ〕ニ

里餘、本州第一ノ高味ナリ、

篠峰 土佐國長岡郡伊豫國宇摩郡ニ跨ル、登
路〔式按スルニ、長岡郡東本山村大字立川上名

カ〕一里十八町、標高三千四百六尺、
三傍士山 (別稱三傍示山、三峰) 土佐國

長岡郡伊豫國宇摩郡阿波國三好郡ニ跨ル、登
路〔式按スルニ、長岡郡東本山村大字立川下名

カ〕二里、標高三千六百八十三尺、
鹽塚山 阿波國三好郡伊豫國宇摩郡ニ跨ル、

三好郡山城谷村字平野ヨリ一里ニシテ其山頂
ニ達ス、標高三千四百九十八尺、

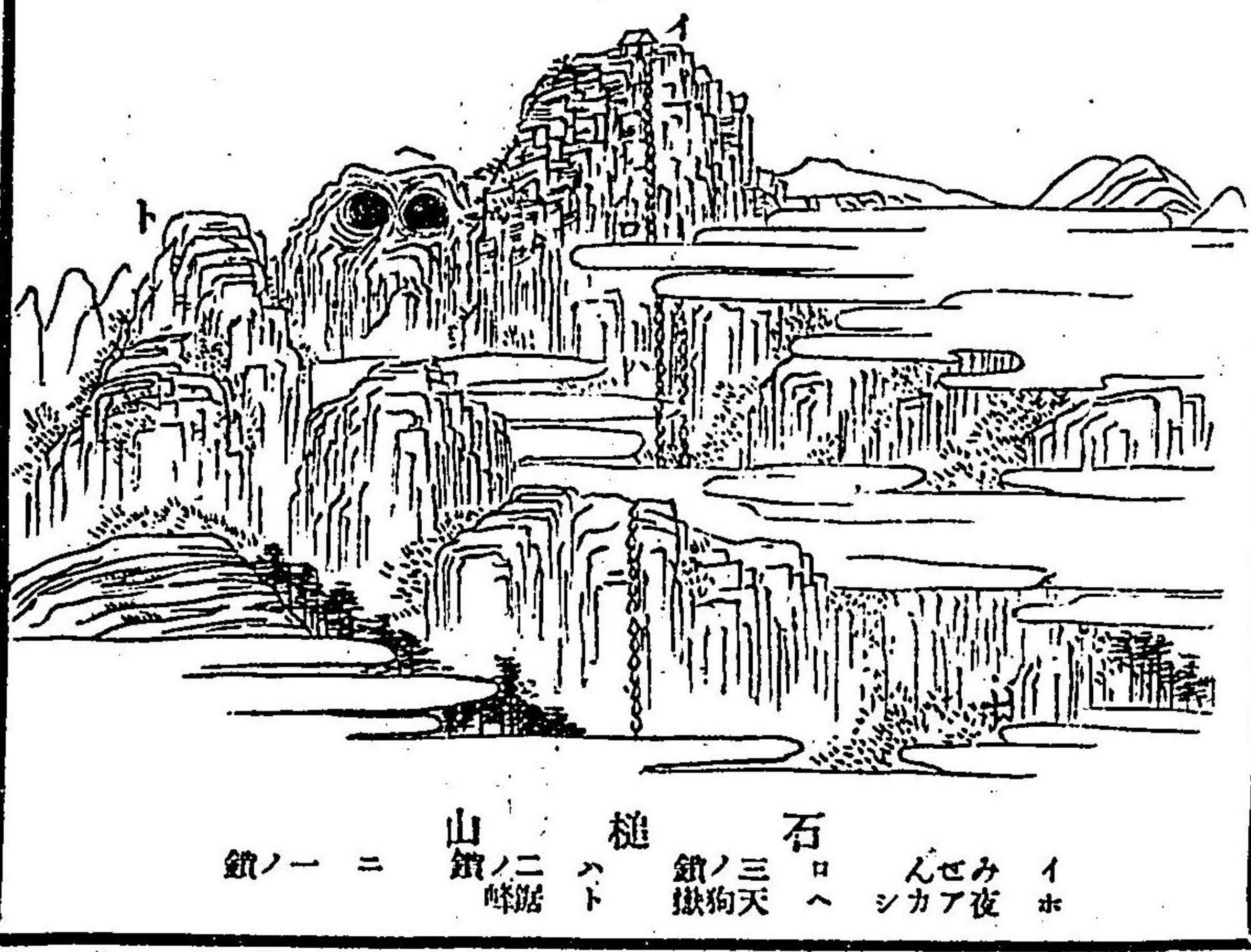
野鹿池山 阿波國三好郡土佐國長岡郡ニ跨
ル、三好郡三名村大字上名字並卷ヨリ二里八

町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千九百一尺、
布生山 阿波國三好郡ノ南方ニアリ、登路三
里、

石鎚山 (別稱石鎚山、石鐵山、石鉄山、
伊豫高根、面河山) 伊豫國新居・周桑・上浮

穴ノ三郡ニ跨ル、新居郡大保木村大字中奥山
字常住ヨリ三里餘、周桑郡石根村大字妙口
ヨリ七里ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千五百
二十四尺、

〔提要〕九月ヨリ雪ヲ帯ビ、四五月間ニ至テ消ス、〔風景〕
四國第一ノ高山、山頂ヨリ北に伊豫全國の大平、南に土佐
仁淀川ノ全溪谷を下瞰す、眼界ノ宏闊なる、四國に冠たり、
〔摘譯〕此山ヲ上下スルニハ三日ニ夜ヲ要ス、即チ山足黒川
村(山頂迄七里ト稱ス)ニ宿シ、翌山頂ヲ極メ再宿ス、此村以上
ニハ宿用ノ小屋ナシ、登路ノ一部分ハ甚ク困難ニシテ鐵鎖ヲ
三所ニ繫ク、頂上ニ平坦ナル石アリ、其上ニ一小神社立テリ、
眺望廣大ニシテ、土佐ヲ除キテノ四國全部、瀬戸内海及ビ
其島嶼、備前ノ一端ヲ望ム、〔愛媛〕山容峻しくして太く神
さびて、此國內に秀たる高山也、昔役小角始めて此山に登リ、
其後石仙(シヤクセン)といふ道人山路を開キ、絶頂に神を祭
りけるよし、毎年六月踏人登山する者多し、
道遠き以上の高根を尋れても 洞院左大臣
人にゆくへを我に知らせよ



石鎚山ノ二峰
イセミカアノ夜シカ
ノ三ノ天ノ嶺
ノ二ノ嶺
ノ一ノ嶺

忘れては人のふしとや思ふらん 冷泉爲家
 霞にまがふ伊豫の大嶽
 海原にたつ白雲と見えつるは 熊谷直好
 伊豫の高根の雲にぞありける 小知
 あの雲の高根隔てよいよ塵

望石鉄峰 僧海量
 遊遊千里度天運、南豫山川行路紛、獨有石鉄山色起、暮春三月雲如花、

石鉄山に登るの記

牛井栢庵

頭は五月二十七日、朝辰時過る頃、今治城を出立、その時伴へる人々、男成章・越智通備・從者一人、午時ばかり、六軒家といふ所にて晝飯喰て出、未刻過る頃、小松につきて舟屋某の許に宿る、二十八日、曉より雨降、されとも定たる日敷なれば、朝まだきに糞笠にて宿を立出、綱付山といふ山に登る、凡七十町許にして横峰寺にいたる、此所にて干柿餅など賣る、そこより登る事五町ばかりにして鐵の鳥居たてり、又下る事三十町許、いと險しき坂道也、此坂を郷の坂と云、下りはつれば谷川に出、清き流岩のたゞまひ、えもいはすめてし、高橋といふ唐めきていとめづらかなる橋あり、此川を板摺瀬と名く、高橋を渡りて又登る事十五町許にして下黒川村に出、此所にて晝飯喰ふ、今日は常住といふ所までとは思ひしかど、そこにては客をとり

むる事を許さる擬なるよし、さらばとて此所にやどる、この時午刻ばかりにて、晝飯などしけれど、日はまた暮す、けふの道すがら郭公の鳴けるを聞て、ふたかたにきくもめづらし夏山に

鳴く郭公歸る鶯

二十九日、曉おき出けるに、雨降けしきなれば、高根へはいかじと思ひしかど、夜明てすこし晴かたに成ければ、いざとて朝飯喰て出、こゝより一里ばかりにして女人堂とて後小角の像岩のもとにたてり、此より奥へは女を入じとなるべし、又昇る事十町許にして瀧あり、其上にも有て、いづれも二十丈許、落くるさまいと眺深し、今一つ上の方に有て、此あたり絶てよろし、此瀧川を渡りて行事一里許にして常住といふ所にいたる、此所古常住山佛光寺といふ寺ありしと、今はなくなりて其名のみ残り、横峰寺を佛光寺と名るも、此寺號によれりとて、こゝに前神寺の宿坊あり、俗に奥前神寺といふ、そこより五町ばかりは篠原にて下り道なり、さて登る事幾ばかりか定ならず、總て険しき事かぎりなし、一坂(イチノサカ)表白坂(ハウヘグサカ)早瀬(ハヤタカ)などいふ所なりとぞ、木根岩角に取すがりて登る事二里許にして夜明といふ所に出、こゝは行者の夜の明るを待てのぼらんとかまふる所なればかく名く、こゝより一嶺とて鉄にて遊りたる嶺あり、こゝは十七尋ありと云、そ

れにとりすがりて登る、危さも危ふし、又十町許行て二嶺あり、二筋さがりたり、こゝは三十三尋ありとぞ、此間の岩壁の立たるごとくにて殊に險し、例の取り廻りて昇る、危き事たとへんに物なし、もしあやまちて取放なば、かの壁の如き岩の上をさかさまにすべり落て、頭も砕けそなはれて命も失ひつべし、からうじてこゝをも登得て三嶺にいたる、こゝは七十五尋ありとぞ、此もとより見たつれば、雲霧立おほひて、高き事かぎりなし、天に昇る心地して遂に高嶺に登りつく、年頃の願もかなひて嬉しともうれし、よそにして仰げば高し登り來て

見れば伊豫の大嶽

此所に銅にて物したる祠あり、大き二三尺ばかり、高さ二尺許有て、文明の年號を彫たり、内に三驅の銅像ませり、人々手にとりて弄ぶ程に、手足も損れ、おのづから光り輝きて、童子の戯物の心して奪きまなし、銅の狛犬もありて、長曾我部元親ぬしの寄進けるよし云傳ふ、かの石仙の造りけむ蔵王権現の像は、前神寺の本坊に移置きて、近き頃假に祀伊國にて摸し鑄たる像なりとぞ、上に小き鐘もあれど、いと新き物にて床しきまなし、抑此山は石土畏古神をいつき祭れるを、蔵王権現など名をしもおふせつるは、いと憎しや、さはいへど道人たちの跡たにつけざらましかば、此山に升ん事はかたからまし、今日は雨やみたれと、

雲霧立おほひて、眺望更になし、晴わたる時は、南は土佐海見え、東は讃岐路見ゆ、阿波は瀬が森と云山にさへられてみえず、北は安藝・黄備の山々、四は松山・大洲・宇和島までことごとく見ゆ、よく晴たる日は、九州まで遠にみえ渡るとぞ、絶頂の横六間計、社は丑寅の方に向てたてり、西東は三四間ばかり有べし、總て石おほく投重たるさまにて平なる所なし、今日は四風はげしく、後の方は見むきかたし、雲霧を分て後の方一町ばかり下れば、水禪寺とかいひて大なる岩上に水の涌出る所有り、こゝよりすこし南の方に大のぞきとて、いとおそろしき雌ありと云、されど雲霧にさへはられて見えず、腰に物したる餅などとり出で喰ふ、暫ありて又元の嶺にすがりつゝ下るに、危さはあやふかれど、さすが下りさまの心やすきに、難なく下りて、夕未刻過る頃、木の黒川にかへりぬ、

伊豫の高嶺を思ひこそやれ

神南山 伊豫國喜多郡ノ中央ニアリ、菅田村

大字菅田ヨリ二十二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百七十八尺、

小田山 伊豫國上浮穴郡土佐國高岡郡ニ跨

ル、上浮穴郡參川村大字本川ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、

矢筈山 土佐國高岡郡ノ北西方ニアリ、長者村大字大植ヨリ一里六町、大字泉ヨリ一里六町ニシテ其山頂ニ達ス、

横倉山 土佐國高岡郡ノ北方ニアリ、越知町大字野老山ヨリ一里十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百八十八尺、

〔名勝〕 之に登らんとする者は、須崎を發して北行すること六里二十四町、佐川を経て越知に達し、是より直ちに山路に就くべし、山の高さは麓より二里ばかり、其中腹に杉原神社ありて、一に中宮と稱す、尙ほ崎嶇たる坂路を攀づれば、頂きに御嶽神社あり、少彦名命を祭れり、社殿壯麗にして、頂や甲斐の御嶽に似たり、唯其の規模の小なるのみ、社を少しく降りたる處は岩窟あり、廣さ方一間深さ十間許り、其盡る處は稍や廣くして室を爲し、疊五六枚を敷き得べし、此山は安徳天皇御陵墓の地なりと傳ふる者ありて、岩窟を距る五六町の處に御陵の趾あり、垣地方十間餘り、四面に木柵を環らし、鎖鑰を嚴にして、人の洩りに入ることを禁ず、此山は

形も峻嶒として二峰あり、遠く望めば馬の双耳を鑿つるが如く、又常陸の筑波山に似たり、其東麓に横倉神社あり、

城森山 伊豫國北宇和・東宇和ノ二郡ニ跨ル、北宇和郡二名村大字田川ヨリ凡二十九町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百六十四尺、

出石山 (別稱**矢野神山**、**矢野山**) 伊豫國喜多・西宇和ノ二郡ニ跨ル、登路〔式按スルニ、喜多郡豊茂村カ〕一里十四町、

〔名勝〕 出石寺。神山の絶頂豊茂村にあり、眞言宗にして金山と號す、大同二年、弘法大師巡錫し、この山は黄金をもつて山骨と爲す由を以て、號を金山と改む、木堂・大師堂・鎮守堂・開山堂・護摩堂・通夜堂等あり、孰も莊嚴を極め、沿海は四北に開き、峰巒は東南に層なりて、眺觀快調、當國屈指の靈場たり、大洲および長濱より道程三里なり、

秋ふかき矢野の神山露霜に
 色とも見えず紅葉してけり
 落葉して矢野の神山神寂ぬ

頓 阿
 其 葉
 僧 海 量
 豫西行基海雲遊、遙望孤峰萬仞嶺、湧出金山出石寺、仰看

精氣射青天、

室戸半島

津峰 阿波國那賀郡ノ東方ニアリ、登路十五町〔或云見能林村大字管島大字能見方及比長生村大字大原ヨリ各十二町ナリト〕

〔名勝〕 神洞(絶頂ニ)あり、賀志波比賣命を祀る、古松・老杉岩壁に寄託す、昔千年外の物なり、洞内大小の島嶼點々散布し、各形勝を占む、眺觀佳絶、(阿波) たゞ松島をこゝに見るべし、

舎心山 阿波國那賀郡ノ北東方ニアリ、登路〔式按スルニ、加茂谷村大字加茂カ〕一里十四町、

〔阿波〕 山上に堂塔遺跡及岩屋あり、山下に長川の流あり、

大龍寺山 阿波國那賀郡ノ東方ニアリ、加茂谷村大字加茂ヨリ一里五町ニシテ其山頂ニ達ス、

〔名勝〕 孤峰巖然として雲に染え、山上に輪奐たる堂塔を並らべ、千載の老杉蒼鬱として是を蔽し、南北に深窓ありて捨身と號け、南は壁立百餘仞、橋を架して路を通ず、北は宛然石符の如し、梯に攀ちて登るなり、共に頂上に行場あり、更に一峰を起し、古木叢密にして、四個の石窟あり、龍の窟鐘の窟等の名あり、龍の窟は口の徑一丈餘、入る十歩にして深潭あり、深さ測るべからず、右に折れて進めば、頭上の岩面悉く龍鱗を印す、鐘の窟は石あり鐘の如くに倒に懸かれりこれを叩けば鏗然として聲あり、奇狀一々に堪へ難し、そもく當山は延暦のむかし、桓武天皇の勅により、弘法大師丈七尺の虚空藏菩薩を刻み、七堂伽藍を創建し、山を捨身寺を大龍と號す、寺傳に古昔毒龍ありて棲みたるを、大師鉢盂を持しこれを龍窟に封じたるより寺號となすと、境内一町五反一畝十七歩あり、

矢筈山 阿波國那賀郡ノ南東方ニアリ、登路〔式按スルニ、新野村大字豊田カ〕二十町餘、

明神山 阿波國那賀郡ノ南東方ニアリ、登路〔式按スルニ、椿村大字椿カ〕二十町、

天狗山 阿波國海部・那賀ノ二郡ニ跨ル、海部

(378)

地藏森山 土佐國幡多郡ノ北方ニアリ、登路
二里十町餘、

泉森山 伊豫國北宇和郡ノ北西方ニアリ、高
光村大字光満ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達
ス、標高二千六百九十尺、

鬼城山 伊豫國北宇和郡ノ中央ニアリ、明治
村大字豊岡ヨリ凡一里十八町ニシテ其山頂ニ
達ス、標高三千五百六十四尺、

黒尊山 土佐國幡多郡伊豫國北宇和郡ニ跨
ル、登路〔式按スルニ、幡多郡津大村大字奥屋
内カ〕三里、

篠山 伊豫國南宇和・北宇和ノ二郡土佐國幡
多郡ニ跨ル、南宇和郡一本松村大字正木ヨリ
一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六
百九十六尺、
〔提要〕 最峻ナリ、〔地誌〕 其高頂を黒尊山と名づく、山麓

正木に供僧ありて歡喜光寺と曰へり、篠山權現は、用明帝の
朝に建立、光孝帝の御宇より築へり、篠山の腰を引廻した
る道あり、此道より上を蓮華座と云、頂上に矢筈池あり、麓
に柳川とて堀離取川有三所より委詣する道あれども、いづれ
も柳川を渡る也、
望篠山在土佐界 僧 海 量
篠山萬仞接雲長、幽谷深溪樹鬱蒼、二月白櫻花若雪、天風
吹送空中香、

讚岐山脈

袴腰山 阿波國板野郡ノ北東方ニアリ、登路
〔式按スルニ、大津村大字大代カ〕一里九町、

大麻山 阿波國板野郡ノ北方ニアリ、板東村
大字板東ナル大麻比古神社ヨリ二十二町餘ニ
シテ其山頂ニ達ス、標高二千二百四十一尺、

大山 阿波國板野郡讚岐國大川郡ニ跨ル、登
路〔式按スルニ、板野郡大山村大字神宅カ〕十
八町、標高二千七十六尺、

(379)

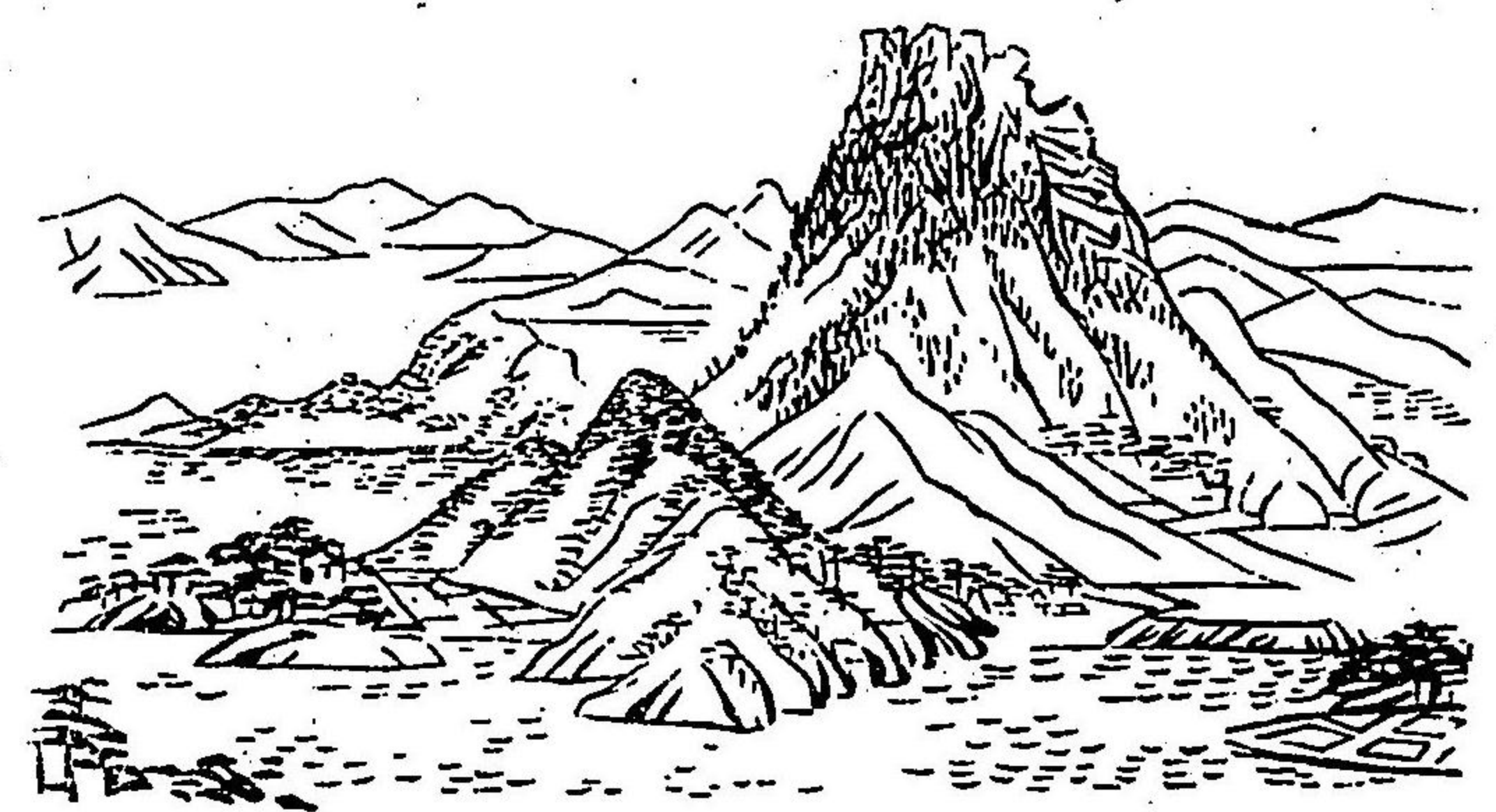
登尾山 讚岐國大川郡阿波國阿波郡ニ跨ル、
大川郡福榮村大字入野山ヨリ二十四町ニシテ
其山頂ニ達ス、

城王山 阿波國阿波郡ノ東方ニアリ、八幡村
大字切幡ヨリ一里二十五町〔式按スルニ、大俣
村大字日開谷ヨリモ一里二十五町カ〕ニシテ
其山頂ニ達ス、

伊笠山 阿波國阿波郡ノ西方ニアリ、登路〔式
按スルニ、大俣村大字大暮カ〕一里十八町、

大窪山 讚岐國大川郡ノ南西方ニアリ、五名
山村ヨリ凡一里十一町ニシテ其山頂ニ達ス、

五劍山 (別稱八栗山、矢栗山、矢線嶽、
八國山) 讚岐國木田郡ノ北方ニアリ、牟禮
村大字牟禮ヨリ凡二十四町(或云七町餘)ニシ
テ其山頂ニ達ス、標高千二百二十一尺、



五劍山

〔大府〕 山頂嶮岩アリ、巖然削立シテ、狀五劍ヲ立ルカ如シ、山ノ東麓ニ志度浦アリ、四三原島アリ、共ニ一峰ノ中ニ屬ス、〔地誌〕 又八國山と曰ふ、絶頂に上れば八國を眺め得と云ヘリ、〔説名〕 中腹に至る迄は松栢蒼鬱たりと雖とも、其上部は怪岩突起して五峰に分れ、蒼翠を摩す、其北端の一峰は、永祿十一年五月、大雨日を重ねし爲め、二十日拂曉折裂し、其後、寶永三年十月四日、大地震の爲め東峰また折くといふ、八栗寺側の尊者を備ひ、五峰を跋渉すれば、古松岩上に偃蹇し、白雲脚下に浮遊し、山海の風光人目を爽かにす、天正十一年、中村恒頼此山に孤城を築き、長谷我部元親の兵と戦ひ之を破り、其夜出て、鹿沼浦に至り、船に乗して備前國兒島郡に移りしと云、〔説史〕 窮髮之嶺有藏王祠、亦靈仙之所窟宅、甚奇絶之山也、

春はまた梢の花の色をひて 佐々木黄恩
 猶幾重とも峰の白雲 鹿 柳
 初鷹や朝霧晴るゝ五劍山 柳 量
 五劍山 柳 量
 八栗山頂千仞峰、峰々如劍翠重々、青天時青雲烟起、精彩宛爲五色龍、
 五劍山 尾池 榮
 峰分五劍插雲端、雨澤風塵影自寒、白日南溟高紫氣、何人携得倚天看、

高山山

讚岐國木田郡ノ南方ニアリ、奥鹿村大字奥山ヨリ凡二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

御所原山

讚岐國香川・木田ノ二郡ニ跨ル、香川郡安原上東村大字安原上東ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、

大瀧山

阿波國美馬郡讚岐國香川郡ニ跨ル、美馬郡岩倉村大字岩倉ヨリ凡二里、香川郡安原上東村大字安原上東ヨリ凡二十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百二十五尺、

鷹山

〔大府〕 頂上遙カニ播・備數州ノ地ヲ望ムベシ、讚岐國香川郡ノ南方ニアリ、安原上西村ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、

小山川山

讚岐國香川郡ノ南方ニアリ、安原上西村ヨリ凡十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

星越山

讚岐國香川郡ノ南方ニアリ、安原上東村大字安原上東ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

寒風山

讚岐國香川郡ノ南方ニアリ、安原上東村大字安原上東ヨリ凡二十三町ニシテ其山頂ニ達ス、

木綿織山

讚岐國香川郡ノ南方ニアリ、安原上東村大字安原上東ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

平賀山

讚岐國香川郡ノ西方ニアリ、安原村大字安原下ヨリ凡二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

松山

〔別稱綾松山、阿野松山、白峰〕 讚岐國綾歌郡ノ北方ニアリ、松山村大字高屋ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千五百五十八尺、

〔提要〕 高處ヲ白峰ト云、〔名勝〕 山中に 崇徳天皇の陵趾〔白峰神社〕及び白峰寺あり、山の北麓海岸を松ヶ浦と云ふ、白峰の西北端に兒ヶ嶽と呼べる處あり、懸崖絶壁の間一飛瀑ありて、傍らに不動の小堂を安ず、瀑は直下五丈許にして、其水旱魃の時と雖も涸ること無しとぞ、〔説史〕 有神曰相摸切、甚有威靈、其餘仙靈多窟宅于此云、

笠形峰

讚岐國綾歌郡ノ中央ニアリ、美合村大字川東ヨリ凡十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

高鉢山

讚岐國綾歌郡ノ中央ニアリ、登路〔式按スルニ、西分村カ〕三十町、標高千六百十尺、〔説史〕 頂有靈祠、祭龍王神、能起雲下雨、以利農民、此峰高聳、無遠不蒙矣、

高見峰山

〔別稱鷹見防山〕 讚岐國綾歌郡ノ中央ニアリ、羽床村大字羽床下ヨリ凡一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百五十六尺、

〔説史〕 鷹見防神之名也、以有此神爲山名、

丸山 讚岐國綾歌郡ノ中央ニアリ、羽床村大

字羽床下ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

堤山 讚岐國綾歌郡ノ中央ニアリ、羽床村大

字羽床下ヨリ凡二十町ニシテ其山頂ニ達ス、

城山 讚岐國綾歌郡ノ北方ニアリ、西庄村ヨ

リ凡十七町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千三百

九十九尺、

〔説史〕 有祠曰城山神社、嘗神晴雨之神也、嶽有古祠之墟、

三頭山 阿波國美馬郡讚岐國綾歌郡ニ跨ル、

登路式按スルニ、美馬郡重清村カニ二十五町、

大川山 (別稱大仙山) 讚岐國綾歌郡阿波國

三好郡ニ跨ル、綾歌郡美合村大字中通ヨリ一

里四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百

八尺、

〔大府〕 山上紅葉多シ、〔説名〕 絶嶺に洞あり、大山祇神を

祀る、傳へいふ、文武天皇の御宇、役小角徧れく諸邦を巡

ぐるに際して、此山嶽に登りしに、一老翁忽然として來り謂

つて曰く、吾は是れ大山祇神なり、常に此山に逍遙し吾く邦

内の諸山を視て之を守護す、子吾が爲めに祠を建てよと、こ

ゝに於て小角祠を營して之を奉じ、又木花咲也姫を以て之に

配し、大仙大權現といふ、祠後の小丘草木繁茂する處を、御

嶽座所といへり、是れ昔時神の現はれし所なりと、〔説史〕

經頂則不時暴風起、雖盛夏、不着袷衣即難堪矣、南麓則阿州、

六月朔爲祭日、祭日則兩國入會、昔則四州入會、

登大仙山望海 綠野景福

九萬鵬程遠、天低雲水間、指看背一髮、隱々隱州山、

多治川山 讚岐國仲多度郡ノ南東方ニアリ、

七箇村大字七箇ヨリ凡一里十五町ニシテ其山

頂ニ達ス、

尾瀨山 讚岐國仲多度郡ノ南方ニアリ、七箇

村大字七箇ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達

ス、

鹽入山 讚岐國仲多度郡ノ南東方ニアリ、七

筒村大字鹽入ヨリ凡一里十五町ニシテ其山頂

ニ達ス、

象頭山 (別稱琴平山、大麻山) 讚岐國仲多

度・三豊ノ二郡ニ跨ル、仲多度郡琴平町ヨリ凡

十八町、麻野村大字大麻ヨリ凡二十二町ニシ

テ其山頂ニ達ス、標高二千八百八十一尺、

〔大府〕 山腹金毘羅神社アリ、〔名勝〕 當社は名遠近に聞え、

其賽入の多き、伊勢大廟に亞ける一の繁盛なる神社なり、〔説

史〕 大麻山之南邊、其狀似象頭、以故名之、有神謂金毘羅權

現、鎮座以來一千餘年、傳云、大寶元年十月十日寅刻、金毘

羅神乘金色象、卒五家眷屬、從碧空降、時大麻神迎之云々、

此神中古衰廢矣、從慶長中復昌云、

花高し神の威徳も象頭山 吳 夕

推帆涼し證岐の鼻の象頭山 津 富

夜登象山 日柳 燕石

雌懸人頭勢欲傾、滿山露氣不堪清、夜深天狗來休翼、十丈

老杉搖有聲、 廣瀬 旭莊

象頭山上作

孤村觀月跨黃牛、長驛踏花觀紫龍、綠陰鶯語眠晴簾、白浪

燈光坐雨舟、未如此般最奇絶、縹緲來歸大象頭、象頭非象



象頭山

山也巳、形容彷彿自相似、長街風折扼咽喉、老樹怪材列牙
齒、東麓坦途如鼻垂、四峰稍高成其耳、人過鼻四到鼻東、
卓爾以猶體背童、長嘯一聲山石坼、千谷萬洞風生風、樹動雲
走山似活、恍惚象行入天中、天外微茫溥海白、海外遙山一
髮碧、我家更在山外遙、歸心空託歸禽脚、食跡不見微雨來、
雨來竟作蕭々々、

七寶山 讚岐國三豊郡ノ西方ニアリ、高室村
大字高屋ヨリ凡十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

〔讀史〕 昔弘法大師埋七寶而作伽藍、故以爲名矣、
中蓮寺峰 讚岐國三豊郡阿波國三好郡ニ跨
ル、三豊郡財田村大字財田中ヨリ十八町餘ニ

シテ其山頂ニ達ス、標高二千三百三十三尺、
雲邊寺山 (別稱雲遍山、佐野山) 讚岐國

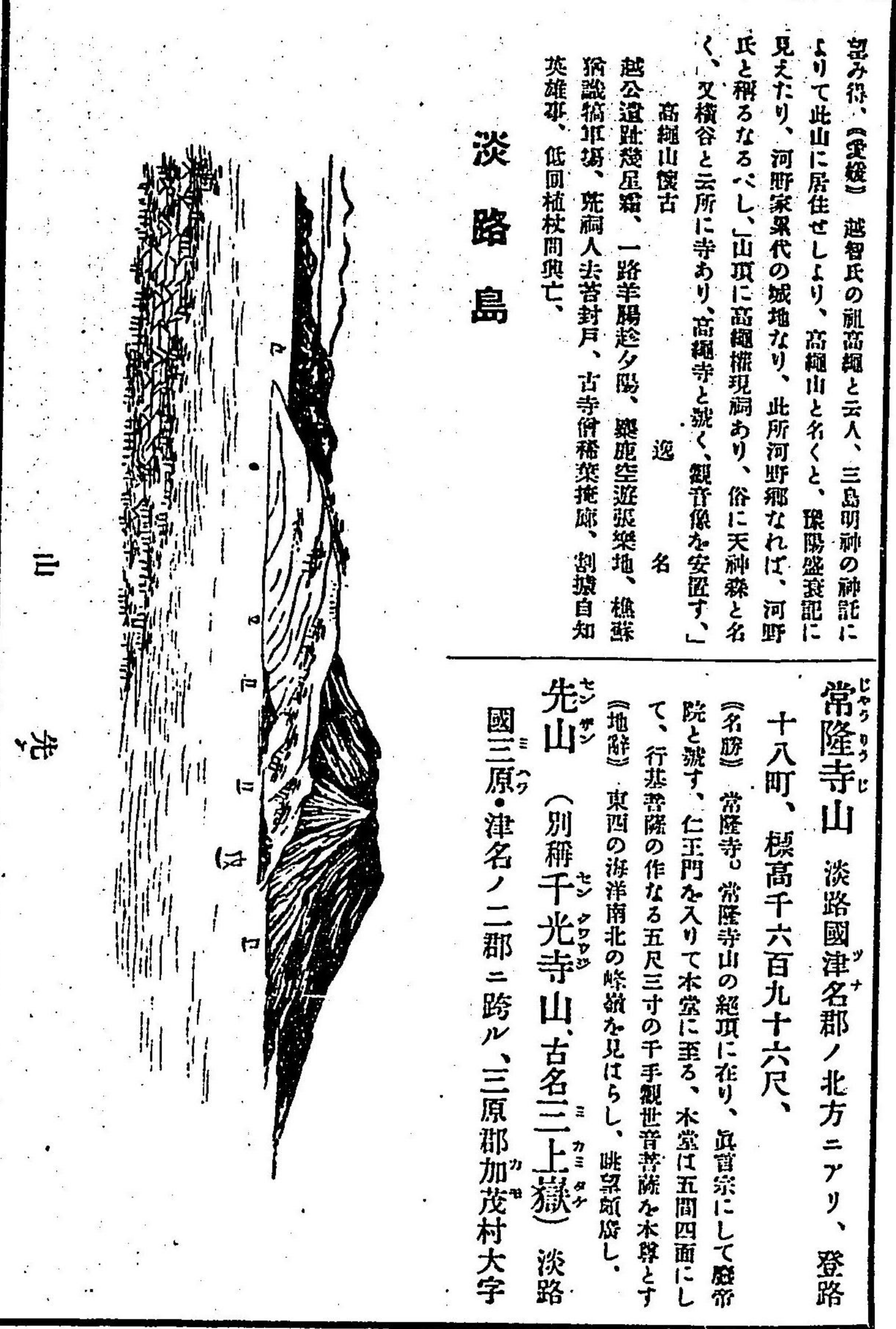
三豊郡阿波國三好郡ニ跨ル、三豊郡五郷村大
字内野々ヨリ凡一里十六町、三好郡佐馬地村
大字白地ナル吉野川渡口ヨリ一里三十三町餘
ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百六十尺、

〔讀史〕 此山跨四州、謂巨龜山、然世人唯知寺、故以寺爲山
名、今也從之、四國第一之高山也、雲霧常不絕、初又尙有雲、
長曾我部元親登此山、俯見四州、遂生掌握之心、是亦登標五十
丁云、
曼陀峰 讚岐國三豊郡伊豫國宇摩郡阿波國三

好郡ニ跨ル、三豊郡五郷村大字海老濱ヨリ二
十五町(或云二十町)ニシテ其山頂ニ達ス、標
高千六百四十三尺、

〔地名〕 其上上嶺しき所を捨身ヶ嶽と云へり、
高繩半島

高繩山 伊豫國溫泉郡ノ北方ニアリ、立岩村
大字猿川ヨリ一里十一町、河野村大字宮内ヨ
リ凡二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百
十尺、
〔風景〕 道後溫泉若くは北條村より犀川に沿ひ登り得、頂に
寺院あり、東・西・北放開して、瀬戸内海の群島及び松山市を



望み得、(愛媛) 越智氏の祖高繩と云人、三島明神の神託に
よりにて此山に居住せしより、高繩山と名くと、豫陽盛衰記に
見たり、河野家累代の城地なり、此所河野郷なれば、河野
氏と稱るなるべし、山頂に高繩權現あり、俗に天神森と名
く、又横谷と云所に寺あり、高繩寺と號く、觀音像を安置す、
高繩山懷古 逸 名

淡路島

常隆寺山 淡路國津名郡ノ北方ニアリ、登路
十八町、標高千六百九十六尺、
〔名勝〕 常隆寺。常隆寺山の絶頂に在り、眞實宗にして廢帝
院と號す、仁王門を入りて本堂に至る、本堂は五間四面にし
て、行基菩薩の作なる五尺三寸の千手觀世音菩薩を本尊とす
〔地誌〕 東西の海洋南北の峰嶺を見はらし、眺望頗廣し、
先山 (別稱千光寺山、古名三上嶽) 淡路
國三原・津名ノ二郡ニ跨ル、三原郡加茂村大字

内膳ヨリ十八町、津名郡鮎原村字塔下ヨリ二十五町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千五百二十八尺、

〔提要〕 東ノ別峰ヲ三上嶽ト云、(名勝) 登路を南口・北口と分かち、北口は、津名郡にありて、絶頂までの里程三十四町なり、絶頂に近くして、本坊(千光寺)あり、本坊より二十町程の絶頂を登りて、左右に茶亭あり、又十町餘の絶頂を攀ぢて、仁王門あり、即ち山頂にして、内は八百七十坪餘の平地なり、(淡名) 本道は東の麓下内膳村より登る、行程十八町にして絶頂寺境にいたる、南麓は上内膳村より登る、坂路十八町、難所多し、北麓は安坂村より登るなり、洲本より行程凡一里許、

登山千光寺

附 海 景

淡島風標(未完) 先山萬古翠葱々、二神相合浮橋上、一箇初擬滄海中、天啓長傳興國、法燈高掛梵王宮、回廊四面波瀾調、不辨潮流與碧空、

柏原山 (別稱檀原山) 淡路國津名郡ノ南方

ニアリ、登路一里十四町、標高千八百八十一尺、

〔淡名〕 國中第一の高山也、由良の浦より上灘を眼下に眺め、

山海遼望、最勝景なり、昔は探掛其材多しといふ、今も尙杉の塚番匠が谷などいへる所あり、是等杉・檜を伐いだせし跡の遺名なるべし、且里人の農歌に「由良の漆に唐船遊る榎原山の鶴の音」とうたへりと云、按ずるに、唐舟つくるとは、文中、朝鮮渡海の舟を山頂に於て作りし事有しなるべし、

諭鶴羽山 (別稱踰鶴羽山、讓葉山、弦弓)

葉山淡路國三原郡ノ南方ニアリ、灘村字浦

壁ヨリ三十町餘、字黒岩ヨリ十八町ニシテ其

山頂ニ達ス、標高二千十尺、

〔淡名〕 按ずるに、神樂鶴羽來る、因て名くといふ、諭鶴羽の字義むつかし、但し山にゆつり葉の樹多し、因て名を得たるなるべし、(淡名) 南灘の海邊に登へたる高嶺にして、東は紀の路の海山より、南は渺々たる滄海、沼島の流村は眼前にあり、西には阿波の鳴門の海迄も見へたりて、眺望頗る絶勝なり、正面の山下を黒岩村と號す、こゝに下る事凡十八町、最山徑峻嶮なり、諭鶴羽神社。山上にあり、國君の御營建なり、

小豆島

星城山 讃岐國小豆郡小豆島ノ東方ニアリ、

草壁村大字片城ヨリ凡二里ニシテ其山頂ニ達

ス、標高二千六百九十五尺、

〔名勝〕 寒霞溪の東三十町安田村に在り、郡中の高峰にして、頂に達すれば、南海・山陽の山川、歴々脚下に落ち、眺望實に壯絶なり、山中に二洞あり、一を東峰神社と云ひ、天御中主神以下五神を祭る、一を四峰神社と云ひ、大野手援命を祭る舊記に曰く、應神天皇嘗て此地に遷幸せりと、又康平年中備前見島郡飽浦の城主佐々木信胤此地に城きて、方士城と名けしが、貞和三年、細川頼之の爲めに破られ、城終に陥ると云へり、

寒霞溪山 (別稱神懸山、鍵掛山) 讃岐國

小豆郡小豆島ノ北東方ニアリ、草壁村大字上

ヨリ凡一里十二町、

〔名勝〕 豐前の耶馬溪は、頼山陽の文に依りて世に紹介せられ、人既に勝風たるを知らずとも、讃岐の寒霞溪に至りては、世上其の風色を脱く者稀なり、是れ其の地の交通不便なる一孤島に在るが故か、抑も亦其涼を叙せる諸名士の文、尙ほ山陽の筆に及ばざるが故か、應神天皇嘗て此地に遊び給ひし

時、鉤を岩角に掛けて攀ぢ登らせ給ひたるが故なり、詩人等文字の雅淳ならざるを厭ひて、終に今の字に書き改めたる者なるべし、其體は皆磐石を刻みて自から階を爲すものにして登るに隨つて風色幽遠、水清く石滑かなり、半里にして溪路少しく開け、四顧すれば峻嶮壁立、或は虎の踞まるが如きもの、或は龍の蟠まるが如きものあり、忽ちにして洞門を迎へ、忽ちにして瀑布を送り、五步觀を改め、十步趣きを異にし、奇景筆の能く盡す所に非ず、就中通天窓・紅雲亭・錦屏風・老杉洞・蛤岩・玉符峰・帖石石層雲壇・荷葉嶽・烏帽子石・女蘿壁の如きは、溪中の絶勝にして、皆途中に於て觀るを得べく、之に山嶽の四望峰を加へて、里人は此地の八景と爲す、山頂に達すれば、眺望千里、南に阿波の山水あり、北には播磨の城市あり、若海杏池、島嶼幾千、皆雙陸に擬り來り、眞に天下の壯觀なり、而して溪中春花夏綠、秋月冬雪、孰れも其觀に富むと雖も、就中晚秋紅楓の時を以て最も壯と爲すと云ふ、(參考書) 地學雜誌六十八號、寒霞溪道しるべ、錦溪集、

手家

秋

左證洋分右證海、中有豆大仙都在、天使神女關此郡、爾來一千五百歲、島勢百里如帶運、奇山岩尊壁青天、就中瀟華尤拔類、排葛藤藤探秀異、維石岩々勢欲傾、老樹巖岩瘦於苔、或如孤劍峽雲立、又似黑鬼欄人來、山々溪流水注水、

鳴琴登玉清閣耳、山水相映各生姿、更於奇中增一奇、溪々
 盡處海如練、去來風帆影幾片、靴子足跡遍天涯、如斯絕勝
 不曾見、背雲帶波有一村、日暮來投高士軒、道景難描拋老
 臥、夢伴飛猿度劍門、

〔航越〕 人々勇を鼓して上村にいたる、これより神龜の山
 麓なり、このほとりにある石燈、みな自然石を以て造る、
 古色愛すべし、冠蓋は此山に登る三回なりと云ふ、登るこ
 と半里許、素懸瀑にいたる、此の瀑は三丈餘の巨岩の面に
 流れ、水條條の如く下る、其の兩岸峰巒突起して、其の狀
 如く屋の如し、ますく進んで望むに、四面みな石山
 なり、洞水争々として、青松岩頭に生じ、其の際にあるは
 遠く楓樹なり、群巒縹緲し、岩松斑爛として石質を埋む、
 本邦の山嶽は異邦と異にして、濃厚の氣あるを常とするに
 似り此山は奇と怪との兩字を下すべき一勝地なり、山形を
 四顧するに、尖銳刀刃の如き者あり、夾立屏風の如き者
 あり、老獅の咆哮する形なる者、巨人の坐躡する姿のもの、
 其他千狀萬態、洞門を開く者、淡水を遮る者、變化奇幻、
 筆墨の寫しがたき所あり、支那人の當く奇峰怪岩を始め
 目眩に見る、實に一大絶勝といふべし、

絶勝始疑天有私、丹霄難寫况文詞、半生憐我烟霞癖、未
 識溪山若箇奇、

益々登れば益々奇、愈々進めば愈々怪、一峰一溪といへど

も、歩々に其觀を變ず、冠蓋登て余に語るに、神龜の勝他
 に絶したるは、一步一景なりと、余其過譽なるかと疑へり、
 今日其真を見るに及んで、其奇幻實に一步一景のみならず
 るを知れり、山嶽に近づくころ、幽靈往來し、山容出沒し
 て、詩歌も形狀すべき様なし、且其の幽深なる、猿・鹿の外
 一物を見ず、眞の神仙境なり、冠蓋いふ、此山に猿數千あり、
 一月内十五日は此の谷に栖み、十五日は坂手の觀音山
 に移る、其の往來の時、索々聲をなし、草木震動すと、是
 れ亦一奇事なりと、峰巒の少し欠けたる所より、巖州の諸
 山海を隔て、現す、海色蒼茫として、間に一洲嶼あり、其
 の内に見ゆるは内の海なり、下村港の人家は雲烟の間に明
 滅たり、其の風景亦奇絶とす、此時風雨益々烈しく、山氣
 冥濛として、逕路歩を進むるに難けれど、余は其の奇に耽
 つて、笠をすて杖を頭に纏ひ、杖を扶けて山頂に至る、與
 丁東道をなす者云ふ、遊人神龜に登る者、昏暗和の日をト
 す、未だ君等の如く風雨を冒して此の峻山に登る者を見ず
 と、痛く吾輩の狂癖に嘆息せり、山頂より四顧すれば、山
 嶽海嶽、千里一日、四は屏風ク嶽を望み、北は流れの山、
 東は近く星城山を見る、この山は古佐々木氏の城廓ありし
 所なりとぞ、南は坂手其の他の諸山遠近に望ゆ、岩海香池、
 島嶼幾千あるを知らず、巖の高松、備の岡山、播の赤穂、姫
 路、其他の城嶽數十を一瞥に見る、寔に天下の壯觀なり、

中國山系

雲脚千重又萬重、紅風如錦映青松、他年栖隱斯鄉好、笑
 指星城第一峰、

萬仞峰巒浴海間、雲籠老洞路繁環、林泉不似人寰物、始
 悟蓬瀛是此山、

山頂に座し、風雨の中に、人々皆酒を酌み、醉興爽快な
 り、忽ち連峰雲を起し來たり、須臾に滿山雲霧として、咫
 尺も見えぬかと思へば、一陣の風來り、雲片散飛して山谷
 明らかになり、千里入眼の景、誠に驚くに堪へたり、

山出沒兮雲往來、瞬間變幻亦奇哉、我登仙嶽最高處、長
 嘯一聲飛酒盃、

大箕山 丹波國氷上郡ノ北方ニアリ、佐治村
 大字市原ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、
 朝來山 (別稱粟鹿山、愛宕山) 但馬國朝來
 郡丹波國氷上郡ニ跨ル、朝來郡粟鹿村大字粟
 鹿ヨリ凡一里四町、氷上郡神樂村大字稻土ヨ
 リ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千

四國及中國 中國山系

百七十六尺、

秋の色は朝來の山の唐錦

讀人不知

露いかなれば分てみむらし

三國嶽 丹波國氷上郡但馬國朝來郡播磨國多

可郡ニ跨ル、氷上郡神樂村大字大名草ヨリ三

十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百二十

二尺、

篠峰 丹波國氷上郡播磨國多可郡ニ跨ル、氷

上郡和田村大字西谷ヨリ二里餘ニシテ其山頂

ニ達ス、標高二千七百二十九尺、

笠形山 (別稱播磨富士) 播磨國神崎・多可

ノ二郡ニ跨ル、神崎郡瀬加村大字上牛尾ヨリ

一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千百尺、

〔名勝〕 山谷駿河の富士山に似たるを以て、呼ば播磨富士と

云ふ、國中第一の高山なり、〔播磨〕 京の愛宕より笠形に見

ゆるとて、笠形と名付たる山也、

照る目にも山の姿は面白や

嵯峨山筆人

雨はふらねど笠形と知れ
笠形山絶頂

無名氏

攀登縁樹百丁嶺、抱育群山出衆川、備作但丹泉攝州、南漢
對橋邊孟邊、

高御位山 (別稱高御座山) 播磨國印南郡

ノ北方ニアリ、西志方村大字成井ヨリ十八町
ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四尺、

〔名勝〕 全山は皆岩石より成り、坂路崎嶇として、曲折定り
なく、其頂きに小祠あり、高座の神を祭り、維新前までは毎歲
九月を以て祭典を行ひ、神輿一基本社を出て、生石村の石ノ
寶殿へ渡御せりと云ふ、高座祠の在る處は、太古神座の遺跡
なりと言傳へ、其の近傍巨岩落落として起伏す、就中一ノ門、
二ノ門、御丸等は最も巨大なるものなり、

中道山 播磨國印南郡ノ北方ニアリ、東志方
村大字岡ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標
高七百五十二尺、

廣峰山 播磨國飾磨・神崎ノ二郡ニ跨ル、飾磨
郡城北村大字白岡ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ

達ス、標高千二十六尺、

〔名勝〕 廣峰神社。廣峰山上に在り、縣社にして素戔嗚尊を
祀る、本殿は後に山を貫ひ、老樹鬱々として雜茂し、境内に
奥ノ宮・白鬚神社・軍殿其他の末社多し、又後山に九つの洞穴
あり、穴の上に支干の形を畫き、賽人之れに錢を投じて願を
祈る、

廣嶺山

石橋 雲來

背壁丹崖迷曉烟、祠堂掛在老松巖、人家數十愛樓閣、石級
高低連階阡、萬里長城壁脚下、千重巨浪一窓前、將賦廬獄
評奇景、唯恨新聞欠瀑泉、

明神嶽 播磨國飾磨郡ノ北方ニアリ、鹿谷村

大字神種ヨリ二十九町餘ニシテ其山頂ニ達
ス、標高二千二百四尺、

〔名勝〕 此山播州にての高山なり、往來の驛客は馬上よりか
えり見、運道の旅人は津津船より是を望む、昔は此山上に獄
明神と申神います、故に明神嶽の名あり、然と雖驗路物詣人
を惱ますにより、中比より此神をば神種といふ處に移し奉り
けり、

書寫山 播磨國飾磨郡ノ中央ニアリ、曾左村
大字書寫ヨリ凡二十五町ニシテ其山頂ニ達

ス、標高千二百十四尺、

〔名勝〕 姫路市を距る西北凡そ二里、坂路六あり、書寫村字
東坂木より登るを東坂(表坂)と云ひ、西坂木より登るを西坂
と云ふ、其他四坂路を置鹽坂・鉢尾坂・六角坂・刀出坂とす、
山中は老樹枝を交へて諸鳥囀り、天吼岩・甲岩・六本杉・如意瀧
布等の名所甚だ多く、實に國內第一の巨刹(書寫山國教寺)天
台宗ニシテ、境内六萬千七百七十四坪なり、賽人常に堵の如く
夏は避暑を兼ねて登山する者亦少からず、

何ん書何を寫して跡る窟

涼 帶

盤桓老松擁擁、繞到山門覺地殊、聖堂(後醍醐)當年留
履跡、高僧(性空)此處創淨園、于今堪仰杉千丈、自古滄海
櫻一株、勿恨近來檀度減、廢僧毀寺在盤懸、

菅山 (別稱三國山) 因幡國八頭郡但馬國美

方郡ニ跨ル、八頭郡菅野村大字春米ヨリ二里
八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千四百四十
五尺、

氷山 (別稱日龍山、豹山、四箇山) 但馬國

〔地辭〕 山中に宮瀧権現と稱する神を祀ふ、

山中に宮瀧権現と稱する神を祀ふ、



書寫山

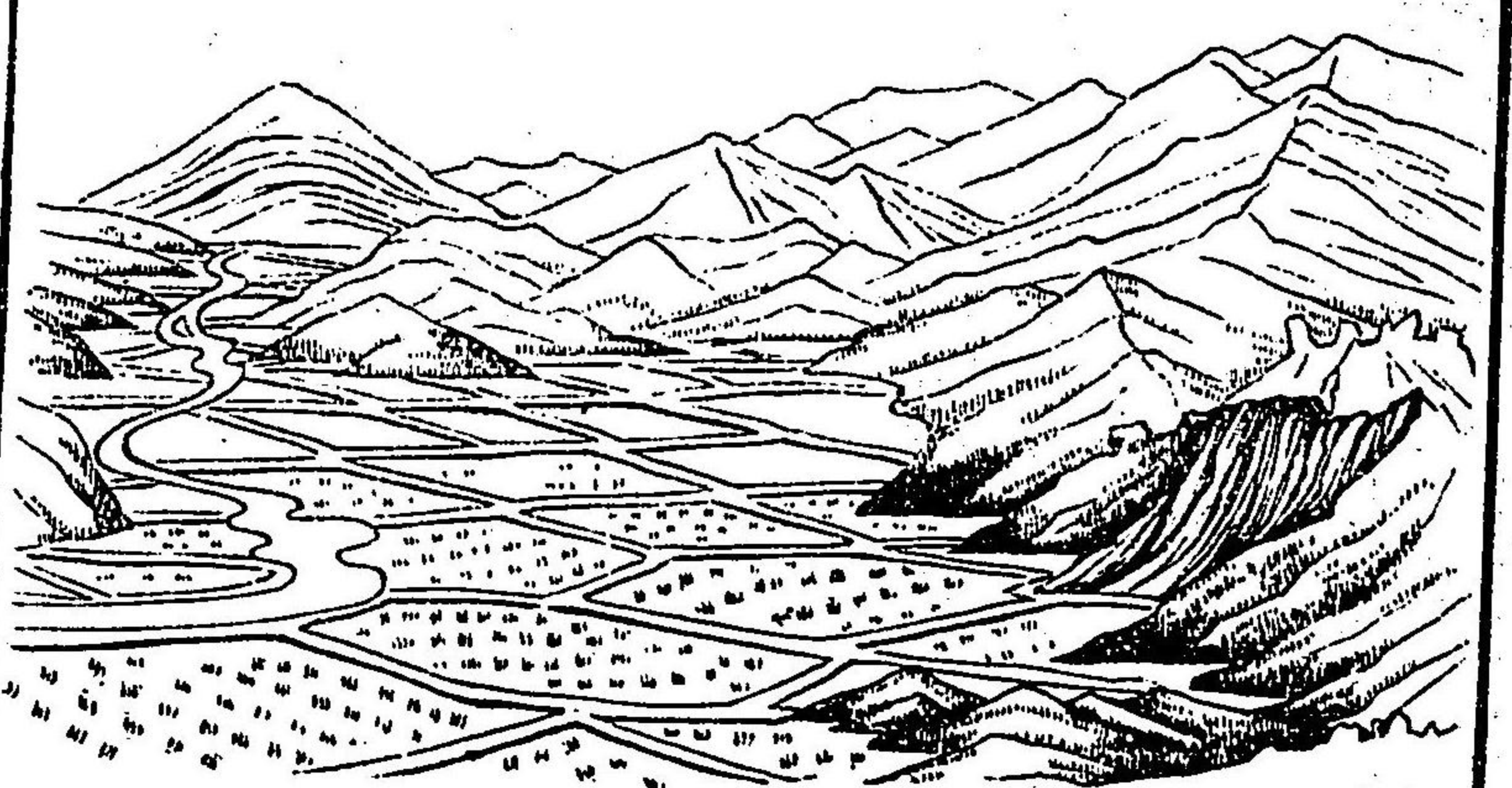
美方郡因幡國八頭郡ニ跨ル、美方郡熊次村大字福定ヨリ一里三十二町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千九百八十三尺、

妙見山 (別稱石原山)但馬國養父郡ノ北西方ニアリ、八鹿村大字日畑ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百六十九尺、

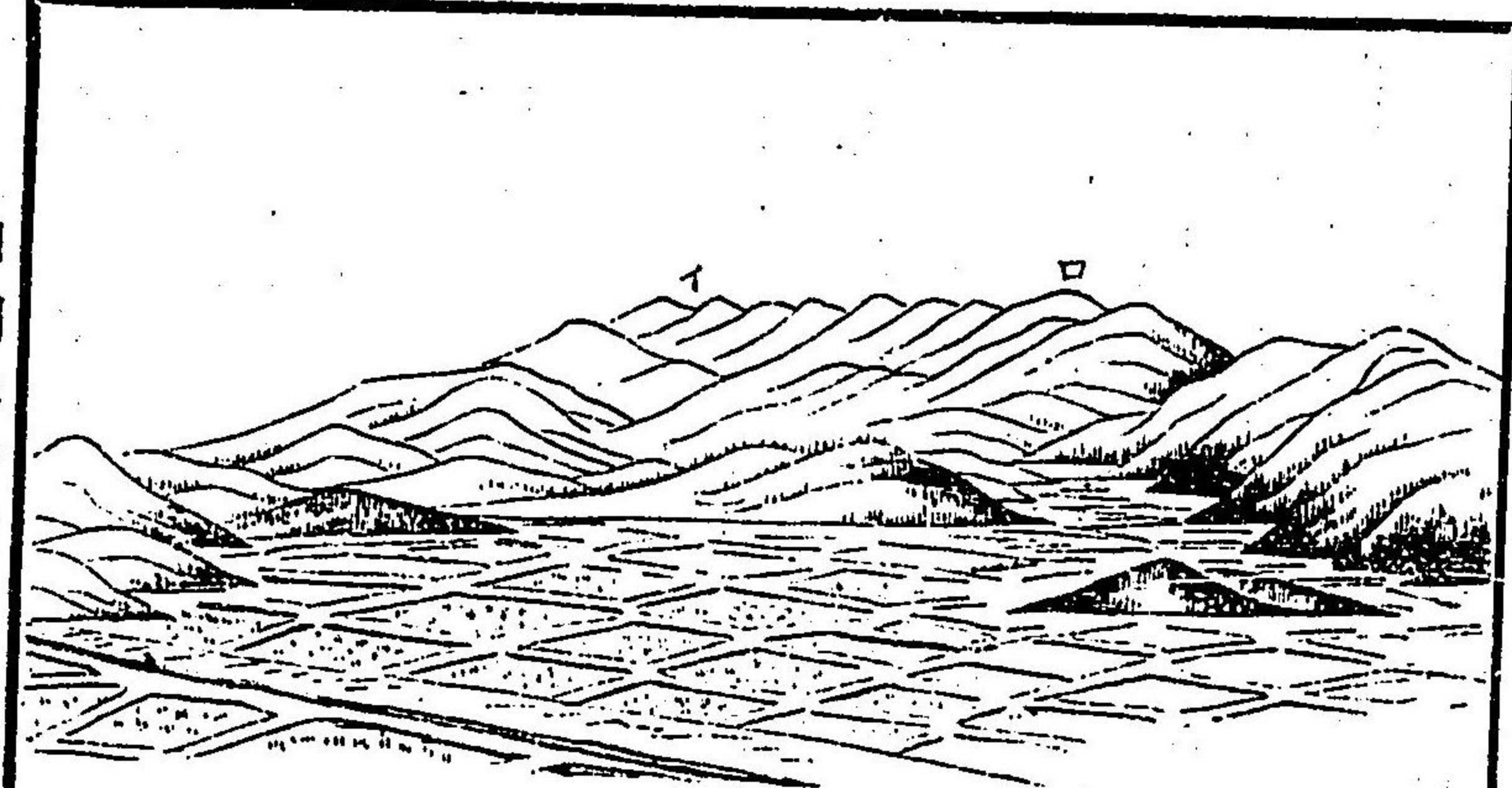
來日嶽 但馬國城崎郡ノ中央ニアリ、内川村大字來日ヨリ凡二十三町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千五百三十三尺、

陣鉢山 因幡國八頭郡ノ東方ニアリ、赤松村

大字諸鹿ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千三尺、



御開山ヨリ豐岡平夷及來日嶽ヲ望ム



門尾村ヨリ但馬國境扇山ノ脈ヲ望ム
イ 扇山 口 陣鉢山

扇山 因幡國岩美・八頭ノ二郡但馬國美方郡ニ跨ル、岩美郡上舟村大字上地ヨリ凡一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千三百二十二尺、

久斗山 但馬國城崎・美方ノ二郡ニ跨ル、城崎郡長井村大字九斗山ヨリ凡一里九町ニシテ其山頂ニ達ス、

稻葉山 (別稱因幡山、伊那波山、宇部野山、宇部山) 因幡國岩美郡ノ中央ニアリ、國府村大字宮下ヨリ二十四町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高八百二十二尺、

《地名》山頂平坦なること方三里餘、海洋の航客當に之を目標として本洲の諸港に入るといふ、

《但馬》此山嶺嶺也、多ク礎石ヲ出ス、鳥獸繁多ナリ、

《名勝》山脈東西に分るゝこと數里、其頂きは高原を爲し、

古松鬱然として、蒼翠瑤々べし、
雲霧もはれて因幡の山のはに

月影きよし嶺の松風

因幡山またかへりきてしぐる也

立別れにし嶺の浮雲

夫れは美濃是は因幡の雲の松

池田山

因幡國八頭郡播磨國安栗郡ニ跨ル、
八頭郡池田村大字中原ヨリ一里二十三町ニシ

テ其山頂ニ達ス、標高四千八百八十四尺、

黒尾山

(別稱小野山、關瀧、高尾山、尻
山) 播磨國安栗郡ノ中央ニアリ、神戸村大字

白旗山

播磨國赤穂郡ノ北方ニアリ、赤松村
大字赤松ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標

高千四百五十三尺、

後山

美作國英田郡播磨國安栗郡ニ跨ル、英
田郡東栗倉村大字後山ヨリ一里十四町ニシテ

其山頂ニ達ス、標高四千二百九十三尺、

那岐山

(別稱名義山、奈義能山、奈木
山) 因幡國八頭郡美作國勝田郡ニ跨ル、八頭

郡那岐村大字河津原ヨリ三里、勝田郡豊並村

大字高岡ヨリ四里六町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高四千九十三尺、

籠山

因幡國八頭郡ノ西方ニアリ、富澤村大
字總地ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高三千六百三十三尺、

泉山

(別稱井水嶽) 美作國吉田郡ノ中央ニ

標高三千六百三十三尺、

熊山

備前國和氣郡ノ西方ニアリ、鶴山村大
字坂根ヨリ二十六町餘(或云一里十四町)ニシ

テ其山頂ニ達ス、標高千六百七十六尺、

頭巾山

(別稱圖巾山) 因幡國八頭郡ノ中央
ニアリ、登路(式按スルニ、用瀬村大字用瀬カ)

十八町、標高千七百三二尺、

那岐山

(別稱名義山、奈義能山、奈木
山) 因幡國八頭郡美作國勝田郡ニ跨ル、八頭

郡那岐村大字河津原ヨリ三里、勝田郡豊並村

大字高岡ヨリ四里六町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高四千九十三尺、

籠山

因幡國八頭郡ノ西方ニアリ、富澤村大
字總地ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高三千六百三十三尺、

泉山

(別稱井水嶽) 美作國吉田郡ノ中央ニ

標高三千六百三十三尺、

熊山

備前國和氣郡ノ西方ニアリ、鶴山村大
字坂根ヨリ二十六町餘(或云一里十四町)ニシ

テ其山頂ニ達ス、標高千六百七十六尺、

頭巾山

(別稱圖巾山) 因幡國八頭郡ノ中央
ニアリ、登路(式按スルニ、用瀬村大字用瀬カ)

十八町、標高千七百三二尺、

那岐山

(別稱名義山、奈義能山、奈木
山) 因幡國八頭郡美作國勝田郡ニ跨ル、八頭

郡那岐村大字河津原ヨリ三里、勝田郡豊並村

大字高岡ヨリ四里六町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高四千九十三尺、

籠山

因幡國八頭郡ノ西方ニアリ、富澤村大
字總地ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高三千六百三十三尺、

泉山

(別稱井水嶽) 美作國吉田郡ノ中央ニ

標高三千六百三十三尺、

熊山

備前國和氣郡ノ西方ニアリ、鶴山村大
字坂根ヨリ二十六町餘(或云一里十四町)ニシ

テ其山頂ニ達ス、標高千六百七十六尺、

頭巾山

(別稱圖巾山) 因幡國八頭郡ノ中央
ニアリ、登路(式按スルニ、用瀬村大字用瀬カ)

十八町、標高千七百三二尺、

那岐山

(別稱名義山、奈義能山、奈木
山) 因幡國八頭郡美作國勝田郡ニ跨ル、八頭

郡那岐村大字河津原ヨリ三里、勝田郡豊並村

大字高岡ヨリ四里六町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高四千九十三尺、

籠山

因幡國八頭郡ノ西方ニアリ、富澤村大
字總地ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高三千六百三十三尺、

泉山

(別稱井水嶽) 美作國吉田郡ノ中央ニ

標高三千六百三十三尺、

熊山

備前國和氣郡ノ西方ニアリ、鶴山村大
字坂根ヨリ二十六町餘(或云一里十四町)ニシ

テ其山頂ニ達ス、標高千六百七十六尺、

頭巾山

(別稱圖巾山) 因幡國八頭郡ノ中央
ニアリ、登路(式按スルニ、用瀬村大字用瀬カ)

十八町、標高千七百三二尺、

那岐山

(別稱名義山、奈義能山、奈木
山) 因幡國八頭郡美作國勝田郡ニ跨ル、八頭

郡那岐村大字河津原ヨリ三里、勝田郡豊並村

大字高岡ヨリ四里六町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高四千九十三尺、

籠山

因幡國八頭郡ノ西方ニアリ、富澤村大
字總地ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高三千六百三十三尺、

泉山

(別稱井水嶽) 美作國吉田郡ノ中央ニ

標高三千六百三十三尺、

熊山

備前國和氣郡ノ西方ニアリ、鶴山村大
字坂根ヨリ二十六町餘(或云一里十四町)ニシ

テ其山頂ニ達ス、標高千六百七十六尺、

頭巾山

(別稱圖巾山) 因幡國八頭郡ノ中央
ニアリ、登路(式按スルニ、用瀬村大字用瀬カ)

十八町、標高千七百三二尺、

那岐山

(別稱名義山、奈義能山、奈木
山) 因幡國八頭郡美作國勝田郡ニ跨ル、八頭

船越山

播磨國安栗郡美作國英田郡ニ跨ル、
安栗郡三河村大字船越ヨリ十八町ニシテ其山

頂ニ達ス、標高二千四百尺、

船越山

(別稱比名倉山、日名倉山) 美作
國英田郡播磨國安栗郡ニ跨ル、英田郡石井村

大字奥海ヨリ一里三十四町ニシテ其山頂ニ達

ス、標高三千四百五十六尺、

八塔寺山

(別稱八東寺山) 備前國和氣郡
美作國英田郡ニ跨ル、和氣郡三國村大字都留

峽字大藤ヨリ一里五十町一里ナリト云) 三町

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十五尺、

アリ、泉村大字養野ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千九百九十尺、

〔名勝〕山腹に射水権現社あり、其頂上危岩の欲つ處を大冠と號す、岩の高さ十間幅六七間、石路逶迤として之に通ず、大冠の北に泉池あり、方五間許り、碧水鏡の如し、山名亦此の泉池に起因すと云ふ、其の絶頂に登臨すれば、國內諸山を始めとして、因幡・伯耆・山雲・讃岐・備中・備後の翠巒、悉く指顧すべく、雲脚脚下より生じて、風景頗る明瞭なり、

黒澤山

〔別稱〕虚空藏山、美作國吉田郡ノ中、

〔名勝〕古へ頂きに虚空藏堂ありて、尙ほ二二の古跡を存す、

三國山

因幡國八頭郡伯耆國東伯郡美作國吉田郡ニ跨ル、八頭郡上佐治村大字中ヨリ二里二十八町、東伯郡中村大字中津ヨリ一里十町、吉田郡上齋原村大字上齋原ヨリ凡一里

十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千五百六十七尺、

〔作勝〕三州入降子、峰巒聯綿、巖岫連雲、大低山腹向南、有岩井瀑、高三百間、橫或三間、或四間、下有石竇、方五間、宛然如室、此溪無涸、距上中津山北十町許、

高山

〔別稱〕高野山、因幡國八頭郡氣高ノ二郡ニ跨ル、登路八頭郡明治村大字北ヨリス、里數未詳、標高三千四百七十七尺、

〔地勢〕峰巒環峙、山勢頗大なり、その巖は三角に峙ちて、北は高草、南は智頭の境にて、高山権現堂は北村の奥十五町許りにあり、勸請の時代不明、昔は袖小屋の奥百二十町許りに鎮座ありて、北村より登山す、是を禪定道と云ふ、絶峰高く聳え、深水源に透れり、蛇淵の左にそびて攀登り、横瀧の下流をわたりて、又不動の瀧の源を渉る、而して瀧流の後をめぐりて、社前に至れり、其巖峯峻嶒なる云ふはかりなし、依之諸人行拜するに便なく、中比社地を轉して、今の處に遷すと云へり、

鷲峰山

〔別稱〕鷲峰、因幡國氣高郡ノ南西方ニアリ、小鷲河村大字鷲峰ヨリ一里二十六町

ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千三十九尺、

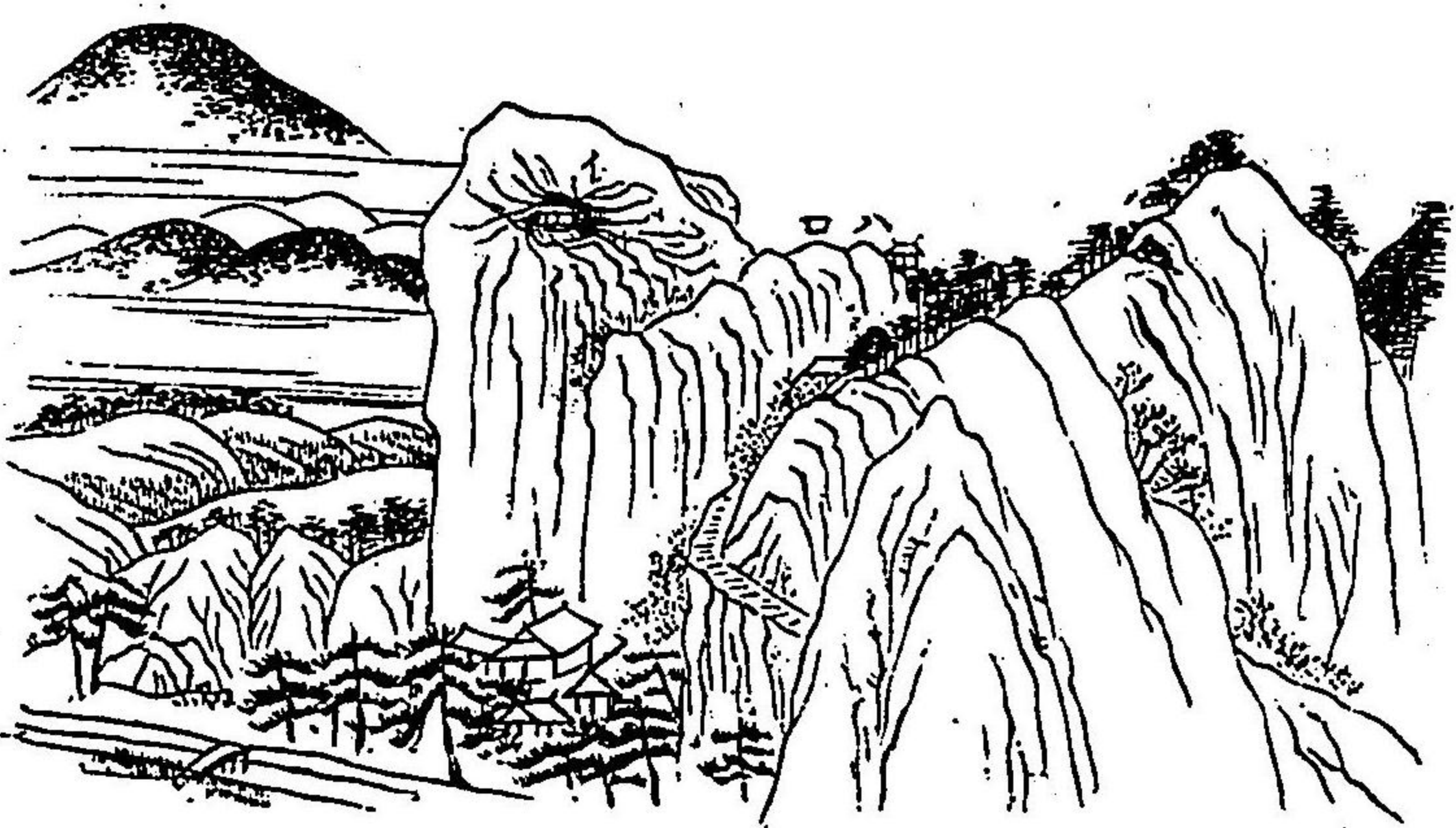
〔地勢〕氣高郡より之を望む、最麗々たり、獨立せる高山なり、山背連嶽四方にたれひろがり、山樹四時に蒼翠たり、北を山の表とし南は裏なり、里許日、九百九十九谷と、山の景象遠く仰げば峻し、近くみればゆるやかなり、凡て八字の眉を抹し、上は背脊を衝破す、鷲峰大明神は鷲峰山西のふもとに鎮座す、一つの頂よりか此山を釋迦説法の靈鷲山に擬し、古佛谷といふ名を設け、鹿野を鹿野苑王舎城と爲し、恒河・流沙・跋提等の地名を建てたり、

何年此現鷲峰山、幽谷深林白日閑、欲訪入天何會跡、悲風拂面不堪攀、

美徳山

〔別稱〕三徳山、伯耆國東伯郡ノ東方ニアリ、三徳村大字門前ヨリ十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百七十尺、

〔名勝〕木堂(三佛寺ナリ、三徳村ニアリ)の傍らを回つて其後に出て、橋を度りて更に險坂に就く、土石皆な雨に洗はれて樹根盡く露はれ、錯綜屈曲して自然に階を爲す、坂路一轉右に折れて、峻嶒愈々甚しく、文珠堂・地藏堂其側らに在り、大ニ方三四間、皆な盤石の上に盤立して、千尋の窟中に臨み、



美徳山

イ 投入窟、馬脊岩、牛脊岩

更に攀登すること數十歩にして鐘堂あり、牛の脊馬の脊の峻を過ぎ、觀音堂に入り奥の院に達す、奥の院は一に投入堂と稱す、方二三間、大岩窟の中に在り、蟻蟻たる岩石屋を蔽ひ、大雨過かに至ると雖も、柱底數尺の處を洗ふに過ぎず、脚下石滑かに谷深く、途絶え路究まりて、向ひ近づくと可からず、攀て此室に入る者は、實に百中の二三に過ぎずして、其他は仰きて之を眺め、跪きて之を拜するのみ、慶應三年、役の行者匠に命じて作らせしめたるものは是れなり、其構造は先づ室宇を窟外に組み、屋成りて後之を岩窟に投せしもの、其立ち礎定まりて、千古依然たり、故に投入堂と稱す、此處に抵れば水聲既に聞えず、鳥語亦至らず、幽秀の氣人に逼りて、久しく留まる能はず、又國內無比の勝處なり、(地辭) 三朝湯の東二里、

入形山

(別稱人魚山) 伯耆國東伯郡美作國 美作郡二跨ル、東伯郡東竹田村大字木地山ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千三百三十三尺、

(作勝) 此道出伯州河村郡穴鴨村、山上才原驛至滑坂、十六町、自滑坂至神子毗、四町、此處有小流、曰智野川、下入幾呂川、自神子毗至二耶毗、三町餘、北有土橋、曰人宿橋、自二

耶毗至入形毗、六町、乃伯州之界也、西北一町許、曰人形毗、望北海橋津沖、相距十餘里、俗傳昔此山有蜂王、大可丈、人遇則出害之、喜吮癩血、於是行旅不往、郡人大苦、後有異僧、教父老令作木偶人、僧背字遍休、立之路傍、戒曰、慎勿近、出三日必死、言訖而去、過期見之、蜂果死、乃並掘埋之、因名人形山、一説、古山中有一日遇仙、得人魚肉食之、歷年尸解、故名入魚山、

篠向山

美作國真庭郡ノ南東方ニアリ、登路二十二町、標高千六百五十尺、

二上山

(別稱蓋上山、二神山、兩山寺山) 美作國久米郡ノ中央ニアリ、大井和村大字兩山寺ヨリ二十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百七十四尺、

(名勝) 山甚だ隆からずと雖も、四方丘陵中に突起して、人目に入り易し、其頂き二峰に分れて、東西相對し、古へ顯密の二寺あり、之を兩山寺と稱せしも、今は僅に礎石の趾を存す、兩山寺は昔し傳教大師の草創にして、堂塔莊嚴を極め、

國內屈指の古刹なりしと云ふ、兩峰の間に水池あり、龍池水と云ふ、月の盈虧に隨ひ、其水に増減ありと言傳ふ、又天狗なるものあり、昔し僧泰澄、空海と相會して佛法を論じたる處なりと、山頂に登れば、四顧快愜、風色底に愛すべし、(遠ク南海ヲ望ミ得)

かき敷ふ二上山の露の上に

霞たなびく春ちかみか

玉くしけ二上山に紅の

雲棚引て雨は霽にけり

平賀 元 茂

全 人

荒神山

美作國久米郡ノ北東方ニアリ、登路〔式按スルニ、福岡村大字荒神山カ〕十五町、

(名勝) 古へ山頂に荒神の祠あり、故に名とす、又城趾あり、宇喜多直家の臣花房職秀の城く所にして、元和年中職秀備中高松に死するの後、城も亦廢す、城趾の北に寺跡あり、職秀の建立する所にして、今は其跡に孤松を存す、元と陰札を樹てたる處なりとて、個人札松と稱す、

高峰山

美作國久米郡備前國赤磐郡ニ跨ル、久米郡吉岡村大字山上ヨリ一里一町餘ニシテ其山頂ニ達ス、

龍天山

備前國赤磐郡美作國久米郡ニ跨ル、登路二十五町、標高千六百五十尺、

大王山

備前國赤磐郡ノ東方ニアリ、佐伯本村大字米澤ヨリ十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百三十四尺、

蛭山

(別稱蒜山) 伯耆國東伯郡美作國真庭郡ニ跨ル、東伯郡山守村字堀ヨリ一里、(真庭郡ノ山足ヨリ二里二十八町餘)ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千九百五十九尺、

(名勝) 北より望めば其峰三分す、故に上・中・下蛭山の稱あり、

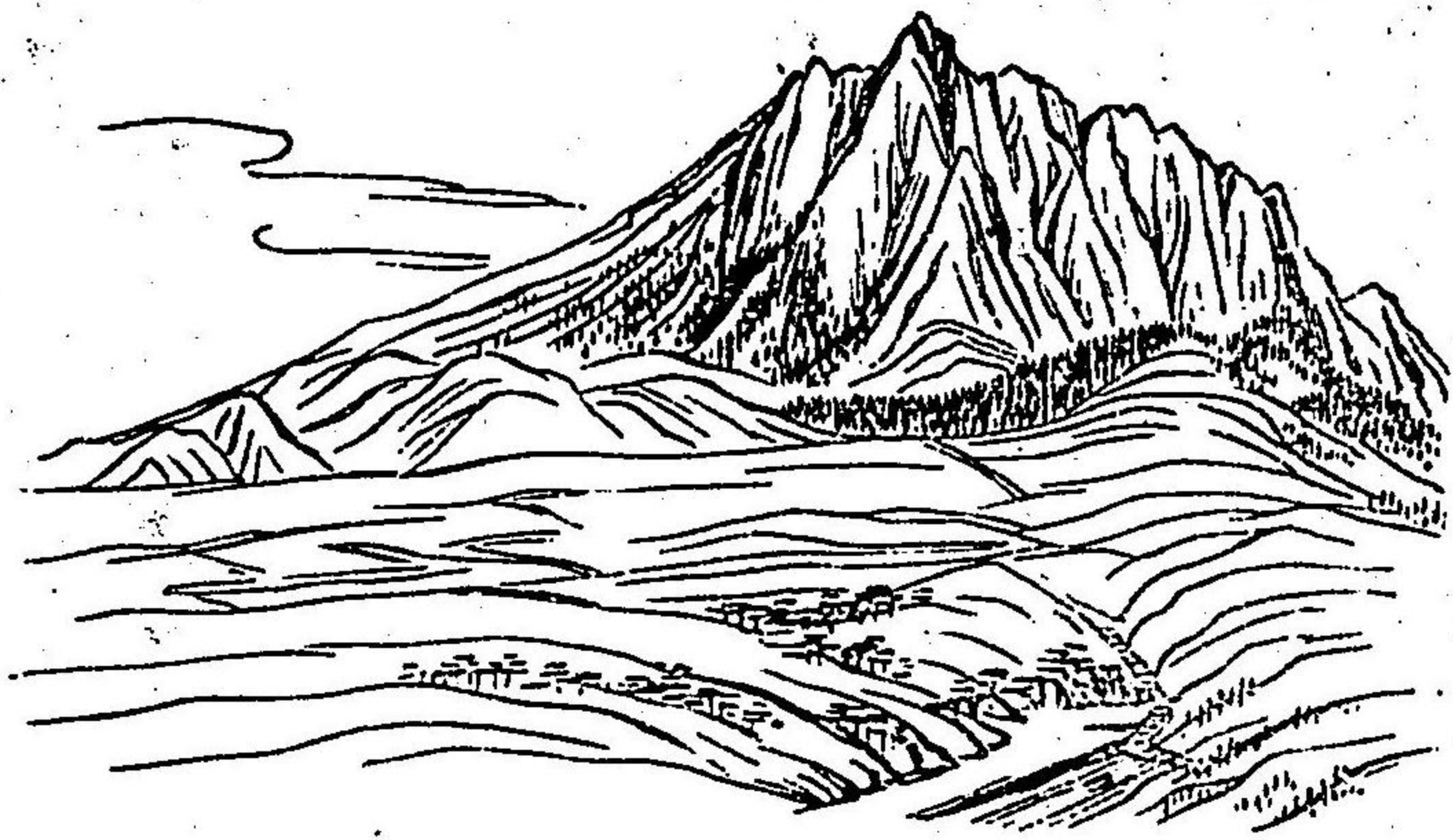
大山

(別稱大神山、角盤山) 伯耆國西伯郡ノ東方ニアリ、大高村大字尾高ヨリ五里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千六百五十三尺、

米子町

米子町の東に聳ゆ、中國第一の高山嶽、山陰鐵道御

(風景)



山大

來屋より左折し南行して登る、山腹に大神山神社(祭神大己貴命)あり、徑路は峻峻なりと雖も、絶頂よりの眺望は最も闊大、北に隠岐列島日本海上に浮出し、西に出雲、石見の境上なる三瓶山麓の鏡取を看、東に三國山(但馬・播磨・丹波の境界)及び但馬・丹波の連山を認め得、米子町に下らんとせば、西麓より車尾村に出づるを最便とす、(地誌)山勢雄偉、一望人を動すの概あり、故に古來神靈の寓所と爲し、修験行者は之を熊野・金峰に比せり、(參考書)大神山詣記、文庫二十一卷六號)

天雲のいはゆる大山は

ふもとの外に鳴鳥もなし

大神の高嶺離れて行雲や

木梨の里の雨と降るらん

伯耆不二白砂雪吹て夏もなし

峰にある露見て道ふ扇散

大仙

大嶽削成三萬丈、絶嶺縹緲有無中、霹靂吹散來爲霧、濤聲動地北溪風、

上角盤山

兩脚股間跨角盤、盤山六月雪風寒、行雲掃拭遠眸去、雙點隠州彈小丸、

上大山一云角盤山

村上 嶽翁
附 海 社

有 寬 隆
三 千 風
寸 風
仁 科 白 谷

八仙何歳此期朔、二帝歴機起道場、華頂岩圍絶人跡、翠巒林淵列危房、石門盤据通幽處、玉殿築回踏上方、閑土金蓮功不少、傳燈點關與山長、

船上山 伯耆國東伯郡ノ西方ニアリ、以西村大字山川ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百七十四尺、

《名勝》元弘三年閏二月、後醍醐天皇隱岐國より竊かに當國に還幸す、名和長年迎へて船上山(山陰鐵道御來屋停車場ヨリ凡二里)に導き奉り、御座を設けて假に行在所となす、其舊趾は今猶ほ山の西方にあり、樹木蒼鬱たる間、少しく平地を除し、芝草叢生す、土人字して天皇屋敷と云ふ、其東麓以四村大字山川に干支流あり、高六十丈幅一間、(地誌)赤崎驛の南三里、以西村大字山川の上方にして大山の北尾なり、一大高原を成し、方二三里に渉る、

船山凍雲 哉 州
漢々長天近瀟時、船山突兀玉爲肌、凍雲一抹前峰黑、猶見當年煤印旗、

三平山 伯耆國日野郡美作國眞庭郡ニ跨ル、日野郡米澤村大字助澤ヨリ十九町ニシテ其山

四國及中國 中國山系

頂ニ達ス、標高三千三百三十二尺、

大佐山 備中國阿哲郡ノ北方ニアリ、刑部村大字小坂部ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二十六尺、

《地誌》山勢雄偉、四方環圍の群山の上に超越し、美作伯耆の地より之を望見すべし、

赤瀧山 備中國阿哲郡ノ北方ニアリ、丹治部村大字丹治部ヨリ一里十四町餘ニシテ其山頂ニ達ス、

大和山 備中國吉備・上房ノ二郡ニ跨ル、吉備郡大和村字北ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

雞足山 備中國上房郡ノ南西方ニアリ、松山村字東ヨリ三十二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百九尺、

《備志》松山岸の上より山溪を攀て八九町、大久保といふ處

に至る、人家五七軒田畑等もあり、小川有て廣瀬高知谷に落る也、河原は玉坂などいへる處より落合なり、此大久保より又五七町登りて米山といふにいたり、爰にも人家小庵など有て田畑等あり、此處より又五七町登りて絶頂に至る、北は伯耆の山々より東西はもとより、南手に岩屋山など眼下に見渡せり、遙かに讃岐の海も見へたり、實に此あたりにての高山なり、郷俗七月二十六日の夜、此山に登りて月の東海より出るを望み、三尊の彌陀を拜すといへり、奇觀と云えし、

登難足山

多岐山路過人尊、島外學來難足峯、絶頂封丘何世祖、惟教遊客餘登臨、 奥田 盛香

加茂山 (別稱本宮山) 備前國御津郡ノ北方

ニアリ、上田村大字上田ヨリ一里十町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百五尺、

金山 (別稱金峰) 備前國御津郡ノ東方ニア

カキ (名勝) 古松鬱葱として茂生し、其の最も高き峰を本宮山と云ふ、(地名) 山勢最も峻しく、其西南岩の屹立したる所、懸崖數仞、其根脚を見ず、里人呼びて鹿殺しと云ふ、蓋し猪鹿一步を過ては墜落して死すと云ふ、

リ、牧石村大字金山寺ヨリ三十町(或云一里)

ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百四十八尺、

瑜伽山 備前國兒島郡ノ中央ニアリ、木見村

大字木見ヨリ一里十五町餘ニシテ其山頂ニ達ス、

登瑜伽山

夢遊者蟬鳴、枕上青燈地、早行養神人、門外粉如機、奮起此翁人、嘔吐辨朝食、欲攀萬步山、初踏一寸園、暖氣與人膚、雨急避風力、天東有陰雲、黝然照於雲、如蚊如夜叉、雜遝將來逼、嚙昔所見山、一半被吞蝕、日出雲散、山近風路寒、新晴使心勇、攀足高而委、修坂繞樹根、此爲入山城、同伴語且行、不覺幾回路、松是宿留機、竹皆史魚直、黃楊嬰嬰綠、蒼藤子玉傾、飛流過懸掛、栖禽被足抑、蔚斷塵染孤、曉晴孤館仄、奇葩互開凋、陰窟冥神照、地濕惟菌菜、苔深珍石匿、榮軒出林梢、汪洋觀海色、白者唯去帆、寄處是遠國、茶店四五家、人烟浮瀾側、薄產依餅盛、滯田收菜服、何處是神祠、樓閣懸南北、金碧映晨光、眩曜富采飾、狹壁隔一層、未行心先得、仰視前行人、亦在中途息、 廣瀬 旭莊

(航發) 尾原(木見村)より山路に登る、即ち瑜伽山の道なり、溪水源流として、石苔多く生じて、奇景多し、山間みな田畝にして、幾級も石を以て築き上げ、山腹まで稻を植る、實に驚くに堪たり、山轉じ廻り、一里餘にして瑜伽山にいたる、此山松樹多く、奇石突元として、其間に生ずるものは、藤類と蘭とを多しとす、眞に一佳境といふべし、山の最も高き所に瑜伽樓現の詞あり、岡宇莊園にて、樓門巖々たり、

三井山 備中國阿哲郡ノ北方ニアリ、新郷村

大字釜ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千五百五十二尺、

大倉山 伯耆國日野郡ノ南方ニアリ、石見村

大字下石見ヨリ三十五町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百七十尺、

道後山 備後國比婆郡伯耆國日野郡ニ跨ル、

登路未詳、標高四千八百八十七尺、

(地辭) 其山下の三坂村は、今油木と合せ八餅村と改む、此山絶頂に上れば、四國の山、雲・伯の海を望見す、

多飯辻山 備後國比婆郡ノ東方ニアリ、小奴

可村大字鹽原ヨリ三十一町、田森村大字粟田ヨリ二十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百七十七尺、

貓山 (別稱猫山) 備後國比婆郡ノ東方ニア

リ、小奴可村大字小奴可ヨリ二十町、八餅村大字三坂ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千九百四十五尺、

大黒目山 備後國比婆郡ノ南方ニアリ、高村

大字高ヨリ凡三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百七十七尺、

御神山 (別稱三神山) 備後國比婆・甲奴・神

石ノ三郡ニ跨ル、比婆郡帝釋村大字未渡ヨリ一里十四町、甲奴郡五箇村ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百九十尺、

〔地名〕山中怪岩奇石多し、殊に石橋の如きは、其形尤も奇なり、附近に帝釋寺あり、里俗呼んで帝釋の石橋と云ふ、〔名勝〕山嶽に旗立と號する大石あり、神ノ橋。寺の北里餘帝釋川の上流に在り、二橋にして、一を雄橋と云ひ、水面より高さ三十三丈、一を雌橋と云ひ、同じく高さ五丈餘にして、二橋の相距る凡そ三十町とす、天然の石柱にして、神工鬼鑿、頗る奇觀なり、〔海内絶無、而シテ唯一ノ奇境ト號ス〕而して之を渡るもの水上に横はるを知らず、其の側面より望みて、始めて橋なるを知るを得べしと云ふ、

雁きくやこは橋やら山路やら

神橋詩

風 伴 頼 杏 坪

吉備路後奴可郡、山石現偉極軼、就裡神橋尤秀奇、高梁兩山跨梁、傳道山靈復萬鬼、一夜換石此搬運、須臾相合作圓橋、堅牢宛如百銀城、不唯靈應常往來、耕耨亦多通饒、文化丙子春三月、余幸此郡訪民隱、途過神橋駐征鞍、欲呼老魁質所聞、身在橋上不知橋、奇構始向橋下同、背負赤土虹千尺、腹塞白石月半暈、勢如龍蛇懸斷崖、下有灘雷相聞、仰瞻俯聽形彩、瓊液淋漓瀉石壘、橋脚圓扉映日昏、惕然自省我職分、伊境雖奇率境前、里民難食苦播種、二夫不得如建市、富貴可遺先民訓、恩福况念羽埃報、區才敢不自激奮、如有無狀重度橋、應遭鬼神斷且斬、剗苔履詩聊自誓、願留此石勿傾價、

鬼橋

坂谷 期 渡

於戲奇哉鬼橋奇、鬼耶神耶將化見、海內異觀歸一掃、天台石梁亦徒爲、吟客夜投帝釋橋、大塚壓沙步纒支、曉霧攀入急峽際、怪岫危巒其翠圍、石門重開雲吞吐、波角牽鯉倒垂枝、忽看大窟中吞雲、飛來長流何處之、寧知空際通山脉、百丈橫跨千尋、萬古不撓卷隆勢、雲根天矯遶蟠、上生老樹爲欄楯、牛馬往來似垣茨、下如大月生溟渤、水瀉仙氣相爭馳、縱有霖霖漂山至、洞然流去屹不移、擬他老郵奔駛、山死鱗甲化石不絕離、又疑天半長虹飲谷夕、靈波固結凝不斷、不然太古架橋梁始、眞靈教民運巧思、萍梗嘗搜東方勝、金洞庚申風指推、不知絕奇在日晷、一條壓倒萬嶽巖、寄語天下煩靈客、公論不是我言私、不覺見獄勿談笑、不渡鬼橋勿說奇、

高山 備後國甲奴郡ノ西方ニアリ、木屋村ヨリ十六町餘、稻草村ヨリ十二町ニシテ其山頂ニ達ス、

一子山 備後國神石郡ノ西方ニアリ、永渡村大字永野ヨリ凡二十七町、大字相渡ヨリ凡十町餘ニシテ其山頂ニ達ス、

星居山

〔別稱星攀山〕備後國神石郡ノ中央ニアリ、阿下村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

〔地辭〕攀は攀の隈歟、攀はコに假るを得れど、攀はコに假るべからず、

遊星攀山僧舍

逸 名

千峰峯一曰收、引臂戲攀斗牛立、徐步標嵐紫翠間、逶迤石磴翠葉、老屋空山秋日寒、土階積雨苔鏡疊、因思吞佛兩臂、誰復移跡深處入、此道今人誰能如、風松吟罷草露泣、歲晚幽棲意自容、且呼猿馬爲相掛、

天神山

備中國川上郡ノ北西方ニアリ、湯野村大字西湯野ヨリ二十二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百八十二尺、

嶽山

備後國甲奴・蘆品ノ二郡ニ跨ル、甲奴郡清嶽村大字水永ヨリ二十五町、大字斗升ヨリ十一町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百五尺、

蛇園山

備後國蘆品郡ノ東方ニアリ、服部村大字雨木ヨリ十五町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百八十八尺、

陽生山

〔別稱遙照山〕備中國淺口・小田ノ二郡ニ跨ル、淺口郡竹村大字上竹ヨリ十八町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百三十六尺、

彌高山

〔別稱彌高千疊〕備中國小田郡ノ東方ニアリ、吉備郡穗井田村大字服部ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

〔名勝〕山は甚だ怪からずと雖も、之に登臨すれば南方眼界を遮るものなく、海上の眺望頗る佳なり、〔備名〕高山の彌高山は海路より十里餘り隔りて、群山の上に飯を盛りあげたる如く圓く麗しく見えて、十月頃より二三月までは雪白く積り、歌に雪をよまれたるも能く適へれば、此山をこそ名所とすべけれ、

雪ふれば彌高山の梢には
まだ冬ながら花咲きにけり
藤原行盛

三國山 出雲國仁多郡伯耆國日野郡備後國比婆郡ニ跨ル、仁多郡八川村大字八川ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千三百四十四尺、

船通山 (別稱船燈山、古名鳥上山、鳥髮山、簸河上) 出雲國仁多郡伯耆國日野郡ニ跨ル、仁多郡鳥上村大字竹崎ヨリ三十町「日野郡多里村大字上萩山ヨリ二十五町カ」ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百七十尺、

鎌倉山 伯耆國西伯・日野ノ二郡ニ跨ル、西伯郡東長田村大字東山字金山ヨリ一里四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百十二尺、

三郡山 出雲國大原郡・能義・仁多ノ三郡ニ跨ル、大原郡阿用村大字上久野ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千五百四十一尺、

天狗山 (別稱熊野山、熊成峰) 出雲國八東郡能義ノ二郡ニ跨ル、八東郡熊野村ヨリ一里二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千十四尺、

星上山 (別稱高野山) 出雲國八東郡能義ノ二郡ニ跨ル、八東郡岩坂村大字東岩坂ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百九十七尺、

清久山 出雲國大原郡ノ南方ニアリ、阿用村大字川井ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百六十六尺、

佛經山 (別稱古名神名火山) 出雲國簸川郡ノ東方ニアリ、出西村字氷室ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千二百八十八尺、

鯛巢山 出雲國仁多郡ノ西方ニアリ、阿井村大字上阿井ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千三百八十七尺、

大萬木山 (別稱土手山) 出雲國飯石郡備後國比婆郡ニ跨ル、飯石郡吉田村大字吉田ヨリ十六町(或云二十六町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千九十九尺、

鳥屋丸山 出雲國飯石郡ノ中央ニアリ、松笠村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス

黒山 (別稱袴腰山) 出雲國飯石郡ノ北方ニアリ、須佐村大字宮内ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百三十三尺、

鍋山 (別稱禪定寺山) 出雲國飯石・簸川ノ二郡ニ跨ル、飯石郡鍋山村字加食田ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百一十二尺、

美古登山 (別稱烏帽子山) 備後國比婆郡ノ北方ニアリ、比和村大字三河内字越原谷ヨリ一里四町、美古登村大字大屋字大原ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百一十二尺、

猿政山 (別稱古名御坂山) 出雲國仁多郡備後國比婆郡ニ跨ル、仁多郡阿井村大字上阿井ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百一十二尺、

テ其山頂ニ達ス、標高千二百八十八尺、

阿圖馬山 (別稱吾妻山) 出雲國仁多郡備後國比婆郡ニ跨ル、仁多郡馬木村大字大馬木ヨリ三十五町、比婆郡比和村大字森脇字横原谷ヨリ二十七町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千九十二尺、

美古登山 (別稱烏帽子山) 備後國比婆郡ノ北方ニアリ、比和村大字三河内字越原谷ヨリ一里四町、美古登村大字大屋字大原ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百一十二尺、

猿政山 (別稱古名御坂山) 出雲國仁多郡備後國比婆郡ニ跨ル、仁多郡阿井村大字上阿井ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百一十二尺、

鍋山 (別稱禪定寺山) 出雲國飯石・簸川ノ二郡ニ跨ル、飯石郡鍋山村字加食田ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百一十二尺、

大萬木山 (別稱土手山) 出雲國飯石郡備後國比婆郡ニ跨ル、飯石郡吉田村大字吉田ヨリ十六町(或云二十六町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千九十九尺、

鳥屋丸山 出雲國飯石郡ノ中央ニアリ、松笠村ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス

黒山 (別稱袴腰山) 出雲國飯石郡ノ北方ニアリ、須佐村大字宮内ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百三十三尺、

美古登山 (別稱烏帽子山) 備後國比婆郡ノ北方ニアリ、比和村大字三河内字越原谷ヨリ一里四町、美古登村大字大屋字大原ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百一十二尺、

猿政山 (別稱古名御坂山) 出雲國仁多郡備後國比婆郡ニ跨ル、仁多郡阿井村大字上阿井ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百一十二尺、

三町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高千三百二十尺、

〔地辭〕乙加宮の側なる圓蓋狀の山也、
琴引山 (別稱彌山) 出雲國飯石郡ノ南方ニ

アリ、來島村大字野萱ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百四十五尺、

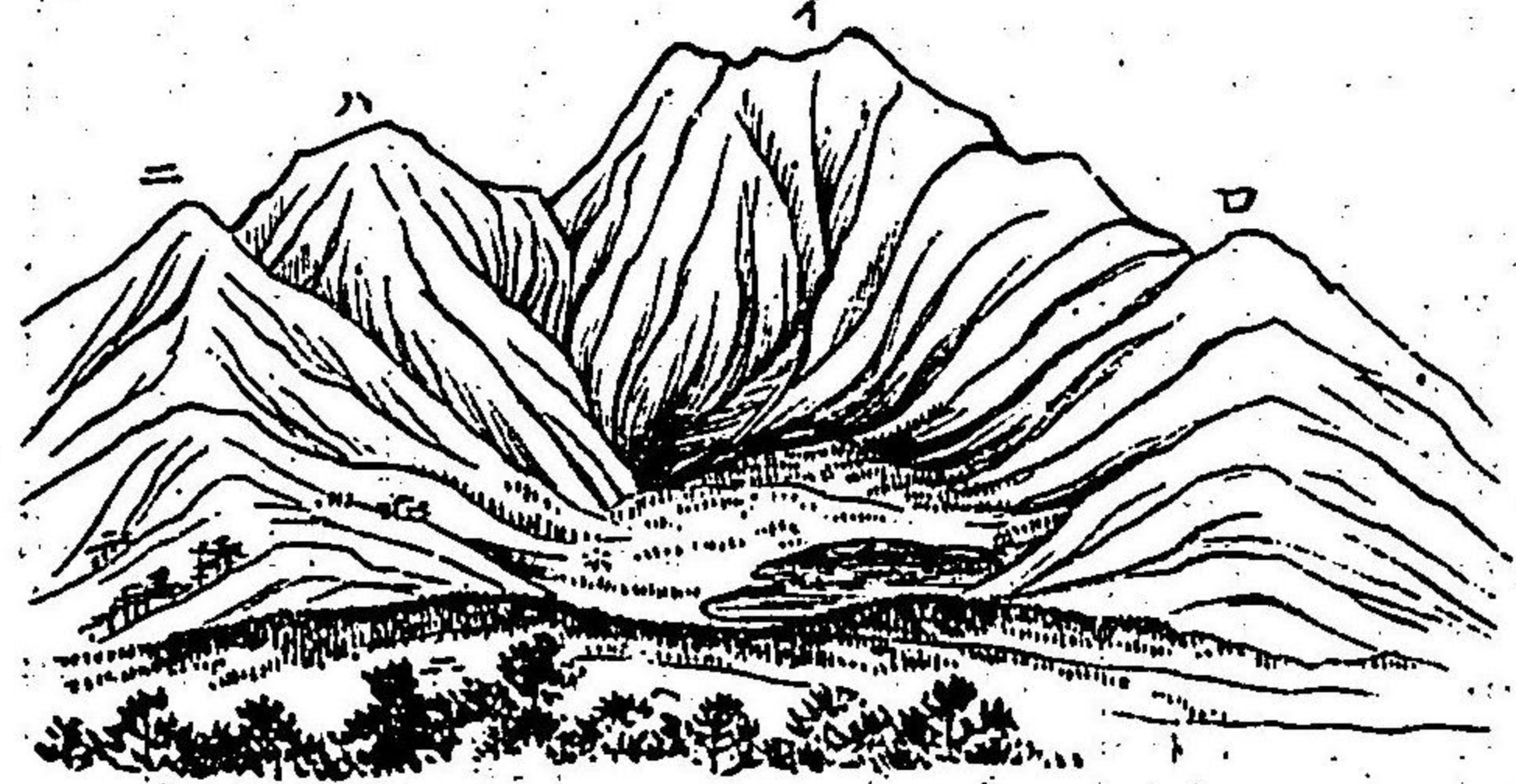
〔地辭〕俗に彌山と云ふ、
いづよりか調の聲の絶えにけむ 詠人不知
琴引山の音のきこえぬ

三瓶山 (別稱山邊山、古名佐比賣山、小媛山、形見山) 石見國安濃郡出雲國簸川・飯

石ノ二郡ニ跨ル、安濃郡佐比賣村大字小屋原ヨリ一里十四町、簸川郡山口村大字山口ヨリ

一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百十七尺、

〔風俗〕男三瓶、女三瓶、子三瓶、孫三瓶、外輪山をなし、其間に若火口(室ノ内と里稱す)あり、周囲二十町、深所は一反餘



圖ノ必見ヲ山瓶三リヨ峠内ノ室

瓶三孫 = 瓶三子 ^ 瓶三女 □ 瓶三男 イ
山平大 ト 峠内ノ室 ^ 孔氣噴噴炭 *

歩の池となる、池より西北三町「鳥ノ地獄」あり、炭酸噴孔にして鳥類此所に到りて斃る、火口より東南下する五町、熱泉湧出す、八町下なる志學温泉湯場まで箱桶にて引くに、熱度尙ほ高く、槽中にて冷却せしむ、經頂よりは前に日本海・隱岐島を望み、背に無數の山嶽を看る、裾野の景色亦た絶佳、〔地辭〕「サン」は蓋三瓶の字をサヒムに假りしより、其字音に移りたるものとし、或は山邊に作り、俗説日本第五の高山と云ふ、牛腹に浮布の池ありて、葛蒲多し、此池は歌枕に浮沼と云へり、(參考書)地理雜誌第七十三卷)

宮木引く袖さへ寒く麻衣 詠人不知
かたみの山に風吹くなり

下野淵寺望三瓶山 僧 海 景

曉捲袈裟下野淵、無邊秋樹白雲懸、三瓶山色三千丈、獨倚滄溟萬里天、

鶴降山 (式按スルニ、此山 鶴谷山ト同山

異名ニアラザルカ) 石見國安濃・邑智ノ二郡ニ跨ル、登路凡一里、標高千七百七十六尺、

矢瀧城山 (別稱矢瀧山) 石見國邇摩・邑智ノ二郡ニ跨ル、邇摩郡湯里村大字西田ヨリ三

十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千五百五尺、

山吹山 石見國邇摩郡ノ中央ニアリ、登路二十四町、

ツミラユ山 (別稱傾山) 石見國邇摩郡ノ西方ニアリ、湯里村大字西田ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百六十尺、

高仙山 (別稱屋上山) 石見國那賀郡ノ北東方ニアリ、淺利村ヨリ十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高七百十九尺、

大江高山 (別稱高山、大江山、大家山) 石見國邑智・邇摩ノ二郡ニ跨ル、邑智郡祖式村大字祖式ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百六十六尺、

犬伏山 安藝國高田郡ノ北方ニアリ、川根村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百

四國及中國 中國山系

十一尺、

三石山 石見國邑智郡安藝國山縣郡ニ跨ル、邑智郡市木村ヨリ三十二町ニシテ其山頂ニ達ス

冠山 (別稱古名不可志山) 石見國邑智郡ノ中央ニアリ、井原村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百八十六尺、

〔地辭〕 山中に怪岩異石多し、其八色石最著れ、太古神靈の遺巧に成ると傳ふ、冠山の四麓、矢上川の溪頭に魚切の瀨あり、

なべてその不可志の山に入ぬれば、 讀人不知 歸らん路も知られざりけり

丸瀬山 (別稱阿佐山) 石見國邑智郡安藝國山縣郡ニ跨ル、邑智郡市木村ヨリ二十六町ニシテ其山頂ニ達ス、

瀧山 (別稱龍頭山) 安藝國山縣郡ノ中央ニアリ、都谷村大字都志見ヨリ三十町ニシテ其

山頂ニ達ス、標高三千二百三十四尺、

白木山 (別稱白澁山) 安藝國安佐・高田ノ二郡ニ跨ル、安佐郡大林村ヨリ三十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百三十六尺、

大土山 (別稱大都智山) 安藝國高田郡備後國雙三郡ニ跨ル、高田郡坂村ヨリ一里十四町、安藝國豊田郡川源村大字清武ヨリ二里七町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百二十四尺、

岡田山 備後國雙三郡ノ南方ニアリ、田幸村大字大田幸ヨリ二十六町、川西村大字上田ヨリ十一町(或云二十五町)ニシテ其山頂ニ達ス、

天神嶽 備後國世羅郡安藝國豊田郡ニ跨ル、世羅郡吉川村大字吉原ヨリ二十町、豊田郡川源村大字安宿ヨリ一里二十町ニシテ其山頂ニ

野呂山 (別稱鍋蓋山) 安藝國賀茂郡ノ南方ニアリ、廣村ヨリ一里九町、川尻村ヨリ一里二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百七十一尺、

〔地辭〕 前後に二嶺ありて、前嶺最高し、榮花物語にのろくしきと云ふ言見え、此山天表に逶迤として、奇峻ならざるより名つくるにや、舟人は安藝の鍋蓋山とて、海上より望みて方位を辨じ、陰晴を卜すとぞ、

灰峰山 (別稱蠅峰) 安藝國安藝・賀茂ノ二郡ニ跨ル、安藝郡和莊町ヨリ二十一町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百七十六尺、

〔地辭〕 吳軍港の東に峙立する峻峰なり、野呂山と相連り、安藝灘より之を望む双耳のごとし、

吳安々々山 (別稱五社宗山) 安藝國安藝安佐ノ二郡ニ跨ル、安藝郡畑賀村ヨリ二十八町餘、下瀬野村ヨリ二十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百五十二尺、

達ス、標高二千五百尺、

宇根山 (別稱畝山) 備後國御調・世羅ノ二郡ニ跨ル、御調郡宇津戸村ヨリ二十町、久井村大字吉田ヨリ二十五町、世羅郡甲山村大字小世良ヨリ九町餘ニシテ其山頂ニ達ス、

熊峰 備後國沼隈郡ノ東方ニアリ、水呑村ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千四百四十五尺、

〔地名〕 稱町の北二里弱にあり、

鷹巢山 安藝國豊田・高田ノ二郡ニ跨ル、豊田郡久芳村ヨリ二十五町、竹仁村大字下竹仁ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百九十九尺、

用倉山 安藝國豊田郡ノ南西方ニアリ、登路二十六町、標高千八百四十八尺、

島星山

石見國那賀郡ノ北東方ニアリ、跡市村大字千田ヨリ一里七町餘、江津村大字郷田ヨリ一里五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千二百七十一尺、

刈尾山

(別稱狩龍山)安藝國山縣郡ノ西方ニアリ、雄鹿原村大字橋山ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千三百八十六尺、

彌畝山

石見國那賀郡ノ南西方ニアリ長安村大字程原ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千三百七十六尺、

高城山

石見國那賀郡ノ西方ニアリ、登路(式

按スルニ、蘆谷村カ凡十六町、標高千二百五十一尺、

漁山

石見國那賀郡ノ西方ニアリ、漁山村大字銅石ヨリ三十町餘、高城村大字欄木ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百五十五尺、

大麻山

(別稱當麻山)石見國那賀郡ノ西方ニアリ、井野村大字室谷ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百六十四尺、

十方山

安藝國佐伯・山縣ノ二郡石見國美濃郡ニ跨ル、登路一里十八町餘、

大峰山

安藝國佐伯郡ノ中央ニアリ、四和村大字龜所山ヨリ二十五町(式按スルニ、玖島村

ヨリ一里餘カ)ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百六十二尺、

極樂寺山

安藝國佐伯郡ノ南東方ニアリ、砂谷村大字白砂ヨリ一里餘ニシテ其山頂ニ達ス、

阿生山

安藝國安佐郡ノ中央ニリ、八木村ヨリ一里、綠井村ヨリ三十二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百八十六尺、

寂地山

周防國玖珂郡安藝國佐伯郡石見國美濃郡ニ跨ル、玖珂郡高根村大字宇佐字品包ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千四百二十九尺、

鬼城山

安藝國佐伯郡周防國玖珂郡ニ跨ル、登路(式按スルニ、佐伯郡四和村大字飯山カ)一里、標高三千五百七十一尺、

高鉢山

周防國玖珂郡ノ北方ニアリ、登路凡二十町、標高二千五百三十四尺、

羅漢山

周防國玖珂郡安藝國佐伯郡ニ跨ル、登路二十三町、標高三千八百八十一尺、

二代木山

周防國玖珂郡安藝國佐伯郡ニ跨ル、登路凡二十三町、標高七百七十九尺、

岩國山

(別稱磐國山)周防國玖珂郡ノ東方ニアリ、登路十七町、標高九百十七尺、

匹見尾山

(別稱疋見尾山、疋見山)石見國美濃郡ノ南方ニアリ、匹見下村大字石谷字内谷ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、

小五郎山

周防國玖珂郡ノ北方ニアリ、高根村大字宇佐字足谷ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ

達ス、標高三千七百八十二尺、

大將陣山 周防國玖珂郡石見國鹿足郡ニ跨ル、玖珂郡深須村大字須川字下須川ヨリ三十

五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百二十尺、

水尾山 周防國玖珂郡ノ北方ニアリ、廣瀬村

大字廣瀬字船津ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千三百八十九尺、

木谷山 周防國玖珂郡ノ北方ニアリ、廣瀬村

大字廣瀬字尾川ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百七十八尺、

秘密嶽 (別稱馬糞嶽) 周防國玖珂郡ノ北西

方ニアリ、廣瀬村大字廣瀬字尾川ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百五十二尺、

金峰山 周防國都濃郡ノ中央ニアリ、鹿野村

大字鹿野下字郷川ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百七尺、

日暮嶽 周防國佐波郡ノ北方ニアリ、柚野村

大字柚木字日暮郷ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百九十一尺、

要害嶽 周防國佐波郡ノ中央ニアリ、出雲村

大字小古祖字野地ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百五十一尺、

鳥帽子嶽 周防國熊毛・玖珂ノ二郡ニ跨ル、

熊毛郡高水村大字原字太刀野ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百六十二尺、

石城山 周防國熊毛郡ノ東方ニアリ、登路(式

按スルニ、鹽田村カ)十八町、標高千六百六十二尺、

氷室嶽 周防國玖珂郡ノ南方ニアリ、伊陸村

字門前ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百五十七尺、

千坊山 周防國熊毛郡ノ南方ニアリ、室積村

大字室積字西莊ヨリ二十二町ニシテ其山頂ニ達ス、標高九百八十六尺、

大座山 周防國熊毛郡ノ南方ニアリ、室積村

字大津ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百三十八尺、

罷嶽 (別稱四熊嶽、周防小富士) 周防國

都濃郡ノ西方ニアリ、富岡村大字四熊字莊原ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百六十三尺、

矢筈嶽 周防國佐波郡ノ南方ニアリ、小野村

(名勝) 四面懸崖、椎等の雜木茂生して、蒼翠影とれるが如し、

大字真尾字片河ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千五百十九尺、

青野嶽 (別稱妹山、芋山) 石見國鹿足郡ノ

中央ニアリ、津和野町大字森ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百九十五尺、

徳佐峰 長門國阿武郡石見國鹿足郡ニ跨ル、

阿武郡徳佐村大字徳佐上字津禰ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百六十四尺、

高山 長門國阿武郡ノ北方ニアリ、須佐村字

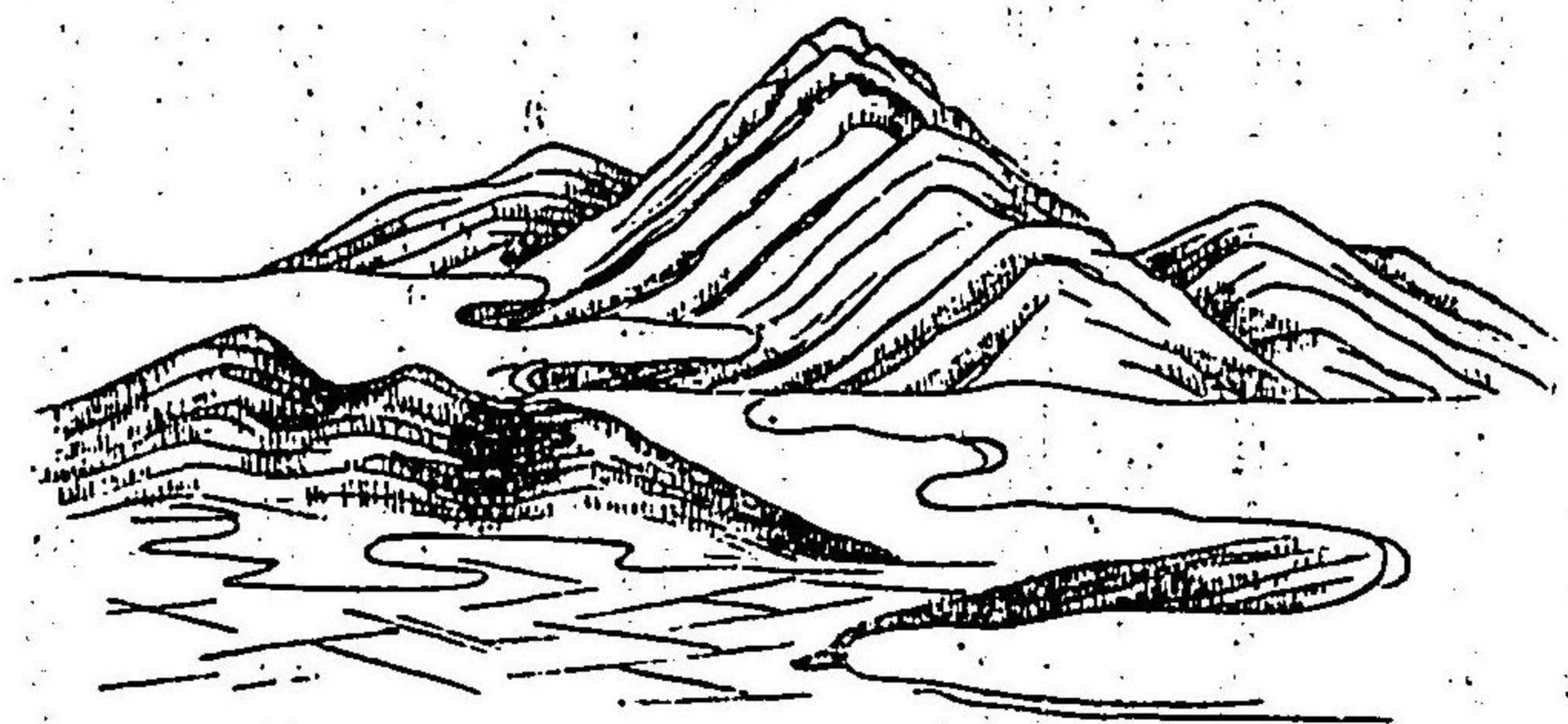
地前ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百五十八尺、

(附録) 三面の山麓直ちに海に臨みて特立せり、故に舟人の

目標として殊に著名なり、

碁盤嶽 長門國阿武郡ノ北西方ニアリ、川上

村字横瀬組中原ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達



右田嶽

ス、標高千八百十八尺、

蕎麥嶽 周防國吉敷郡ノ東方ニアリ、大内村

大字長野ヨリ二十九町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高千八百三十九尺、

右田嶽 周防國佐波・吉敷ノ二郡ニ跨ル、佐波

郡右田村字片山ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達

ス、標高千三百九十六尺、

藩府より筑紫路へ出行人の 証人不知

右田が嶽といひや染けん

龍門山 (別稱龍文山) 周防國吉敷郡長門國

阿武郡ニ跨ル、吉敷郡宮野村大字宮野上字杖

坂ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二

千二百七十二尺、

東方便山 (別稱東鳳山) 周防國吉敷郡

長門國阿武郡ニ跨ル、吉敷郡吉敷村大字中尾

字佐切町ヨリ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高二千四百二十三尺、

西方便山 (別稱西鳳山) 長門國美禰郡

周防國吉敷郡ニ跨ル、美禰郡綾木村字方便ヨ

リ二十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四

百四十八尺、

雨乞山 長門國美禰郡ノ東方ニアリ、大田村

字山根ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高

千三百三十尺、

江嶺山 長門國美禰郡周防國吉敷郡ニ跨ル、

美禰郡真長田村大字長田字岡臺ヨリ二十三町

ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百十二尺、

平原嶽 長門國厚狹郡周防國吉敷郡ニ跨ル、

厚狹郡小野村字平原ヨリ十五町ニシテ其山頂

ニ達ス、標高千三百四尺、

霜降嶺 長門國厚狹郡ノ東方ニアリ、厚東村

ニ達ス、標高千三百四尺、

大字末信ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標

高八百三十二尺

(名勝) 山頂に城址あり、厚東氏の居城なり、天正十三年、

厚東氏此城を捨て、豊浦郡四王司山に遁ると云ふ、

權現山 長門國美禰郡ノ北東方ニアリ、登路

十六町餘、

鯨嶽 長門國美禰・阿武ノ二郡ニ跨ル、登路十

四町餘、標高二千三十二尺、

桂木山 長門國美禰郡ノ北方ニアリ、共和村

大字青景字早栗ヨリ一里二町ニシテ其山頂ニ

達ス、標高二千三百十五尺、

如意嶽 長門國美禰郡ノ北方ニアリ、共和村

大字嘉萬字國信ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達

ス、標高千八百尺、

臺山 (別稱秋吉臺) 長門國美禰郡ノ南方ニ

アリ、秋吉村大字水前ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七十四尺、

花尾山 長門國美禰・大津ノ二郡ニ跨ル、美禰郡共和村大字嘉萬字河原ヨリ二十五町ニシテ

其山頂ニ達ス、標高二千二百十二尺、

日嶽 長門國美禰郡ノ南方ニアリ、岩永村字

初田ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千五百十三尺、

荒瀧山 長門國厚狹・美禰ノ二郡ニ跨ル、厚狹郡吉部村大字東吉部字荒瀧ヨリ十五町ニシテ

其山頂ニ達ス、標高千五百四尺、

櫻山 長門國美禰・厚狹ノ二郡ニ跨ル、美禰郡伊佐村大字伊佐ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達

ス、標高千五百二十一尺、

高丸山 長門國厚狹郡ノ北方ニアリ、吉部村大字西吉部字今富ヨリ一里餘ニシテ其山頂ニ

達ス、

雁飛山 長門國美禰郡ノ西方ニアリ、大嶽村

字田代ヨリ三十四町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百十五尺

雨乞嶽 長門國大津郡ノ北西方ニアリ、日置村大字藏小田字土方ヨリ二十町ニシテ其山頂

ニ達ス、標高千四百四十五尺、

一位嶽 長門國豐浦・大津ノ二郡ニ跨ル、豐浦郡豊田上村大字一俣ヨリ一里(或云一里餘)ニ

シテ其山頂ニ達ス、標高二千二百三十一尺、長門なる三位の浦や二位か濱 霞人不知 一位か嶽を登りてモ行

狗留孫山 長門國豐浦郡ノ西方ニアリ、豊田

上村大字木工路子ヨリ十九町(或云二十餘町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三十四尺、

下山 (別稱豐浦山、豊山、神上寺山) 長門國豐浦郡ノ中央ニアリ、豊田下村大字江良

ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百二十六尺、

(地誌) 豊東第一の高峰にして、府中を去ること六里(赤間關ヨリ凡五里) 樹林蒼々たり、山上行程五十町、得仙上人の開山と云へり、土宮は秘所と稱し山頂に在り、中宮は山腹にして下宮は麓に在り、

つれづれと其の曉を松の月に 三 千 風 とふや豊浦の山ほととぎす

鬼城山 長門國豐浦郡ノ南方ニアリ、黒井村大字黒井字石印寺ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達

ス、標高二千五十九尺、

龍王山 長門國豐浦郡ノ南方ニアリ、豊西上村大字吉見下字尾袋ヨリ十五町ニシテ其山頂

ニ達ス、標高千九百七尺、

澄水山 (別稱古名毛志山) 出雲國八東郡ノ北方ニアリ、持田村大字坂本ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百三尺、

出雲半島

枕木山 (別稱古名大倉山) 出雲國八東郡ノ北方ニアリ、本庄村大字別所ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千五百一十一尺、

嵩山 (別稱嶽山、古名布自積美高山) 出雲國八東郡ノ中央ニアリ、東川津村大字上東川津ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千

七十六尺、

朝日山 出雲國八束郡ノ北西方ニアリ、登路

十五町、(或云長江村ヨリ十二町) 標高千七百十八尺、

大船山 (別稱古名神名樋山) 出雲國簸川

郡ノ北方ニアリ、檜山村大字多クヨリ二十五

町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七十九尺、

旅伏山 (別稱古名多夫志山) 出雲國簸川

郡ノ北方ニアリ、國富村大字國富ヨリ十七町

ニシテ其山頂ニ達ス、標高千三百四十三尺、

雞島帽子山 出雲國簸川郡ノ中央ニアリ、爲

巢村大字東林木ヨリ三十四町ニシテ其山頂ニ

達ス、標高千七百四十九尺、

鼻高山 出雲國簸川郡ノ北方ニアリ、鱒淵村

大字別所ヨリ二十四町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高千七百七十尺、

彌山 (別稱古名出雲御崎山) 出雲國簸川郡

ノ西方ニアリ、遙根村大字菱根ヨリ二十町ニ

シテ其山頂ニ達ス、標高千六百三十五尺、

巖島

彌山 (別稱御山) 安藝國佐伯郡巖島ノ北東

方ニアリ、登路十八町、標高千八百四十五尺、

(名勝) 山中に神宮あり、形細くして普通の嶽と異なり、山嶽に至れば頂上石あり、高さ三丈、周圍四丈餘、岩下に佇立して峰を放てば、東は廣島市、西は周防の群峰を遠望し、國道の地御前大野村の人家は近く眼下に在り、島嶼の海中に若布せる、帆船の水上に漂遊せる、皆活潑の趣きを添へ、風景賞するに餘りあり、是より漸く降路に就き、瀧干岩、船岩の傍らに過ぐれば大日堂あり、大同元年、弘法大師の創建にして、堂内に木造の古燈籠あり、更に龍ヶ馬場三劍ノ窟、龍ヶ窟を過ぐれば巖谷に出づ、谷は磐石覆ひかりて室を爲し、裡に弘法大師の像を安置す、是より二王門に出れば即ち元の登路(巖島町字瀧町ナル大聖院ノ傍)にして、下れば字瀧町に歸る、是れを御山詣との終りとす、(地誌) 大宮の後なる靈秀

市村姫所傳、二聖三千岐、小祠八九椽、空海據神區、遺求開持傳、瀧平吼梅嶽、華表峙術軒、接吻烟霧裡、鹿臥殿堂前、木客姑蘇島、化鬼又變靈、居僧盤被衾、郡民懼爲虎、嗟非有遺骨、晴能久稽顙、多病防負局、修生問稚川、高蹈曠崑曲、薄言避塵緣、早洗許由耳、將拍洪運扇、茲遊重難繼、車復聊欲宜、讀者可憫矣、信筆記一篇、

屋代島

嘉納山 (別稱嶽山) 周防國大島郡屋代島

(別稱大島)ノ西方ニアリ、久賀村字東久賀ナ

ル能莊ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達ス、標

高二千三百四十六尺、

隱岐島

大満寺峰 (別稱大萬寺山、摩尼山) 隱岐

國周吉郡ノ中央ニアリ、有木村ヨリ一里十五

町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百三十二尺、

(地誌) 大満寺は恐らくは玉若命神社の供僧坊にして、玉

の峰を云ふ、登路十八町あり、傳へ云ふ弘法大師、に梵關を造立し、山の形の突兀たる須彌に表して、彌山とは號したまへり、一既にみせんは御山の後にて、もと明神のおほします山なるを以てかく稱せり、然るを佛場を開きて後彌の字にかへたりともいへり、その形像や、前には神殿臺として、背龍の蟠延せるが如く、後には巨海波高くして、蛟月眞如の影をやとせり、白雲頂上に盤龍、松・杉鬱茂として山勢異相也、木間木間の佛觀堂塔、處を得て不退轉の地を占め、護摩修法の烟たゆることなく、鈴鐺の聲鏘々として空に滿つ、げに靈神の岩窟、木客の巢穴とは、この嶽のごときをいふなるべし、彌山の下に飛泉あり、瀧宮此に在り、

所から實須彌山を安藤の色

彌山とはけしの峯に朝日哉

登彌山率記所見

殿島蒼溟上、彌山素雲邊、廟觀壓堤壙、霞關溢雲天、伊昔蓬瀛地、標紗標神仙、應眞飛鶴翔、安期賣藥道、嶺嶺坤軸絕、陸離日輪旋、浪汗懸樹陰、祖禰靈飛泉、勞穡無人境、登臨意惘然、芝艸醉芝解、松子飽備佳、巨石號怪狀、遊客愕屯道、淨景接崑崙、層陰迤逦淵、回巖踞疊嶂、跣步凌絕巔、俯仰遺身世、勝徑獨踰躑、翹懸時出沒、編蝠盤飄飄、歸墟千仞谷、弱水萬里船、對四青巖壁、亘東翠微連、白鳥有雌雄、振古不知年、雙飛垂露隊、幾度見桑田、日靈尊如在、

の首を取り大洞(タマ)と名つくるならん、二名摩尼といふは、梵語玉を摩尼と云ふ、大仙山から隱岐の國見れば島が四島に大洞寺

嶽山 隱岐國隱地郡ノ北方ニアリ、北方村ヨリ凡十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千二百五十七尺、

横尾山 隱岐國隱地・周吉ノ二郡ニ跨ル、隱地郡那久村ヨリ一里八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百七十四尺、

焼火山 隱岐國知夫郡西島ノ南方ニアリ、美田村字波止浦ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千七百二十三尺、

〔名勝〕 海角に枕みて階級盤立し、岩路九折、松杉枝を交へ、巖きに巨岩あり、長さ二十丈、半腹に穴あり、俯視すと雖も其底を望む可らず、欄干を築きて窟前に至れば一堂あり、元と雲上寺に屬し、觀音の像を安ず、里傳に云ふ、昔し一條院の御宇、海中に異光を發すること數夜、飛んで山嶽に至る、村人之に尾し踏躡して登れば、山頂に一岩の盤立するありて、形も薩摩の如し、村人稽首して退き、仍ち一字を替みて之を崇敬すと、〔地辭〕 形勢並雄麗と云、蓋太古の噴火作用に因りて成立したるや明白とす、

燒火山眺望
仙宮靈寶巖樓閣、排闥角盤山影來、回望石雲千疊嶺、海烟淡抹紫光堆、

九州

九州山系

天面山 豊後國大分郡ノ南東方ニアリ、竹中村大字端登字伊與床ヨリ二十町ニシテ其山頂ニ達ス、

本宮山 豊後國大分郡ノ南方ニアリ、判田村大字上判田ヨリ二十一町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二十尺、

九嶽山 (別稱飛來山、靈山) 豊後國大分郡ノ中央ニアリ、植田村大字口戸ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百九十七尺、

鳥屋辻山 豊後國大分郡ノ南方ニアリ、野津

原村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

有藏嶽 豊後國大分郡ノ中央ニアリ、野津原村大字入藏ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百八十二尺、

彦嶽 (別稱飛狐峰) 豊後國南海部・北海部ノ二郡ニ跨ル、南海部郡西上浦村字東狩生ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千百十尺、

釋魔嶽 豊後國南海部郡ノ北方ニアリ、明治村大字床木ヨリ二十五町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千百十九尺、

〔豐國〕 山極峻峻峻拔、二峰尖銳、南北對峙、其危巖壁立無路處、雖鐵鎖梯石角、捫蘿攀樹而登、嶮巖名號者三處、俯於石上、下視峭谷、深數百仞、唯見雲霧湧起、心目戰兢、不覺遠

巡、又不可近、上有神祠、祭愛宕神、盤根巨數村、周圍五六里、抑此郡之鎮乎、

米花山 豐後國南海部郡ノ西方ニアリ、中野村大字小川ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九十九尺、

傾山 豐後國大野郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、大野郡小野市村大字木浦内字西山ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千六十九尺、

御嶽 豐後國大野郡ノ南方ニアリ、合川村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二十六尺、

白岩嶽 肥後國阿蘇郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、阿蘇郡小峰村大字綠川字舞嶽ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千五百二十四尺、

三内大臣山 (別稱内大寺山) 肥後國上益城郡ノ南東方ニアリ、白糸村大字菅ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千五百二十四尺、

三方山 肥後國阿蘇郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、阿蘇郡小峰村大字綠川字舞嶽ヨリ三里十入町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千四百二十九尺、

内大臣山 (別稱内大寺山) 肥後國上益城郡ノ南東方ニアリ、白糸村大字菅ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千五百二十四尺、

國見嶽 肥後國上益城・八代ノ二郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、上益城郡白糸村大字菅ヨリ六

側峰名尾平、乃吾平轉訛已、山後與日州高千穂峰密連、况上古地界未分、或疑言之、此山四接尾平與嶽臺山、南連西山木浦、東北亘大白巖之踏山、蓋郡之鎮也、

桑原山 (別稱黑内嶽) 豐後國大野郡日向國東臼杵郡ニ跨ル、大野郡養老村大字桑原ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千四百十二尺、

梓嶺 豐後國大野郡日向國東臼杵郡ニ跨ル、大野郡重岡村大字重岡字田野ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、

御嶽 豐後國大野郡ノ南方ニアリ、合川村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二十六尺、

白岩嶽 肥後國阿蘇郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、阿蘇郡小峰村大字綠川字舞嶽ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

白鳥峰 肥後國八代郡ノ東方ニアリ、樅木村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、

月見山 肥後國上益城郡ノ南方ニアリ、白糸村大字菅ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス、

薊山 肥後國下益城・上益城・八代ノ三郡ニ跨ル、下益城郡西砥用村大字早楠ヨリ二里二町ニシテ其山頂ニ達ス、

目丸山 肥後國上益城郡ノ南東方ニアリ、白糸村大字目丸ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千四百二十六尺、

高楠山 肥後國下益城・上益城ノ二郡ニ跨ル、

巡、又不可近、上有神祠、祭愛宕神、盤根巨數村、周圍五六里、抑此郡之鎮乎、

米花山 豐後國南海部郡ノ西方ニアリ、中野村大字小川ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九十九尺、

傾山 豐後國大野郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、大野郡小野市村大字木浦内字西山ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千六十九尺、

御嶽 豐後國大野郡ノ南方ニアリ、合川村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二十六尺、

白岩嶽 肥後國阿蘇郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、阿蘇郡小峰村大字綠川字舞嶽ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千五百二十四尺、

三内大臣山 (別稱内大寺山) 肥後國上益城郡ノ南東方ニアリ、白糸村大字菅ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千五百二十四尺、

三方山 肥後國阿蘇郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、阿蘇郡小峰村大字綠川字舞嶽ヨリ三里十入町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千四百二十九尺、

内大臣山 (別稱内大寺山) 肥後國上益城郡ノ南東方ニアリ、白糸村大字菅ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千五百二十四尺、

國見嶽 肥後國上益城・八代ノ二郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、上益城郡白糸村大字菅ヨリ六

側峰名尾平、乃吾平轉訛已、山後與日州高千穂峰密連、况上古地界未分、或疑言之、此山四接尾平與嶽臺山、南連西山木浦、東北亘大白巖之踏山、蓋郡之鎮也、

桑原山 (別稱黑内嶽) 豐後國大野郡日向國東臼杵郡ニ跨ル、大野郡養老村大字桑原ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千四百十二尺、

梓嶺 豐後國大野郡日向國東臼杵郡ニ跨ル、大野郡重岡村大字重岡字田野ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス、

御嶽 豐後國大野郡ノ南方ニアリ、合川村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二十六尺、

白岩嶽 肥後國阿蘇郡日向國西臼杵郡ニ跨ル、阿蘇郡小峰村大字綠川字舞嶽ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

白鳥峰 肥後國八代郡ノ東方ニアリ、樅木村ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、

月見山 肥後國上益城郡ノ南方ニアリ、白糸村大字菅ヨリ六里ニシテ其山頂ニ達ス、

薊山 肥後國下益城・上益城・八代ノ三郡ニ跨ル、下益城郡西砥用村大字早楠ヨリ二里二町ニシテ其山頂ニ達ス、

目丸山 肥後國上益城郡ノ南東方ニアリ、白糸村大字目丸ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千四百二十六尺、

高楠山 肥後國下益城・上益城ノ二郡ニ跨ル、

下益城郡東砥用村大字洞嶽字福良ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千六百六十六尺、甲佐嶽 (別稱龜甲山) 肥後國上益城・下益城ノ二郡ニ跨ル、上益城郡宮内村大字坂谷ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千四百八十五尺、

〔地誌〕山甚だ高からずと雖、形状秀麗なり、甲佐宮の上宮、中宮は山中に在リ、〔参考書〕地質學雜誌第六號「肥後の甲佐嶽」

間谷山 肥後國上益城郡ノ南方ニアリ、下矢部村大字猿渡ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千六百二十一尺、

鷹俣山 (別稱狩松嶽) 肥後國下益城・八代ノ二郡ニ跨ル、下益城郡西砥用村大字早楠ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千三百三十九尺、

白山嶽 (別稱國見嶽釋迦院嶽) 肥後國八代・下益城ノ二郡ニ跨ル、八代郡柿迫村字横手ヨリ一里十町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千五百四十尺、

〔名勝〕釋迦院。柿迫村の山中釋迦院嶽の絶頂にあり、昔は寺院七十餘坊、谷を埋め山に架して、檀越の聲木魚の音、殆ど全山の空界を動し、九州に於る高野山とさへ稱せられたる程の名寺なり、天台宗にして、延暦十八年四月勅旨によりて裝善和尚の開基する所に係る、小四行長一たび郡中の寺院を燒きしより、伽藍悉く烏有に歸し、一時全く断絶に及べり、加藤忠廣領土を支配するに及びて、再び建立の運に向ひしも、最早齒に復する事能はざりし、堂宇は本堂・山王堂・祇園堂・客殿・鐘樓等にて、遠く八代の不知火海を望み、海水金の如くかゞやきて見ゆ、これ金海山の稱ある所以なり、四方諸君たる深林にして、まことに懸下第一の勝地たるの稱に負かず、〔肥後〕山高クシテ、國中ノ諸郡眼下ニ見ユ、因テ名トス、

矢山嶽 肥後國八代郡ノ北方ニアリ、下嶽村字矢山ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千八百六十九尺、

六本杉山 肥後國八代郡ノ中央ニアリ、栗木村字古園ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千七百九十尺、

保口嶽 肥後國八代郡ノ南方ニアリ、柿迫村字保口ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百二十八尺、

仰鳥帽子山 肥後國球摩郡ノ中央ニアリ、山江村大字山田字尾崎ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千二百九十六尺、

上宮山塊

紫尾山 (別稱上宮嶽) 薩摩國出水・薩摩ノ二郡ニ跨ル、出水郡上出水村大字武本ヨリ二里、薩摩郡山崎村大字泊野ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千四百八十二尺、

市房山脈

速日嶽 (別稱二兒山) 日向國東臼杵郡ノ中央ニアリ、北方村字横敷ヨリ一里五町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千九十九尺、

〔提要〕其最高峰チ上宮嶽ト云、〔地誌〕上宮嶽。紫尾山の秀峰にして、武本の南に攀じ上ること四里許、山頂より大隅の佐多岬を望むべし、〔纂考〕嶽ニ上宮神社アリテ出水ニ臨ス、嶽ノ辰巳ノ方八町、上下ノ地名チ宮床ト呼ヘリ、當郷〔泊野〕ノ内ニテ、往古此處ニモ上宮社鎮座アリシト云リ、薩摩第一ノ大山ナリ、其中ノ二峰チ上宮嶽トイフ、絶頂ニ小洞アリテ上宮ト稱ス、因テ地名チ上宮山トモ呼ヘリ、麓ニ紫尾神社〔伊弉册命チ奉祀ス、高嶽ノ絶頂ニアリタレ共、大風ノ爲メ社殿破損數度、故ニ山麓ニ移シタリト云フ〕アリ、上宮ニ對シテ俗ニ下宮ト稱ス、當郷〔出水〕ヨリ伊佐郡鶴田郷へ越ル山路ニテ、其間五里ナリ、雙方ヨリ峰ニ登ル事共ニ二里半ナリ、其間高低アリテ、或ハ深谷ニ下リ、或ハ絶頂ニ登ル事數回ナリ、山中大樹空ヲ覆ヒ、終日日影ヲ見ル事ナク、又此山中更ニ水ナクレハ、是ヲ踏ルニ水ヲ用意スルチ第一トス、俗語云、七里紫尾山五里坂原ト諺ヘリ、サレハ峻嶮ニシテ七里ニ餘レルガ如シ、

石堂山

日向國兒湯・西臼杵・東臼杵ノ三郡ニ跨ル、兒湯郡西米良村大字小川字井戸ヨリ凡一里餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千六百六尺、

尾鈴山

(別稱御鈴山)日向國兒湯郡ノ北方ニアリ、都農村大字川北字芋川ヨリ一里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千六百三十七尺、

天包嶽

日向國兒湯郡ノ西方ニアリ、西米良村大字小川字井戸ヨリ凡一里餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百二十三尺、

市房山

(別稱一房山)肥後國球摩郡日向國兒湯・西臼杵ノ二郡ニ跨ル、球摩郡水上村大字

湯山

ヨリ二里二十二町餘、兒湯郡西米良村大字上米良ヨリ凡一里二十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高五千六百八十二尺、

法華嶽

日向國東諸縣郡ノ北方ニアリ、八代村大字深年字狩野ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

〔名勝〕高岡の西北二里餘八代村に在り、古より著名の山にして、高さ三千六百尺、高く群峰の上に聳立し、山上より下瞰すれば、東南及び北方の山川、悉く眸中に落ち、殊に東方は標渺たる日向洋を望むを得べし、頂上に藥師堂あり、養老中の開基に依れりと傳ふ、本尊藥師如來は傳教大師の作なりと云ふ、昔一條天皇の御宇、才媛の閑え高き彼の和泉式部が惡疾を患へて此國に來り、此藥師如來に祈願を込めしに、靈驗灼然にて一旦は本復せしが、其歸るま麓の川にさしかりしに、一人の男ありて式部を背負ひて川を渡さんといふ、式部其人を見れば、顔手足腫み爛れてありしかば、這は穢らばしと思ひしを、其男と見えしは如來の化身にてありけん、姿は消ゆると共に式部は再び元の惡疾を身に發したりければ、歎き悲しみて、終に此山中にて池に身を投げて死したりと云ふ、其身投げの池といふもの今猶ありとて、又一説には、

川中嶽

日向國東諸縣郡ノ北西方ニアリ、綾村大字北俣字竹野ヨリ二里餘ニシテ其山頂ニ達ス、

矢筈嶽

日向國東諸縣郡ノ北西方ニアリ、綾村大字北俣字木工道ヨリ一里餘ニシテ其山頂ニ達ス、

白髮嶽

肥後國球摩郡ノ南方ニアリ、上村大字皆越ヨリ二里餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千六百七十五尺、

日向山脈

障泥嶽

日向國北諸縣郡ノ東方ニアリ、山口村大字山之口ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高千五百八十四尺、

鰐塚山

日向國南那珂・宮崎ノ二郡ニ跨ル、南那珂郡北郷村大字北河内字板谷ヨリ二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千六百九十三尺、

小松山

日向國南那珂郡ノ北方ニアリ、酒谷村字坂元ヨリ二十二町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百六十三尺、

大隅半島

國見嶽

大隅國肝屬郡ノ東方ニアリ、内之浦村大字北方ヨリ三里ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百二十五尺、

〔備考〕絶頂ニ登レハ肝付ノ郡内チ一望ニ收ル故ニ國見ノ名ヲ得ク、山下ヨリ絶頂マテ登路三里、其路峻難ニシテ容易ク登涉シ難シ、山上ニ小社アリテ、土人産火々出見尊ノ山陵ナリト云ヘリ、又山下ニ高屋神社アリ、(此書産火々出見尊ノ山陵ニ非ザル由辨明セリ)

荒西嶽 大隅國肝屬郡ノ南方ニアリ、田代村ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七百五十一尺、

天草島

老嶽

肥後國天草郡上島ノ北方ニアリ、上津浦村字横峰ヨリ十六町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百九十七尺、

倉嶽

肥後國天草郡上島ノ南方ニアリ、棚底村ヨリ十五町餘ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百六十一尺、

帽子嶽

(別稱母子嶽) 肥後國天草郡下島ノ東方ニアリ、龜塚村大字食場ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百四十三尺、

大島

湯灣嶽

(古名阿麻彌山、阿麻美嶽) 大隅國大島郡大島ノ西方ニアリ、恩勝村字湯灣ヨリ二里十八町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百十三尺、

(名勝) 島中第一の高山たり、全山岩石多く、大樹叢生の類大に繁茂せり、其西南に宇檢嶽内なる良港あり、

筑紫山系

筑豊山塊

坊住山

(別稱坊主山、杉山、矢筈山) 筑前國遠賀郡ノ東方ニアリ、黒崎町大字前田字祇園原ヨリ一里、上津役村大字市瀬字帖返ヨリ三十一町ニシテ其山頂ニ達ス、

尺嶽

筑前國鞍手・遠賀ノ二郡豊前國企救郡ニ跨ル、鞍手郡頓野村大字上頓野字安入寺ヨ

ランカト云リ、

平狭野山

豊前國企救・田川・京都ノ三郡ニ跨ル、企救郡東谷村大字新道寺ヨリ一里、大字井手浦字石坂ヨリ一里、大字市丸字馬首ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、

貫山

(別稱芝津山、廣野臺) 豊前國企救・京都ノ二郡ニ跨ル、企救郡芝津村大字貫字中堀ヨリ一里十町、字下堀ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千三百五十尺、

湯川山

(別稱木綿間山) 筑前國遠賀・宗像ノ二郡ニ跨ル、遠賀郡岡縣村大字波津字湯川ヨリ一里、字大道ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ

リ二十五町(或云三十町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高千九百十四尺、

福智山 (別稱福知山、福地山、國見山)

筑前國鞍手郡豊前國田川・企救ノ二郡ニ跨ル、鞍手郡頓野村大字上頓野字内磯ヨリ一里十四町餘、田川郡上野村大字上野字皿山ヨリ一里十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百七十尺、

九州 筑紫山系

(432)

達ス

孔大寺山 (別稱大山、足白山、葛城山)

筑前國宗像・遠賀ノ二郡ニ跨ル、宗像郡池野村大字池田字柳野ヨリ三十町(或云十町)ニシテ其山頂ニ達ス、標高千六百三十四尺、

〔提要〕遠賀郡ニテ足白山、又葛城山ト云、筑前山ノ八分上に孔大寺権現の神社あり、池田村ヨリ十町許あり、是和州吉野の蔵王権現と一神也ト云、山ノ頂上に大穴あり、故に孔大寺ト號すと云、孔はあなとよむ、宗像縁起に、むかしは彼穴口に高棚をかまへ、未嫁女を生殺せしに、神出て白馬の形を現し、或大蛇の形をあらはして、其女を食せしと云いふかし、もし然らば古狸・豺・狼のわさか、妖怪の類なるべし、正神とすべからず、いにしへ邊鄙の民俗愚昧にして、かゝる人を取らるる邪神をもあかめたふとひしなるべし、此山に銀杏あり、めくり五圓あり、世に類まれなる大木なり、たるみのはたとて昔道あり、たる水に越る道也、又池田村の境内に千正原と云所有、原の長さ十二三町横四五町あり、村民の説に、昔孔大寺山ヨリ悪風吹て、此處にて往來の牛馬千匹死たりと云、民俗の説、其實否辨するに足らず、

崎戸峰 筑前國鞍手郡ノ北方ニアリ、西川村

大字室木字沙井川ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス、

六嶽 筑前國鞍手郡ノ中央ニアリ、新入村大字新入字法華寺ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス、標高千百十九尺、

八久保山 筑前國糟屋・鞍手ノ二郡ニ跨ル、糟

屋郡立花村大字立花口字大屋敷ヨリ十五町

(或云二十五町)ニシテ其山頂ニ達ス、

熊峰 (別稱熊嶺山、熊城)筑前國鞍手・糟屋

ノ二郡ニ跨ル、鞍手郡吉川村大字脇田ヨリ一

里ニシテ其山頂ニ達ス、標高千八百九十一尺、

〔筑風〕遠方より能見ゆ、山の上平にして大和の生駒山に似たり、古城趾アリ、城主詳カナラズ、

鉾立山 筑前國糟屋・鞍手・嘉穂ノ三郡ニ跨

ル、糟屋郡篠栗村大字萩尾字香山ヨリ一里十

八町、字古葉山ヨリ十二町(或云一里十八町)

ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百九十七尺、

新建山 筑前國糟屋郡ノ中央ニアリ、久原村

字久原高桂木ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達

ス、

龍王山 筑前國嘉穂郡ノ北西方ニアリ、鎮西

村大字明星寺字南谷ヨリ一里、字屋敷ヨリ二

十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千五百三十三尺、

大谷山 筑前國嘉穂・糟屋ノ二郡ニ跨ル、嘉穂

郡大分村大字内住字上釜ヨリ二十八町ニシテ

其山頂ニ達ス、

若杉山 (別稱分杉山)筑前國糟屋郡ノ南東

方ニアリ、勢門村大字若杉字古堂ヨリ二十五

町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千二百三十六

尺、

〔地誌〕立花山と相尋み、山勢雄渾なり、〔筑風〕山上に神社

あり、神殿は四に向へり、高山なる故、神殿・拜殿ともに又

外に帯有て踏を防ぐ、此社は伊弉諾尊を祀ひ祭る處なり、神

功皇后三尊征伐の前に、此御社にも御祈あり、その報賽に、

新羅より歸らせ玉ひて、香椎の杉を分ちて此處に植させ玉ふ、

綾杉谷と云處今にあり、近き世までは綾杉多かりしか、筑前

中納言秀秋の時、切除れて今はなし、香椎の杉を分ち植玉ひ

し故分杉と號す、後世若杉と書は訛也、今も此山にはよのつ

れの杉多し、木高くしてうるはし、其土地甚肥饒なる故なる

べし、今此社に祭る所は三座にして七神也、中殿の中は太祖

權現、〔伊弉諾尊チイフ〕右は八幡大神、左は天照大神、右殿

寶滿大神・聖母大神、左殿志賀大神・住吉大神、七神皆石牀に

ておはします、表粕屋郡の惣社にて、郡中より修造す、九月

十九日祭有、此社高山の上にあつて道はなし、老若童僧の勞

ありとて、山下に七神を勧請し下宮をたてり、〔筑風〕古へハ

繁榮シテ三百坊有り、又女人禁界ノ山ト云へり、

砥石山 筑前國糟屋・嘉穂ノ二郡ニ跨ル、糟屋

郡宇美村大字宇美字神武原ヨリ一里、字今山

ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千七

(433)

九州：筑前山系

百二十六尺、

〔筑風〕 砥石あり、故に山の名とす、其形は肥後天草砥に似たり、

頭巾山 筑前國嘉穂郡ノ西方ニアリ、上穂波

村大字山口字高岸ヨリ一里十八町ニシテ其山

頂ニ達ス、標高三千三尺、

窟門山 (別稱寶満山、法満山、高山、御

笠山) 筑前國筑紫・糟屋ノ二郡ニ跨ル、筑紫郡

太宰府町大字北谷ヨリ一里餘、御笠村大字大

石字水山ヨリ一里四町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高二千八百六十七尺、

〔名勝〕 太宰府神社一ノ華表より山嶺まで五十六町、御笠村大字大石より同じく三十六町とす、昔し役の小角此山に登りて法を修しけるより、金剛寶満山とも云へり、山上岩石多くして、懸崖絶壁に峙ち、頂上に障り盡せば、四方眼界を遮るものなく、眺望百里の遠きに達し、九州の峻峰、皆な雙眸の中に在り、山中に櫻樹・楓樹及び石楠樹多く、春秋節を曳くに宜し、又山頂帯や平茨なる大磐石の上に窟門神社あり、玉依

姫命を祭り、相殿に神功皇后 應仁天皇を合祀し、毎歲陰曆四月十六日を以て例祭を行ふ、峰の東方に岩窟ありて、常に清水を流え、之を益影の井と名く、其上に三岩鼎立して、其形ち一大壺の如し、窟門山の名蓋し是より起りしもの歟、其他山中に見落し・獅子岩・馬蹄岩等の名所多し、〔筑風〕此山は福岡より六里、宰府の鳥居より五十町あり、有智山村より二十二町あり、此山は峰高くそびへ、雲霧ふかくおほひ、烟氣つれにたえず、故に窟門山と云、洞山岩石多して、其形勢其工の削なせるか如し、まことに奇絶の境地なり、篤信曾て諸國の名山を多く歴観せしに、かゝる所はいまだ見ず、此上に登ば、一瞬の間に數百里の外までかへり見て、衆山の小なるを一覽し、九州の内、近國は皆眼下一望の内に有、西北には空岐・對馬遙に見えたり、秋・と清朗のときは、知らぬ新羅の山もほのかに見ゆ、誠に廣大なる眺也、峰の東に岩穴有、天然の井泉也、東西四尺餘、南北三尺に過たり、其水清潔にして、常に増減なし、〔御社〕は山の嶺いと高所に大磐石の上に在り、乾に向へり、甚尊嚴に見へおほします、山上に登る者は、鐵索を引て攀躋、(鐵索を引て登所六間計在) 本社北に見落と云大岩有、上より下を望めば、危くして魂をけす、山中に七ツの窟有、皆神靈の窟宅する處也、又西に妙美水有、潮汐に應じて進退す、其外獅子の瀧・馬蹄岩など云靈跡多し、〔參考書〕筑前國續風土記、筑前志略

大江匡房

蜂の白蟻明てこそ見ぬ

散度にもえ焦れてもなし哉

窟門山の火さくらの花

ふらばふれ御笠の山し近ければ

鏡島まては指して行てん

立つく雲を千里の煙にて

にきはふ民の煙やまかな

雨客暫し花にみかさの山櫻

炭ならて煙も燃るや窟山

望寶満山、山上有高橋祖運故城址、

山田翠雨

寶満筑州秀、故城空橋樓、英雄骨已朽、名姓與山高、

大城山 (別稱四王寺山、大野山、鼓峰)

筑前國筑紫・糟屋ノ二郡ニ跨ル、筑紫郡大野村

大字乙金字此岡ヨリ十八町、字古野ヨリ十八

町、字唐山ヨリ十八町ニシテ其山頂ニ達ス、

標高千三百五十三尺、

〔筑風〕 山上ニ城ヲ置レシヨリ大城山ト云、其以前ハ大野山

トイフ、但太宰府ノ鎮城成シ故ニ大城トハ云ル成ベシ、天智

天皇紀、四年八月、百濟ノ人懷殿外二人ヲシテ筑前國大野及

大江匡房

道信法師

檜垣 題

細川 幽齋

弘 有

左 糜

山田翠雨

寶満筑州秀、故城空橋樓、英雄骨已朽、名姓與山高、

佛頂山 筑前國筑紫郡ノ東方ニアリ、御笠村

大字柚須原字曲山ヨリ一里四町ニシテ其山頂

ニ達ス、

〔筑風〕 窟門山奥の院と稱す、開山心蓮上人が墓山頂に有、

根智嶽 (別稱根地嶽、根千山) 筑前國嘉

穂・筑紫ノ二郡ニ跨ル、嘉穂郡内野村大字内野

ヨリ一里二十町、字冷水ヨリ十三町ニシテ其

山頂ニ達ス、標高二千三百五十尺、

〔筑風〕 山上ニ城ヲ置レシヨリ大城山ト云、其以前ハ大野山

トイフ、但太宰府ノ鎮城成シ故ニ大城トハ云ル成ベシ、天智

天皇紀、四年八月、百濟ノ人懷殿外二人ヲシテ筑前國大野及

郡中津屋村大字砥上字登石ヨリ二十五町ニシ

砥上山 筑前國朝倉・筑紫ノ二郡ニ跨ル、朝倉

郡中津屋村大字砥上字登石ヨリ二十五町ニシ